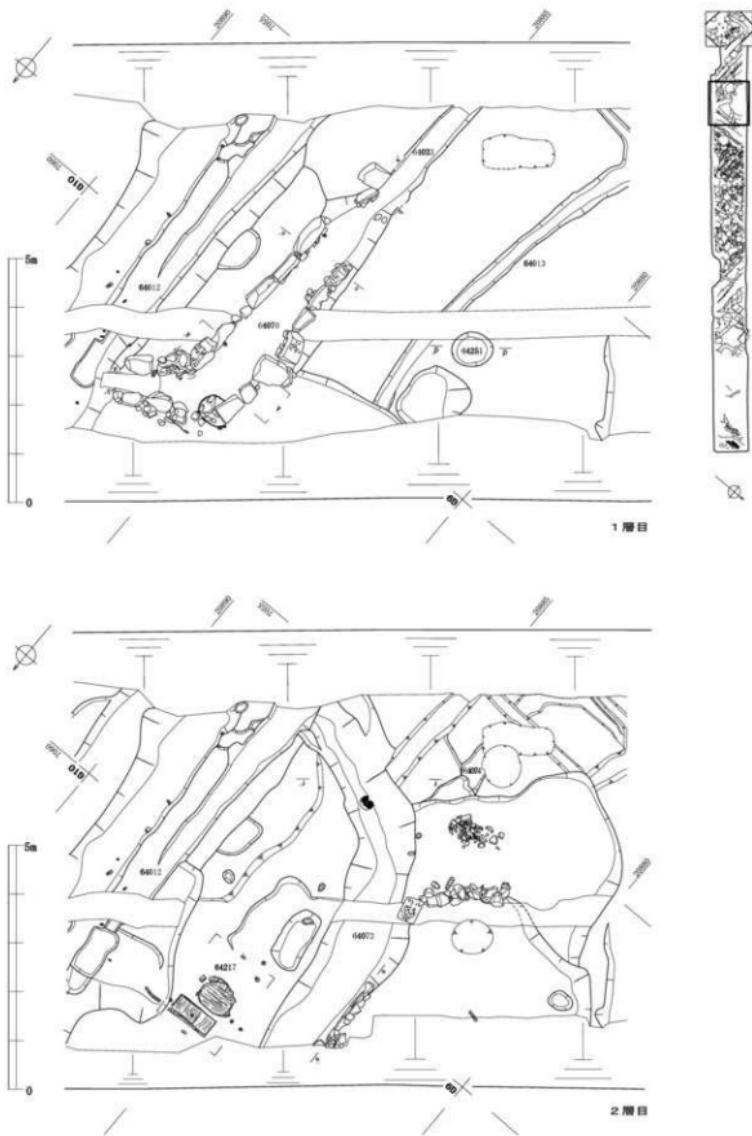
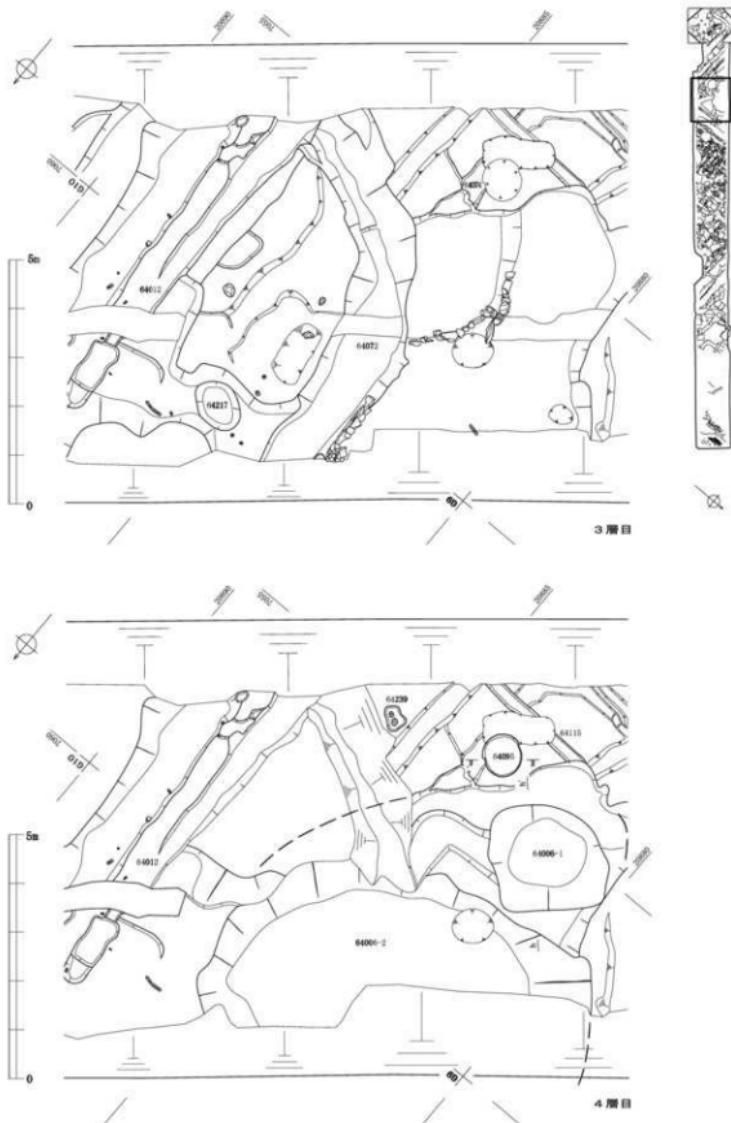


図83 FKJ06-4 屋敷地⑤～④ 遺構 (S=1/50・1/40)

第6節 FJK06-4地区の調査

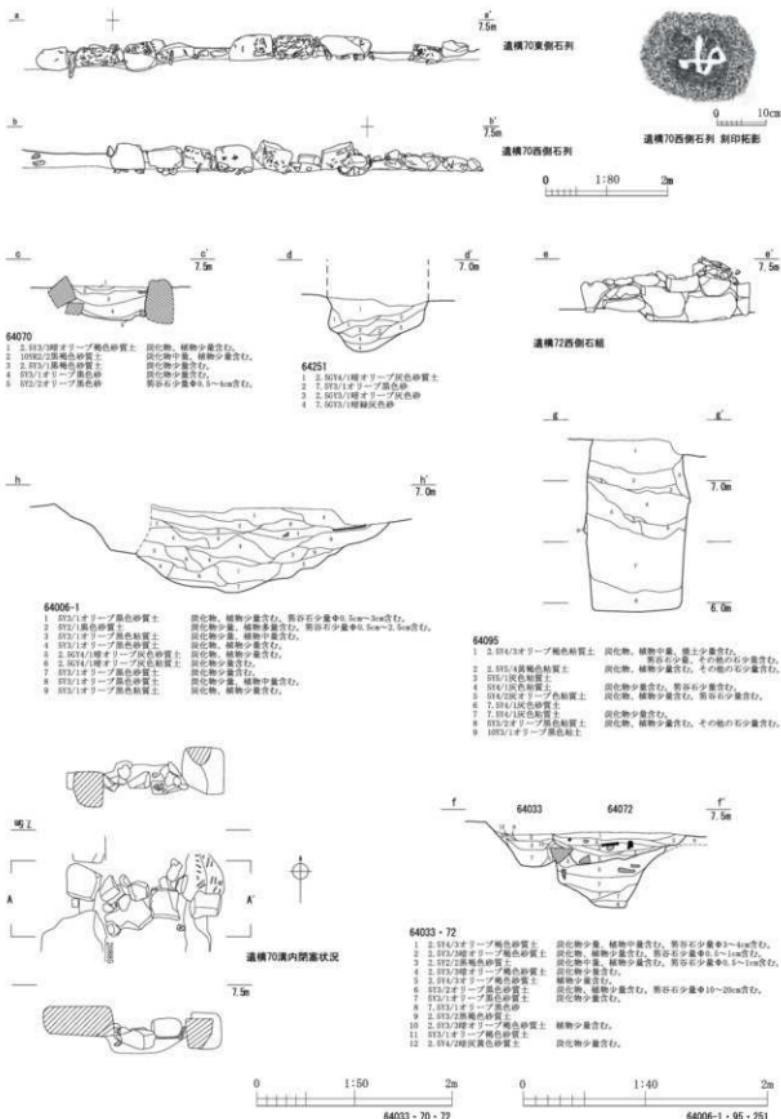


第84図 FJK06-4 屋敷地④ 変遷1 ($S = 1/100$)

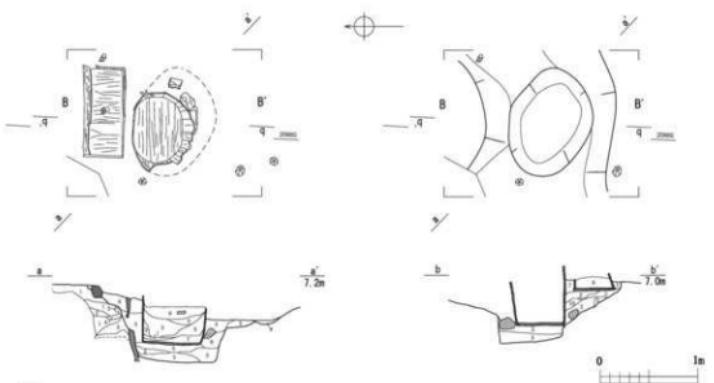


第85図 FKJ06-4 屋敷地④ 変遷2 (S=1/100)

第6節 PKJ06-4地区の調査



第86図 FKJ06-4 屋敷地④ 造構1 (S=1/80・1/10・1/50・1/40)



6427
 1 ST3/1オリーブ黒色砂
 2 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 3 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 4 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 5 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 6 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 7 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 8 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 9 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 10 ST3/1オリーブ黒色砂質土
 固化物、植物少數含む。砾谷石少數中0.5~3.5cm含む。
 固化物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。
 固化物、植物少數含む。

第87図 FKJ06-4 屋敷地④ 遺構2 (S=1/50)

3 屋敷地③ (第90~94図)

主要な遺構は、砂利敷道路2、区画溝64008、井戸64067・82・91・98・128と多数の柱穴がある。

砂利敷道路2は、水路64012の東側に沿って南北に延びる(第88・89図)。複数回の嵩上げが為されたようであるが、不明瞭である。この直下に溝64229と水路64012の前身である溝64069がある。溝64229は、埋土中に17世紀初頭～前葉の遺物を含んでおり、築城当初に溝64069と並存していたようである。

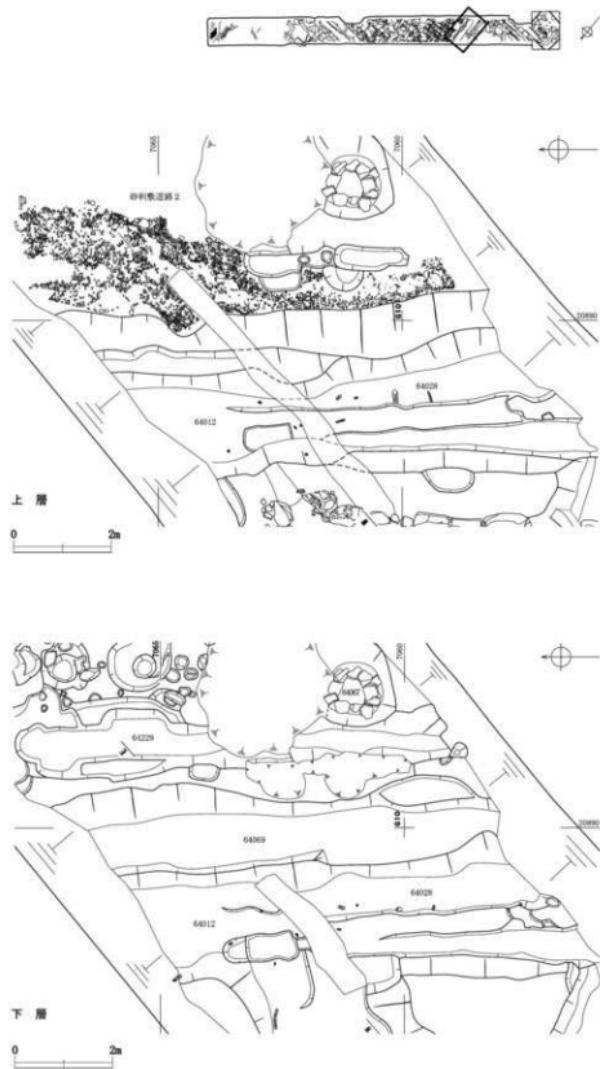
区画溝64008は、南北に直線的に延び、部分的に板材や杭による護岸の痕跡が確認される(第81・93・94図)。この溝には溜め柵状に構築された箇所があり、そこが深く掘り込まれるもの概ね南側へ緩やかに下降する。溜め柵部分を含む区画溝64008の出土遺物は、18世紀中葉～19世紀中葉のものである。

井戸は、64067が石組を備える以外はすべて素掘りの井戸である。井戸64067の石組(第90・91図)は、笏谷石製の細身の棟瓦4点を四角く並べて基礎とし、拳大～0.5m大的笏谷石碎礫を不規則に組み上げている。井戸64098は、廃絶後に大きく広げられ廃棄土坑とされるが、材の撤去のために広げたものとすると、もとは桶を伴う井戸であった可能性がある(第94図)。埋土中の遺物から、井戸64082・91・128は慶長期に存続するが、17世紀中葉には廃絶するものと見られる。井戸64067は、17世紀後葉を中心に機能したものと見られる。井戸64098は18世紀半ばに廃絶し、以降廃棄土坑として利用される。

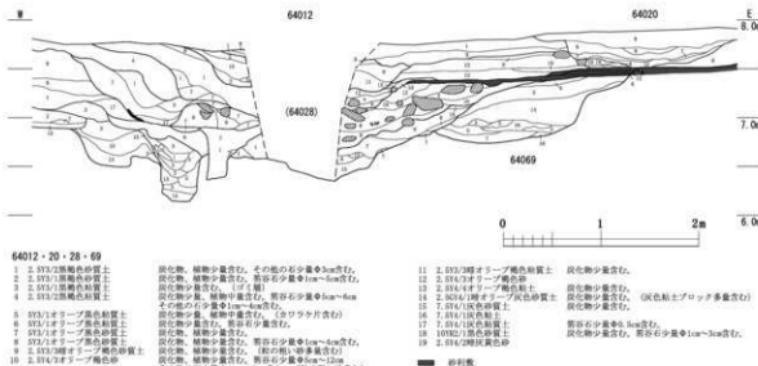
柱穴は、礎石を伴うもの、埋土中に柱状痕跡の窺えるものなどが多数ある。重複するものも多いが、これらの配置は概ね方位に即して並ぶ傾向が窺える(第90図)。建物の詳細については不明であるが、同時に複数の建物が存在したこと、何度も建て替えられたことが推測される。また、出土遺物がいずれも17世紀代のものであることから、少なくとも17世紀代には掘立柱の仮設的な建物が継続的に建てられ、18世紀以降は礎石建物に変化したことが推測される。なお、確実な礎石の配置は確認されなかったが、最上層の遺構として、柱穴列と同様に方位に即して延びる石列などを検出した(第106図)。

その他、遺構64087・116・196などの大型土坑がある(第92・94図)。埋土中の遺物によると、これら

第6節 FKJ06-4地区の調査



第88図 FKJ06-4 砂利敷道路 2・水路64012・溝64069 (S = 1/100)



第89図 FKI06-4 水路64012・溝64069 推積状況 (S=1/50)

は17世紀後葉から19世紀までのものが混在する。これらは、柱穴群が屋敷地の西側に偏在するとの対照的な配置であり、建物の背後に継続的に穿たれた廃棄土坑などと捉えられる。また、その位置関係が変化しないことは、建物が礎石化した後も同様な位置に建てられ続けたことを示す。

絵図によると屋敷地③は、屋敷地②とともに周囲を道路で囲まれ、一つの区画（街区）を成す。慶長期にその区画は南北に分割されていたが、17世紀半ばには東西に二分され南北に長い敷地となる。当初、屋敷地③は南端が東に延びるL形であるが、後には直線的に二分割される。慶长期には同心屋敷との記載が見え、17世紀半ばには川越宇佐衛門与（与力）、17世紀後葉には15軒と記されており、下級武士である与力や同心などの屋敷地として継続的に使用されたようである。その後、18世紀前葉や19世紀初頭頃には忍与（与力？）・忍組との表記があり、城代管轄の忍の者が集住したものかと見られる。

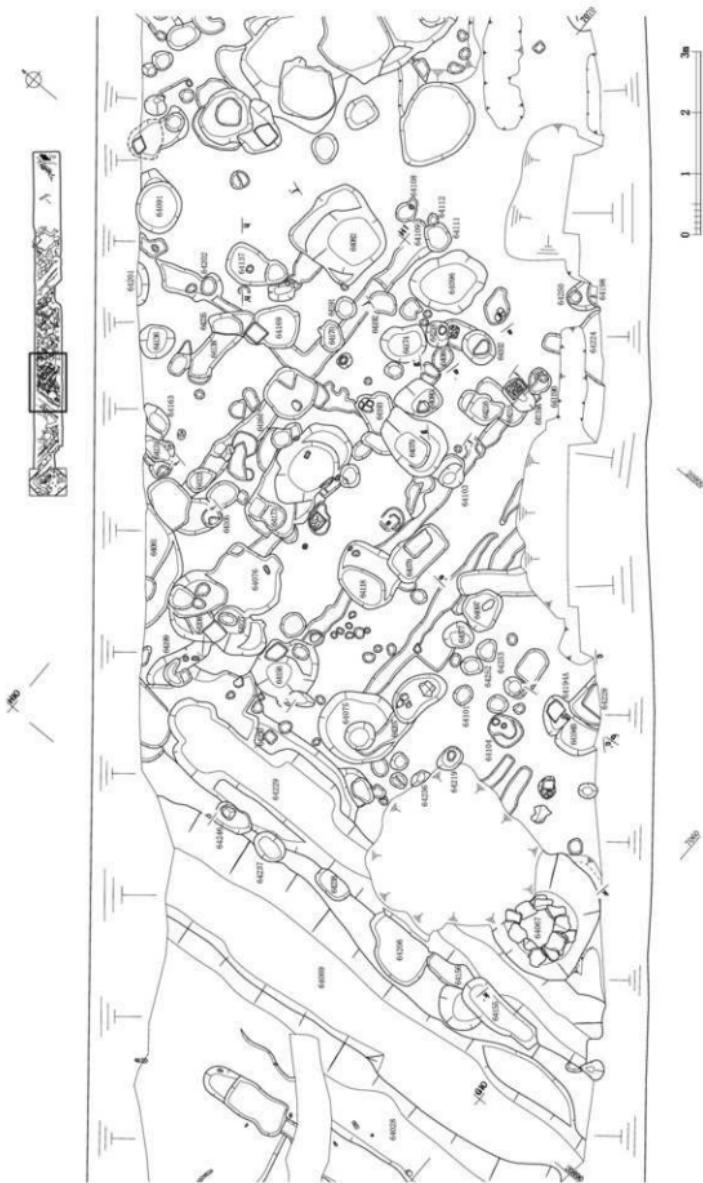
4 屋敷地②（第95～100図）

主要な遺構は、砂利敷道路1、区画溝64065、井戸64040・47・86・182と、建物や区画施設を構成したと見られる柱穴がある。

砂利敷道路1は、屋敷地北辺を東西に延びる。砂利敷は疊らに確認されるに過ぎないが、道路と屋敷地の境に区画溝64065があり、道路北側に沿い水路64027があるため、路盤幅が明瞭である（第100図）。なお、区画溝64065は、17世紀初頭から後業まで存続し、18世紀には埋められたようである。

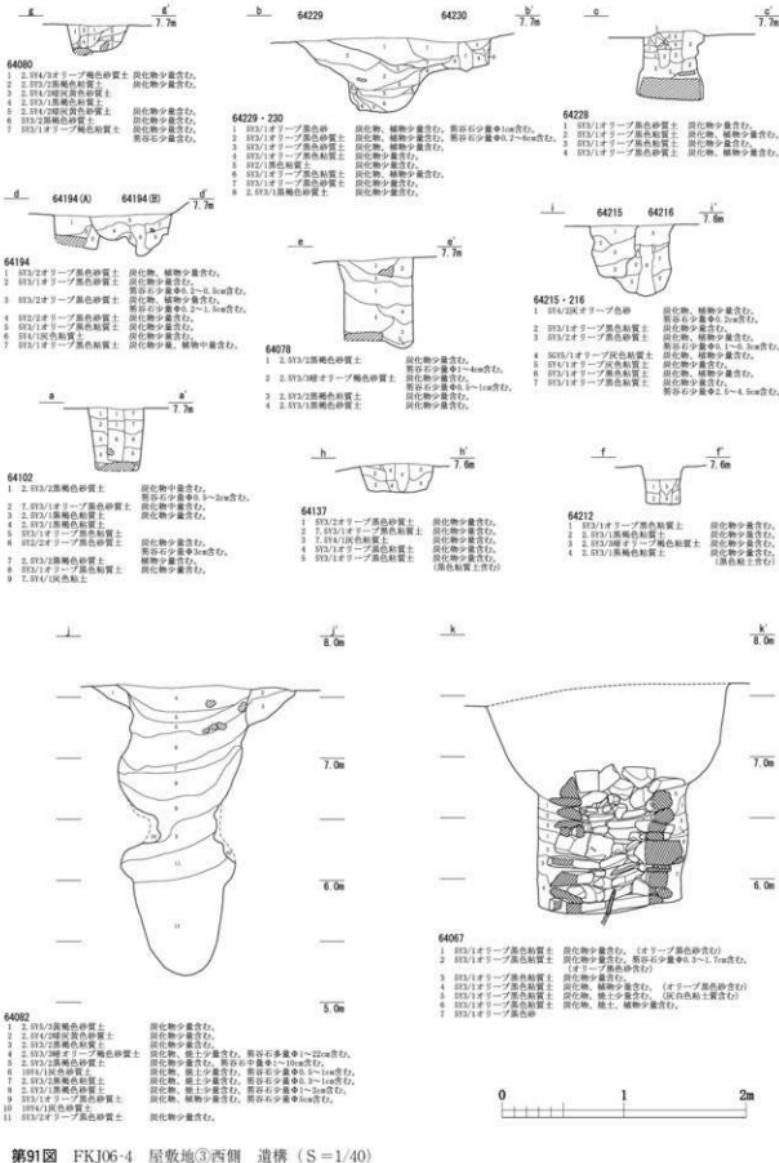
井戸はいずれも素掘りである。井戸64040は、方形に石を組んだ基壇状の施設を伴う（第95・107図）。使用される石材は、いずれも笏谷石であり、転用材が多く含まれる。この基壇状施設のほぼ中央に井戸が穿たれており、本来は上屋を伴ったことが推測される。なお、基壇状施設の下層に前身の井戸がある。出土遺物によると、井戸64047・86は18世紀代に機能したようである。井戸64182は、築城当初に埋められたようであり、築城以前に機能した井戸である可能性がある。井戸64040は、19世紀半ばに改変され、基壇状施設（上屋構造）を伴う状態は幕末期以降に降るものと見られる。

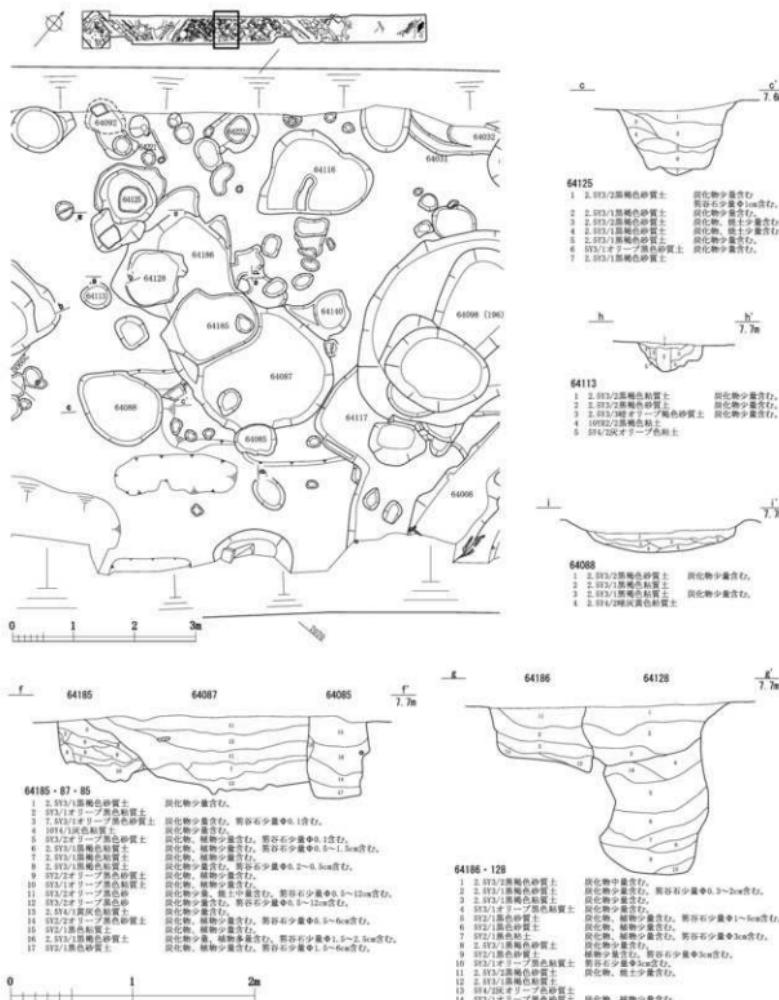
柱穴は、礎石を持つもの・埋土中に柱状の痕跡の残るものなどがあり、それらの配置は概ね方位に



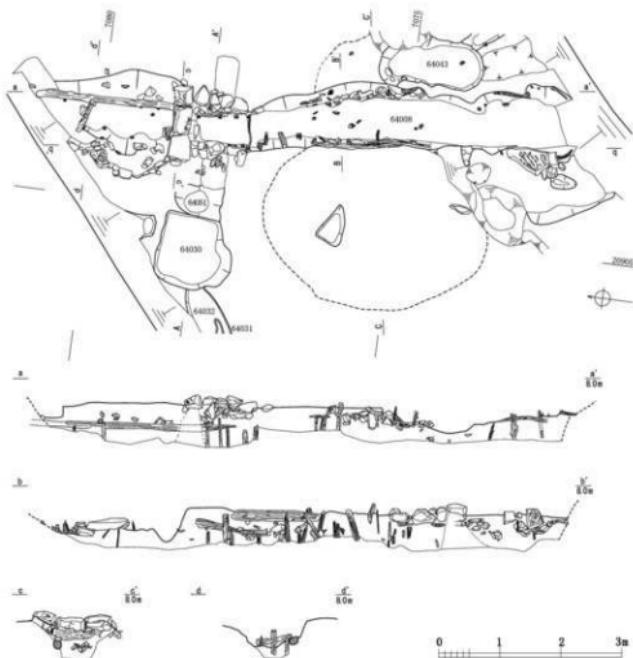
第90図 FKJ06-4 屋敷地③西側 遺構配置図 (S=1/80)

第3章 中・近世の遺構





第92図 FJK06-4 屋敷地③東側 (S=1/80・1/40)

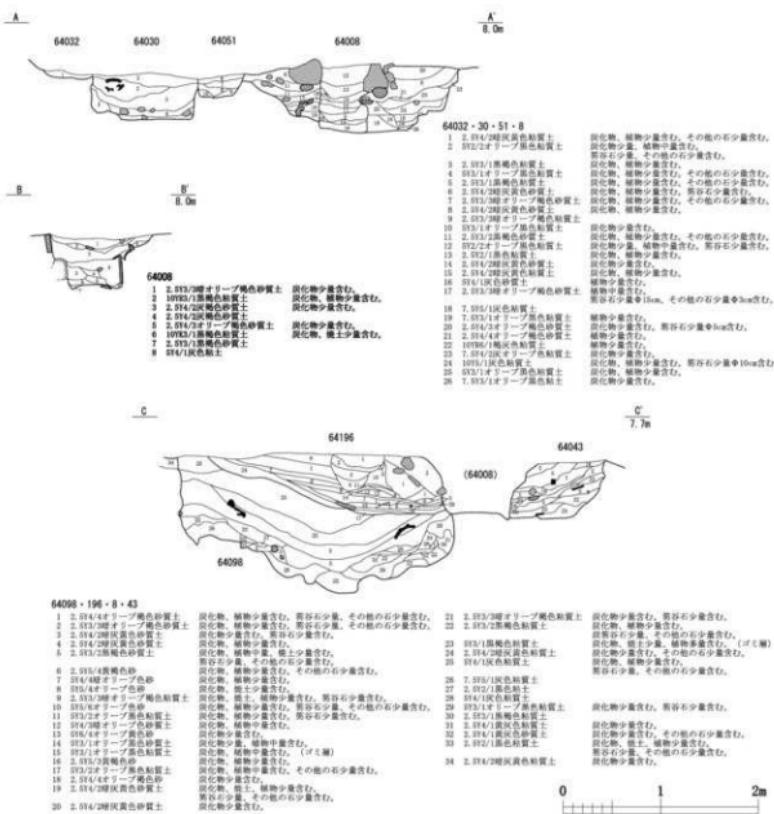


第93図 FKJ06-4 屋敷地③～② 区画溝64008 (S=1/80)

即して整然と並ぶ。その中から、1棟の建物と2列の柱穴列が認識される。建物は、柱穴64057・59・73・148・152・183・189などにより構成される(第95・96図)。建物の東端が調査区外に出ることが考えられるため、東西3間以上・南北3間となり、その規模は5m以上×約3.8mである。確認された遺物から、建物の造営は17世紀半ばと見られる。柱穴列は、柱穴64061・110・150などから成る南側の列と、柱穴64058・130などから成る北側の列がある(第95・97図)。両者とも砂利敷道路1・区画溝64065と平行に直線的に並んでおり、樋や塀などを構成したと考えられる。遺構の重複状況や出土遺物から、いずれも区画溝64065を埋め立てた後に構築されたものであり、南側柱穴列は区画溝の埋め立てとほぼ同時期の17世紀後葉から18世紀に、北側柱穴列は19世紀に構築されたものと捉えられる。

その他の遺構に、暗渠(木樋)64121がある(第99図)。これは、水路64027から屋敷地②へ水を引き込むものであり、砂利敷道路1を横断する。幅0.4m前後の掘り方内に木樋を埋設する。木樋は、取水口から二つの縦ぎ手を経由し、さらに南東方向へ続く。樋本体は一辺9cm程度の角材であり、長さ約1.7mと1.8mのものを確認した。ともに内側をU字溝のように削り貫き、一側面(上面)を蓋として釘で固定している。取水口は、丸太材を半裁し、導水部分を抉ったものであり、蓋として薄い板材を釘で固定する。この取水口の周囲は、板石が組まれて補強される(第98図)。その石組の下層には、笏谷石碎

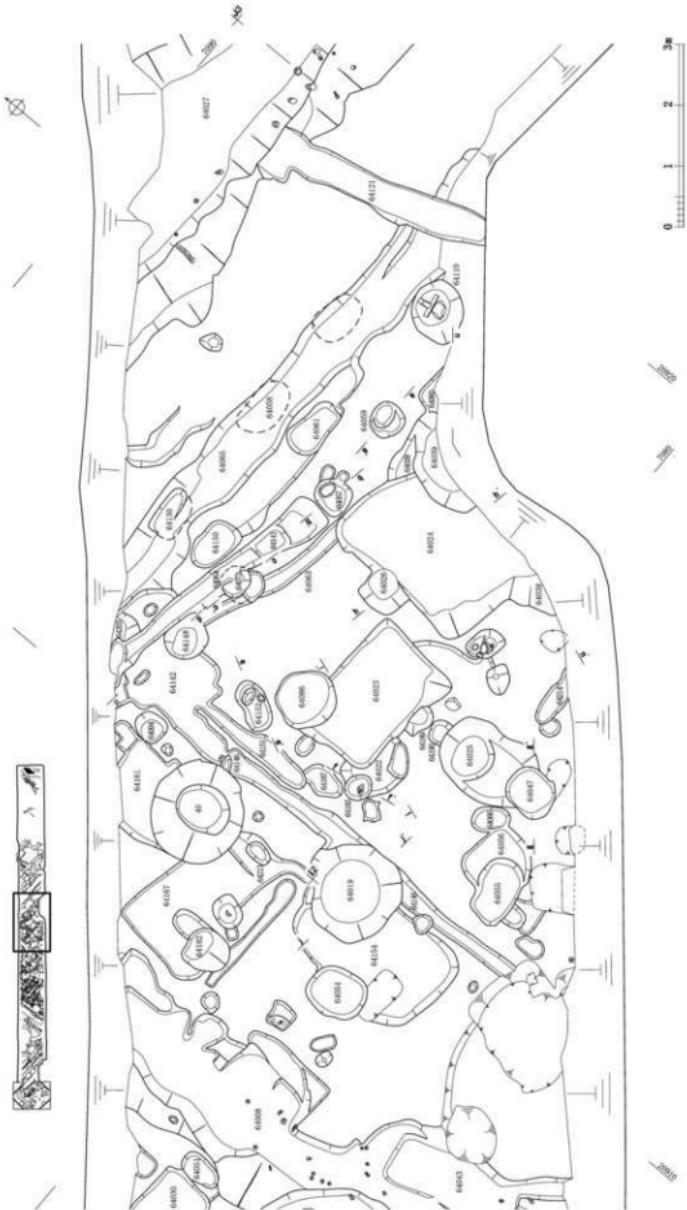
第6節 EKI06-4地区の調査



第94図 Fkj06-4 屋敷地③～② 区画溝およびその周辺の遺構 (S=1/50)

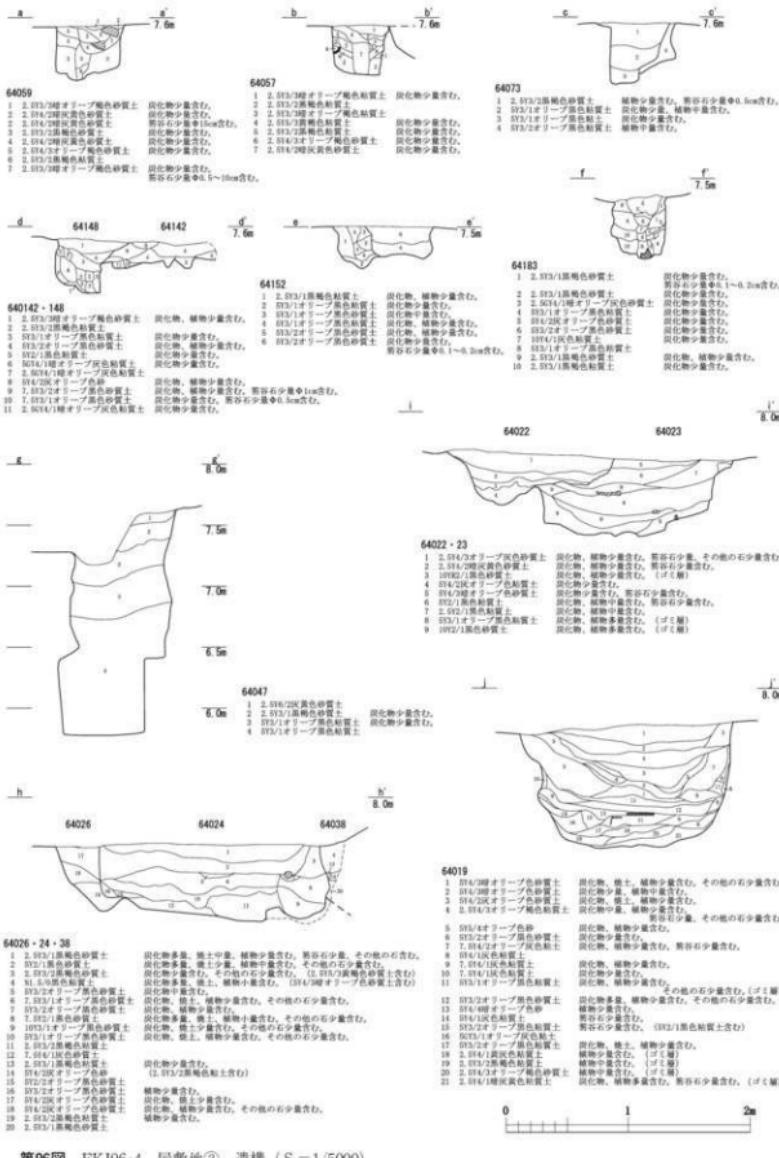
礎と歪な丸太材による基礎がある。遺物から18世紀後葉以降に設置されたものと見られる。

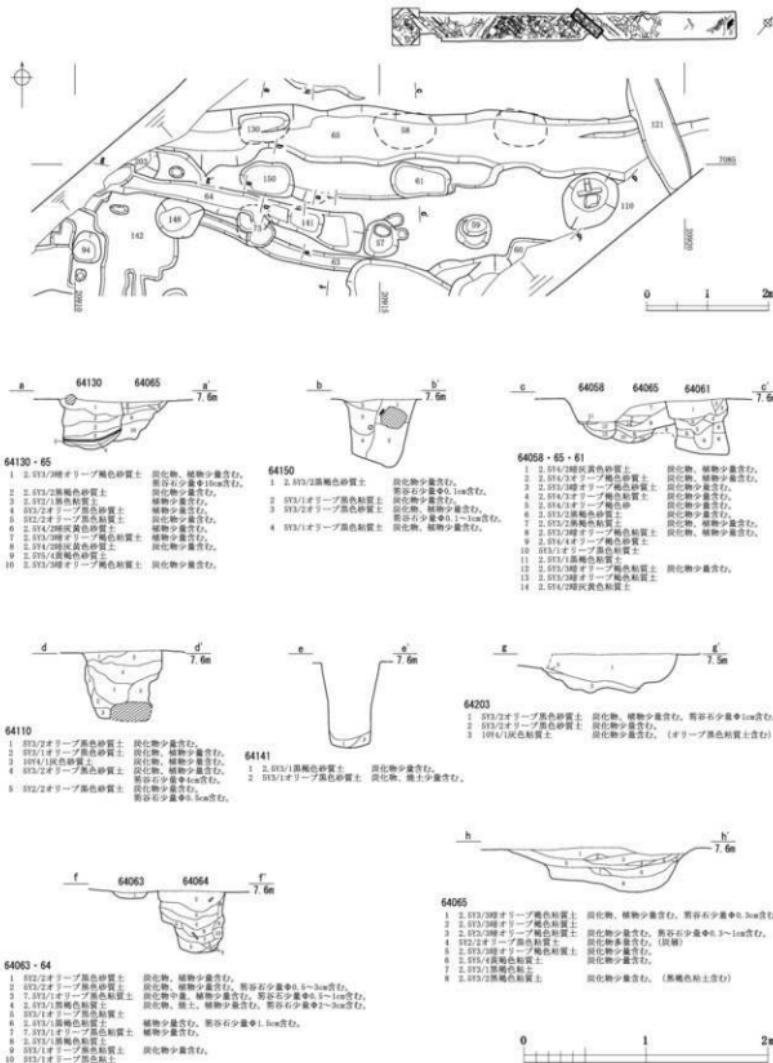
水路64027は、砂利敷道路1の北側に沿って東西に延びており、東側へ上水を通す役を担う（第98・100図）。複数回の改修による掘削が窺えるが、土居と道路に位置が規定され、築城当初から廃城後近代まで位置が変わらないため、重複の判別は困難である。水路北岸には胴木の上に石列が並んでおり、本来は数石積み上げられたものと見られる。石材は、 $0.3 \times 0.5 \times 0.2\text{m}$ 程度の直方体に近いもので、表面には繋による調整痕が残る。南岸には、多くの杭が並べて打ち込まれており、その西端付近には板材による護岸の痕跡も残る。しかし、石材は本樋64121の取水口付近以外に残存しないものの、部分的に胴木材が残存することから、以前には北岸同様の石組があったと見られる。北岸の石組背後から18世紀後葉から19世紀に下る遺物が確認されているため、石組水路の状態は遅くとも19世紀代の姿であり、それ以前の護岸施設は不明である。石組の下層に当たる部分などからは、17世紀後葉から18世紀後葉の遺物



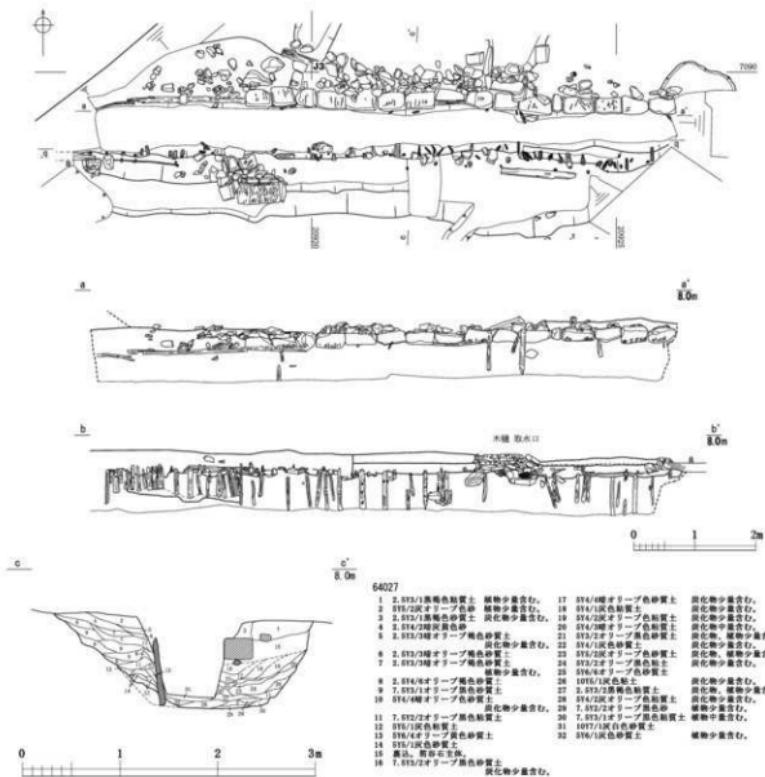
第95図 Fkj06-4 屋敷地② 遺構配置図 (S=1/80)

第6節 Fkj06-4地区の調査

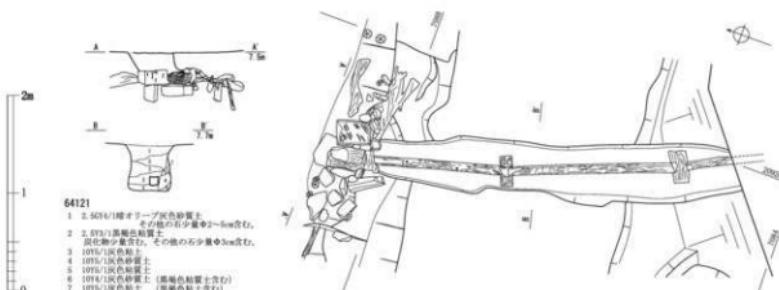




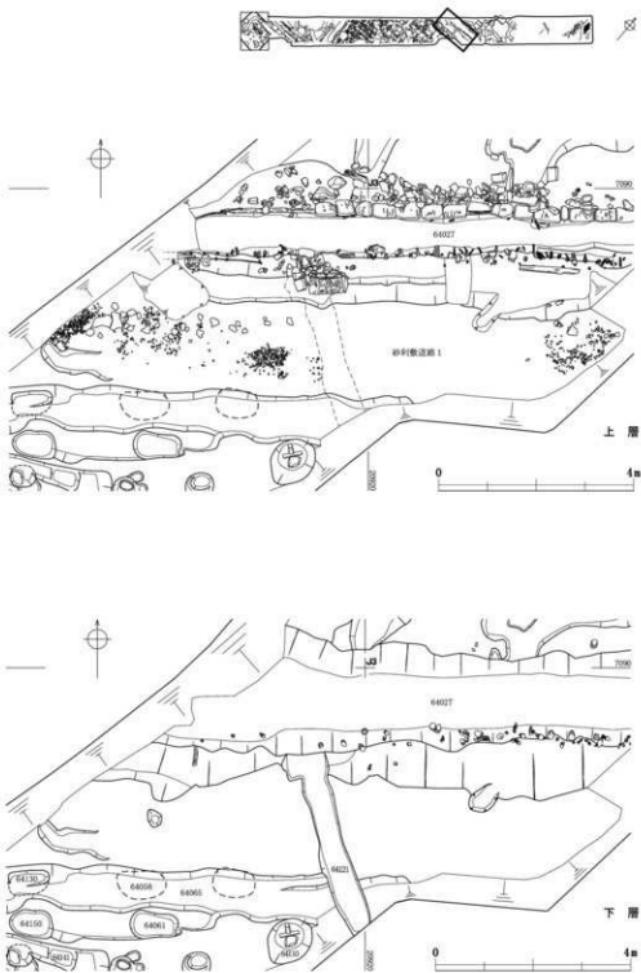
第97図 FKI06-4 屋敷地② 北側区画溝およびその周辺の遺構 (S=1/40)



第98図 FKJ06-4 水路64027 ($S = 1/80 \cdot 1/40$)



第99図 FKI06-4 瞬渠（木橋）64121 (S=1/50)



第100図 Fkj06-4 砂利敷道路 1・水路 64027・暗渠 64121・区画溝 64065 (S=1/100)

が確認されている。

絵図によると屋敷地②は、17世紀半ばに屋敷地③とともに分割して形成される、南北に細長い屋敷地である。17世紀半ばから寛文年間の状況を示す絵図に下山五郎左衛門 与（与力）との記載が見え、17世紀後葉には11軒、18世紀前葉には地方と表記される。19世紀前葉の絵図では、屋敷地が南北に大きく三つに分けられており、その中央の区画が東西に二分され、中央西側の南北に長い敷地は矢場とされている。慶応期には、北端の区画を除き町屋として表現される。18世紀に表記される地方とは、町奉行の管理のもとに城郭近隣の町人を住ませたものとされる。そして、屋敷地②・③は築城当初より下級武士の屋敷地区画として継続して利用されていたが、すべての福井藩士の知行を半減し大勢の浪人を生んだ貞享の大法（1686年）以降にできた、多くの空き屋をいわゆる町屋に当てたようである。

5 屋敷地①（第101～103図）

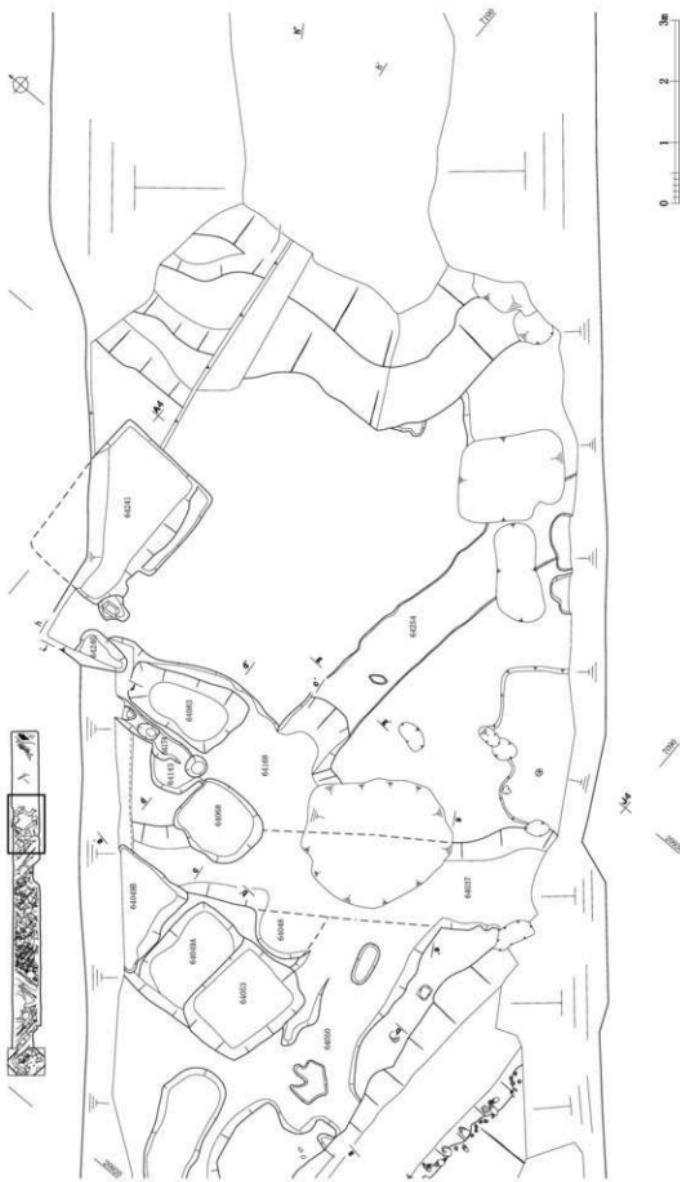
屋敷地①の主要な造構は、廃棄土坑64053・64049A・Bである（第101・102図）。これらは、埋土の断面観察によると64049B→64049A→64053と順次掘られたものであり、並存しない。平面形はいずれも東西に長い長方形であり、検出面での規模は1.8m×1.4m、深さは64049A・Bが0.4m前後、64053が約1.6mである。これらの配置は、並存しないにも関わらず南北に直線的に並ぶことから、土居斜面に規定されたものであり、さらには土居下端の位置の近辺を示すことが考えられる。これらの埋土中の出土遺物は、いずれも17世紀後葉から18世紀後葉までのものである。

屋敷地①は、市センター報告の「横山」屋敷地に該当する。17世紀前半は空白地であるが、17世紀後半から横山氏の屋敷地となり、以降江戸時代を通して存続する。屋敷地の正面（表門）は西側であり、調査地は裏手の南東隅に当たる。そのため建物を構成すると見られる遺構は確認されなかった。

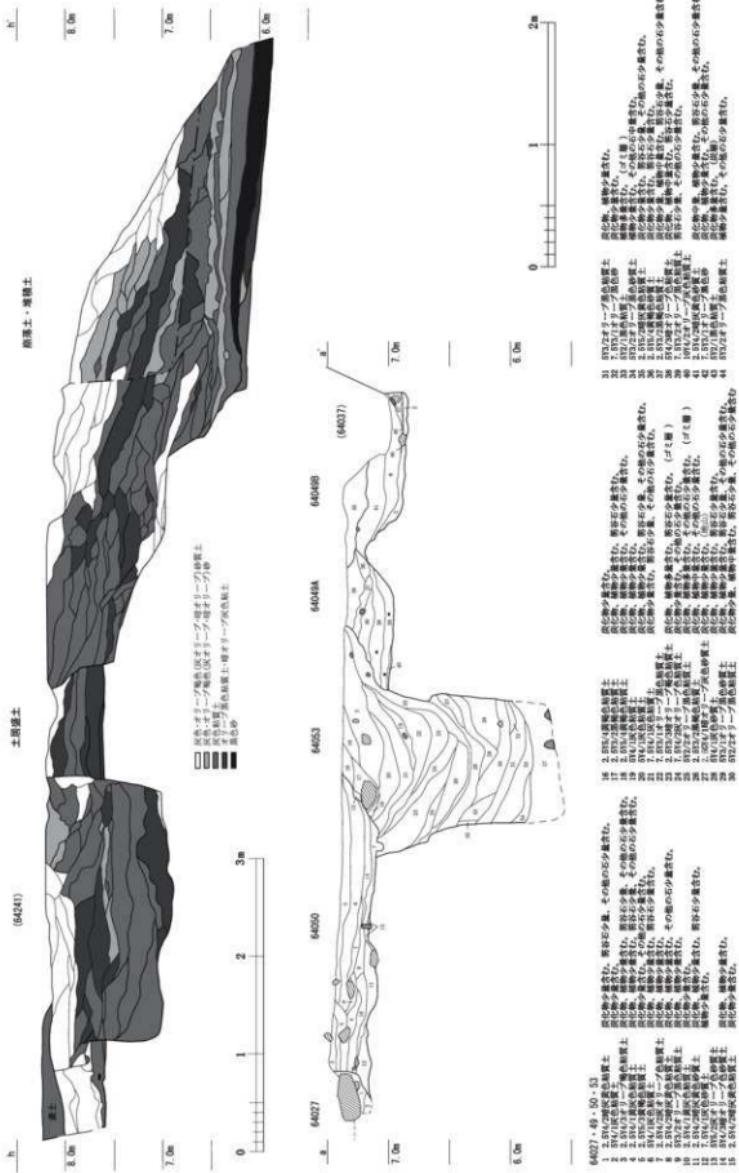
6 土居（第101～104図）

土居は、ほぼ南北方向に延びるが、調査区南端付近で東へほぼ直角に屈曲することを確認した。堀側の下端は南北約3m分・東西約1m分を検出した。土居背後は、南北方向に延びる部分については後世の改変により明瞭でない。東西に延びる部分は調査区外であるが水路64027に接するようである。土居の盛土は最大で厚さ0.6m残存する。土居の高さは複数の城下の絵図に9尺（約2.7m）と記載されている。土居背後の砂利敷道路1の路面が標高約7.6mであり、土居盛土直下の地山面の高さもほぼ同じ値であることから、9尺とされる高さのすべてが盛土による造成であることになる。土居上面（馬踏）の幅は、青木元邦氏（2004『福井城跡Ⅳ』福井市文化財保護センター）・国京克己氏（2005『福井城舎人門遺構復原整備事業報告書』福井市）により1間（約1.8m）と復元されている。土居盛土部分の幅は、北側の東西幅については廃棄土坑64053・64049A・Bの存在から約8mであり、東側の南北幅については水路64027の北側石組まで概ね8mとなる。土居全幅は、北側の東西幅については約9.5m・東側の南北幅については約9mとなる。

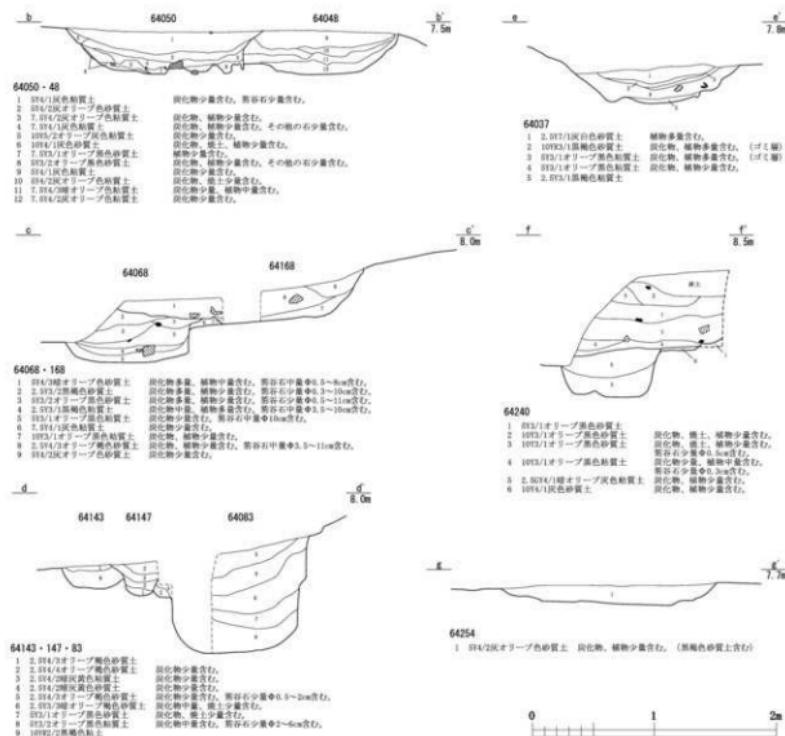
土居の盛土中に確認される遺物は、17世紀初頭～前葉のものと17世紀後葉～18世紀のものに分かれ。前者は、築城に関連する段階の遺物であり、後者は、土居の改修などにより混入した遺物であることが推測される。土居の西側斜面には64068・83などの土坑があり、埋土中に17世紀後葉～18世紀前葉の遺物が含まれる。これらを覆うように、17世紀後葉～18世紀中葉の遺物を含む土壤による盛土が広範囲に為されており、これが土居改修に伴うとすると、土居改修は18世紀中葉頃かそれ以降となる。土居



第101図 FKJ06-4 屋敷地①・土居周辺 遺構配置図 (S=1/80)



第1102圖 FKJ06-4 屋敷地①・土居周辺 遺構1 (S=1/50・1/40)



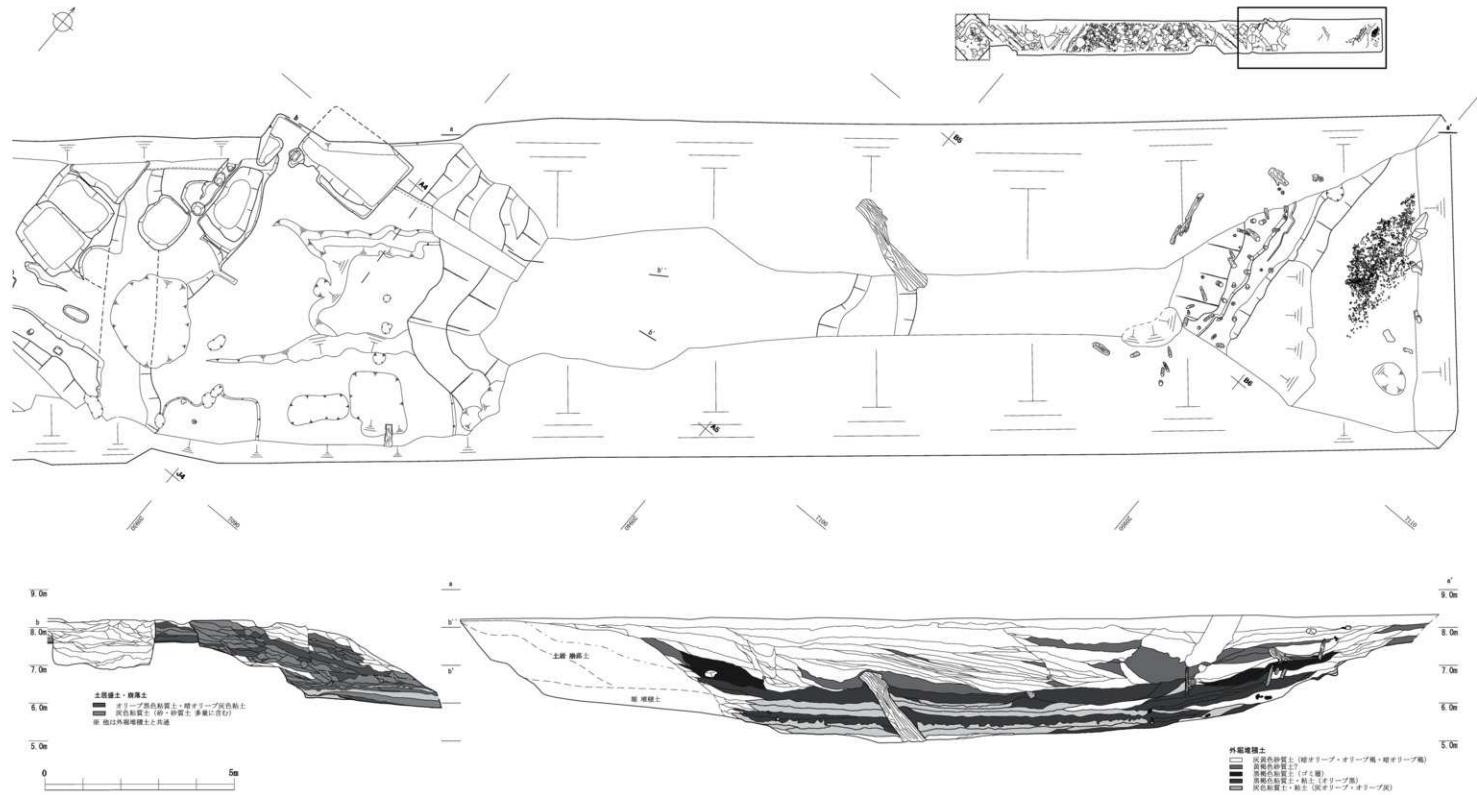
第103図 FKJ06-4 屋敷地①・土居周辺 遺構2 (S=1/40)

西斜面の遺構に、溝状造構の中に浅い落ち込みや土坑の並ぶ遺構64147がある（第101図）。これは、土居の補強や盛土の高さの目安などとして、土居に平行する溝の中に直径0.2~0.3mの丸太材を立て並べた土居改修作業の痕跡である可能性が考えられる。

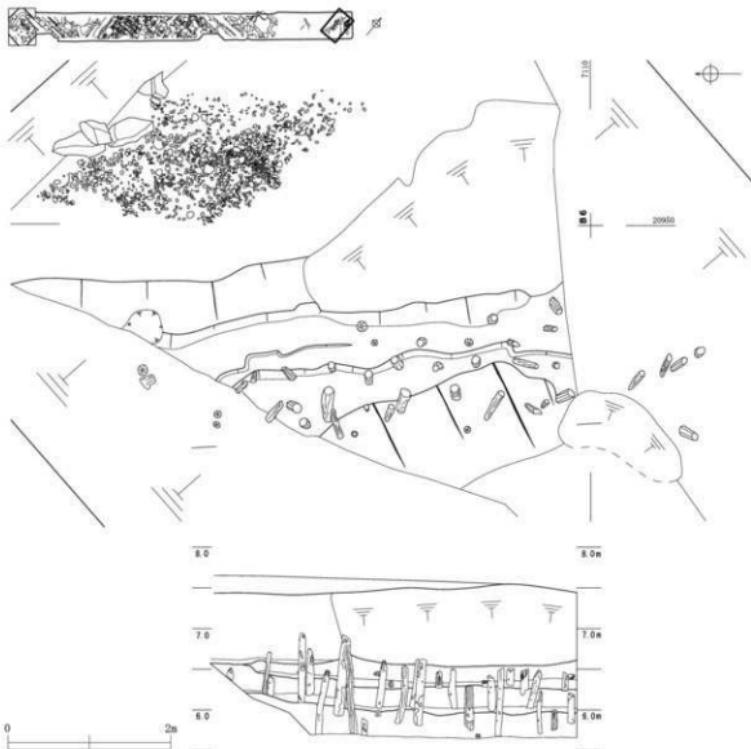
土居の盛土直下にある溝64254は、築城に関わる可能性があるものの、遺物を伴わず詳細は不明である。なお、土居上面には鉄道に関わる擾乱が多数あり、いずれも調査区の延長方向に平行するか直交する。土坑64241は、土居の延長方向に直交するが、土居上面（馬踏）を大きくはみ出し、土居直上から掘削したとしたら深さ3mを超える規模である。このような土坑を土居に穿つことは城郭の防衛上考えられない。そのため、土坑64241は、土居削平後から鉄道開通までの擾乱と捉える。

7 外 堀 (第104・105図)

外堀は、現地表面から底面までの深さが3mを超える。最低限の調査区法面を確保すると、平面的な底面の検出幅は1.5m程度となった。規模は、狭長な範囲の検出であるため、直接的には計測し得ない



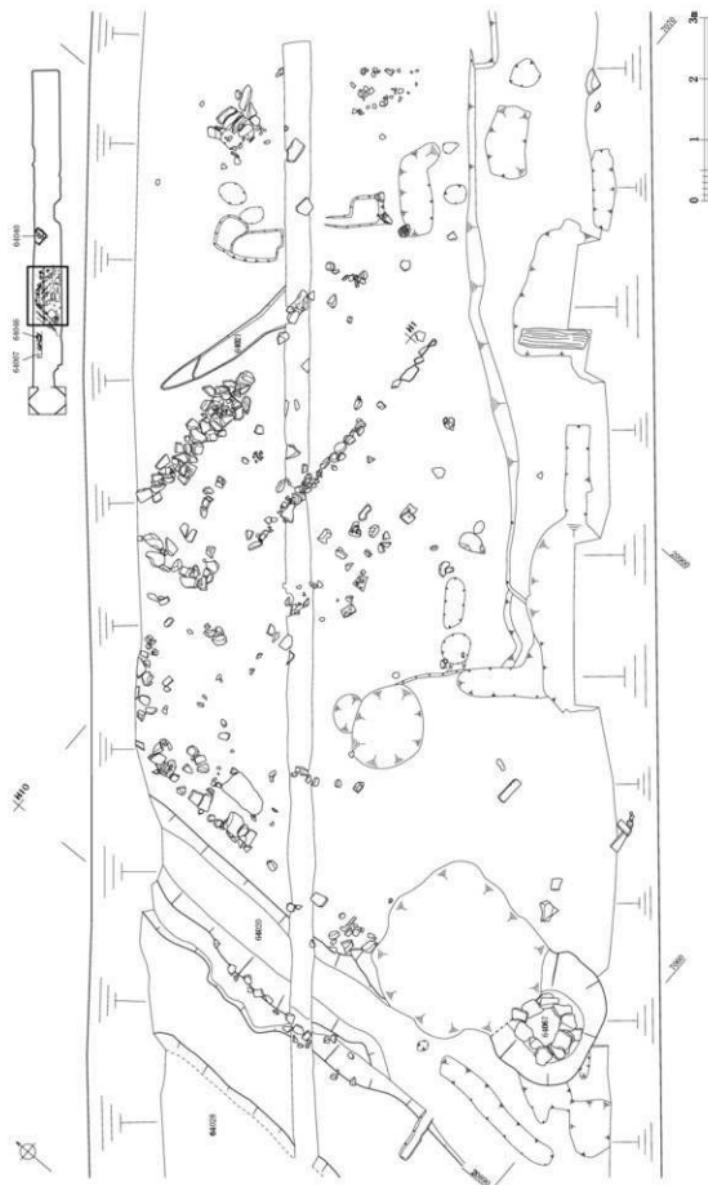
第104図 Fkj06-4 外堀 (S=1/100)



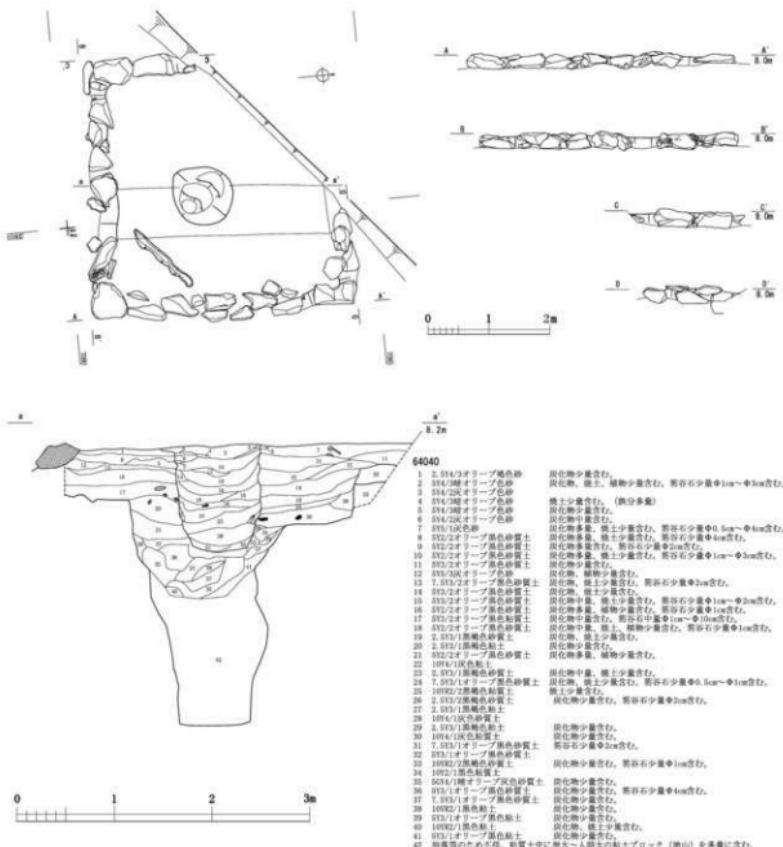
第105図 FKJ06-4 外堀東岸杭列 (S=1/60)

が、検出面での幅約21.5m・底面幅15m前後と把握し得る。土居背後の砂利敷道路1の路面(標高約7.6m)からの深さは、約2.4mである。なお、調査時において、福井地震の影響で噴き上がった砂・砂質土や大規模な搅乱のため、土居東斜面を誤認していた。調査終盤において、除去可能な埋土が残存することを認識し、これを除去して、調査地が土居・外堀のはば直角に屈曲する部分であることを確認した(第104図)。

外堀の堆積土は、堀内堆積土・土居などを直接削り落とした土・廃棄物堆積層・近代埋立土に大まかに区別され、このうち堀内堆積土は、黒褐色粘質土や灰色粘質土などの状況から、さらに2つの段階に分かれる。外堀のはば中央にて直立した状況で検出した大きな丸太は、堀内堆積土の下層段階の土層のみに亂れを引き起こしている。外堀の機能する段階に落下し、直立した状態で徐々に埋没したとは考えられないため、堀内堆積土の大半が近代以降の人為的な堆積と捉えられる。堆積状況から、土居の削平時に、丸太がほぼ隠れるくらいまで埋め立てているようである。その後、開放したまま一定の期間を経て(その間に両岸から廃棄物が投棄される。)、最終的にすべて埋め込まれて消滅する。なお、外堀東



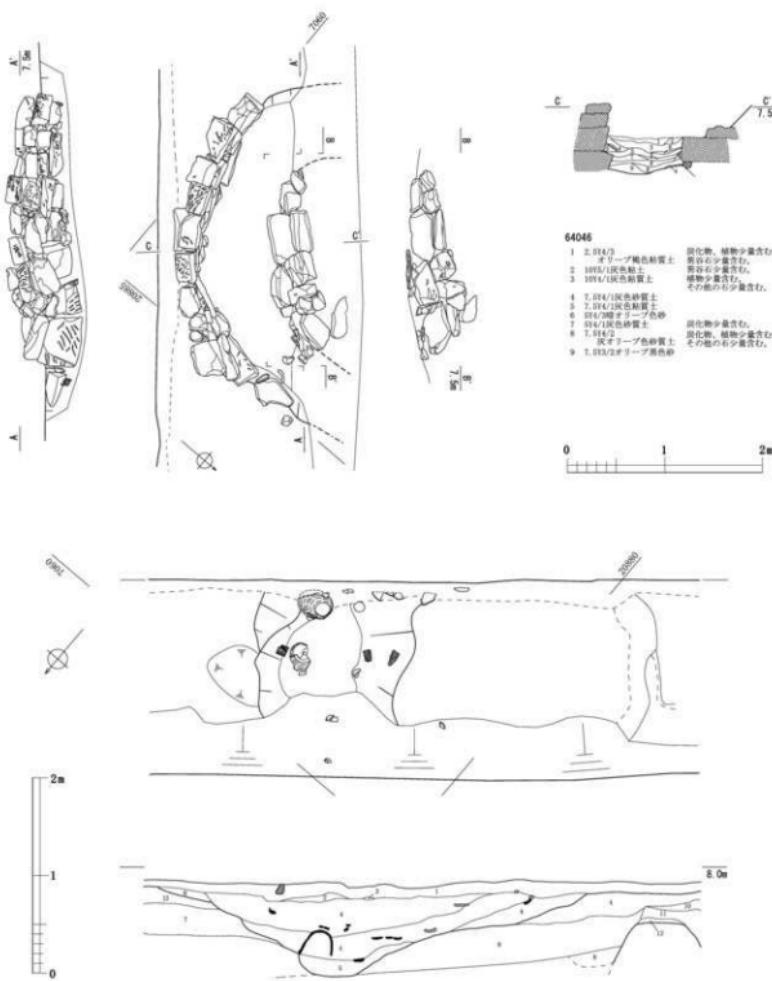
第106図 PKJ06-4 最上層の遺構 1 ($S = 1/80$)



第107図 FKJ06-4 最上層の遺構2 井戸64040 (S=1/80・1/50)

岸に確認された杭列は、市センターの調査により護岸のための土留めの痕跡であることが確認されており、堆積状況から丸太を埋め込んだ段階とその後開放していた段階の、少なくとも2時期に亘って整備されたものようである（第105図）。

出土遺物は、下層堆積土から18世紀代のものが確認されている。土居を削平して埋め込んだ土壤中に17世紀に上る遺物が確認されるが、残存する土居の盛土中に17世紀初頭～前業・17世紀後葉～18世紀の遺物が含まれることから、17世紀代の遺物は混入であるものと判断される。そして、少なくとも18世紀までは、外堀といえども堆積物除去などの整備が為されていたものと思われる。



46007				
2.5V/2時間充電耐候性	耐化物、樹脂、樹木等含む。若葉少品目。その他の少品目含む。	8	2.5V/3時間充電耐候性	耐化物等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。
2.5V/4時間充電耐候性	耐化物、樹木等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。	9	2.5V/3時間充電耐候性	耐化物等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。
2.5V/5時間充電耐候性	耐化物、樹木等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。	10	2.5V/4時間充電耐候性	耐化物等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。
2.5V/6時間充電耐候性	耐化物、樹木等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。	11	2.5V/5時間充電耐候性	耐化物等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。
2.5V/7時間充電耐候性	耐化物、樹木等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。	12	2.5V/6時間充電耐候性	耐化物等含む。若葉等含む。その他の少品目含む。
3V/11時間充電耐候性	耐化物等含む。	13	2.5V/7時間充電耐候性	耐化物等含む。

第108図 FKJ06-4 最上層の遺構3 石組溝64046・土坑64007 (S=1/50)

第4章 中・近世の遺物

第1節 土器・陶磁器

中世から近世（福井城期）の出土遺物について紹介する。中世の遺物は、主に15世紀後半～16世紀の朝倉氏北庄期から織豊北庄城期にかかる遺物が、FKJ06-2・3地区中心に多く出土している。FKJ05-4地区では福井城創建以前の整地層（54279）から纏まって出土している。今回の調査で特筆すべき遺物群に造構53032に代表される北庄城（織豊期）から福井城（近世松平）創建期に当たる16世紀末から17世紀初頭頃の良好な資料を得たことである。大橋Ⅰ期の唐津、志野、瀬戸美濃大窯製品を含み、土師質皿も朝倉氏遺跡分類C・D類の系譜と考えられるもので占められる。FKJ05-4地区は寛文の大火（1669年）以降武家屋敷は総て取り払われるため1669年までの廃棄土坑遺物群および大火直後の火事場整理に伴う廃棄遺物群（造構54001・54007等）が定点資料となる。FKJ06-3・4地区では幕末から廃藩置県直後の整理に伴うと考えられる遺物群（造構63020・63024・64098・外堀等）がみられる。

本項では産地毎に概要を述べるが、挿図版では一括性を重視し造構毎に編集した。

1) 伊万里焼（肥前磁器）； 碗・皿等食器類が中心である。

碗類 大橋編年Ⅲ期以降増大する。一重網目紋の54022-3や61106-1、四方に窓を開ける540212-1等量産品が多くみられる。61105-1は口径16cmの碗形の鉢である。口縁部は釉剥ぎで本来蓋付きと考えられる。53069-1は白磁呂器手碗だが磁器では珍しい。口径14cm足らずと大振りで、高台の形状や体部の立ち上がりなど李朝の呂器手碗をよく写す。63064-1は平碗形のいわゆるうがい茶碗である。器壁は薄く、鉄釉と琉璃釉を掛け分ける。

皿 54022-8・9・10は口径8.4cm前後的小振りな皿で組物と考えられる。54007-3は一辺13cmの四方皿である。形打ちとし、見込みに山水紋を描く。高台内にはハリ支え痕が一点残る。口径6寸以上の大皿も全時期を通じ出土する。その割合は中・下級武士宅（FKJ94-1国際会館地点等）の調査地点に比べ高い。7寸径の54001-6、54007-1・2は本来一具と考えられる。何れも口縁下で内側に折り曲げ、見込みに山水紋を描く。被災し釉脣が荒れる。54021-13は高台内まで琉璃釉を掛ける。54022-11は口縁を輪花とし、64050-3は大振りな9寸皿である。64046-7は青磁大皿である。見込みには型打ちで青海波紋を表し、高台脇に脚を付ける。53036-11は灰色のざっくりとした陶器風の胎土だが、体部・高台等をシャープに形成する。口径36cm、見込みいっぱいに螺旋を陰刻し、高台を除き青磁釉（灰釉）を掛ける。

鉢 69090-5はやや深めの筒形の鉢である。上部に同柄の蓋63090-4が付く。

瓶類 細片が多く、図示出来るものは少ない。61105-6は全面に染付で横縞を巡らせる。53042-6は白磁短頸壺である。底部は高台を削り出す。

香炉 61ホ-12は中国青磁筒香炉の写しである。胴部に紐3条回す。煙返しは奥行きが浅い。61ホ-13も青磁ながら口縁は外側へ厚みを帯びる。底面に花押を2つ墨書する。61ホ-16は菱型と考えられる小香炉で、上絵付けは赤色を中心に緑色も用いる。底部に窯割れを起こす。61ホ-17は16の蓋である。63119-1も一辺4.8cmの方形小香炉の蓋である。上面には赤絵で緻密に模様を描き、つまみは緑釉を掛ける。共伴遺物から大橋Ⅲ期と考えられる。

その他 文房具のうち水滴は19世紀前後から大量に出土する。64161-1は長方形で上面に菊花を陽刻する。人形61ホ-15は前後合わせ型作りである。旅装した僧形像で笠を被る。衣および笠部には錫釉で

着色するが、透明釉は掛けない。像容から西行法師像と思われる。

2) 唐津焼（肥前陶器）； 碗・皿等食器類の他、鉢・瓶等多岐にわたる。

絵唐津 碗では53032-1・2、54012-1のような簡略な図柄を描くものが散見される。53032-7、63523-2は轆轤成形後口縁部を折り曲げ、平面方形とし、見込みに鉄絵を描く皿（向付）は多く見られる。63523-3の六角形は珍しい。63123-3は胎土目の段皿で、口縁部に簡略に描く。53101-11は筒向付であろう。

無地唐津 53079-2はオリーブ色を呈する灰釉を掛けた青唐津碗である。青唐津・絵唐津共に16世紀末～17世紀初期の遺構で多く確認される。54ホ-1は天目形碗である。瀬戸同様鉄釉を掛ける。灰釉等のみ掛けた胎土目（53036-3・54021-7・8）砂目（53142-2、54007-7）の碗・皿類は17世紀代の遺構を中心に多数みられる。64027-7は高台3ヶ所を切り込む香炉（火入れ）である。見込みおよび高台脇に文字・模様を墨書きする。54021-9は片口鉢である。口縁が碗類より厚く、やや端反る。54007-8は鶴首形の徳利である。粘土紐を巻き上げ器壁は比較的薄く作る。透明性の高い鉢釉を掛ける。54003-6は3足を付けた鉢である。胎土・装飾からみると次の叩き作り製品の範疇に入る。

叩き作り製品 体部は粘土紐を巻き上げ、内面に同心円紋當て具を用いて器壁を薄く仕上げる。底には貝目を残すものが多く、胎土は赤くきめ細かい。これらの特色を持つ一群は、これまでの調査でも多く出土しているが細片が多い。しかし、今回調査では図化復元し得るものが多く確認された。鉢（甕）63233-1は口縁を玉縁状にする。53032-31は寸胴で口縁帯は外側へ伸びる。54003-2は片口鉢である。63523-1は瓶である。この器種は福井城跡各調査地点でも多く見かける。54025-6は水指である。内面に同心円叩き紋を残し、器壁は薄い。口部は矢筈口とし、胴部に耳の付け根が残る。本来取手形の耳が付くと思われる。桃山期の備前焼水指等に共通するデザインである。

呉器手・京焼風陶器 白色に近い胎土を用い、磁器のように薄く端正な作りの製品をその範疇とする。いわゆる京風碗のうち、64053-4は外面に鉄絵山水紋を描き、高台内に「清水」印を捺す。64030-7は高台内には印を捺すが、外面の絵付けは見られない。61106-4は見込みに大きく草花紋を線刻し、砂目跡を5つ残す。呉器手碗では63064-11は通常見られる量産形である。63069-5は一回り大きい。

3) 瀬戸美濃焼； 17世紀初期までは主に食器・茶器を中心に一定量含まれる。17世紀半ばから18世紀代には激減するが、19世紀瀬戸磁器が量産化されると染付磁器が増加し、これに呼応し陶器類も増加する。器種では食器類の他、片口等台所用具、水鉢・火鉢等生活具等多岐にわたる。

中世（大窯期） 天目茶碗53032-3、54021-4は口径に対し高さが低いことや釉調等より大窯後期と考えられる。53032-26、53036-2は16世紀後期に多く見られる天目形の小壺である。碗53032-27は灰釉を掛け、体部外面には線刻蓮華紋を施す。高台作りなど中国青磁碗を克明に写す。鉄釉丸碗54021-5は高台内の割りが浅い。54026-1は口縁を外反させる。皿は直径10cm前後の小皿中心である。灰釉丸皿では53032-48、62110-1、63206-4、折縁皿では53041-1、53142-1等がある。62521-1は鉄釉丸皿で見込みに圓線の陰刻を施す。53056-4は、口径10cm強、無釉で赤紫色の精緻な粘土を使い金属器風である。

繩豊期（桃山陶器） 向付・鉢類等茶の湯道具を中心に出土している。黄瀬戸では、見込に大根葉？を陰刻する兜鉢53041-3や、銅鑼鉢63ホ-6がみられる。志野は多様な器種がみられる。最も目につくのは向付類である。53032-8・30、53032-6は筒形で四面に草木を描く。61204-1も筒形だが小降りな為猪口とすべきか。54012-2は碗形の小壺である。54032-4は口径9cmで、壺としては大振りである。54025-3は脚付き銅鑼鉢である。釉色は若干青色を帯び、灰志野と考えられる。53063-1は茶入蓋である。上面に志野釉を掛ける。鼠志野も少數みられる。53064-1は口縁を輪花とした向付である。53191-1は脚を

付けた額皿である。織部は志野に比べ少ない。黒織部沓茶碗54021-6や、青織部向付では多く見受けられる梅鉢紋を散らした64004-1の他、図示できない程度の小片も出土している。61ホ-19は燈明皿蓋である。上面に鉄絵で籠目を描く。64065-3は赤土の胎土に白土で模様を描く、いわゆる赤織部である。53141-1は志野織部碗である。器形は通有乍ら内外に圈線を回した大胆なデザインである。

近世（連房登窯期） 瓢類では17世紀後半まで天目茶碗がみられる。63056-1、63064-10、63118-4・6、64012-23・24、64087-1等は連房登窯期と考えられる。灰釉碗は54026-2、63168-5、64ホ-16がある。64ホリ-7は腰錫碗である。灰釉皿54054-2は高台部を除き施釉する。高台は鋭角な断面逆三角形で地下駐車場地点（FKJ02-2-10）でも出土している。片口鉢64098-7は灰釉を掛けた。64046-6は蟹水入である。燈火具では土師質燈明皿に比べ小数ながら鉄釉を掛けたんころ（63002-2）もみられる。茶入は細片ながら少量出土している。54001-4は大海形である。器壁は極めて薄く肩の丸みは優美である。64065-2は肩衝で、器壁は薄く丁寧な作行きである。

瀬戸系磁器は特に19世紀代半ば以降大量に出土する。筒茶碗64002-3は、灰色の胎土で、外面の菊紋は伊万里焼と共通したデザインだが、見込みは瀬戸独自の七曜紋である。

4) 越前焼； 近世の播鉢、甕、壺、鉢等の他、中世前期の甕、壺、鉢等がわずかにみられる。

中世 甕 62ホ-8はなだらかな肩から外反し、口縁帯を摘み上げる。622009-4は壺の肩部である。

鉢 62601-1、622009-5は付高台を有する鉢である。62601-1の高台は退化し小さくなる。

近世 甕 53144-2は口縁が直立するものの肥厚し、内面の沈線はみられない。

擂鉢 16世紀末から19世紀に至る各時期のものがみられる。53032-9は口縁角部がやや丸く、口縁直下に沈線が巡る。61ホ-26は断面三角形だが口縁先端がやや上方へ突き出る。擂目は横方向のみである。

轆轤目鉢 18世紀後半から19世紀にかけ大量に出土する。外面に轆轤目を意識的に付け、鉄釉を塗る一連の鉢類も多く出土する。形態的に①逆台形（63020-11、64098-14～16）と、肩が張り甕の器高を圧縮したような②甕形（63020-10、64098-8～13）に大別される。球形の53019-1は火鉢の類であろう。

5) 備前焼系； 遺物総量に占める割合は小さいが播鉢、瓶類、鉢等一定量出土する。

播鉢 細片が多く全体を復元し得るものは少ない。53032-45は幅広の口縁帯を回す。53021-1は全体に赤褐色を呈し、底部は高台とする。形態・胎土等から堺・明石焼と考えられる。

鉢 53016-1は復元直径約40cmを測る。底面に粘土板を切り抜いた脚を貼り付ける。体部外面には重ね焼きによる色差を上下につけ、見込みには火拂がみられる。54025-4、54091-1は大平鉢である。54091-1は見込みの平らな部分が広い。これに対し54025-4は見込みが小さい。

瓶類 細片は多く出土している。徳利と考えられるが、胴張り・底径から大小あることがわかる。63118-8は底部に窯印が見られる。63123-2は徳利の頸部である。63090-11は鉄釉を刷毛で塗る。

6) 信楽焼； 伊万里等の碗・皿類に対し、湯飲み（小碗）類に一定のシェアを持つ。18世紀代には色絵や鉄絵の華やかなものが多い。19世紀代に入ると伊万里・瀬戸磁器に混じり大量に出土する。

小碗 64050-1は煎じ形で鉄絵草紋を描く。塩筋形小碗64ホリ-8は体部に細かい貫入がみられる。この他小杉碗64ホ-28や端反碗64161-2、64ホ-27・29・33等がみられるが、端反小碗は19世紀半ば頃の遺構では必ず出土する。色絵の小碗は量的に少なかった。54042-7は半球型で赤・緑を使い菊紋、筒形碗54042-8は青で花紋を上絵付けする。53042-9は木瓜形火入れ（香炉）である。青・緑を用い菖蒲紋を描く。

灯明皿 少量ながら19世紀代の調査区では必ず確認される。磁器質に近い明灰色の胎土で轆轤成形し、透明に近い灰釉を掛けた。63020-5は見込み片側に猫搔き状の細かい撚目を入れ、対面には丸い粘土板

を張り付ける。菊形が多いが本品は無地である。3箇所にハリ跡を残す。なお今回の調査では出土していないが、轆轤を使い信楽焼灯明皿そっくりに成形した無釉土師質の製品が城下で出土している。

焼締 61ホ-21は水指蓋である。胎土に長石粒を含み、白色系であることから伊賀焼と考えられる。

7) 軟質施釉陶器； 17世紀初期の織部・樂系デザインの茶陶類と18世紀以降の土師質土器に施釉したものがある。53032-21は多く見受ける半筒形碗である。外面を白釉とし、縁釉を垂らす。内面は透明釉である。53032-25はいわゆる黒楽碗の写しである。63084-1と共に青織部を指向したデザインである。63084-1は皿形で口縁部に縁釉を掛けた。63090-9は細く絞られた高い高台(脚)を持つ。口縁の一部に縁釉を掛け、見込みには鉄絵で同心円を描く。61106-2は体部を捻り抜きとし、全面に透明釉を掛け、部分的に緑・褐釉を垂らす。灰器に比べ器高が高い。箱庭用品にも施釉土器が多い。54012-3鳥形水滴は体部は白土、羽根は赤土と使い分け、さらに3種の釉を用いた丁寧な作りである。首は失失する。

8) 土師質土器； 大半が油煙の付いた灯明皿である。今回の調査では遣構53032出土の皿が量的にも多く纏まっている。口径では8.5cm(53032-50) 9cm(-51)から1cm毎に最大14cmまでみられるが、10・11・12cmが中心である。いずれも手捏ねで口縁端を摘み上げ、大径のものは見込みに圓線がみられる(-16・17・18・44・52)。また、体部外面、口縁下1cm付近を強くナデ、段をつける(-16・38・43・52・53)ものは、16世紀末から17世紀初頭にのみ見られる。

焼塙壺 53032-11は外面全体が剥離する。53079-3は無印である。53032-35は蓋である。器壁は薄い。

焰焰 福井城下の調査では、細片も含め出土量が極めて少ない器種である。64002-7は口径24.4cm。外面に綴刷毛目、内面に横刷毛目を残す。底面には煤が大量に付着する。

9) 貿易陶磁； 中国・朝鮮半島等の製品が見られる。器種は碗・皿・向付・小壺等である。

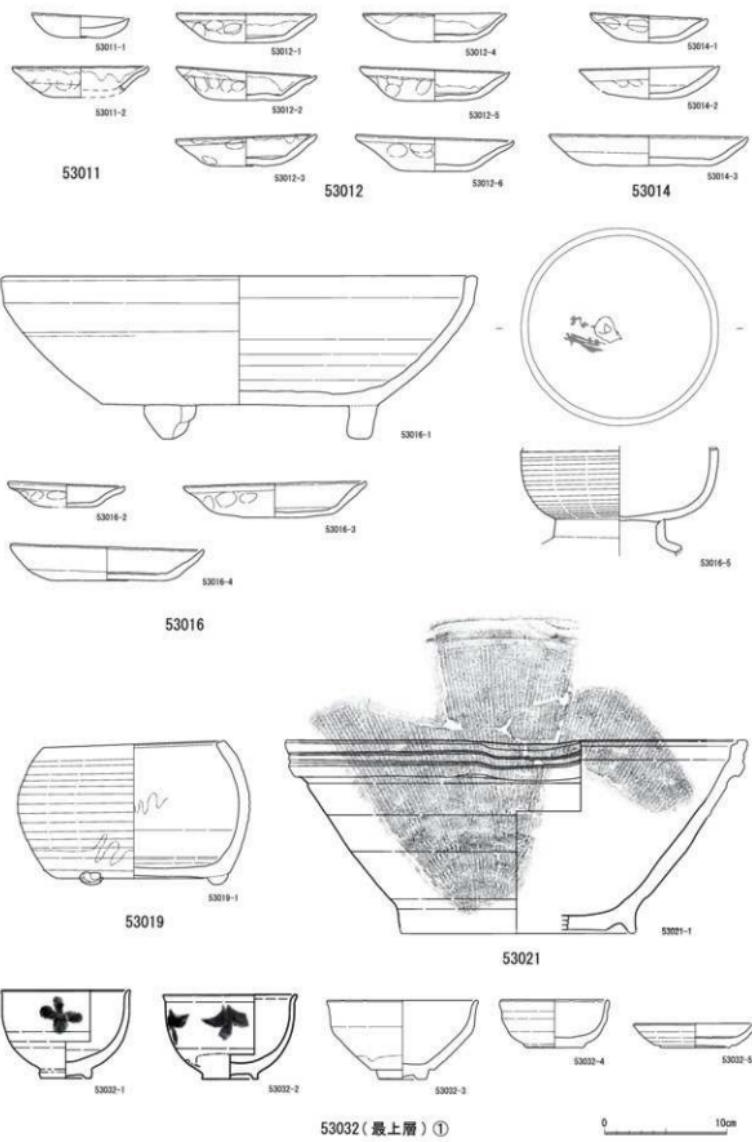
中国 景徳鎮系 大半が染付(青華)である。器種毎にみてゆくと、碗(鉢)では型作りで内面に模様を浮かせる53032-19や口縁を輪花に切る53139-1。53056-1は口径12cmに復元される。53079-1は口径9.6cmとやや小振りである。小壺では63002-1が典型である。口縁は端反り、高台は蛇の目である。この形態の小壺は他地点でも多くみられる。

漳州窯系 54279-1の染付皿はである。紋様は見込みにのみ見られ、高台内外は無釉である。大皿類は復元口径が15~20cmとおぼしき細片が数多く確認され、大量に輸入・使用されていたようである。64002-5は周縁部に青海波紋を巡らせ、部分的に窓を開け花紋を配する典型的なデザインである。

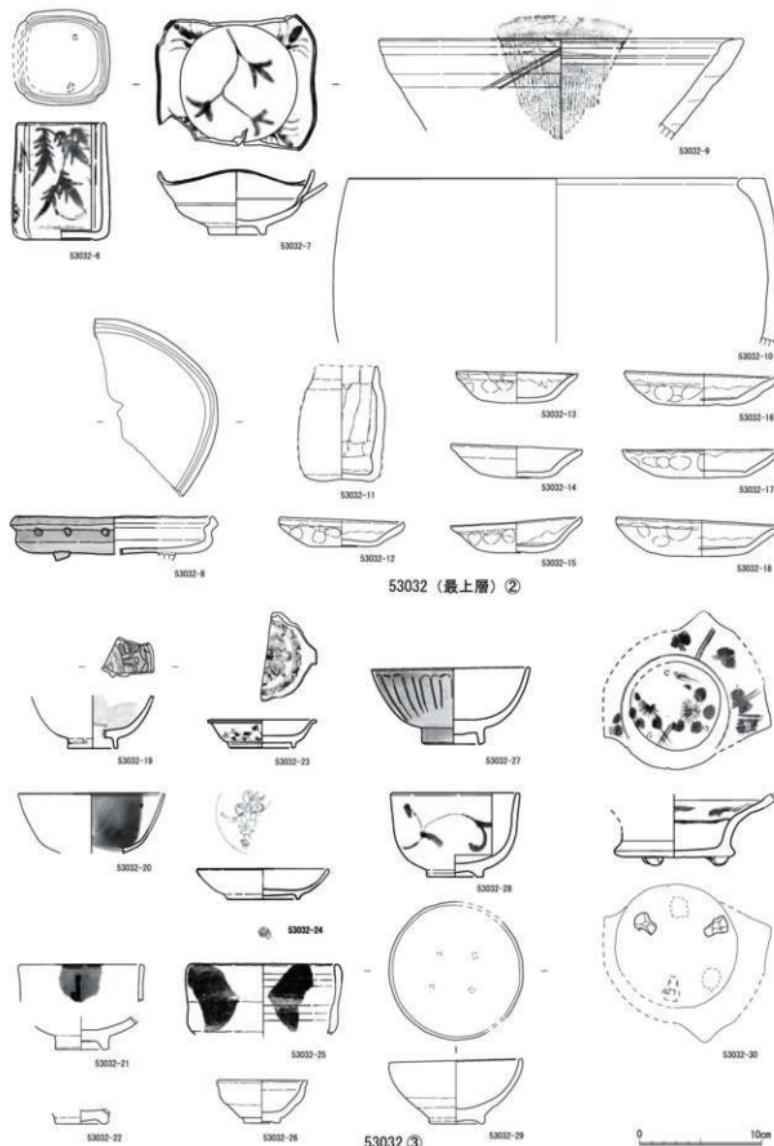
朝鮮半島 53103-1は蕎麦手碗高台である。見込みに11か所の目跡を残す。高台径は5.6cmを測る。

10) 瓦； 福井城跡出土瓦は、材質等により笏谷石・燐し瓦・施釉瓦(赤瓦)に大別される。さらに施釉瓦も越前焼と胎土・施釉法が類似した江戸前期の一群と、江戸後期以降の全面施釉され達磨窯で焼かれたいわゆる越前赤瓦に大別される。纏まって出土する箇所は、寛文の大火(1669)直後の整理に関わる廐棄土坑(遣構61105)や整地土層内が多い。軒丸瓦では、燐し(61105-10)・施釉(61ホ-37・38)とも三つ巴紋だが、燐しでは3つの巴が一つの正円を形成するのに対し、施釉は巴が各側に散漫である。軒平瓦は紋様2種類に大別できる。①立体感のある五子葉紋と唐草紋(61105-8、61ホ-32・33・35)と、②線刻蓮弁(もみじ紋)と唐草紋である。②は模様の差異によりさらに細分できる。また、②は燐し(61105-9・12、61ホ-31)・施釉瓦(61105-11・61ホ-34)とも見られるが、①は燐しのみである。①より古様な紋様がないことからこれが福井城創建期のものと考えられる。61ホ-36は燐しで、桐紋を刻出する。施釉桐紋瓦は他調査地点も含め確認されず、施釉瓦の上限を考える上で重要である。 (河村)

第1節 土器・陶器

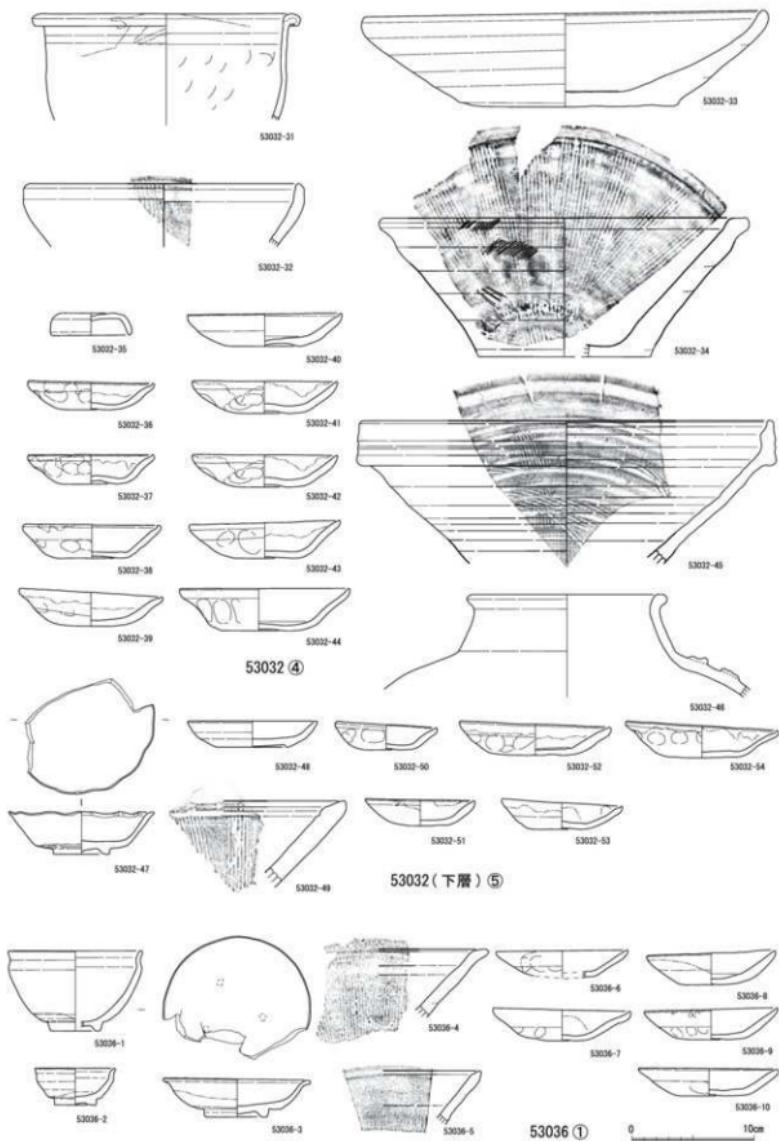


第109図 陶器 遺構 53011・53012・53014・53016・53019・53021・53032最上層 (S=1/4)



第110図 陶磁器 遺構 53032最上層・53032 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

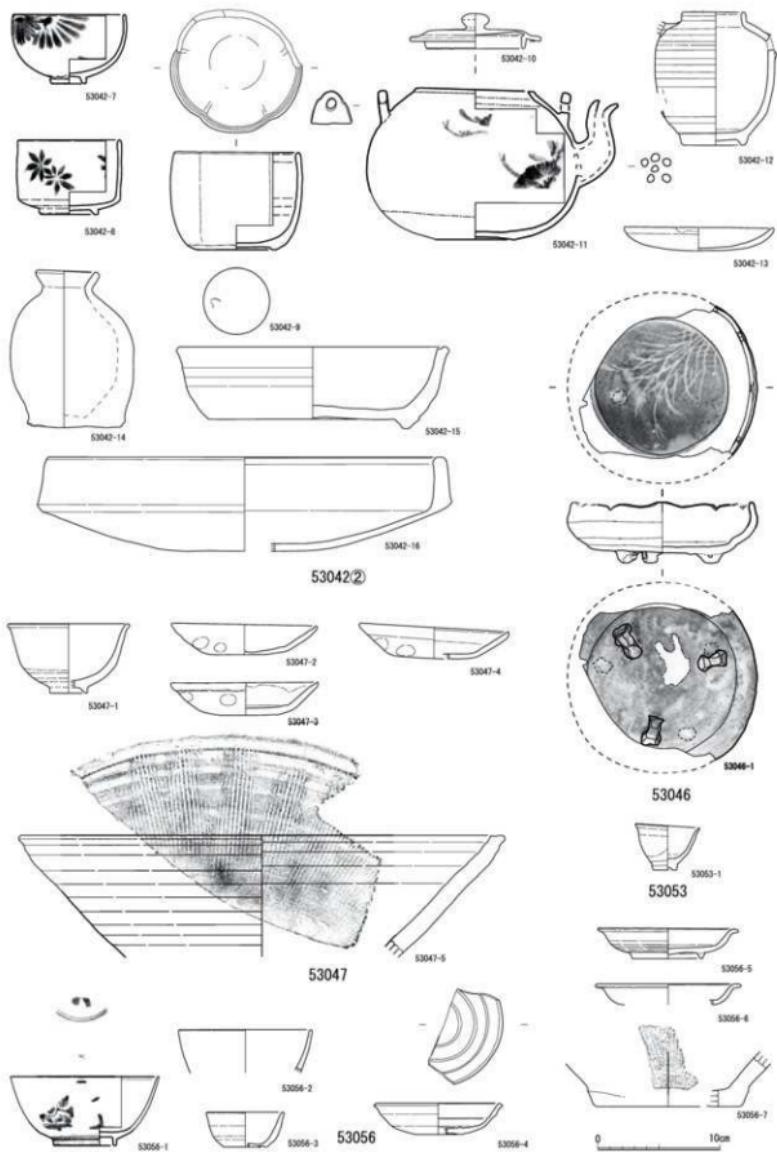


第111図 陶磁器 遺構 53032・53032下層・53036 (S = 1/4)

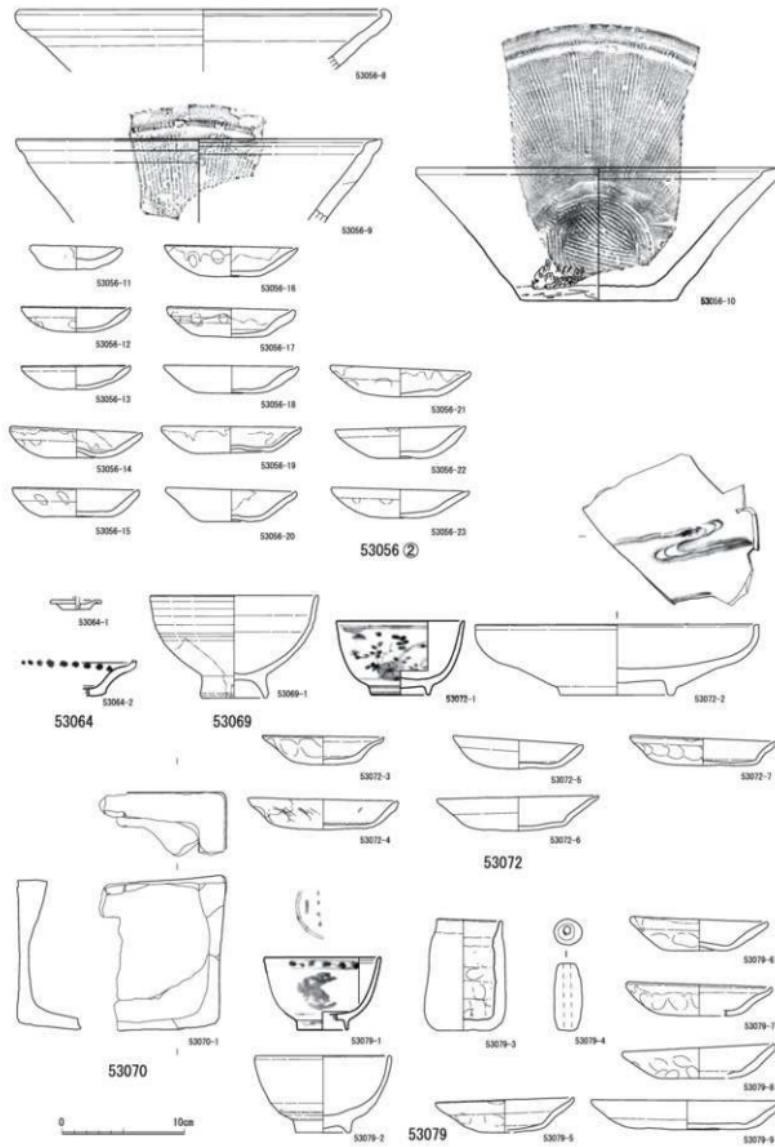


第112図 陶磁器 遺構 53036・53037・53041・53042 (S=1/4)

第1節 土器・陶器

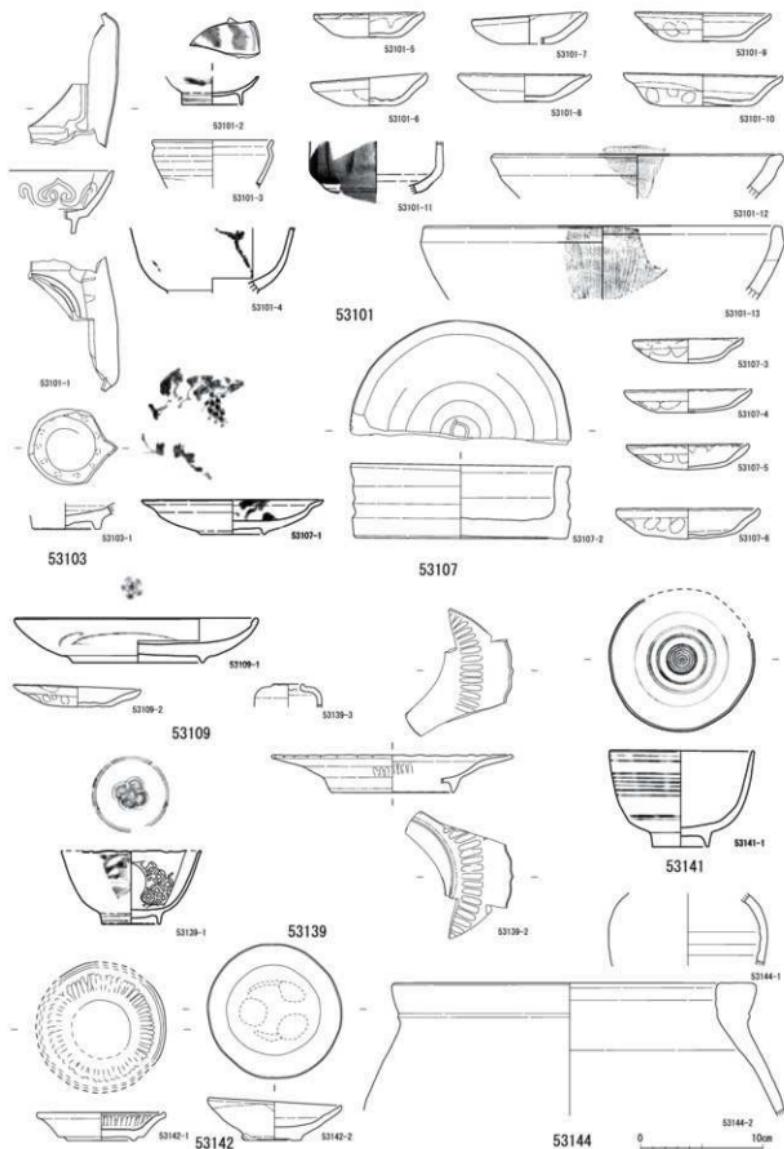


第113図 陶器器 遺構 53042・53046・53047・53053・53056 (S = 1/4)

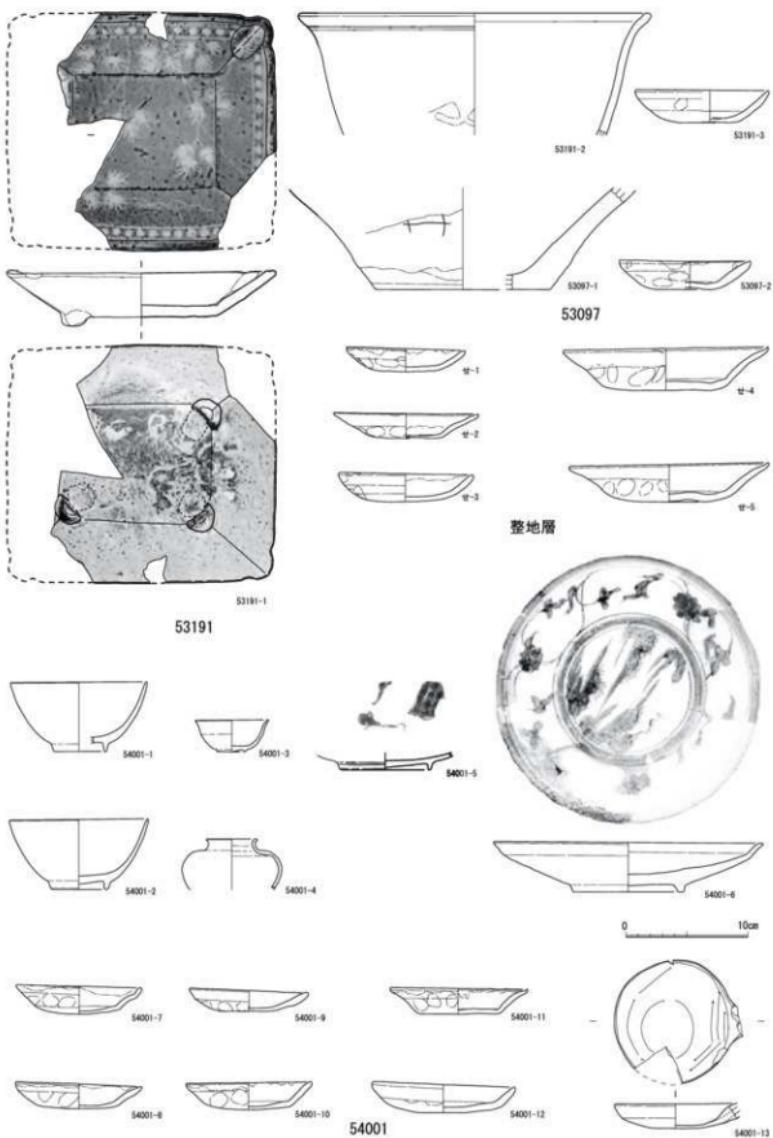


第114図 陶磁器 遺構 53056・53064・53069・53070・53072・53079 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

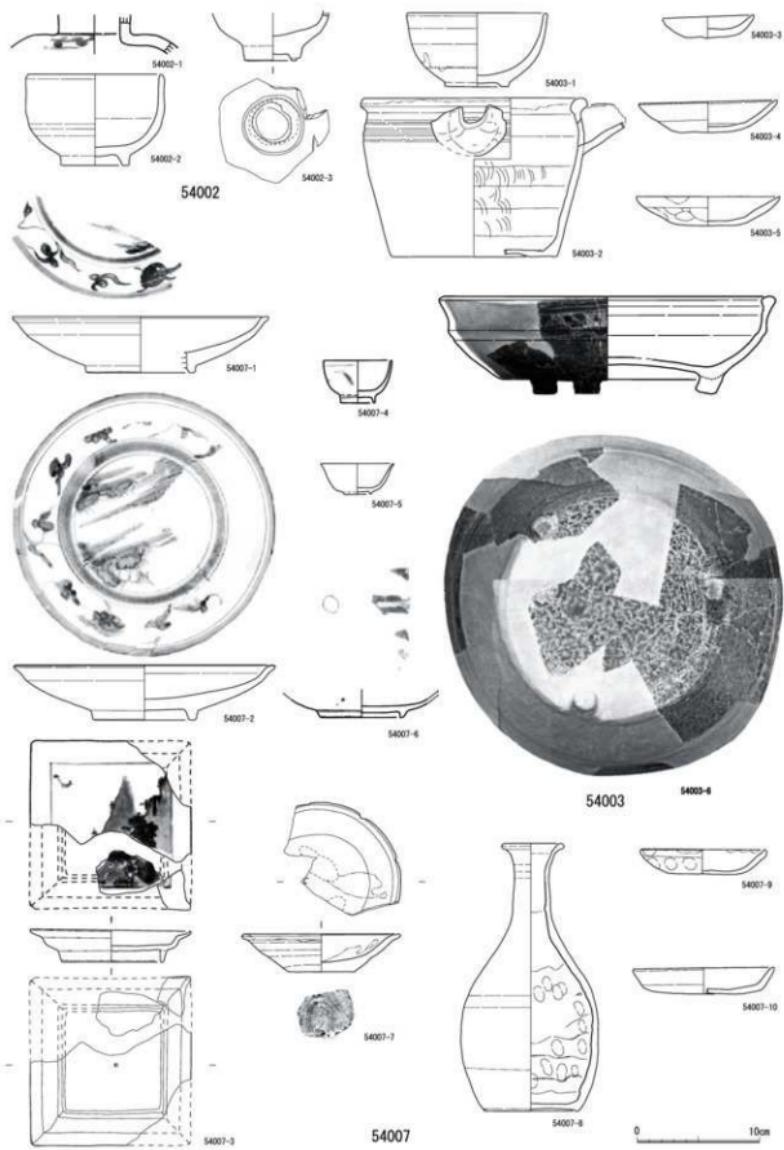


第115図 陶磁器 遺構 53101・53103・53107・53109・53139・53141・53142 (S = 1/4)

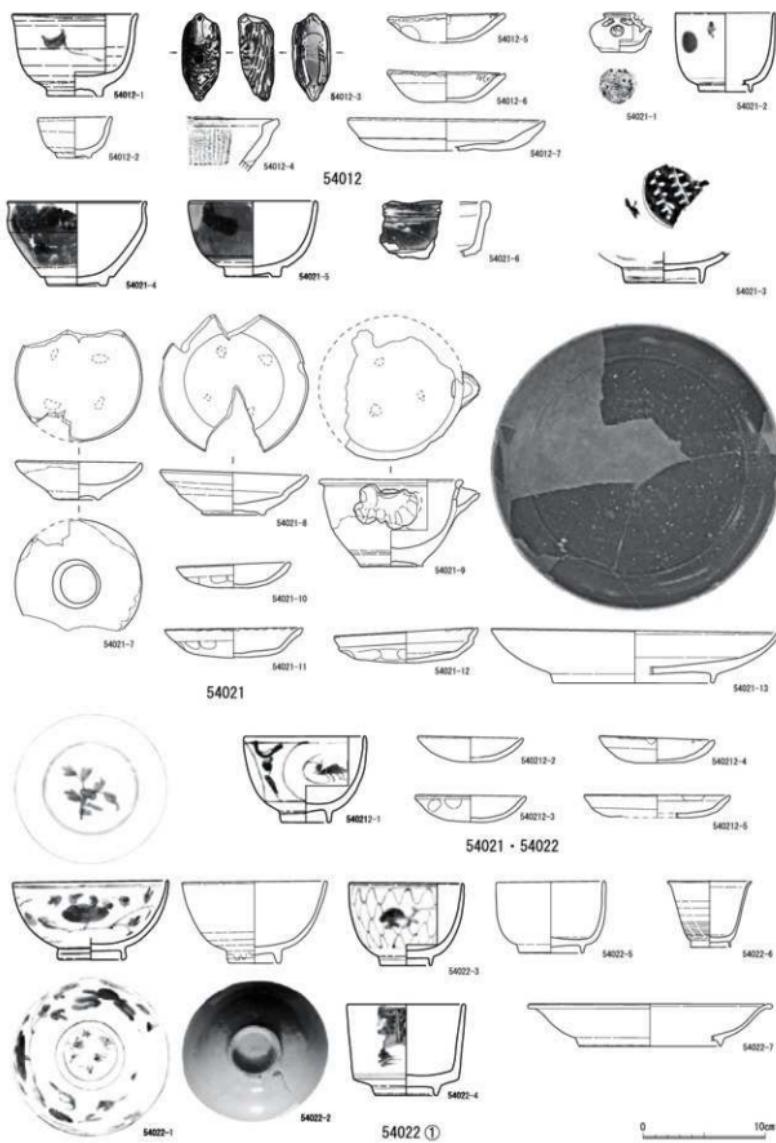


第116図 陶磁器 遺構 53191・53144・53191・整地層・54001 (S=1/4)

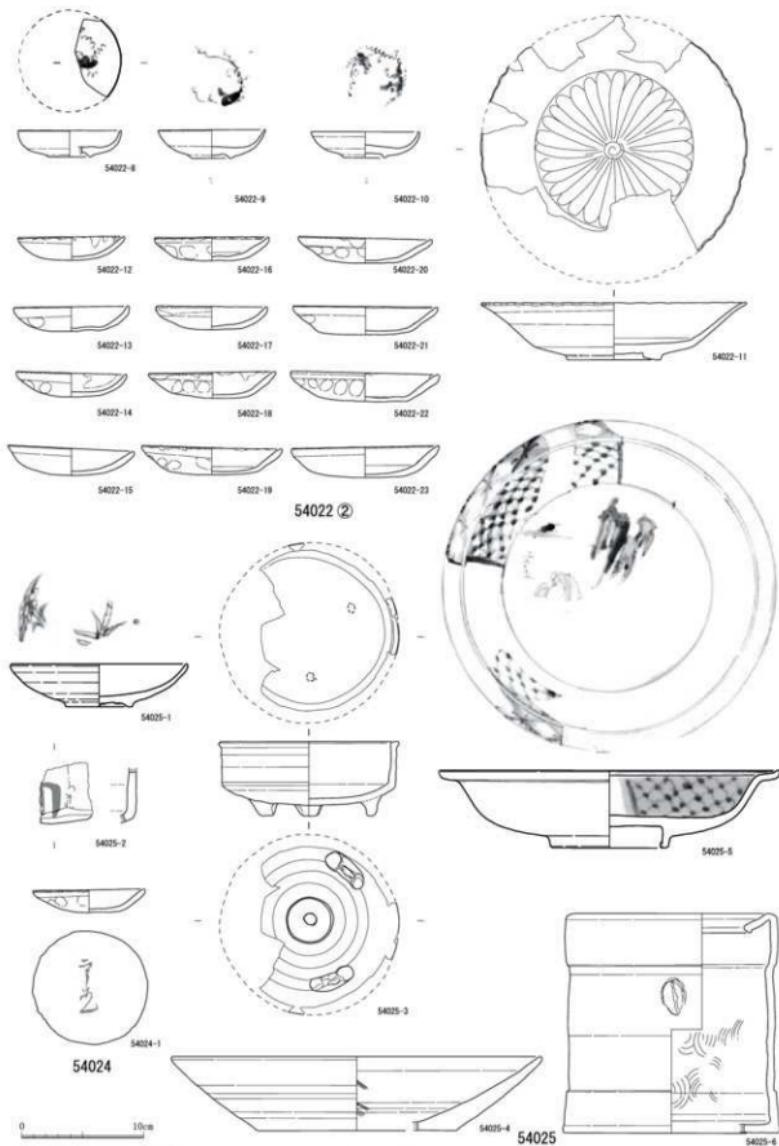
第1節 土器・陶磁器



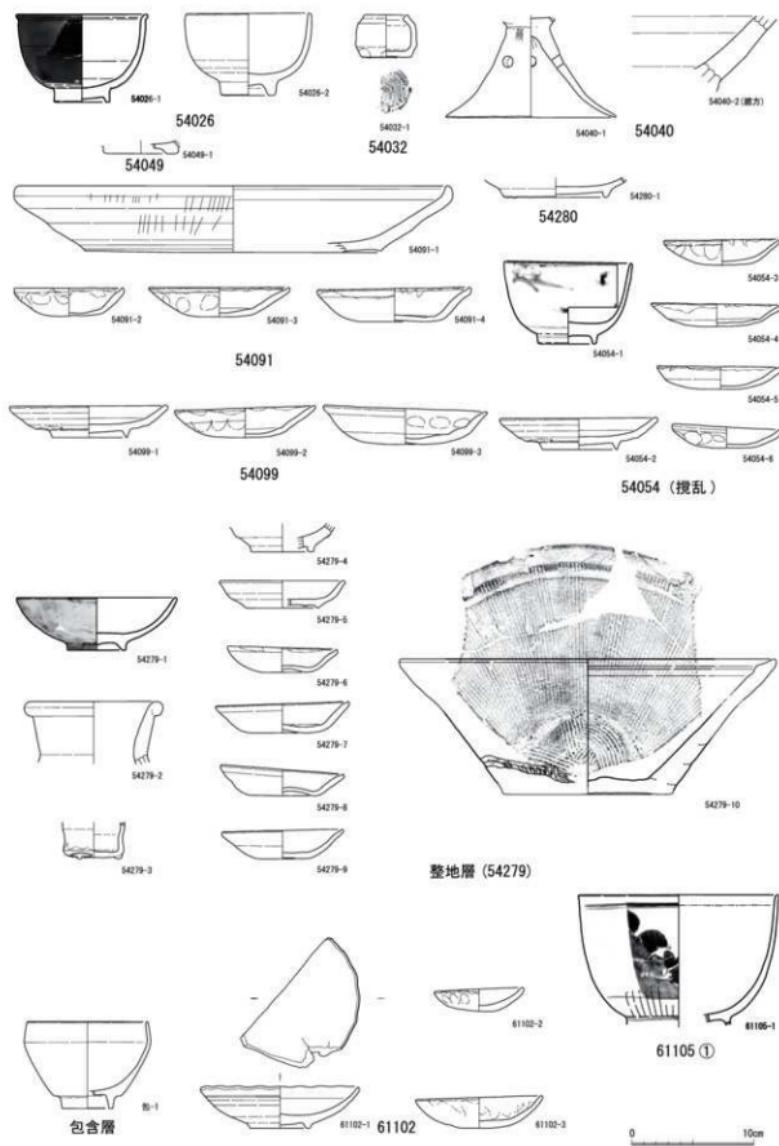
第117図 陶磁器 遺構 54002・54003・54004 (S=1/4)



第118図 陶磁器 遺構 54012・54021・54022 (S=1/4)

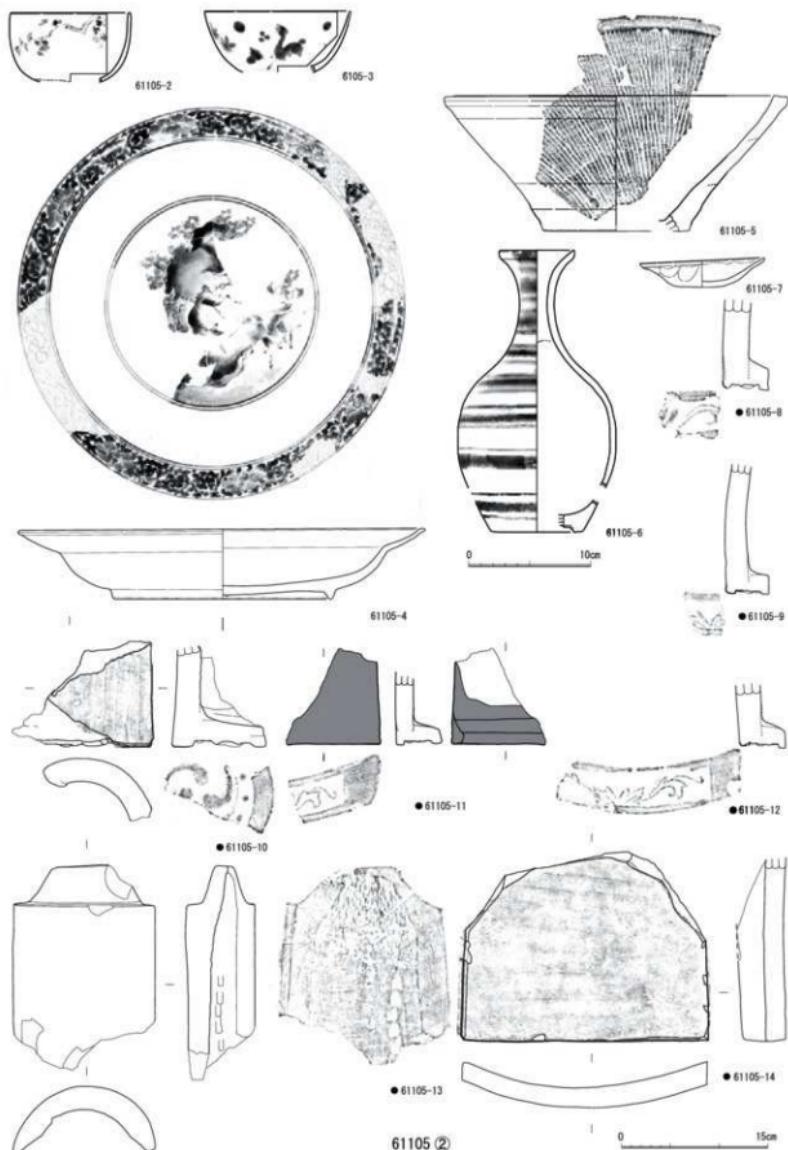


第119図 陶磁器 遺構 54022・54024・54025 (S=1/4)

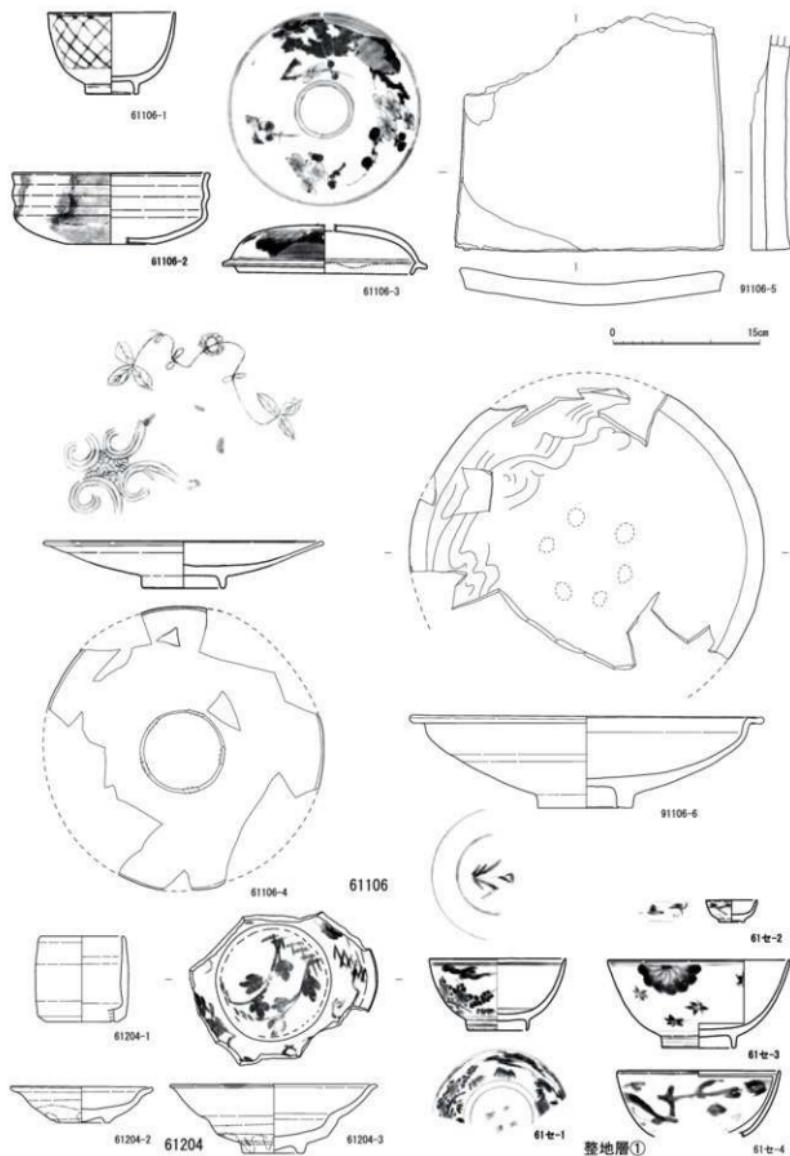


第120図 陶磁器 遺構 54026・54032・54040・54040（埴方）・54049・54054・54091・51099・54279・54280
包含層 61102・61105 (S = 1/4)

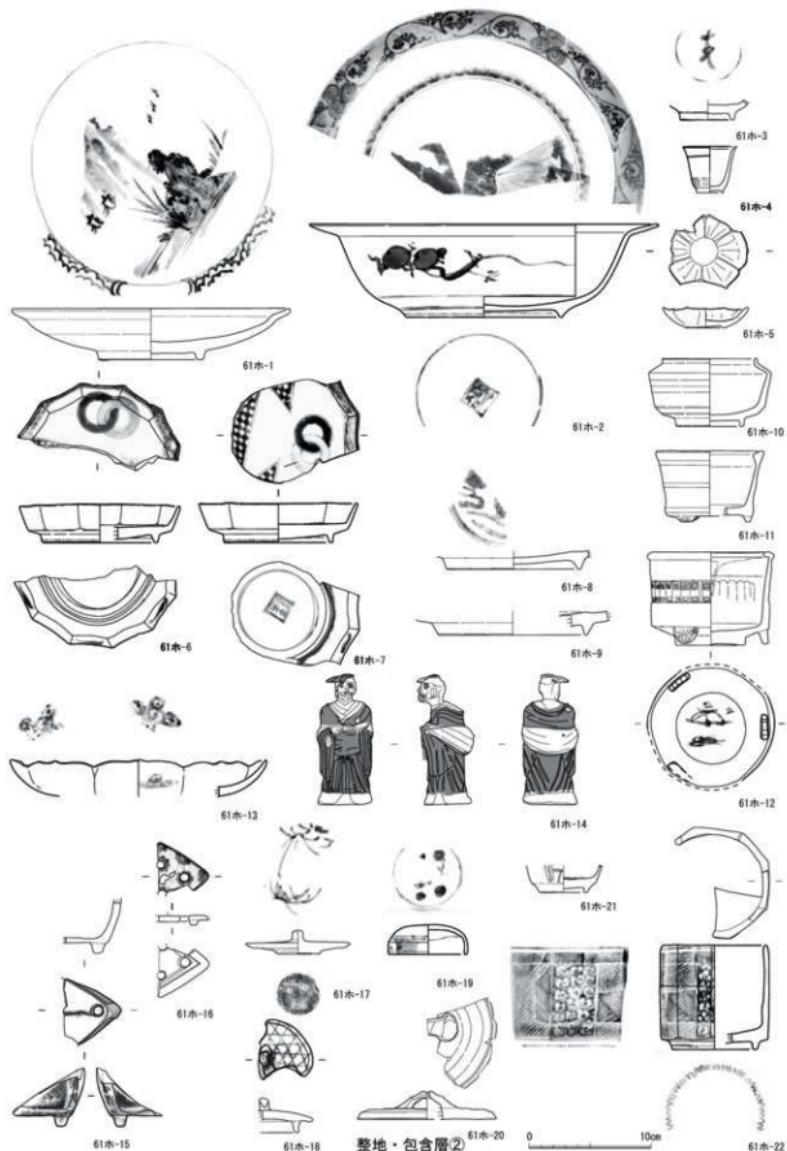
第1節 土器・陶磁器



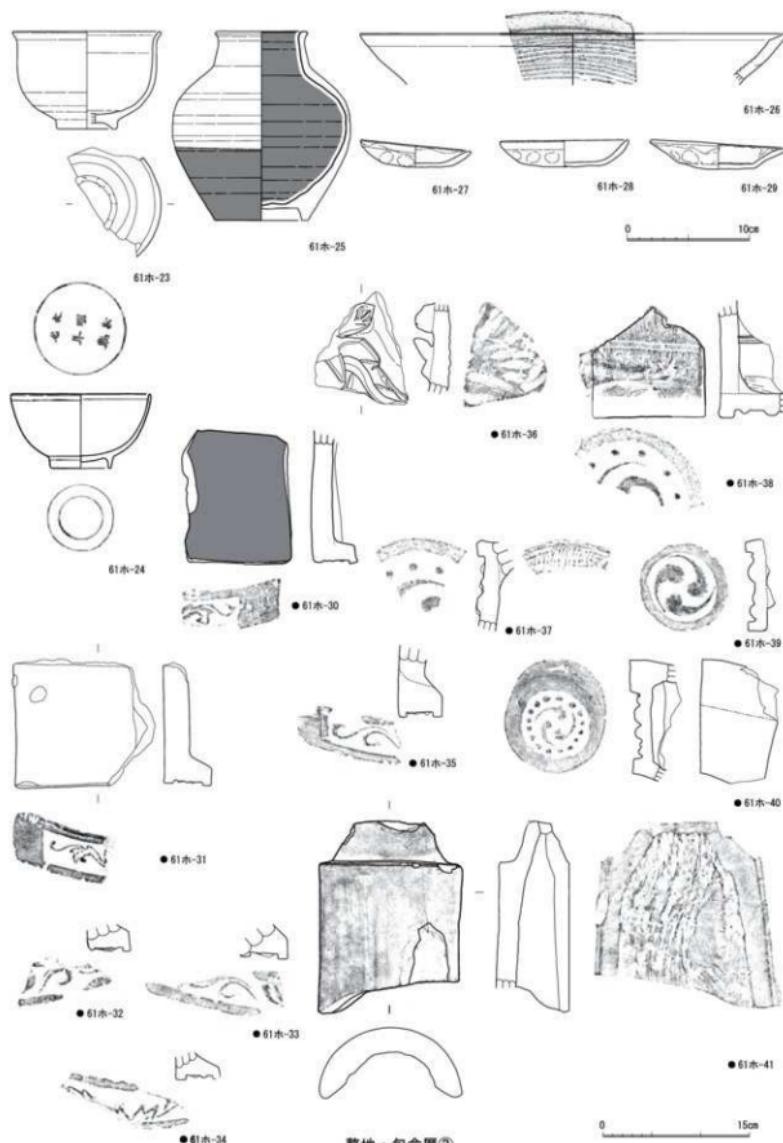
第121図 陶磁器・瓦 遺構 61105 (S=1/4・●瓦S=1/5)



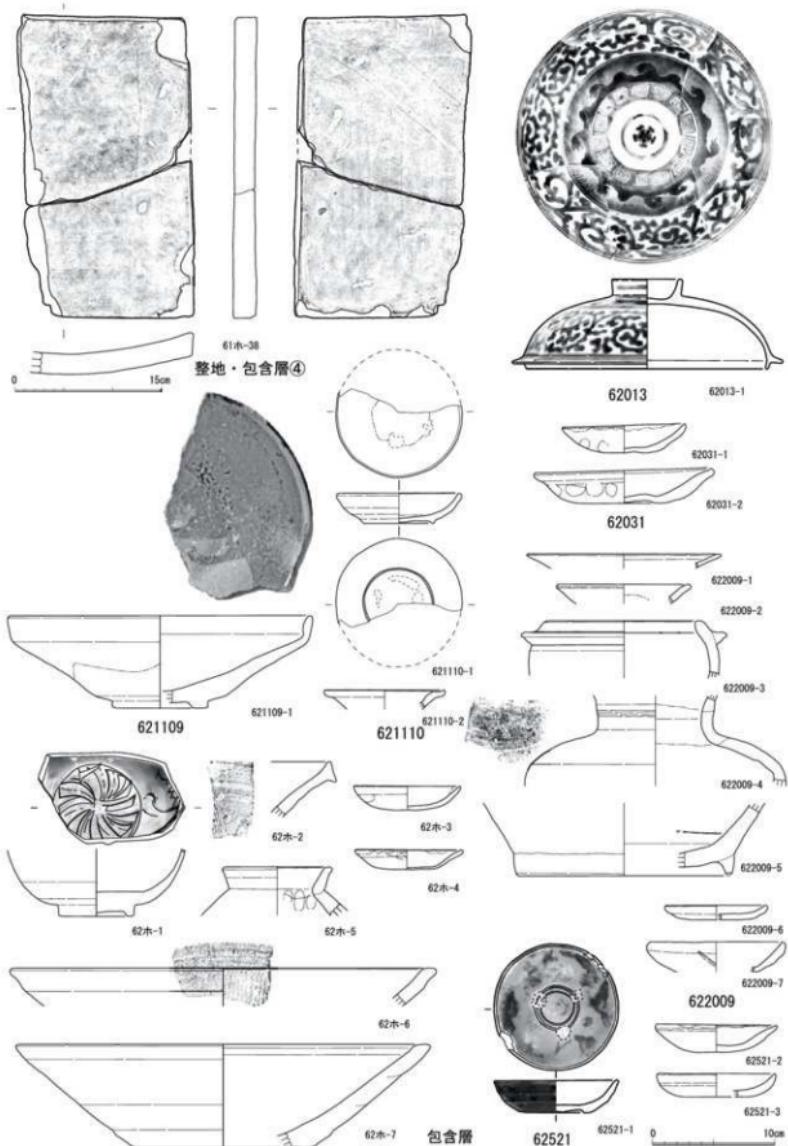
第122図 陶磁器・瓦 造構 61106・61204 包含層 (S=1/4・瓦のみ S=1/5)



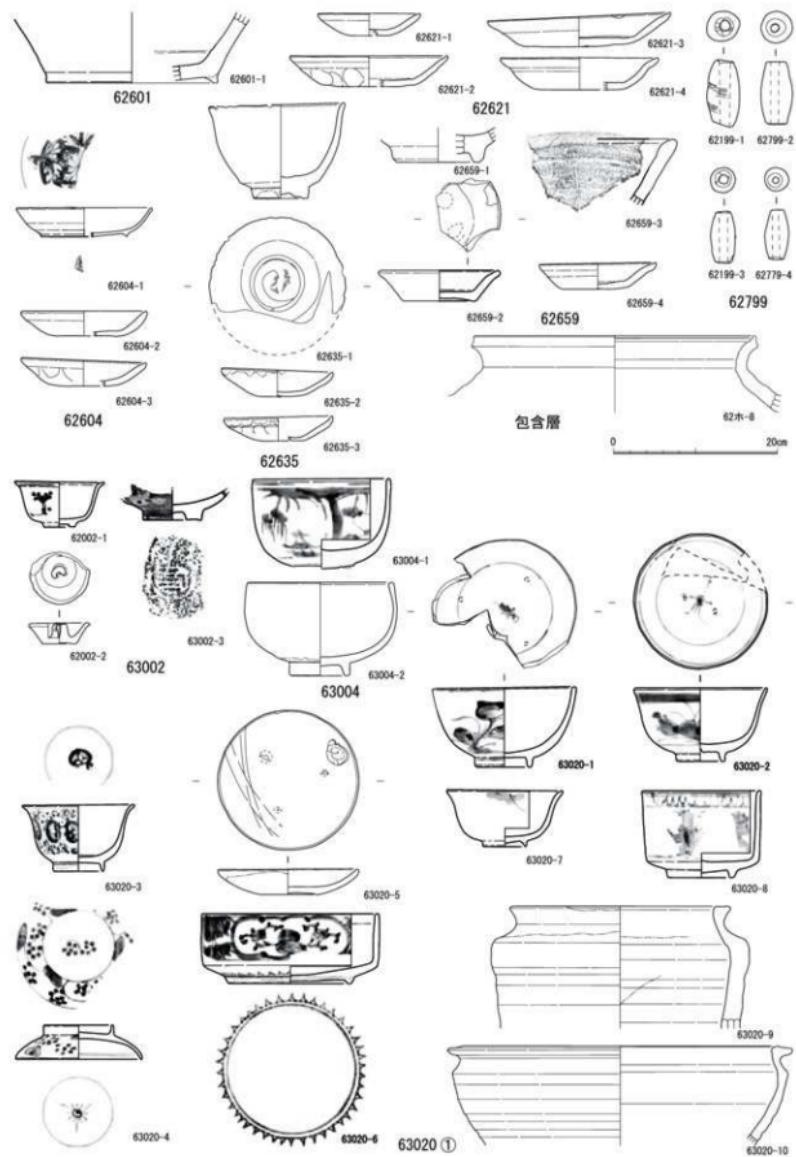
第123図 陶器 06-1 整地・包含層 ($S = 1/4$)



第124図 陶磁器・瓦 包合層 (S=1/4・●瓦 S=1/5)



第125図 陶磁器・瓦 06-1 整地・包含層 遺構62013・62031・62521・621109・621110・622009・
06-2 包含層 ($S=1/4$)

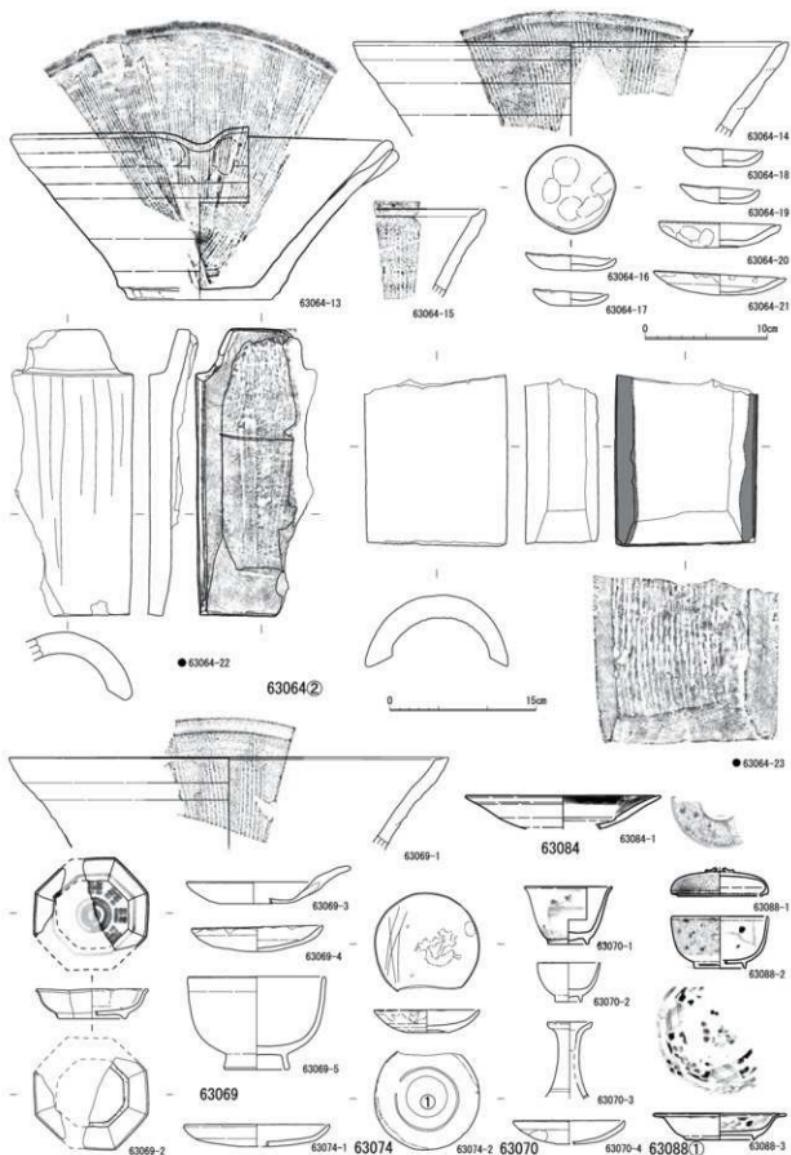


第126図 陶磁器 遺構 62601・62604・62621・62635・62659・62799・63002・63004・63020・
63020 ② 包含層 ($S=1/4$)

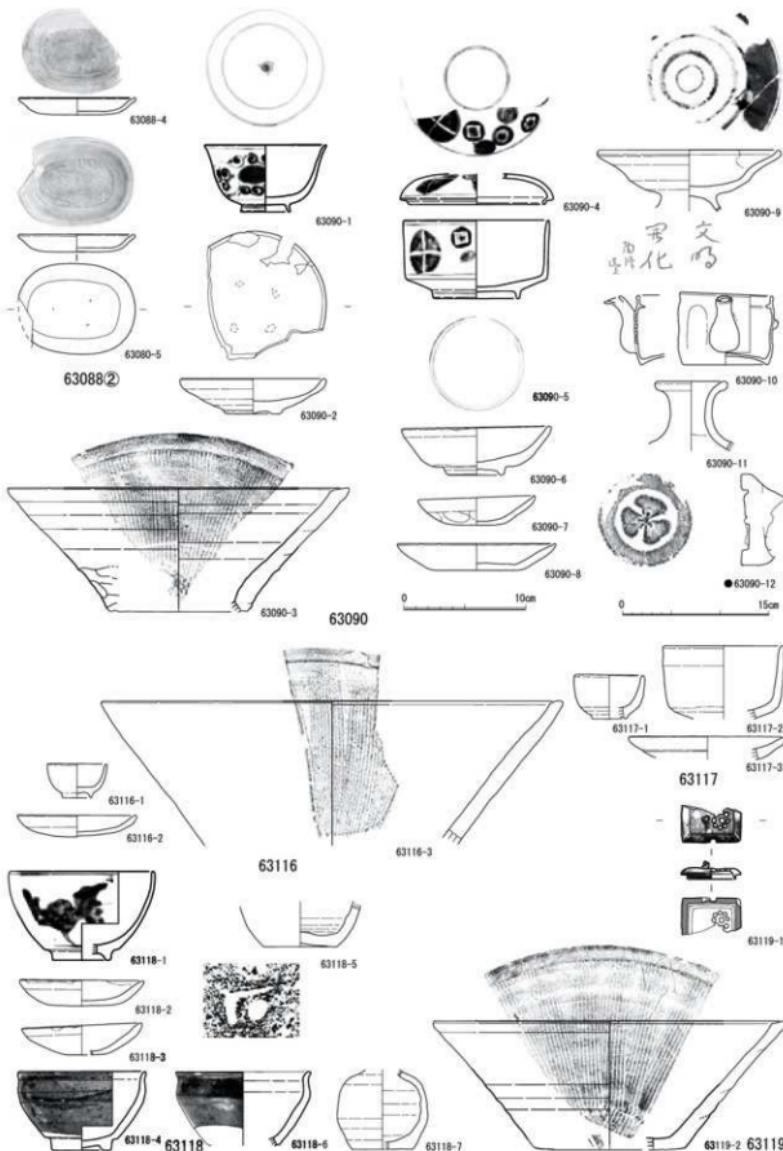
第1節 土器・陶磁器



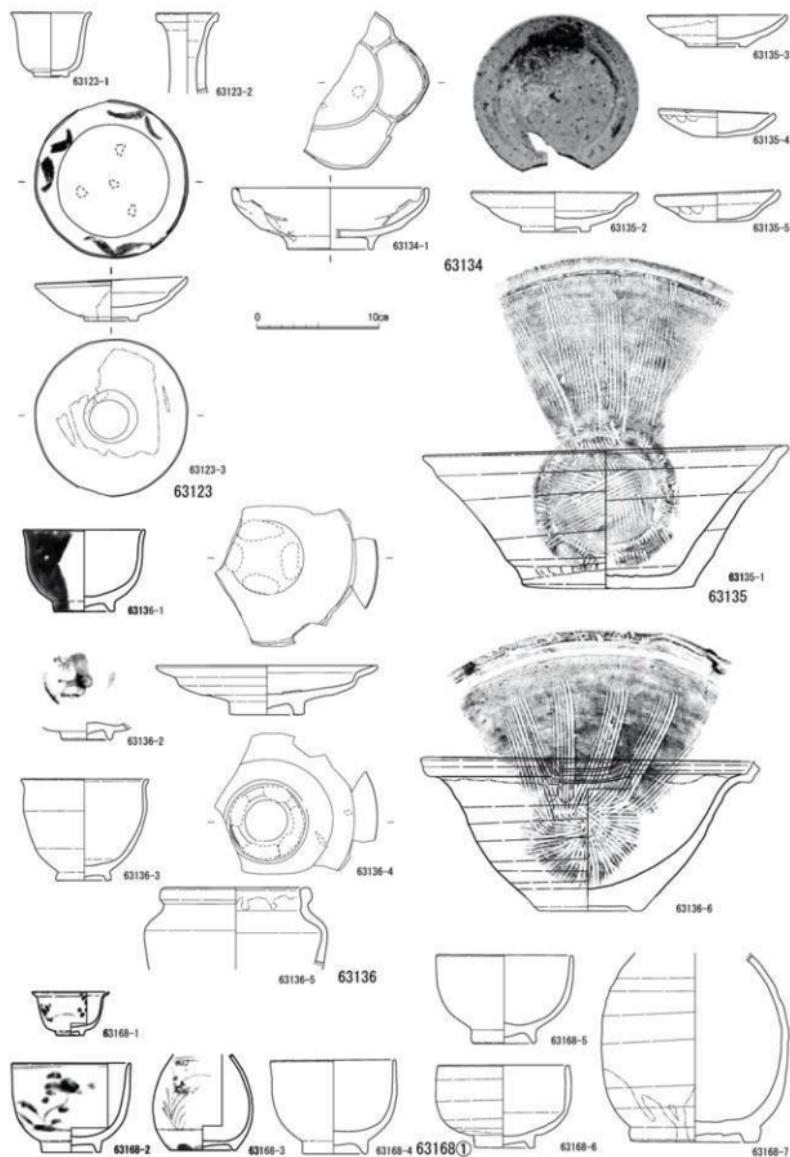
第127図 陶磁器 造構 63020・63021・63024・63026・63056・63064 (S = 1/4)



第128図 陶磁器・瓦 造構 63064・63069・63070・63074・63077・63078・63084・63088 (S=1/4・●瓦 S=1/5)

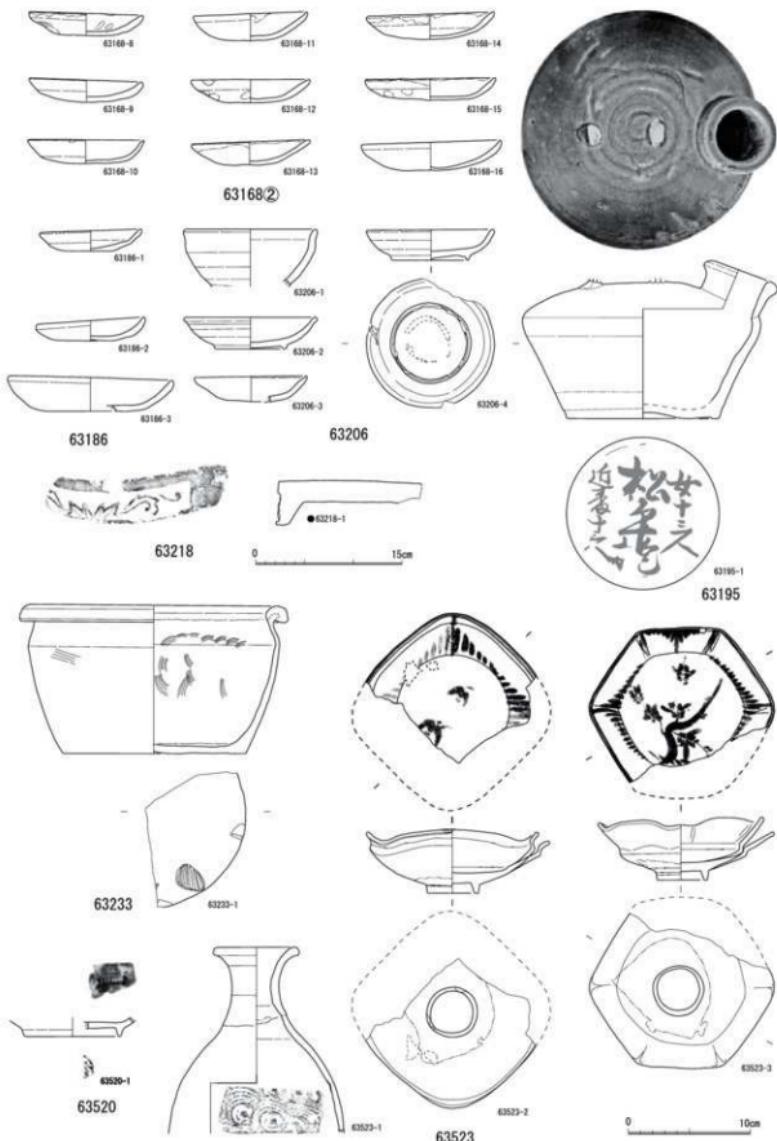


第129図 陶磁器 遺構 63088・63090・63116・63117・63118・63119 (S=1/4・●瓦 S=1/5)

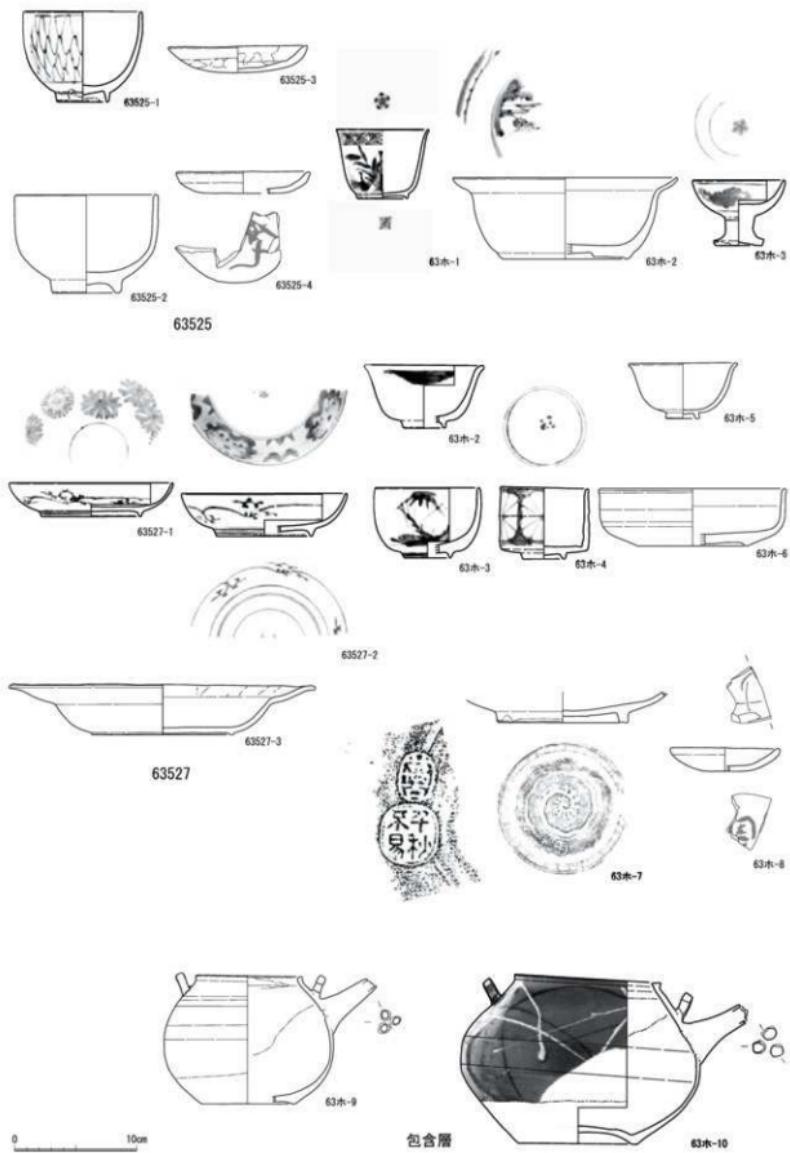


第130図 陶磁器 遺構 63123・63134・63135・63136・63168 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

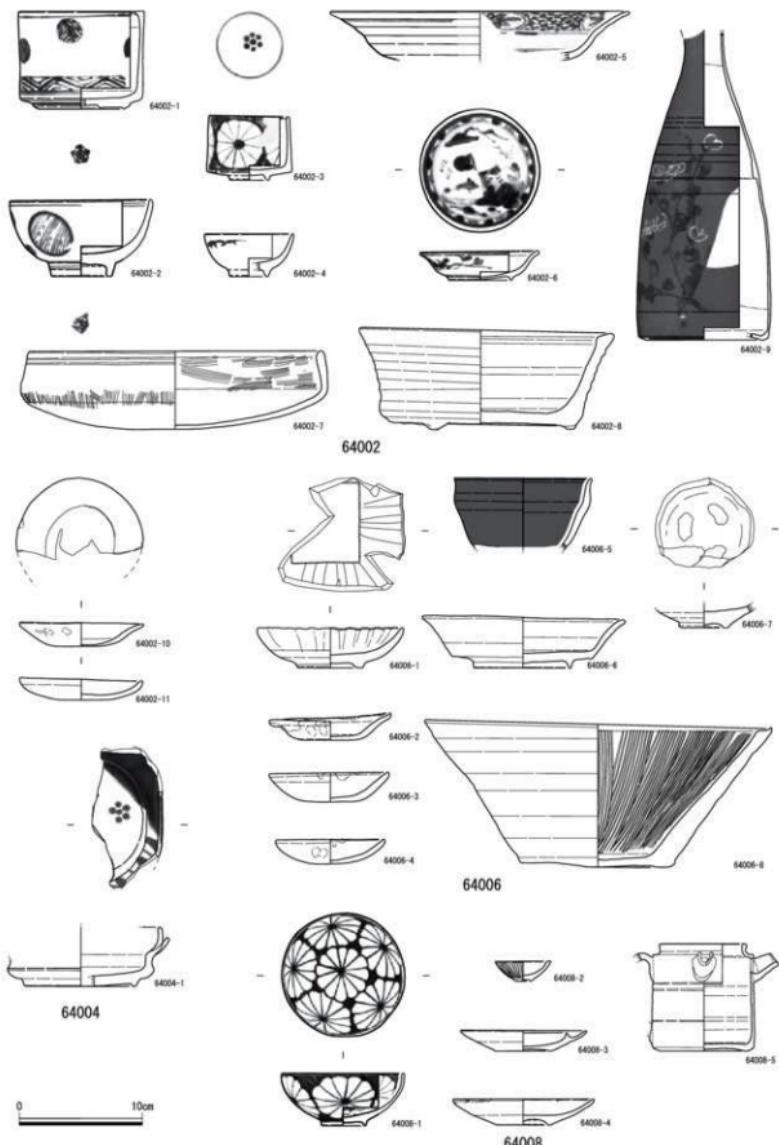


第131図 陶磁器 遺構 63168・63186・63195・63206・63218・63233・63520・63523
(S=1/4・●瓦 S=1/5)

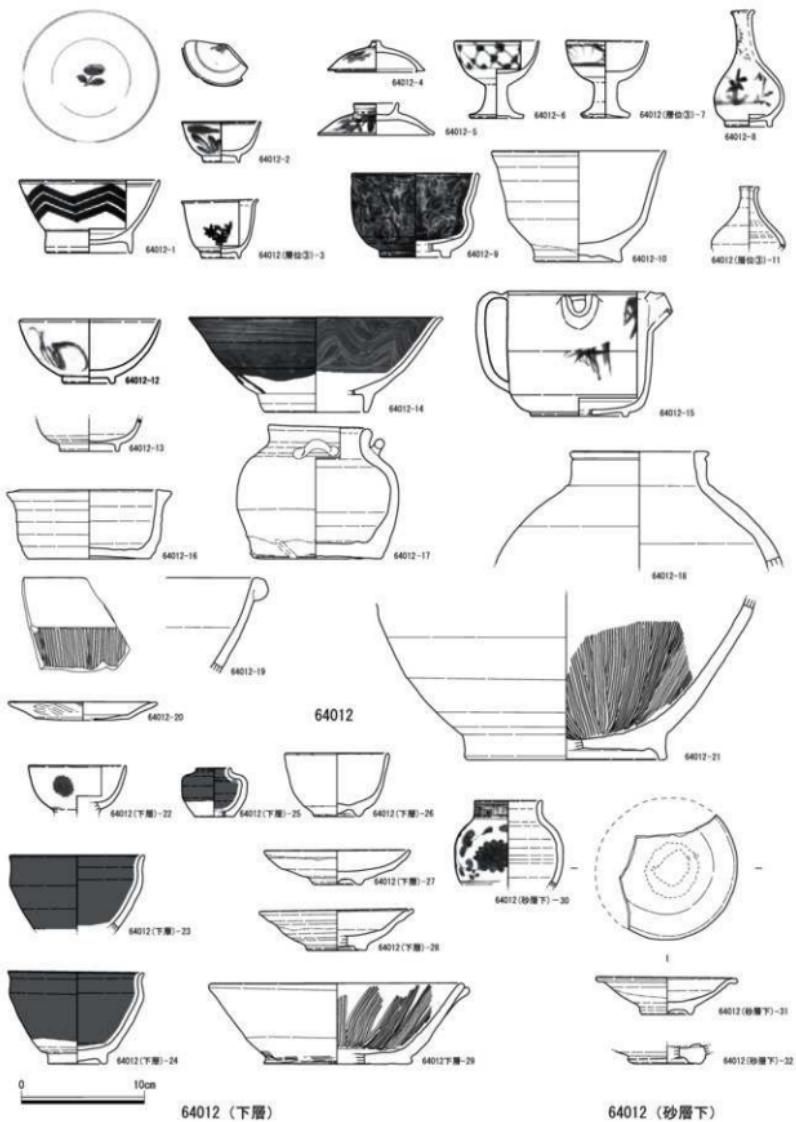


第132図 陶磁器 遺構 63525・63527 包含層 (S = 1/4)

第1節 土器・陶磁器

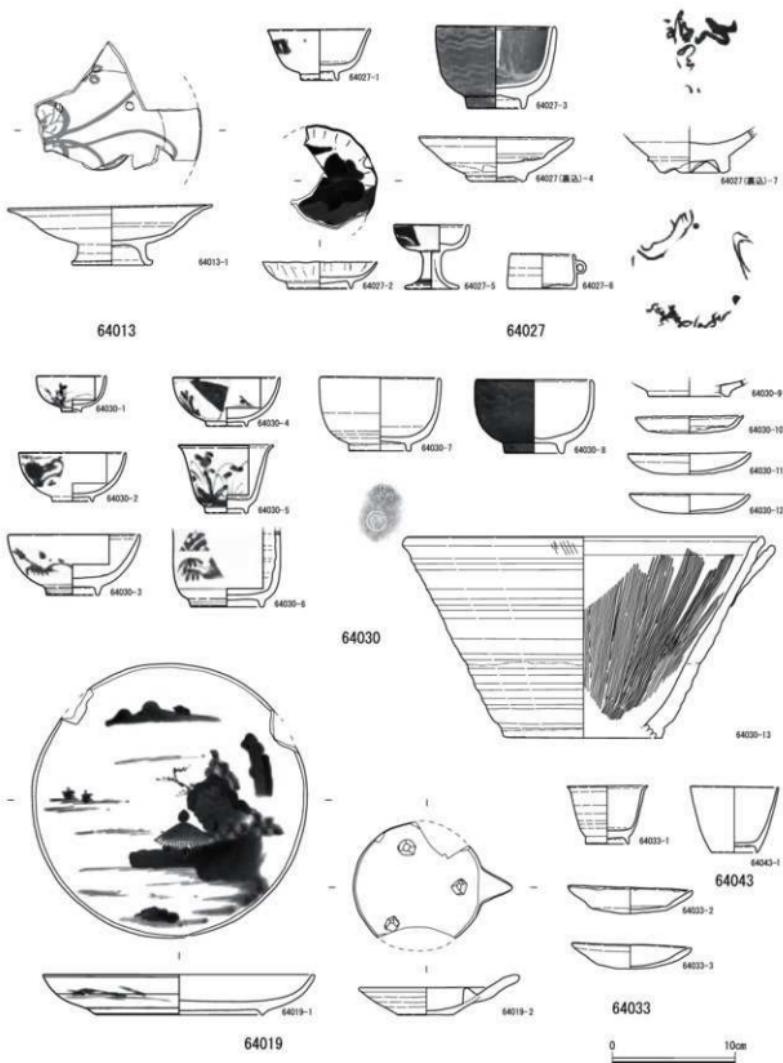


第133図 陶器 遺構 64002・64004・64006・64008 (S=1/4)



第134図 陶磁器 遺構 64012 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器

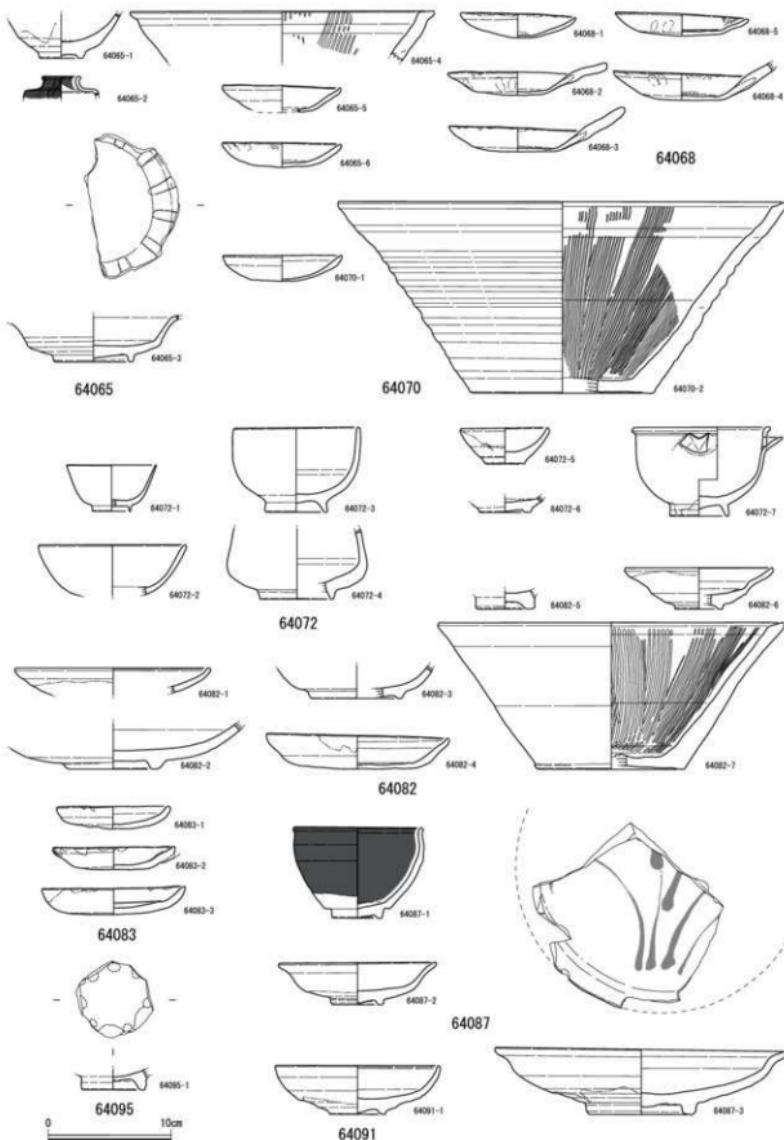


第135図 陶磁器 造構 64013・64019・64027・64030・64033・64043 (S = 1/4)

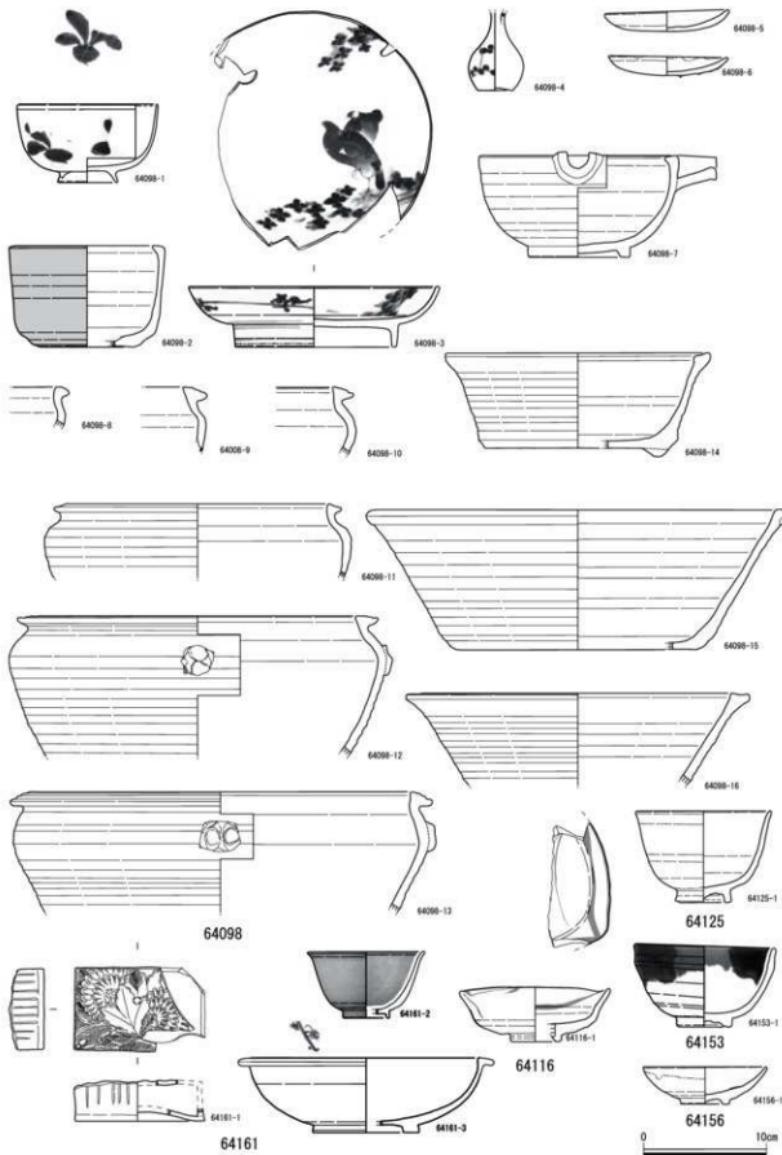


第136図 陶磁器 遺構 64046・64048・64050・64053 (S = 1/4)

第1節 土器・陶器

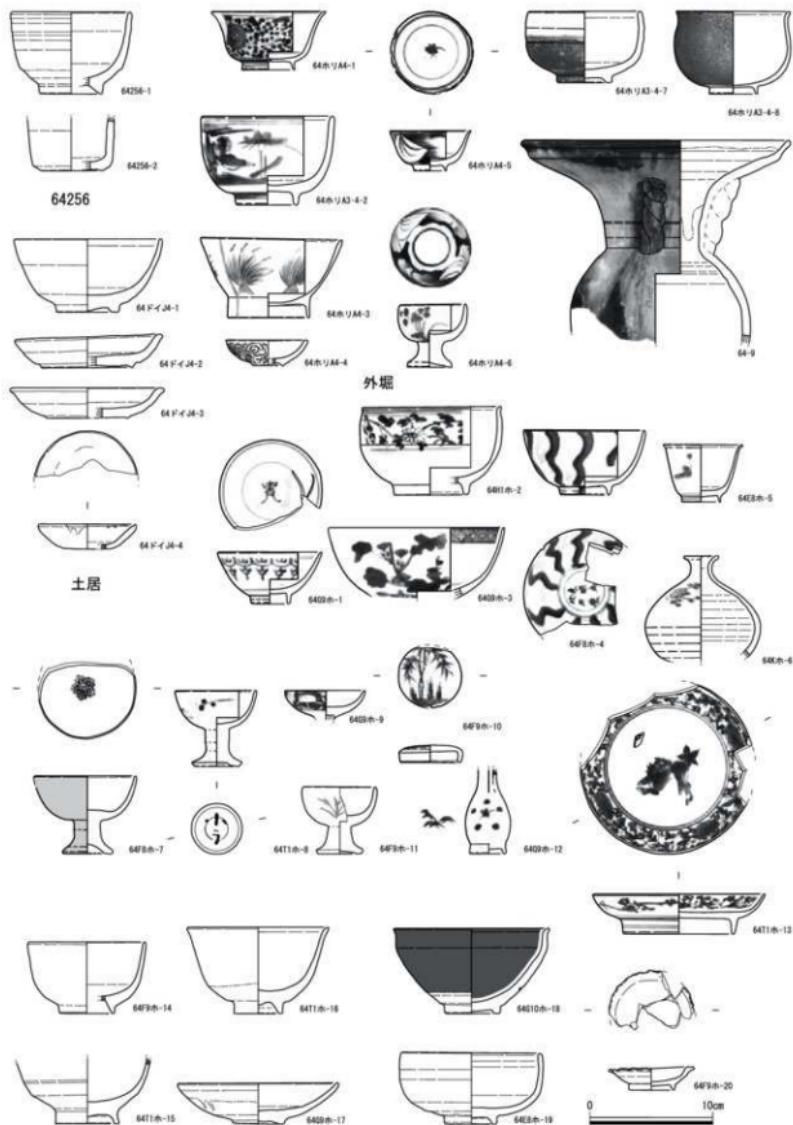


第137図 陶器 遺構 64065・64068・64070・64072・64082・64083・64087・64091・64095 (S = 1/4)

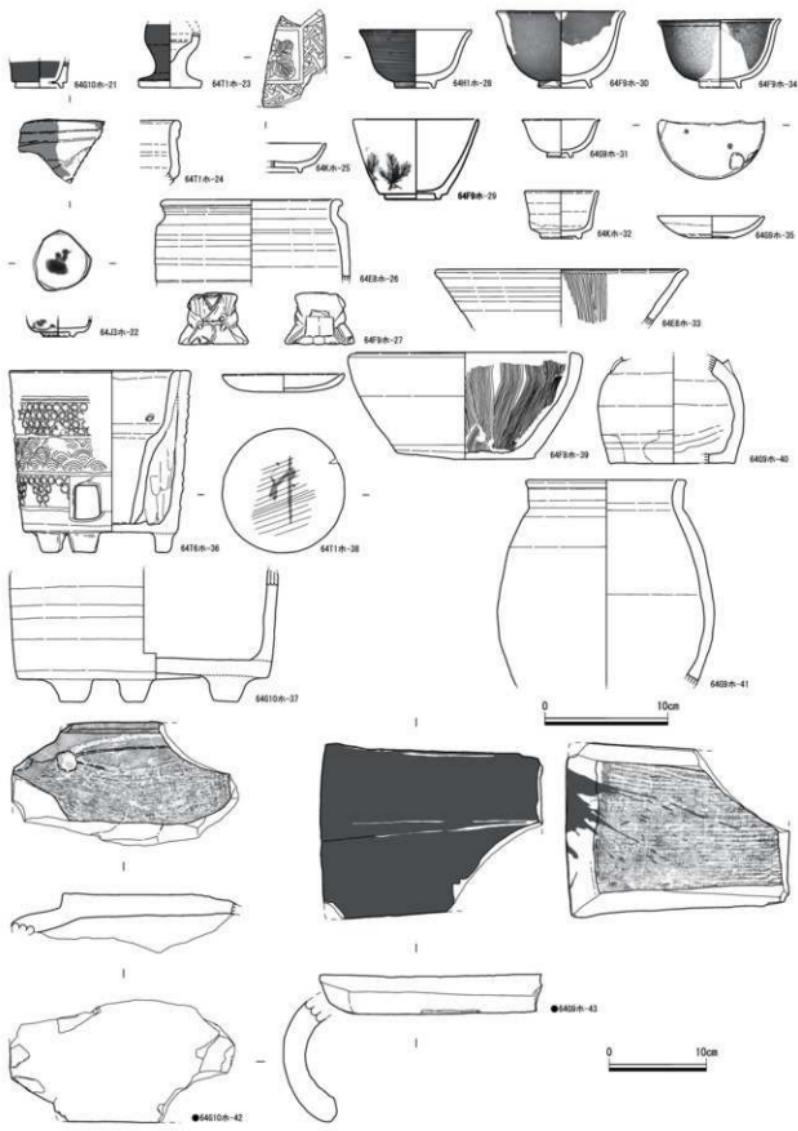


第138図 陶磁器 遺構 64098・64116・64125・64153・64156・64161 (S=1/4)

第1節 土器・陶磁器



第139図 陶磁器 遺構 64256 外堀 土居 包含層 (S=1/4)



第140図 陶磁器・瓦 包合層 遺構 (S=1/4・●瓦1/5)

第5表 陶磁器觀察表

遺構53012(FKJ05-3)圖109

回数	種類	初期段階			中期段階			後期段階			成形-脱型-干燥	備考	実験回数
		初期段階 初期段階-最終段階	初期段階 初期段階-最終段階	初期段階 初期段階-最終段階	中期段階 中期段階-最終段階	中期段階 中期段階-最終段階	中期段階 中期段階-最終段階	後期段階 後期段階-最終段階	後期段階 後期段階-最終段階	後期段階 後期段階-最終段階			
2002-1	初期段階	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(A)	△	30-66
2002-2	初期段階	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(B)	△	30-63
2002-3	初期段階	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(C)	△	30-65
2002-4	初期段階	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(D)	△	30-64
2002-5	初期段階	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(E)	△	30-62
2002-6	初期段階	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(F)	△	30-67

遺構53014(FKJ05-3)圖109

回数	番組名	主な内容		評議会の趣旨		実行委員会の趣旨		実行委員会の監修
		会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	
200041	土曜朝日	×	×	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録
200042	土曜朝日	×	×	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録
200043	土曜朝日	×	×	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録
200044	土曜朝日	×	×	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録	会員登録

遺構53016(FKJ05-3)圖109

回数別	種類	初期配置		中期配置		後期配置		成形・調整-その他	備考	実用例
		初期配置	初期配置	中期配置	中期配置	後期配置	後期配置			
X-2000-2	脚付筒	直筒	29.2	22.7	15.1(横)	15.1(横)	15.1(横)	足+大ダスク、脚貼合		55-199
X-2000-3	上脚筒	×	19.6	—	2.1(横)	脚被	内側にナット1つまわし			50-62
X-2000-4	脚被筒	×	15.0	—	3.0	被筒	内側にナット1つまわし、見付脚被、脚ナット1つまわし			50-60
X-2000-5	下脚筒	×	15.9	—	3.0	被筒	内側にナット1つまわし、見付脚被、脚ナット1つまわし、板状被			50-62
X-2000-6	筒	?	—	—	—	直筒	足の外側にナット1つまわし、見付脚被、脚ナット1つまわし、板状被			50-111

遺構53019(FKJ05-3)圖109

開港地名	港務	土崎港(北洋汽船)	百貨(700)	土崎港(動力汽船)	成形・調査・その他の施	備考
函館	函館港	日昇	旅館	高島		支那
江戸(江蘇)	横濱	(14,4)	(15,2)	旅館	外國(ヨーロッパ)、製鐵、鐵道、外洋のみ	支那

讀書角 | 評稿 | 2

500001-1	陈林	男·硕士	38.0	19.3	15.8	-	高古书画	2013	83-291
----------	----	------	------	------	------	---	------	------	--------

書標53032/EK-105-31 頁109:110:111

回数	品種	法則(%)			土壌酸度・水溶性 鉄濃度(%)	成形・調整-その他	備考	実験日
		自根	無根	高さ				
2002_1	無	清津	10.6	8.1	7.2	鉄赤色	外)土子花枝	③ 16
2002_2	無	清津	11.0	8.6	6.9	鉄赤色	外)ヨシ花枝	⑤ 17

2008年：3月 九月总结 2013年：3月

3002-10 大津(風呂子)

CS002-11	ナガセ	土蔵前	4.8	-	9.4	白黒地
CS002-12	ナガセ	○	10.3	-	2.4	白地 (内)肩ナジ、脚抜き、口つむし。
CS002-13	ナガセ	○	10.0	-	2.6	青黒地 (内)肩ナジ、脚抜き、口つむし。
CS002-14	ナガセ	△	10.8	-	2.8	青黒地 (内)肩ナジ外縁にレザーリング見、開闊、襟ナジ。

ANSI 36 3600 rpm

33002	17	千葉県 千葉県	○	12.8	-	2.3	鶴見	内川町, 千葉市, 鶴見区 内川町, 千葉市, 鶴見区, 市川市, 葛南区	朝日系	07/27
33002	18	千葉県 千葉県	○	13.5	-	3.2	鶴見	内川町, 千葉市, 鶴見区 内川町, 千葉市, 鶴見区, 市川市, 葛南区	朝日系	07/30
33002	29	千葉県 千葉県(認定)	○	49.5	1.2	1.2	鶴見	内川町, 千葉市, 鶴見区 内川町, 千葉市, 鶴見区, 市川市, 葛南区	朝日系	07/44
33002	30	千葉県 千葉県(認定)	○	49.5	1.2	1.2	鶴見	内川町, 千葉市, 鶴見区 内川町, 千葉市, 鶴見区, 市川市, 葛南区	朝日系	07/45
33002	31	千葉県 千葉県(認定)	○	49.5	1.2	1.2	鶴見	内川町, 千葉市, 鶴見区 内川町, 千葉市, 鶴見区, 市川市, 葛南区	朝日系	07/46

533.04 99 阿尼莫地利片 100

年份	月份	作物名称	播种面积(万亩)	单产(吨/亩)	总产量(万吨)	施肥量(万吨)	施肥率(%)
2022	2月	小麦	5.5	2.5	13.75	1.5	35.0
2022	3月	小麦	10.8	2.0	21.6	2.0	36.7
2022	4月	玉米	12.0	0.8	9.6	1.0	33.3
2022	5月	玉米	10.0	1.0	10.0	1.0	33.3
2022	6月	大豆	7.4	3.0	22.2	2.0	50.0
2022	7月	大豆	13.0	3.1	40.3	2.0	50.1
2022	8月	大豆	13.0	3.1	40.3	2.0	50.0
2022	9月	大豆	13.0	3.1	40.3	2.0	50.0
2022	10月	大豆	13.0	3.1	40.3	2.0	50.0
2022	11月	大豆	13.0	3.1	40.3	2.0	50.0
2022	12月	大豆	13.0	3.1	40.3	2.0	50.0

總計 28 現 0 領 0

年月日	品目	数量	単位	原価	仕入額	税額	合計
2002/30 30日付	米(玄)	17.01袋	袋	5,800円	99,400円	14,908円	114,308円
2002/30 30日付	牛津布	(22)	-	8,700円	75,900円	11,385円	87,285円
2002/30 30日付	麻袋	(25)	-	5,400円	135,000円	20,250円	155,250円
2002/30 30日付	麻袋	(25)	-	5,400円	135,000円	20,250円	155,250円
2002/30 大平箱	麻袋	33.4	袋	7,900円	262,660円	40,398円	283,058円

55022-26 部件 桥爪
55024-26 带轮总成 手锯机

55832 40 于都縣
55832 41 于都縣

	年	月	日	天候	風向	風速	気温	湿度	露點	風寒指数	降水量	積雪	積氷	路面状況	視程	交通状況	事故件数	負傷者数	死者数
2002/02/42	10	10	10	晴	○	12.85	-	3.0	にほんの雨	(内)晴, (ナ)吹きつまむ, (外)晴, (内)晴, (ナ)	○	西古	西古	西古	30	45	35		
2002/02/43	10	10	11	晴	○	12.4	-	3.1	浅雨雲	(内)晴, (ナ)吹きつまむ, 見通し悪, (外)晴, (ナ)	○	西古	西古	西古	30	45	35		
2002/02/44	10	10	12	晴	×	14.0	6.2	3.5	にほんの雨	(内)晴, (ナ)吹きつまむ, (外)晴, (ナ)	○	西古	西古	西古	30	45	35		
2002/02/45	10	10	13	晴	○	13.41	-	31.15	晴	(内)晴, (ナ)吹きつまむ, (外)晴, (ナ)	○	西古	西古	西古	30	45	35		

ANSWER: 47

2002/48	名田	画廊アート	20.6	5.8	2.5	藝術	「私財賃借の問題」	30.3
2002/49	藤林	概念	—	7.1	—	—	「理」沈醉	30.12
2002/50	大庭	—	8.4	6.4	2.5	政治	「大庭の小説」と「政治」	30.25
2002/51	宇都宮	—	9.0	—	—	社会	「にじめ」	30.25
2002/52	宇都宮	—	9.0	—	2.5	政治	「内閣大臣の御用歌」と「政治」	30.34

ANSWER

2009-02-24 17:20:00 0.00 12.00 1 -1 3.0 1 (0000) (1200,1200) (1200,1200) 1 1 0.049

第4章 中・近世の遺物

遺構53036(FKJ05-3)図111-112

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33036-1	瓦目系施	瀬戸内港	(11)	(4)	6.56	既往		通路	33.19%
33036-2	瓦目形小屋	瀬戸内港	6.6	3.4	3.0	既往			33.17%
33036-3	瓦目形	瀬戸内港	12.00	5.15	2.0	既往			33.16%
33036-4	瓦目形	瀬戸内港	-	-	5.4(既)	既往			XⅢ
33036-5	瓦目形	瀬戸内港	-	-	4.4(既)	既往			XⅢ
33036-6	土脚質	(○)	10.80	-	2.3	にふり・複数	内(既)ナメ(1つまも)外(既)段付シナメ	C系	33.06%
33036-7	土脚質	(○)	11.2	-	2.7	にふり・複数	西内(既)ナメ(1つまも)外(既)段付シナメ	C系	33.05%
33036-8	土脚質	(○)	11.2	-	2.8	にふり・複数	西内(既)ナメ(1つまも)外(既)段付シナメ	C系	33.04%
33036-9	土脚質	(○)	11.00	-	2.6(既)	にふり・複数	内(既)ナメ(1つまも)外(既)段付シナメ	C系	33.03%
33036-10	土脚質	(○)	11.45	-	2.3	既往	西内(既)ナメ(1つまも)外(既)段付シナメ	C系	33.02%
33036-11	人間	既往	32.6	11.2	6.06	既往	内(既)段付シナメ(既)無	人間	33.01%

遺構53037(FKJ05-3)図112

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33037-1	土脚質	○	-	-	2.2	既往	内(既)ナメ(既)既(既)	C系	33.0%

遺構53041(FKJ05-3)図112

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33041-1	瓦	瀬戸内港	20.4	5.6	2.2	既往	内(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.04%
33041-2	瓦	瀬戸内港	-	-	3.0(既)	既往		C系	33.03%

遺構53042(FKJ05-3)図112-113

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33042-1	瓦	瀬戸内港	9.2	3.2	6.05	内(既)既(既)既(既)	内(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-2	瓦	瀬戸内港	12.6	3.6	3.96	既往	内(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-3	瓦	瀬戸内港	21.6	10.2	9.45	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-4	瓦	瀬戸内港	21.6	10.2	9.45	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-5	瓦	瀬戸内港	21.6	10.2	9.45	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-6	瓦	瀬戸内港	21.6	10.2	9.45	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-7	瓦	瀬戸内港	16.0	20.3	22.50	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-8	瓦	瀬戸内港	0.3	2.0	5.7	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-9	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.1	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-10	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.0	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-11	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.0	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-12	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.0	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-13	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.0	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-14	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.0	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-15	瓦	瀬戸内港	8.5	4.9	6.0	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%
33042-16	瓦	瀬戸内港	30.0	-	7.7	既往	内(既)既(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%

遺構53046(FKJ05-3)図113

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33046-1	瓦	瀬戸内港	16.6	11.0	5.96	既往	内(既)既(既)既(既)	XⅢ	33.0%

遺構53047(FKJ05-3)図113

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33047-1	瓦	瀬戸内港	5.7	1.0	5.7	既往	内(既)既(既)既(既)	人間	33.12%
33047-2	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.11%
33047-3	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.10%
33047-4	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.09%
33047-5	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.08%
33047-6	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.07%
33047-7	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.06%
33047-8	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.05%
33047-9	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.04%
33047-10	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.03%
33047-11	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.02%
33047-12	土脚質	○	22.0	-	2.6	既往	内(既)既(既)既(既)	既(既)	33.01%

遺構53053(FKJ05-3)図113

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33053-1	瓦	瀬戸内港	5.7	1.0	5.7	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%

遺構53056(FKJ05-3)図113-114

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査・その他	備考	実測%
		12段	既往	高さ	既往				
33056-1	瓦	中国(既)既(既)	5.2	5.2	5.46	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-2	瓦	中国(既)既(既)	10.0	10.0	2.0	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-3	瓦	中国(既)既(既)	10.0	10.0	2.0	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-4	瓦	中国(既)既(既)	6.4	3.6	3.26	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-5	瓦	中国(既)既(既)	10.5	5.6	5.00	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-6	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-7	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-8	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-9	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-10	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-11	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-12	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-13	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-14	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-15	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-16	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-17	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-18	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-19	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-20	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-21	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-22	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-23	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%
33056-24	瓦	中国(既)既(既)	11.6	5.7	5.76	既往	内(既)既(既)既(既)	V	33.0%

遺構53064(FKJ05-3)図114

測量点	基積	上部質:石不透 両側質:石地		底質(m)		上部質:割石・砂質 両側質:砂質・泥質	成形・調査

第1節 土器・陶器類

遺構53072(FKJ05-3)図114

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考			
53072-1	碗	伊万里	10.5	6.7	高台	付)草花紋、内・内腹施釉	33-125		
53072-2	茶碗	伊万里	(2.4)	(8.2)	5.8	直口	内・内腹施釉	33-126	
53072-3	茶碗	伊万里	10.0	-	5.5	によい乳頭	内・内腹施釉	33-127	
53072-4	茶碗	伊万里	○	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-128	
53072-5	茶碗	伊万里	10.7	-	5.7	浅黑色	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚+丁口下斜手ナマ	K-C系 33-169	
53072-6	茶碗	伊万里	○	13.3	-	2.9	浅黑色	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、内・内腹手ナマ	33-170
53072-7	茶碗	伊万里	○	12.0	-	2.6	脚	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ・下斜手ナマ	K-C系 33-170

遺構53073(FKJ05-3)図114

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53073-1	碗	伊万里	11.0	8.8	高台	付)無	33-180	
53073-2	碗	伊万里	9.6	6.4	直口	付)無	33-181	
53073-3	碗	伊万里	10.7	8.0	6.7	内・内腹施釉	33-182	
53073-4	碗	伊万里	○	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-183
53073-5	十輪質	○	10.7	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚+丁口下斜手ナマ	K-C系 33-184
53073-6	十輪質	○	10.7	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、内・内腹手ナマ	K-C系 33-185
53073-7	十輪質	○	13.3	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ・下斜手ナマ	33-186
53073-8	十輪質	○	12.0	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ・下斜手ナマ	K-C系 33-187

遺構53079(FKJ05-3)図114

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53079-1	瓶詰	柳原	30.4	18.4	8.2	外・外・内腹施釉	33-188	
53079-2	瓶詰	柳原	○	10.8	6.5	直口	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、内・内腹手ナマ	33-189

遺構53101(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53101-1	丸盃	柳原	11.0	8.8	高台	付)無	33-180	
53101-2	丸盃	柳原	9.6	6.4	直口	付)無	33-181	
53101-3	丸盃	柳原	10.7	8.0	6.7	内・内腹施釉	33-182	
53101-4	十輪質	柳原	9.4	7.0	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-183	
53101-5	十輪質	柳原	11.5	8.8	6.5	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ・下斜手ナマ	C系 33-184
53101-6	十輪質	柳原	11.4	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	33-185
53101-7	十輪質	柳原	12.0	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	33-186
53101-8	十輪質	柳原	12.6	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	33-187
53101-9	十輪質	柳原	10.7	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ・下斜手ナマ	C系 33-188

遺構53103(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考	
53103-1	瓶詰	柳原	11.0	8.8	高台	付)無	33-180

遺構53107(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53107-1	碗	柳原	14.6	9.3	2.3	直口	付)灰の底、付)内・内腹施釉	33-189
53107-2	碗	柳原	18.0	12.5	6.2	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-190
53107-3	碗	柳原	○	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-191
53107-4	十輪質	柳原	9.5	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-192
53107-5	十輪質	柳原	9.5	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-193
53107-6	十輪質	柳原	11.0	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	C系 33-194
53107-7	十輪質	柳原	11.2	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	33-195
53107-8	十輪質	柳原	11.1	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	C古系 33-196
53107-9	十輪質	柳原	11.1	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	33-197
53107-10	十輪質	柳原	11.0	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	33-198
53107-11	十輪質	柳原	11.8	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉(ナマ)・見(開窓)、脚ナマ	C系 33-199

遺構53109(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考			
53109-1	瓶詰	柳原	○	5.00	3.10	直口	高台・内腹施釉	付)内腹施釉	33-144

遺構53107(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53107-1	碗	柳原	14.6	9.3	2.3	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-189
53107-2	碗	柳原	18.0	12.5	6.2	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-190
53107-3	碗	柳原	○	-	-	内・内腹施釉	内・内腹施釉	33-191

遺構53139(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考			
53139-1	碗	柳原	19.8	10.0	3.1	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-192	
53139-2	小鉢	柳原(?)	12.0	-	-	1.80	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-193

遺構53141(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53141-1	碗	柳原	11.0	8.6	2.9	直口	内・外・内腹施釉	33-146

遺構53142(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53142-1	鉢	柳原	10.6	8.6	2.3	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-194
53142-2	鉢	柳原	11.0	8.2	3.0	直口	付)灰の底、内・内腹施釉	33-195

遺構53144(FKJ05-3)図115

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53144-1	碗	柳原	20.0	11.0	7.4	直口	内・外・内腹施釉	33-196
53144-2	碗	柳原	30	-	10.0	直口	内・外・内腹施釉	33-197

遺構53141(FKJ05-3)図116

遺構No.	器種	土師質・打瓦法 陶器部・底地	基質(cm)	土師質・打・色濃 陶器部・底地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	備考		
53141-1	十輪質	柳原	○	9.25	-	2.0	内・外・内腹施釉	33-143
53141-2	十輪質	柳原	○	11.4	9.6	2.0	内・外・内腹施釉	33-144
53141-3	十輪質	柳原	○	11.0	-	3.0	内・外・内腹施釉	33-145
53141-4	十輪質	柳原	○	10.6	-	3.0	内・外・内腹施釉	33-146
53141-5	十輪質	柳原	○	10.4	-	3.0	内・外・内腹施釉	33-147

第4章 中・近世の遺物

遺構54001(FKJ05-4)図116

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%
54001-1	無	伊万里	11.2	4.3	5.7 白粘	ヨコアヒル、削付高台、削付、複数な黒鉄粒子	54.42
54001-2	無	伊万里	11.4	4.7	6.25 白粘	ヨコアヒル、削付	54.43
54001-3	無	伊万里	6.0	3.25	3.75 白粘	削付	54.44
54001-4	無	無	-	-	- 白粘	削付	54.45
54001-5	無	中国(無地跡名)	(11.1)	7.6	1.25(黒) 白粘削付	白粘削付	54.46
54001-6	中塗	伊万里	22.1	9.2	4.25 削付	高台砂利層、高台削付目	54.47
54001-7	土耕質	○	20.2	-	2.4 削付	西口1メートル(1.1)削付、ナビ、易ミ棒ナビ、削付状態	54.48
54001-8	土耕質	○	19.0	-	2.0 削付	西口1メートル(1.1)削付、ナビ、易ミ棒ナビ、削付状態	54.49
54001-9	土耕質	○	19.8	-	2.5 削付	西口1メートル(1.1)削付、ナビ、易ミ棒ナビ、削付状態	54.50
54001-10	土耕質	○	10.3	-	2.3 削付	西口1メートル(1.1)削付、ナビ、易ミ棒ナビ、削付状態	54.51
54001-11	土耕質	○	11.3	-	2.20 削付	西口1メートル(1.1)つまむ、削付、易ミ棒ナビ、削付状態	54.52
54001-12	土耕質	○	11.25	-	2.20 削付	西口1メートル(1.1)削付、削付、易ミ棒ナビ、削付	54.53
54001-13	土耕質	○	10.0	-	2.20 削付	西口1メートル(1.1)削付、削付、易ミ棒ナビ、削付	54.54

遺構54002(FKJ05-4)図117

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%
54002-1	壁	○	-	2.7(黒)	-	-	54.55
54002-2	土耕質	○	11.3	5.4 削付	削付	-	54.56
54002-3	土耕質	○	9.0(黒)	4.6 削付	削付	高台内まで削付、削付に削付直接接続	54.57

遺構54003(FKJ05-4)図117

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%
54003-1	無	衛付	(11.5)	5.2 6.0(黒)	6.0(黒) 削付	-	54.58
54003-2	川口1塗	衛付	18.6	13.5 (7.0)	13.0 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付、西口削付	54.59
54003-3	土耕質	○	2.4	- 削付	2.4 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.60
54003-4	土耕質	○	2.4	- 削付	2.4 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.61
54003-5	土耕質	○	11.8	- 2.4(黒)	2.4(黒) 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.62
54003-6	土耕質	○	22.6	-	8.0 削付	削付基層(内側成層)	54.63

遺構54007(FKJ05-4)図117

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%	
54007-1	中塗	伊万里	21.1	8.0 6.5	6.0(黒) 削付	上部無	大塗Ⅲ	54.64
54007-2	中塗	伊万里	24.1	8.2 (7.0)	6.5 削付	削付	大塗Ⅳ	54.65
54007-3	小坪	伊万里	2.4	- 削付	2.4 削付	ヨリ成層の内側にあり(1.1)削付、西口内側削付	54.66	
54007-4	小坪	伊万里	5.6	2.2 5.5	5.5 削付	削付	54.67	
54007-5	塗	伊万里	8.0	2.20 2.50	2.50 削付	削付	54.68	
54007-6	塗	○	6.8	2.3(黒)	2.3(黒) 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.69	
54007-7	土耕質	○	11.8	- 2.4(黒)	2.4(黒) 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.70	
54007-8	土耕質	○	22.6	-	8.0 削付	削付基層(内側成層)	54.71	

遺構54012(FKJ05-4)図118

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%
54012-1	無	衛付	(18.0)	4.6 (6.20)	4.6(黒) 削付	上部ゼ、厚壁、上段は残る。	54.72
54012-2	無	泥	6.1	2.5 2.85	2.5 削付	無地の内側にあり(1.1)削付	54.73
54012-3	木板	無	1.5	- 削付	1.5 削付	木板	54.74
54012-4	無	衛付	1.5	- 削付	1.5 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.75
54012-5	土耕質	○	9.7	- 2.4	2.4 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.76
54012-6	土耕質	○	9.7	- 2.6	2.6 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.77
54012-7	土耕質	○	11.6	- 2.7	2.7 削付	西口成層(内側成層)にあり(1.1)削付	54.78

遺構54021(FKJ05-4)図118

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%	
54021-1	土耕	伊万里	10.1	4.00 (6.20)	4.00(黒) 削付	東手成層、上段は残る。	大塗Ⅲ	54.79
54021-2	土耕	伊万里	8.2	2.1 (2.0)	2.1 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	大塗Ⅳ	54.80
54021-3	土耕	○	6.41	2.1(黒)	2.1(黒) 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅰ	54.81
54021-4	土耕	○	11.4	4.9 6.90	4.9 6.90 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅱ	54.82
54021-5	土耕	○	10.6	4.5 6.2	4.5 6.2 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅲ	54.83
54021-6	土耕	○	10.4	3.9 5.2	3.9 5.2 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅳ	54.84
54021-7	土耕	○	11.80	5.2 7.1	5.2 7.1 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅴ	54.85
54021-8	土耕	○	8.4	- 2.1	2.1 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅵ	54.86
54021-9	土耕	○	11.8	- 8.80	8.80 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅶ	54.87
54021-10	土耕	○	11.8	- 8.80	8.80 削付	厚壁、易ミ棒ナビ、削付	人面Ⅷ	54.88
54021-11	土耕	○	23.6	13.3	4.5 削付	高台内まで削付、削付にヨリカ所、削付古台、削付、削付に削付粒子、削古台	人面Ⅸ	54.89

遺構540212-540222(FKJ05-4)図118

測量点	基標	土耕質・石不透 両側斜面・底地	深度(cm)	土耕質・削付・色調 両側斜面・底地	成形・調査・その他	備考	実測%	
540212-1	無	伊万里	10.1	4.00 7.00	4.00(黒) 削付	高台内側削付、厚壁削付	54.90	
540212-2	土耕質	○	0.1	- 2.25	2.25 削付	内側削付ナビ、削付	54.91	
540212-3	土耕質	○	-	- 2.25	2.25 削付	内側削付ナビ、削付	54.92	
540212-4	土耕質	○	12.2	- 2.25	2.25 削付	内側削付ナビ、削付	54.93	
540212-5	土耕質	○	11.80	5.2 7.1	5.2 7.1 削付	内側削付ナビ、厚壁削付ナビ、厚壁削付	54.94	
540212-6	土耕質	○	8.4	- 2.1	2.1 削付	内側削付ナビ、厚壁削付ナビ、厚壁削付	54.95	
540212-7	土耕質	○	11.8	- 8.80	8.80 削付	内側削付ナビ、厚壁削付ナビ、厚壁削付	54.96	
540212-8	土耕質	○	11.8	- 8.80	8.80 削付	内側削付ナビ、厚壁削付ナビ、厚壁削付	54.97	
540212-9	土耕質	○	23.6	13.3	4.5 削付	高台内まで削付、削付にヨリカ所、削付古台、削付、削付に削付粒子、削古台	人面Ⅹ	54.98

第1節 土器・陶器群

遺構54022(FKJ05-4)図118-119

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54022-1	瓶	伊万里	11.8	8.8	6.5	付合	高台(内)一葉模様「大明花」(朱墨)付	54-28
54022-2	瓶	伊万里	11.0	4.2	6.5	付合	高台(内)無模	54-29
54022-3	瓶	伊万里	-	9.4	6.2	付合	高台(内)無模	54-31
54022-4	瓶	伊万里	-	9.4	6.2	付合	高台(内)無模	54-32
54022-5	瓶	伊万里	9.0	8.2	5.9	上部付合	外見直筒三脚瓶、内部内腹施	54-30
54022-6	小判	伊万里	6.9	3.3	5.4	付合	(内)腰部、高台(内)で施墨、底部高台	54-25
54022-7	圓筒中型瓶	中國	20.0	(12.7)	3.5(内)	口縁		54-106
54022-8	小判	伊万里	-	8.5	5.0	付合	見事な透明白(赤)透	54-33
54022-9	小判	伊万里	8.8	3.5	5.0	付合	見事な透明白(赤)透	54-34
54022-10	小判	伊万里	8.9	3.45	2.5	付合	見事な透明白(赤)透	54-27
54022-11	小判	伊万里	21.7	7.6	4.7	口縁	見事な透明白(赤)透、刷毛(ほとんど何も含まない)	54-32
54022-12	中型質直瓶	○	8.2	4.5	3.0	付合	内側斜面(口付付合)付	54-114
54022-13	中型質直瓶	○	10.4	-	2.45	付合	内側斜面(口付付合)付	54-13
54022-14	中型質直瓶	○	9.1	-	2.1	付合	内側斜面(口付付合)付	54-16
54022-15	中型質直瓶	○	9.4	-	1.95	口縁	内側斜面(口付付合)付	54-14
54022-16	中型質直瓶	○	9.4	-	1.85	口縁	内側斜面(口付付合)付	54-15
54022-17	中型質直瓶	○	9.4	-	1.85	口縁	内側斜面(口付付合)付	54-17
54022-18	中型質直瓶	○	11.5	-	2.4	付合	内側斜面(口付付合)付、蓋(内)付	54-12
54022-19	中型質直瓶	○	11.55	-	2.4	付合	内側斜面(口付付合)付、蓋(内)付	54-13
54022-20	中型質直瓶	○	11.0	-	2.2	付合	内側斜面(口付付合)付	54-17
54022-21	中型質直瓶	○	11.9	-	2.25	付合	内側斜面(口付付合)付	54-13
54022-22	中型質直瓶	○	12.0	-	2.25	付合	内側斜面(口付付合)付	54-11
54022-23	中型質直瓶	○	12.0	-	2.25	付合	内側斜面(口付付合)付	54-11

遺構54024(FKJ05-4)図119

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54024-1	中型質直瓶	○	9.2	-	1.9	口縁	内側斜面(口付付合)付	54-118

遺構54025(FKJ05-4)図119

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54025-1	瓶	伊万里	14.0	5.5	5.5	付合	高台(内)付付合	大鏡正
54025-2	瓶	-	-	4.3	付合	高台(内)付付合	54-111	
54025-3	付合質直付合	伊万里	14.6	-	4.7	付合	外見直筒付合付、見事な透明白	54-110
54025-4	八角瓶	伊万里	14.0	5.0	6.0	付合	見事な透明白	54-109
54025-5	八角瓶	伊万里	14.0	5.0	6.0	付合	見事な透明白(内)付付合付	54-108
54025-6	瓶	伊万里	12.4	-	3.75	付合	内側斜面(口付付合)付	54-119

遺構54026(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54026-1	瓶	伊万里	10.8	8.6	7.25	付合		透原
54026-2	瓶	透原	10.2	8.4	6.25	付合	高台(内)付付合	54-79

遺構54032(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54032-1	瓶	透原	14.0	(14.1)	3.0	付合	内側斜面(口付付合)	54-77
54032-2	瓶	透原	-	-	-	付合	手付(透)	54-78

遺構54040(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54040-1	瓶	透原	-	(14.0)	8.2(内)	付合	手付(透)	54-81
54040-2	瓶	透原	-	-	-	付合	手付(透)	54-80

遺構54049(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54049-1	瓶	伊万里	-	-	-	付合		54-85
54049-2	中型質直	○	9.6	-	2.1	付合	内絞りアダ	54-6
54049-3	中型質直	○	10.8	-	1.95	付合	内絞りアダ(見事な透明白)	54-8
54049-4	中型質直	○	11.6	-	2.1	付合	内絞りアダ(見事な透明白)	54-113
54049-5	中型質直	○	12.0	-	2.15	付合	内絞りアダ(見事な透明白)	54-1

遺構54049-1(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54049-1	瓶	伊万里	-	-	-	付合		54-79

遺構54049-2(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54049-2	瓶	透原	-	-	-	付合		54-78

遺構54049-3(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54049-3	瓶	透原	-	-	-	付合		54-77

遺構54049-4(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54049-4	瓶	透原	-	-	-	付合		54-4

遺構54279(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54279-1	瓶	中国(高麗高麗)	13.19	6.8	4.3	付合	見事な透明白	54-90

遺構54279-1(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.	
54279-1	瓶	中国(高麗高麗)	-	-	5.1(内)	付合		54-63

遺構54279-2(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.		
54279-2	瓶	透原	-	-	4.4	3.0(内)	付合	ロフ成形、解説記述、解説記述	54-62

遺構54279-3(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.		
54279-3	瓶	透原	-	-	3.2	2.0(内)	付合	高台(内)付付合	54-61

遺構54279-4(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.		
54279-4	瓶	透原	-	-	3.2	2.0(内)	付合	高台(内)付付合	54-60

遺構54280(FKJ05-4)図120

遺構No.	器種	土師質:白(赤)透 陶器部:青地	底面(φcm)	土師質:白(赤)透 陶器部:青地・鉢形	成形・調整・その他の特徴	参考	実測No.		
54280-1	瓶	透原	-	-	3.2	2.0(内)	付合	高台(内)付付合、解説記述	54-59

第4章 中・近世の遺物

包含層(FKJ05-4)図120

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
45.1	平野層	土耕質	13.8	底付	高さ		54.3%

遺構61102(FKJ06-1)図120

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
41.002 1	面	伊万里	13.0	底付	高さ	◆付	61.4%
41.002 2	土耕質地	○	7.4	-	2.95	高さ	61.4%
41.002 3	土耕質地	○	13.4	-	2.45	底付	61.4%

遺構61105(FKJ06-1)図120-121

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
41.005 1	植物土跡	伊万里	13.0	底付	高さ	◆付	61.4%
41.005 2	面	伊万里	9.0	-	3.65	高さ	61.4%
41.005 3	面	伊万里	12.0	-	5.00	◆付	61.4%
41.005 4	大底	伊万里	20.4	27.8	高さ	◆付	61.4%
41.005 5	土耕質地	伊万里	12.0	15.0	高さ	◆付	61.4%
41.005 6	面	伊万里	6.5	7.5	2.50	◆付	61.4%
41.005 7	土耕質地	○	10.2	-	3.40	底付	61.4%

遺構61106(FKJ06-1)図122

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
31.006 1	面	伊万里	10.4	4.2	6.8	◆付	61.3%
31.006 2	路	伊万里	7.7	6.1	-	通物体、鉢脚地	61.3%
31.006 3	面	伊万里	28.7	-	3.90	◆付	61.3%
31.006 4	面	伊万里	25.0	6.8	19.8	◆付	61.3%
31.006 5	大底	伊万里	29.0	9.0	19.8	◆付	61.3%

遺構61204(FKJ06-1)図122

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
31.004 1	面	伊万里	12.0	4.0	8.5	無鉢大盤	61.3%
31.004 2	面	伊万里	11.7	4.4	5.9	灰地(青磁)	61.3%
31.004 3	面	伊万里	11.0	-	3.80	底付	61.3%

遺構617セ(FKJ06-1)図122

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
45.7 1	面	伊万里	11.6	4.8	5.7	◆付	人頭面
45.7 2	小盤	伊万里	4.6	2.1	2.7	◆付	青磁
45.7 3	路	伊万里	16.1	5.9	7.1	◆付	青磁要變化
45.7 4	面	伊万里	14.4	-	3.40	◆付	61.4%

壁体・包含層(FKJ06-1)図123-124

層位%	特徴	土耕質:石炭地 陶器質:灰地	底量(cm)	土耕質:石炭+、色調 陶器質:灰地+、色調	成形・調整・その他	備考	実測%
45.7 5	面	伊万里	13.0	底付	高さ	◆付	61.4%
45.7 6	大底	伊万里	26.6	12.8	7.60	◆付	61.4%
45.7 7	面	伊万里	6.5	1.60	0.90	見付	61.4%
45.7 8	小底	伊万里	4.4	2.2	3.8	白磁	61.4%
45.7 9	底付	伊万里	15.0	8.0	7.00	青磁	61.4%
45.7 10	多底盤	伊万里	13.0	8.0	3.20	◆付	61.4%
45.7 11	多底盤	伊万里	13.0	8.0	3.20	◆付	61.4%
45.7 12	面	伊万里	—	55.8	1.45(m)	青深層、付	61.4%
45.7 13	面	伊万里	—	22.2	1.90(m)	青深層、付	61.4%
45.7 14	面	伊万里	12.0	8.0	5.00	青深層、付	61.4%
45.7 15	面	伊万里	12.0	8.0	5.00	青深層、付	61.4%
45.7 16	面	伊万里	12.0	8.0	5.00	青深層、付	61.4%
45.7 17	面	伊万里	8.35	3.5	1.95	◆付	61.4%
45.7 18	白磁	伊万里	6.0	—	2.8	青磁	61.4%
45.7 19	多底盤	伊万里	6.30	—	2.7	青深層、付	61.4%
45.7 20	多底盤	伊万里	11.4	—	2.7	青深層、付	61.4%
45.7 21	小底	伊万里	3.8	2.2	2.20	青深層、付	61.4%
45.7 22	多底盤	伊万里	20.0	9.0	8.0	青深層、付	61.4%
45.7 23	多底盤	伊万里	18.0	9.0	8.0	青深層、付	61.4%
45.7 24	面	伊万里	8.0	—	2.8	青深層、付	61.4%
45.7 25	面	伊万里	10.4	—	2.65	青深層、付	61.4%
45.7 26	面	伊万里	21.0	—	2.90	青深層、付	61.4%
45.7 27	面	伊万里	66.7	黑(4.2)	16.2	底付、底付	61.4%
45.7 28	面	伊万里	12.0	8.0	5.00	青深層、付	61.4%
45.7 29	多底盤	伊万里	20.0	9.0	8.0	青深層、付	61.4%
45.7 30	多底盤	伊万里	18.0	9.0	8.0	青深層、付	61.4%
45.7 31	面	伊万里	8.35	3.5	1.95	◆付	61.4%
45.7 32	面	伊万里	6.0	—	2.8	青深層、付	61.4%
45.7 33	面	伊万里	11.4	—	2.7	青深層、付	61.4%
45.7 34	面	伊万里	—	2.2	2.20	青深層、付	61.4%
45.7 35	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 36	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 37	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 38	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 39	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 40	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 41	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 42	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 43	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 44	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 45	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 46	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 47	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 48	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 49	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 50	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 51	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 52	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 53	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 54	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 55	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 56	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 57	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 58	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 59	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 60	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 61	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 62	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 63	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 64	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 65	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 66	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 67	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 68	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 69	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 70	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 71	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 72	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 73	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 74	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 75	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 76	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 77	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 78	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 79	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 80	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 81	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 82	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 83	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 84	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 85	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 86	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 87	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 88	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 89	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 90	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 91	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 92	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 93	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 94	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 95	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 96	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 97	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 98	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 99	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 100	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 101	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 102	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 103	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 104	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 105	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 106	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 107	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 108	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 109	面	伊万里	—	1.8	1.80	青深層、付	61.4%
45.7 110							

第1節 土器・陶器群

遺構622009(FKJ06-2)図125

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
622009-1	罐	手打鉢形	(16.0)	—	1.2(例)	直筒		62.36
622009-2	縦縫瓦	縦口	(11.1)	—	1.7(例)	弧地		62.4
622009-3	直縫瓦	直口	(12.1)	—	8.1(例)	—	見付	62.14
622009-4	直縫瓦	直口	(12.1)	—	8.1(例)	—	見付	62.11
622009-5	直縫瓦	直口	(12.1)	—	8.0(例)	—	見付	62.11
622009-6	手打鉢形	手打鉢形	(8.4)	(5.0)	1.2	弧地	外:段落なしナ.	62.37
622009-7	手打鉢形	手打鉢形	(11.4)	—	2.4(例)	—	内:底付ナビ:内付ナ.	62.36

遺構62521(FKJ06-2)図125

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62521-1	罐	圓筒形	(10.0)	—	5.2	弧地	内:底付ナビ:見付ナビ:内付ナ.	62.41
62521-2	罐	圓筒形	(10.0)	—	5.2	弧地	内:底付ナビ:見付ナビ:内付ナ.	62.19
62521-3	手打鉢形	手打鉢形	(9.6)	—	1.9(例)	直筒	内:底付ナビ:内付ナ.	62.39

遺構62601(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62601-1	罐	圓筒形	—	—	18.0	3.8(例)	直筒	62.26
62601-2	手打鉢形	手打鉢形	—	—	—	—	—	—

遺構62604(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62604-1	罐	中國	(11.1)	(7.0)	—	—	見付	62.19
62604-2	手打鉢形	手打鉢形	(10.4)	—	2.0(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.20
62604-3	手打鉢形	手打鉢形	(10.3)	—	2.0(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.21

遺構62621(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62621-1	罐	中國	(11.1)	(7.0)	—	—	見付	62.19
62621-2	手打鉢形	手打鉢形	(11.0)	—	2.0(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.20
62621-3	手打鉢形	手打鉢形	(11.0)	—	2.0(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.21

遺構62635(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62635-1	罐	手打鉢形	(8.4)	—	2.8(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナ.	62.32
62635-2	手打鉢形	手打鉢形	(15.4)	—	2.8(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.33
62635-3	手打鉢形	手打鉢形	(15.4)	—	2.8(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.34
62635-4	手打鉢形	手打鉢形	(13.0)	—	2.6(例)	直筒	内:底付ナビ:見付ナビ:外:付ナ.	62.35

遺構62659(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62659-1	罐	手打鉢形	(11.5)	6.5	7.8	弧地	高台(内)無地:覆面あり。	62.42
62659-2	手打鉢形	手打鉢形	(10.0)	(6.0)	2.0	直筒	カバ付:内:底付ナビ:外:付ナ.	62.23
62659-3	手打鉢形	手打鉢形	(10.0)	(6.0)	2.0	直筒	カバ付:内:底付ナビ:外:付ナ.	62.24
62659-4	手打鉢形	手打鉢形	(9.7)	—	2.3	直筒	内:底付ナビ:外:付ナ.	62.25

遺構62799(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62799-1	罐	手打鉢形	(11.5)	6.5	7.8	弧地	高台(内)無地:覆面あり。	62.41
62799-2	手打鉢形	手打鉢形	(10.0)	(6.0)	2.0	直筒	カバ付:内:底付ナビ:外:付ナ.	62.26
62799-3	手打鉢形	手打鉢形	(10.0)	(6.0)	2.0	直筒	カバ付:内:底付ナビ:外:付ナ.	62.27
62799-4	手打鉢形	手打鉢形	(9.7)	—	2.3	直筒	内:底付ナビ:外:付ナ.	62.28

包含層(FKJ06-2)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
62799-1	罐	中國	(5.3)	5.3	5.0	直筒	横縫の付いた直筒。	62.29
62799-2	罐	中國	(5.3)	5.3	5.0	直筒	横縫の付いた直筒。	62.30
62799-3	罐	中國	(5.3)	5.3	5.0	直筒	横縫の付いた直筒。	62.31
62799-4	罐	中國	(5.3)	5.3	5.0	直筒	横縫の付いた直筒。	62.32

遺構63002(FKJ06-3)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
63002-1	罐	伊万里	11.3	—	2.3(例)	直筒	外:付ナビ:内:底付:直筒。	62.38
63002-2	罐	伊万里	11.3	—	2.3(例)	直筒	外:付ナビ:内:底付:直筒。	62.39
63002-3	罐	伊万里	10.8	—	2.1(例)	直筒	外:付ナビ:内:底付:直筒。	62.40
63002-4	罐	伊万里	10.8	—	2.1(例)	直筒	外:付ナビ:内:底付:直筒。	62.41

遺構63004(FKJ06-3)図126

遺構番号	器種	基準(目)			土師質:粘土・陶器 陶器質:粘土・陶器	成形・調整・その他の特徴	参考	実測値
		径	底径	高さ				
63004-1	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.20
63004-2	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.21
63004-3	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.22
63004-4	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.23
63004-5	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.24
63004-6	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.25
63004-7	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.26
63004-8	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.27
63004-9	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.28
63004-10	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.29
63004-11	罐	伊万里	14.5	10.0	5.7	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.30
63004-12	手打鉢形	手打鉢形	(12.0)	—	1.5	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.32
63004-13	手打鉢形	手打鉢形	(12.0)	—	1.5	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.33
63004-14	手打鉢形	手打鉢形	(12.0)	—	1.5	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.34
63004-15	手打鉢形	手打鉢形	(12.0)	—	1.5	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.35
63004-16	手打鉢形	手打鉢形	(12.0)	—	1.5	直筒	内:底付:外:付ナビ:直筒。	62.36

第4章 中・近世の遺物

遺構63020(FIGJ06-3)図126-127

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3020-1	塗抹	伊万里	11.8	4.7	6.55	砂付	内:草花紋、外:舟形字紋、ハマ御前丸	63.46
J3020-2	漆	伊万里	10.95	5.9	6.0	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-3	漆	伊万里	10.95	6.2	5.42	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-4	漆	伊万里	10.95	6.2	5.42	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-5	竹皮張	伊万里	11.35	4.5	6.7	砂付	内:ハマ御前3	63.46
J3020-6	漆	伊万里	14.5	20.0	5.7	砂付	西用瓦、漆付瓦入、人土・漆付、刷毛土・漆付瓦	63.20
J3020-7	漆	伊万里	9.5	3.6	2.65	漆付瓦内:土・漆付瓦	西用瓦、漆付瓦、透明瓦、外:土・漆付瓦	63.20
J3020-8	漆	伊万里	9.5	3.6	2.65	漆付瓦内:土・漆付瓦	西用瓦、漆付瓦、透明瓦、外:土・漆付瓦	63.20
J3020-9	漆	伊万里	9.5	3.6	2.65	漆付瓦内:土・漆付瓦	西用瓦、漆付瓦、透明瓦、外:土・漆付瓦	63.20
J3020-10	漆	伊万里	18.9	-	10.0(現)	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-11	漆	伊万里	28.2	-	7.8(現)	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-12	漆	伊万里	31.0	-	12.2(現)	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-13	漆	伊万里	10.8	-	2.8	砂付	内:ハマ御前	63.46
J3020-14	漆	伊万里	10.8	-	2.75	砂付	内:ハマ御前、外:土・漆付瓦、透明瓦	63.46
J3020-15	漆	伊万里	10.8	-	2.75	砂付	内:ハマ御前、外:土・漆付瓦、透明瓦	63.46

遺構63021(FIGJ06-3)図127

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3021	塗抹	伊万里	11.8	4.7	6.55	砂付	新木造柱下部・手前瓦灰色瓦・外:漆付瓦	63.20

遺構63024(FIGJ06-3)図127

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3024-1	漆	伊万里	11.8	4.7	6.55	砂付	内:船付・漆付瓦	人頭V
J3024-2	漆	伊万里	7.37	3.7	4.8	砂付	内:漆付瓦	63.46
J3024-3	漆	伊万里	7.37	3.7	4.8	砂付	内:漆付瓦	63.46
J3024-4	漆	伊万里	7.37	3.4	6.15	砂付	内:漆付瓦、外:土・灰瓦、透明瓦	63.46
J3024-5	漆	伊万里	11.1	6.3	6.25	砂付	内:漆付瓦、外:土・灰瓦、透明瓦	63.46
J3024-6	漆	伊万里	11.5	6.5	6.35	砂付	内:漆付・漆付瓦	63.20
J3024-7	漆	伊万里	10.9	9.8	3.85	砂付	内:瓦灰・漆付瓦	63.20
J3024-8	漆	伊万里	10.9	9.8	3.85	砂付	内:瓦灰・漆付瓦	63.20

遺構63026(FIGJ06-3)図127

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3026-1	漆	伊万里	11.8	4.7	6.55	砂付	漆付瓦	63.46

遺構63056(FIGJ06-3)図127

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3056-1	天井	漆	11.7	4.0	6.25	砂付	内:瓦灰	63.20
J3056-2	漆	漆	-	-	7.0(現)	砂付	内:瓦灰	XIII
J3056-3	土・漆	漆	-	-	2.15	砂付	内:瓦灰	C

遺構63064(FIGJ06-3)図127-128

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3064-1	平鉢	伊万里	13.7	5.4	6.3	砂付	内:船付・漆付瓦	63.20
J3064-2	漆	伊万里	20.0	11.8	14.0	砂付	内:漆付瓦	63.20
J3064-3	漆	伊万里	20.0	11.8	14.0	砂付	内:漆付瓦	63.20
J3064-4	小鉢	伊万里	5.85	2.66	2.2	砂付	内:漆付瓦	63.15
J3064-5	伏見	伊万里	3.2	1.7	1.9	砂付	内:漆付瓦	63.25
J3064-6	漆	伊万里	12.0	-	6.0(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.15
J3064-7	漆	伊万里	6.35	-	5.0(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.25
J3064-8	漆	伊万里	5.0	-	4.7(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.25
J3064-9	漆	伊万里	5.0	-	4.7(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.25
J3064-10	漆	伊万里	5.0	-	4.7(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.25
J3064-11	漆	伊万里	5.0	-	4.7(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.25
J3064-12	漆	伊万里	5.0	-	4.7(現)	透明地	内:瓦灰・漆付瓦	63.25

遺構63059(FIGJ06-3)図128

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3059-1	漆	伊万里	12.0	5.4	6.3	砂付	内:漆付瓦	63.20
J3059-2	漆	伊万里	12.0	5.4	6.3	砂付	内:漆付瓦	63.20
J3059-3	漆	伊万里	12.0	5.4	6.3	砂付	内:漆付瓦	63.20
J3059-4	漆	伊万里	12.0	5.4	6.3	砂付	内:漆付瓦	63.20

遺構63070(FIGJ06-3)図128

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3070-1	小鉢	伊万里	7.21	5.3	4.7	砂付	(上)漆付・照井高台	63.30
J3070-2	小鉢	伊万里	7.21	5.3	4.7	砂付	白瓦	63.30
J3070-3	漆	伊万里	12.0	5.4	6.3	砂付	内:漆付瓦	63.30

遺構63074(FIGJ06-3-06)図128

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3074-1	漆	伊万里	8.7	3.3	1.80	砂付	内:漆付瓦	63.30
J3074-2	漆	伊万里	8.7	3.3	1.80	砂付	内:漆付瓦	63.30

遺構63084(FIGJ06-3)図128

測量No.	基積	土質質:石・瓦・漆	法面質:石・瓦・漆	土質質:砂土・泥質	土質質:砂土・泥質	成形・調整・その他	備考	実測W
J3084-1	漆	伊万里	10.0	-	2.0(現)	砂付	内:漆付瓦	63.15

第1節 土器・陶器類

遺構63088(FKJ06-3)図128-129

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%
63088-1	盃(平底盃)	伊万里	50	—	高さ	火鉢	63-59
63088-2	平底盃(高脚)	伊万里	87	(4.2)	4.25	火鉢	63-58
63088-3	盃(平底盃)	伊万里	50	—	高さ	火鉢	63-52
63088-4	小判盃(高脚)	伊万里	50	—	高さ	火鉢	63-52
63088-5	小判盃(高脚)	伊万里	50	—	高さ	火鉢	63-52
63088-6	小判盃(高脚)	伊万里	9.6	5.0	3.05	火鉢	63-51

遺構63090(FKJ06-3)図129

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%
63090-1	扇形盃	伊万里	10.0	8.1	5.5	火鉢	63-141
63090-2	扇形盃	伊万里	12.0	8.50	2.9	火鉢	63-148
63090-3	扇形盃	伊万里	27.5	12.45	10.1	火鉢	63-149
63090-4	扇形盃	伊万里	12.0	2.0	6.4	火鉢	63-142
63090-5	扇形盃	伊万里	12.3	4.5	4.0	火鉢	63-147
63090-6	扇形盃	伊万里	9.6	—	2.5	火鉢	63-140
63090-7	千手觀音	×	—	—	—	内削込(ナマ)、火鉢	63-139
63090-8	千手觀音	×	—	—	—	内削込(ナマ)、火鉢	63-138
63090-9	千手觀音	伊万里	15.0	—	5.0(火鉢)	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)、火口付(火鉢)、内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-153
63090-10	火鉢	伊万里	17.0	—	5.0(火鉢)	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)、火口付(火鉢)、内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-146
63090-11	火鉢	伊万里	6.0	—	—	内削込(ナマ)	63-145

遺構63116(FKJ06-3)図129

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63116-1	小杯	伊万里	4.9	2.3	2.6	白磁	火鉢(火口付)、内削込(ナマ)	63-131
63116-2	千手觀音	×	9.6	—	1.8	に赤い網目	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)、内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-140
63116-3	扇形盃	伊万里	58	—	15.7(火鉢)	内削込(ナマ)	内削込(ナマ)	63-120

遺構63117(FKJ06-3)図129

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63117-1	小杯	伊万里	4.9	2.3	2.6	白磁	火鉢(火口付)	63-129
63117-2	扇形盃	伊万里	3.0	—	6.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-127
63117-3	千手觀音	×	13.0	—	1.7(火鉢)	に赤い網目	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-128

遺構63118(FKJ06-3)図129

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63118-1	小杯	伊万里	1.0	0.5	0.5	白磁	火鉢(火口付)	63-136
63118-2	扇形盃	伊万里	5.6	2.3	3.7	火鉢	内削込(ナマ)	63-134
63118-3	扇形盃	伊万里	3.0	—	6.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-132
63118-4	火鉢	伊万里	10.0	5.0	4.5(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-133
63118-5	火鉢	伊万里	11.1	—	6.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-135
63118-6	火鉢	伊万里	10.0	—	6.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-136

遺構63119(FKJ06-3)図129

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63119-1	火鉢	伊万里	10.0	5.0	4.5(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-131
63119-2	扇形盃	伊万里	10.0	—	5.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-129

遺構63123(FKJ06-3)図130

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63123-1	扇形盃	伊万里	1.0	0.5	0.5	白磁	火鉢(火口付)	63-136
63123-2	火鉢	伊万里	1.0	0.5	0.5	白磁	火鉢(火口付)	63-134
63123-3	火鉢	伊万里	5.1	—	6.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-132
63123-4	火鉢	伊万里	12.0	5.4	5.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-130

遺構63134(FKJ06-3)図130

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63134-1	火鉢	伊万里	16.0	6.0	5.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-131

遺構63135(FKJ06-3)図130

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63135-1	扇形盃	伊万里	30.0	14.1	11.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-24
63135-2	扇形盃	伊万里	32.7	5.80	3.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-23
63135-3	扇形盃	伊万里	10.0	4.9	2.5	火鉢	内削込(ナマ)	63-22
63135-4	千手觀音	伊万里	9.6	—	2.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-19
63135-5	千手觀音	伊万里	10.3	—	2.0	火鉢	内削込(ナマ)、火鉢(火口付)	63-18

遺構63136(FKJ06-3)図130

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63136-1	扇形盃	伊万里	10.0	4.80	6.7	火鉢	内削込(ナマ)	63-6
63136-2	扇形盃	伊万里	12.7	5.80	3.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-4
63136-3	扇形盃	伊万里	10.0	4.5	2.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-3
63136-4	火鉢	伊万里	10.3	4.8	6.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-90
63136-5	火鉢	伊万里	11.8	—	6.75(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-7
63136-6	火鉢	伊万里	27.0	8.00	12.0(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-25

遺構63168(FKJ06-3)図130-131

遺構No.	器種	土種質・付加物 調査部・地盤	基準(%)	土種質・割合・色調 調査部・地盤・特徴	成形・調整・その他の特徴	参考	実測%	
63168-1	扇形盃	伊万里	11.0	—	2.5	火鉢	内削込(ナマ)	63-11
63168-2	扇形盃	伊万里	9.8	—	4.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-9
63168-3	扇形盃	伊万里	9.0	—	4.5	火鉢	内削込(ナマ)	63-10
63168-4	火鉢	伊万里	10.3	4.8	7.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-90
63168-5	火鉢	伊万里	11.0	4.8	6.75	火鉢	内削込(ナマ)	63-8
63168-6	火鉢	伊万里	11.2	5.0	7.25	火鉢	内削込(ナマ)	63-10
63168-7	火鉢	伊万里	20.4	13.20	8.75(火鉢)	火鉢	内削込(ナマ)	63-89
63168-8	火鉢	伊万里	10.0	—	2.5	火鉢	内削込(ナマ)	63-10
63168-9	千手觀音	○	10.7	—	2.1	火鉢	内削込(ナマ)	63-9
63168-10	千手觀音	○	11.0	—	2.5	火鉢	内削込(ナマ)	63-92
63168-11	千手觀音	○	9.5	—	1.95	火鉢	内削込(ナマ)	63-107
63168-12	千手觀音	○	9.5	—	2.0	火鉢	内削込(ナマ)	63-12
63168-13	千手觀音	○	9.8	—	1.9	火鉢	内削込(ナマ)	63-11
63168-14	千手觀音	○	9.4	—	1.85	火鉢	内削込(ナマ)	63-98
63168-15	千手觀音	○	9.8	—	1.9	火鉢	内削込(ナマ)	63-15
63168-16	千手觀音	○	9.6	—	2.1	火鉢	内削込(ナマ)	63-17

第4章 中・近世の遺物

遺構63186(FKJ06-3)図131

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63186-1	千脚質	×	8.4	一 高さ 8.4	見回しナガリ、斜面	13世纪 A-木	63.12%
63186-2	千脚質	×	8.95	一 高さ 8.95	内凹 内凹	13世纪 B-木	63.12%
63186-3	千脚質	○	15.6	一 高さ 15.6	内凹 内凹	13世纪 C-木	63.12%

遺構63195(FKJ06-3)図131

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63195-1	漆桶	漆	15.3	12.4	15.95	内凹	63.3%

遺構63206(FKJ06-3)図131

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63206-1	天目系桶	漆	11.0	6.0	6.0	内凹	63.3%
63206-2	丸桶	漆	11.0	6.0	6.0	内凹	63.3%
63206-3	千脚質	○	9.3	—	1.95	底輪	内凹(1)ナガリ、底輪ナガリ(1)つまむ。
63206-4	丸桶	漆	10.5	6.2	6.5	底輪	内凹(1)底輪、内凹(1)底輪

遺構63233(FKJ06-3)図131

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63233-1	漆桶	漆	21.8	18.0	19.2	底輪	内凹(1)底輪、内凹(1)底輪、内凹(1)底輪

遺構63520(FKJ06-3)図131

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63520-1	漆桶	漆	17.0	14.0	15.0	底輪	内凹(1)底輪

遺構63523(FKJ06-3)図132

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63523-1	漆桶	漆	11.8	9.0	9.2	底輪	内凹(1)底輪
63523-2	漆桶	漆	11.8	9.5	9.6	底輪	内凹(1)底輪
63523-3	千脚質	○	11.4	—	2.2	底輪	内凹(1)底輪
63523-4	漆桶	漆	11.6	8.1	8.1	底輪	内凹(1)底輪

遺構63525(FKJ06-3)図132

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63525-1	漆桶	漆	11.8	9.0	9.2	底輪	内凹(1)底輪
63525-2	漆桶	漆	11.8	9.5	9.6	底輪	内凹(1)底輪
63525-3	千脚質	○	11.4	—	2.2	底輪	内凹(1)底輪
63525-4	漆桶	漆	11.6	8.0	8.0	底輪	内凹(1)底輪

遺構63527(FKJ06-3)図132

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63527-1	漆桶	漆	13.5	8.8	8.5	底輪	内凹(1)底輪
63527-2	漆桶	漆	13.5	8.8	8.5	底輪	内凹(1)底輪
63527-3	大桶	漆	25.1	11.6	8.2	底輪	内凹(1)底輪

包含層(FKJ06-3)図132

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
63527-4	漆桶	漆	10.8	4.3	7.4	底輪	内凹(1)底輪
63527-5	漆桶	漆	11.8	5.5	6.0	底輪	内凹(1)底輪
63527-6	千脚質	○	11.4	—	2.2	底輪	内凹(1)底輪
63527-7	漆桶	漆	11.6	8.0	8.0	底輪	内凹(1)底輪

遺構64002(FKJ06-4)図133

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
64002-1	漆桶	漆	10.3	7.0	8.0	底輪	内凹(1)底輪
64002-2	漆桶	漆	11.7	4.8	6.3	底輪	内凹(1)底輪
64002-3	漆桶	漆	11.0	3.5	3.5	底輪	内凹(1)底輪
64002-4	小桶	漆	2.3	2.3	3.5	底輪	内凹(1)底輪
64002-5	大桶	中坪(油塗)	24.6	5.2	5.0	底輪	内凹(1)底輪
64002-6	漆桶	漆	0.8	5.1	2.4	底輪	内凹(1)底輪
64002-7	漆桶	漆	20.9	10.3	9.5	底輪	内凹(1)底輪
64002-8	漆桶	漆	9.6	25.2	25.2	底輪	内凹(1)底輪
64002-9	千脚質	○	10.3	4.2	2.0	底輪	内凹(1)底輪
64002-10	千脚質	○	10.3	—	1.8	底輪	内凹(1)底輪

遺構64004(FKJ06-4)図133

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
64004-1	漆桶	漆	9.0	3.1	4.3	底輪	内凹(1)底輪

遺構64006(FKJ06-4)図133

測量No.	特征	測量(cm)		上部質:竹・色調 下部質:漆・色調	成形・調査・その他	備考	実測%
		横幅	奥幅				
64006-1	漆桶	漆	—	5.0	3.3	底輪	内凹(1)底輪
64006-2	漆桶	漆	—	5.0	2.0	底輪	内凹(1)底輪
64006-3	千脚質	○	9.8	5.1	2.4	底輪	内凹(1)底輪
64006-4	千脚質	○	9.0	—	2.0	底輪	内凹(1)底輪
64006-5	大桶	漆	15.6	7.9	7.2	底輪	内凹(1)底輪
64006-6	漆桶	漆	11.6	4.0	2.0	底輪	内凹(1)底輪
64006-7	漆桶	漆	26.5	12.8	12.0	底輪	内凹(1)底輪

第1節 土質・陶磁器

遺構64012(FKJ06-4)圖134

遺構64013(FKJ06-4)図133

測定地	若根	土質質:砂疊 開拓部:山地	直徑(cm)	土質質:砂・土・小礫 開拓部:砂・土・小礫	成形・調整-その他の	備考	実測年
水田(1)	高麗屋	1.0m	8.6	8.0	大粒高麗屋	U1等水田・統・耕翻水・耕翻高麗	2003.12

遺稿64019(FKJ06-4)圖133

回路No.	器種	主電源(AC100V)			主電源(AC100V)			成形・調整・その他			備考	実測No.	
		電流	電圧	電流	電圧	電流	電圧	電流	電圧	電流			
54010-1	大電流 開閉器	1.0A	100V	1.0A	100V	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	見注記	大電流V	46010-MU
54010-2	電流変換器	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	見注記	電流V	46010-MU
54010-3	電流変換器	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	100V	0.1A	見注記	電流V	46010-MU

遺構64027(FKJ06-4)図135

回数	番号	樹種	寸幅(φmm)		寸幅(φmm)		寸幅(φmm)		寸幅(φmm)		成形・調整・その他	箇号	実測値
			前後面	側面	前後面	側面	前後面	側面	前後面	側面			
46427-1		闊葉樹	8.6	5.0	4.2						等級木(?)用材		64427-21
46427-2		闊葉樹	9.6	5.2	2.2						ロコロコの切らし(?)用材		64427-20
46427-3		闊葉樹	9.6	4.7	6.7						外見成形良木、内丸し削根、彫刻用		64427-29
46427-4		白樺	12.7	5.0	3.6						前打用材		64427-19
46427-5		白樺	6.2	4.3	5.2						上端打け出、彫刻用		64427-18
46427-6		白樺	5.3	5.6	5.1						外見成形良木、内丸し削根		64427-27
46427-7		白樺	5.3	5.6	5.1						外見成形良木、内丸し削根		64427-26

进销存APP01/EH-106-A1图1-26

規格品番	規格品名	主要規格	上級規格:動・色調 規格:静・音質	成形・調色・その他	参考	実用例
HS010-1	2面糊合板(芯合板)	1)厚さ 厚さ 重さ	2)強度 強度 耐候性			
HS010-1	1)糊合板 糊合板	5.0 5.0	1.7 2.95	発泡 発泡	3)耐候性	高耐候
HS010-2	2)糊合板 糊合板(糊合紙)	5.0 5.0	3.0 3.0	発泡		HS010-1
HS010-3	3)糊 糊	伊万里 伊万里	10.0 8.0	4.5 6.0	発泡 発泡	4)耐候性、見(目地)ハ飛
HS010-4	4)木版 木版	伊万里 伊万里	8.0 7.0	3.30 3.62	発泡 発泡	5)耐候性(角、面)
HS010-5	5)木版 木版	伊万里 伊万里	8.0 7.0	3.30 3.62	発泡 発泡	6)耐候性、ウレタン塗装、ウロモ底漆、樹脂底漆、発泡
HS010-6	6)木版 木版	伊万里 伊万里	8.0 7.0	3.30 3.62	発泡 発泡	7)耐候性、ウレタン塗装、ウロモ底漆、樹脂底漆、発泡
HS010-7	7)木版糊 糊合板	伊万里 伊万里	10.0 10.0	3.00 6.0	発泡 発泡	8)耐候性、表面(内)中性塗装
HS010-8	8)糊 糊	伊万里 伊万里	9.0 9.0	4.8 6.0	発泡 発泡	9)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙
HS010-9	9)糊 糊	伊万里 伊万里	9.0 9.0	9.7 10.0	(発泡)	10)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙
HS010-10	10)糊 糊	伊万里 伊万里	8.0 8.0	— —	11)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙	手写明了 手写明了
HS010-11	11)糊 糊	伊万里 伊万里	8.0 8.0	— —	12)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙	手写明了 手写明了
HS010-12	12)糊 糊	伊万里 伊万里	8.0 8.0	— —	13)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙	手写明了 手写明了
HS010-13	13)糊 糊	伊万里 伊万里	8.0 8.0	— —	14)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙	手写明了 手写明了
HS010-14	14)糊 糊	伊万里 伊万里	8.0 8.0	— —	15)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙	手写明了 手写明了
HS010-15	15)糊 糊	伊万里 伊万里	8.0 8.0	— —	16)耐候性(糊合紙、糊内)糊合紙	手写明了 手写明了

卷之三

連標64033(FW-06-4)135		回転式 吸排風機 吸排風機		回転式吸排風機 吸排風機		吸排風機-その他		備考	支給品番
回転式 吸排風機 吸排風機									
1.05	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	支給品番: FW-06-4 内寸: 100mm 外寸: 110mm 吸排風機	64033 135
10.0	6.4	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	吸排風機: FW-06-4 内寸: 100mm 外寸: 110mm 吸排風機	64033 135

總編輯室

周面No	苔根	土脚質・石灰沈 層地質・地塊	法量(m)	土脚質:乾土・色深 層地質:褐色・灰褐色	成形・調整・その他	備考	実測%
115	風化	高さ					

第10章

通構64046(FKJ05-4) 図36						
固形物	番号	寸法(mm)			寸法(単位:ミリメートル)	成形・調整・その他
		上面直 角面直 角面直 角	下部直 角面直 角面直 角	高さ		
64046-1	小丸瓶	(伊) 8.5	2.7	4.35	横径 幅行 外)面取	

1999-2000 2 9

64040	4 頭形類	伊方葉	7.43	3.9	6.1	中付	見上葉子五葉花枝	64040-1
64040-5	前に葉	伊方葉	9.6	3.6	5.9	中付	見上葉子五葉花枝	64040-MD
64040-6	裏葉	圓筒形葉	15.15	13.5	4.2	中付	見上葉子五葉花枝	64040-MB
64040-7	頭形葉	伊方葉	-	高田四.8	3.31(約)	中付	見上葉子五葉花枝	64040-MC
64040-8	頭形葉	伊方葉	-	高田四.8	3.31(約)	中付	見上葉子五葉花枝	64040-MD

第4章 中・近世の遺物

遺構64050(FKJ06-4)図136

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64050-1	雨天: 植物	重層	8.0	3.6	5.2	透水性: 良好	64050-1
64050-2	小柱	伊万里	27.2	17.4	5.8	白磁	64050-2
64050-3	大柱	伊万里	30.0	5.5	5.6	白磁	64050-3

遺構64053(FKJ06-4)図136

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64053-1	雨天: 植物	伊万里	17.0	8.0	5.5	透水性: 良好	64053-1
64053-2	雨天: 植物	伊万里	16.7	8.0	5.5	透水性: 良好	64053-2
64053-3	雨天: 植物	伊万里	-	3.6	3.6(周)	白磁	64053-3
64053-4	雨天: 植物	伊万里	10.1	5.2	6.2(周)	透水性: 良好	64053-4
64053-5	雨天: 植物	伊万里	10.0	5.2	5.6	透水性: 良好	64053-5
64053-6	雨天: 植物	伊万里	10.0	5.2	5.6	透水性: 良好	64053-6
64053-7	雨天: 植物	伊万里	10.0	5.2	5.6	透水性: 良好	64053-7

遺構64065(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64065-1	雨天: 植物	重層	3.6	3.6(周)	透水性:	人頭型	64065-1
64065-2	雨天: 植物	伊万里	3.1	1.0(周)	透水性: 重層	人頭型	64065-2
64065-3	雨天: 植物	伊万里	6.4	3.0(周)	透水性: 重層	人頭型	64065-3
64065-4	雨天: 植物	伊万里	25.8	6.0(周)	透水性: 重層	人頭型	64065-4
64065-5	雨天: 植物	伊万里	35.8	-	透水性: 重層	人頭型	64065-5
64065-6	雨天: 植物	伊万里	35.8	-	透水性: 重層	人頭型	64065-6
64065-7	雨天: 植物	伊万里	35.8	-	透水性: 重層	X	64065-7

遺構64068(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%	
64068-1	雨天: 植物	重層	9.6	2.00	(透水性: 良好)	D系	64068-1	
64068-2	雨天: 植物	伊万里	10.0(13.0)	-	1.9	(透水性: 良好)	C系	64068-2
64068-3	雨天: 植物	伊万里	11.0(13.0)	-	2.0	(透水性: 良好)	C系	64068-3
64068-4	雨天: 植物	伊万里	11.0(13.0)	-	2.0	(透水性: 良好)	C系	64068-4
64068-5	雨天: 植物	伊万里	11.0(13.0)	-	2.0	(透水性: 良好)	C系	64068-5
64068-6	雨天: 植物	伊万里	11.0(13.0)	-	2.0	(透水性: 良好)	C系	64068-6
64068-7	雨天: 植物	伊万里	11.0(13.0)	-	2.0	(透水性: 良好)	C系	64068-7

遺構64070(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64070-1	雨天: 植物	重層	9.6	2.1	無地	X	64070-1
64070-2	雨天: 植物	重層	30.0	14.8	15.8	無地	64070-2

遺構64072(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%	
64072-1	小柱	伊万里	7.5	3.3	3.7	白磁	ロクナ型: 透水性	64072-1
64072-2	小柱	中国(瀬戸窓口)	10.2	-	6.1(周)	重層	透水性: 有地	64072-2
64072-3	小柱	伊万里	20.2	5.1	7.0	白磁	透水性: 有地	64072-3
64072-4	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-4
64072-5	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-5
64072-6	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-6
64072-7	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-7

遺構64072(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%	
64072-8	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-8
64072-9	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-9
64072-10	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-10
64072-11	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-11
64072-12	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-12
64072-13	小柱	伊万里	20.2	5.1	6.5(周)	白磁	透水性: 有地	64072-13

遺構64082(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64082-1	雨天: 植物	重層	16.0	-	2.2(周)	白磁	64082-1
64082-2	雨天: 植物	重層	12.0	4.1	3.45	透水性: 有地	64082-2
64082-3	雨天: 植物	重層	12.0	4.1	3.45	透水性: 有地	64082-3

遺構64087(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64087-1	雨天: 植物	重層	12.0	4.1	3.45	透水性: 有地	64087-1

遺構64090(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64090-1	雨天: 植物	重層	12.0	4.1	3.45	透水性: 有地	64090-1

遺構64095(FKJ06-4)図137

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%
64095-1	雨天: 植物	重層	9.2	1.45(周)	白磁	透水性: 有地	64095-1

遺構64098(FKJ06-4)図138

測量点	谷根	土脚質: 石灰岩 陶器類: 有地	底面積(cm)	上脚質: 砂土, 油脂 陶器類: 有地	成形・調整・その他の特徴	備考	実測%	
64098-1	雨天: 植物	伊万里	35.6	4.8	6.45	重層	透水性: 有地	64098-1
64098-2	雨天: 植物	伊万里	35.6	7.6	8.3	重層	透水性: 有地	64098-2
64098-3	雨天: 植物	伊万里	35.6	13.0	5.0	重層	透水性: 有地	64098-3
64098-4	雨天: 植物	伊万里	2.8	-	2.4(周)	白磁	透水性: 有地	64098-4
64098-5	雨天: 植物	伊万里	10.2	-	2.4(周)	白磁	透水性: 有地	64098-5
64098-6	雨天: 植物	伊万里	9.8	-	2.35	重層	透水性: 有地	64098-6
64098-7	雨天: 植物	伊万里	10.4	8.25	8.35	重層	透水性: 有地	64098-7
64098-8	雨天: 植物	伊万里	-	-	3.25(周)	白磁	透水性: 有地	64098-8
64098-9	雨天: 植物	伊万里	-	-	3.25(周)	白磁	透水性: 有地	64098-9
64098-10	雨天: 植物	伊万里	-	-	3.25(周)	白磁	透水性: 有地	64098-10
64098-11	雨天: 植物	伊万里	25.6	-	6.0(周)	白磁	透水性: 有地	64098-11
64098-12	雨天: 植物	伊万里	29.6	-	11.5(周)	白磁	透水性: 有地	64098-12
64098-13	雨天: 植物	總合	36.6	-	6.2(周)	白磁	透水性: 有地	64098-13
64098-14	雨天: 植物	總合	31.6	-	6.2(周)	白磁	透水性: 有地	64098-14
64098-15	雨天: 植物	總合	31.6	-	6.2(周)	白磁	透水性: 有地	64098-15
64098-16	雨天: 植物	總合	26.2	-	7.2(周)	白磁	透水性: 有地	64098-16

第1節 土器・陶磁器

遺構64116(FKJ06-4)圖138

問題No.	器種	計量(%)			土壌質:砂土・粘土 面積:他地	成形・調整・その他	参考	実測No.
		土壌質:紅土 面積:他地	目付 鉢径	高さ				
64116-1	圓鉢(1)	標準	11.5	4.0	4.6	粒度:粗 目録:粗	目録:粗	64116-16

遺構64125(FKJ06-4)圖138

固溶度	器種	試験(CR)			成形・調整・その他	参考	実験No.
		土触質・粒度	土触質・粒度	土触質・粒度			
450mg/L	無	以上未定	11.1	4.6	7.5	無	試験未実施
450mg/L	1	無	以上未定	11.1	4.6	7.5	無

遺稿64153(FKJ06-4)圖138

固有名	種類	土質名:仁木 陶器部:鹿島	土質名:?	土質名:仁木:色面 陶器部:鹿島	底面・調整:その他の 底面:陶器部:鹿島	参考	変形名
吉田-3	実用陶器	白様 高さ 33.4cm 底面	白様 高さ 33.4cm 底面	白様 高さ 33.4cm 底面	底面:陶器部:鹿島		吉田-3

總標64156(FK-106-4) 20139

品番	品種	土鉢販:竹芝港 両組各:米地	店舗:竹芝	土鉢販:竹芝-色溝 両組各:竹芝-色溝	成形・調整-その他	備考	実績%
0041201FKM006-4736138	110	丸	丸	丸			

總標64316(EK 100-A) 001-20

規則性	特徴	土細目: 粘土或 砂礫質・他地	古層(地)	土細目: 粘・砂混 合層・他・古層	成形・調査-その他	備考	実測点
規則性	特徴	日付	風速	高さ			

第361-2章

機種	主電源:日立冷 暖機器・ヒートポン	副電源:日立冷 暖機器・ヒートポン	主電源:日立冷 暖機器・ヒートポン	副電源:日立冷 暖機器・ヒートポン	成形・調整・その他	機器名
PS-400	○	○	○	○	○	○
PS-200	○	○	○	○	○	○

卷之二

土居(FKJ06-4)图139						
圆柱形	器皿	土质質：打火机 内装物：无	底面：(cm) 直径：1.42 高度：1.42 厚度：0.12	土质質：粘土、含腐殖 酸性：弱酸性 状态：干燥	成型、调整、その他	参考 実測値

例題4-2

844-1	樹種	木被覆-セイヨウ ヒマラヤスギ	11.00	樹高	4.3		成形-調整-その他	番号	実測(6)
844-2	樹種	灌叢	3.00	4.3	4.3	付付			844-1付付
844-3	樹種	灌叢	11.0	0.1	7.0	付付			844-2付付
844-4	樹種	伊万里	6.0	2.0	2.0	付付			844-3付付
844-5	樹種	伊万里	6.2	2.0	2.1	付付			844-4付付
844-6	樹種	小叶	6.5	2.0	3.3	付付			844-5付付
844-7	樹種	伊万里	5.0	2.0	1.5	付付			844-6付付
844-8	樹種	山松	5.0	2.0	1.5	付付			844-7付付
844-9	樹種	常绿针叶	9.00	6.0	6.0	付付			844-8付付
844-10	樹種	常绿针叶	2.0			付付			844-9付付

包金層(FKJ06~4) 圖139·140

回数	番号	文献名	文献記載の芝生		芝生の特徴	上部構造・軸・下部構造	成形・調節等の性	参考	文献No.
			葉面	葉裏					
1	1	西原・鈴木(1980)	1.0R 無葉	無葉 2.1L	無葉	無葉・軸・下部構造	なし	有・無根系	6409-MS
2	2	伊万里	11.3 無葉	26.5 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・表面内まで施播	大根Ⅱ
3	3	伊万里	11.3 無葉	26.5 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・表面内まで施播	6409-MS
4	4	伊万里	10.0 無葉	8.0 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・表面内まで施播	6409-MS
5	5	伊万里	6.45 無葉	3.1 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
6	6	伊万里	2.5 無葉	— 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
7	7	伊万里	6.15 無葉	— 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
8	8	伊万里	9.2 無葉	2.5 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
9	9	伊万里	6.5 無葉	2.4 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
10	10	伊万里	— 無葉	1.4 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・粒状白粉菌	6409-MS
11	11	伊万里	3.5 無葉	3.6 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・粒状白粉菌	6409-MS
12	12	伊万里	— 無葉	— 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
13	13	伊万里	14.2 無葉	8.1 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・表面内・葉面網	6409-MS
14	14	伊万里	9.4 無葉	4.30 無葉	5.9 無葉	無葉	なし	有・無根系・葉面網	6409-MS
15	15	伊万里	— 無葉	— 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系・葉面網	6409-MS
16	16	伊万里	11.4 無葉	4.0 無葉	7.1 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
17	17	伊万里	— 無葉	— 無葉	無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
18	18	天王瑞	12.6 無葉	3.8 無葉	7.6 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
19	19	瑞穂	11.6 無葉	4.20 無葉	5.80 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
20	20	小根	— 無葉	5.90 無葉	3.4 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
21	21	小根	— 無葉	— 無葉	3.7 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
22	22	小根	— 無葉	— 無葉	3.7 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
23	23	花菖蒲	— 無葉	— 無葉	5.9 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
24	24	香青繩	— 無葉	— 無葉	5.9 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
25	25	紫小菊	— 無葉	— 無葉	2.4 無葉	無葉	なし	有・無根系	6409-MS
26	26	紫小菊	— 無葉	— 無葉	11.8 無葉	無葉	なし	有・無根系・矮化	6409-MS
27	27	土人草(アサガホ)	前葉3.5 後葉7.7	後葉5.2 3.3	6.1(無葉)	無葉	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
28	28	瑞穂又	9.0 無葉	3.3 無葉	4.8 無葉	透明葉・白	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
29	29	小松根	白葉	10.2 無葉	4.70 無葉	灰葉	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
30	30	瑞穂又	白葉	10.3 無葉	4.2 無葉	灰葉	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
31	31	白葉	白葉	— 無葉	2.5 無葉	灰葉	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
32	32	瑞穂	白葉	6.3 無葉	3.6 無葉	灰葉	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
33	33	小蘿蔔	無葉	(20.9) 無葉	4.70(無葉)	—	なし	有・無根系	6409-MS
34	34	瑞穂又	白葉	10.0 無葉	3.20 無葉	灰葉	なし	有・無根系	6409-MS
35	35	白明葉	白葉	8.5 無葉	3.8 無葉	灰葉	なし	有・無根系	6409-MS
36	36	瑞穂又	白葉	11.8 無葉	12.0 無葉	白葉	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
37	37	大根	白葉	26.5 無葉	20.8(無葉)	灰葉	なし	有・無根系	6409-MS
38	38	十日草	— 無葉	10.0 無葉	— 1.5	白葉色	なし	有・無根系	6409-MS
39	39	牛糞草	碧葉	17.7 無葉	9.3 無葉	白葉色	なし	有・無根系・作付・剪定・施肥	6409-MS
40	40	小根子(アサガホ)	無葉	12.2 無葉	10.2 無葉	白葉色	なし	有・無根系	6409-MS
41	41	白根	— 無葉	— 無葉	— 無葉	白葉色	なし	有・無根系	6409-MS

第6表 瓦観察表

軒丸瓦

測定値	測定上部-施設 全面積	施設場所	正規 (cm)						文様	成形・調整・その他	実測%
			内径	外径(幅)	高さ	底面積	本瓦厚	本瓦底厚			
61100-20	唐里	-	-	-	少径10.80 -	幅(16.7) 2.45	巴文	板作り、瓦当貼付、文様焼成	61.59		
61100-32	唐里	瓦当面のみ	8.50(残)	7.0(残)	金径(22.2) 1.0	幅(9.4) -	(上段)瓦当貼付時 瓦当面のみ、瓦当貼合(複数個存在)	板作り、瓦当貼合(複数個存在)	61.73		
61100-38	唐里	瓦当全面積	16	16	金径(18.7) 1.0	幅(14.0) 1.9	瓦当面のみ、瓦当貼合	板作り、瓦当貼合	61.90		
61100-39	空当面瓦	内外面	9.7	7.0	金径(16.7) 1.0	幅(14.0) 1.9	瓦当面のみ、瓦当貼合	板作り、瓦当貼合	61.93		
61100-40	空当面瓦	内外面	11.6	9.0	金径(18.7) 0.8	幅(16.7) 1.8	口(青文) 調整	板作り、瓦当貼合	61.95		
61200-1	空当面瓦	内外面	9.7	7.0	金径(16.7) 1.1	幅(16.0) 1.8	無	板作り、瓦当貼合	61.98		

軒平瓦

測定値	測定上部-施設 全面積	施設場所	正規 (cm)						文様	成形・調整・その他	実測%
			上部幅	下部幅	弧度	高さ	文様面積	平底面			
61100-8	唐里	-	15.00	15.0	-	4.7	2.8	2.7	「三足文」	板作り、瓦当貼付、文様焼成	61.31
61100-9	唐里	-	-	-	-	4.8	2.8	2.8	「三足文」	板作り、瓦当貼付、文様焼成	61.36
61100-12	唐里	瓦当面・上端	19.4	17.0	7	4.00	2.0	2.05	「三足文」	板作り、瓦当貼合	61.50
61100-13	唐里	瓦当面・上端	19.4	17.0	7	4.00	2.0	2.05	「三足文」	板作り、瓦当貼合	61.50
61100-14	唐里	瓦当面・上端	19.4	17.0	7	4.00	2.0	2.05	「三足文」	板作り、瓦当貼合	61.50
61100-20	唐里	外面	16.0(残)	16.0(残)	-	重文(1.0)	2.3	2.2(2.0)	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.66
61100-31	唐里	-	14.0	14.0(残)	-	4.9	2.6	2.6	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.70
61100-32	唐里	-	14.0(残)	14.0(残)	-	4.1	2.6	2.6	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.70
61100-33	唐里	-	14.0(残)	14.0(残)	-	4.1	2.6	2.6	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.70
61100-35	唐里	瓦当面	16.0(残)	16.0(残)	-	重文(1.0)	2.3	2.2(2.0)	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.70
61100-36	唐里	-	11.0(残)	11.0(残)	-	4.3	2.7	2.6(2.0)	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.70
61200-1	空当	瓦当面	17.0	17.0	15.0	5.00	1.85	2.2	「三足文」	板作りの瓦當成、瓦當貼付	61.70

道具瓦

測定値	測定上部-施設 全面積	施設場所	正規 (cm)						文様	成形・調整・その他	実測%
			斜長	幅	厚さ	厚ム	斜長	幅			
61100-36	唐里	-	18.5(0)	30.0	3.0	斜長(34.5)	-	-	無	斜長(34.5)	61.40

丸瓦

測定値	測定上部-施設 全面積	施設場所	正規 (cm)						斜印	成形・調整・その他	実測%
			内径	外径	高さ	底面積	本瓦厚	本瓦底厚			
61100-13	唐里	-	11.4	4.0	6.85	0.7-2.5	14.55	16.80	無	板作りの瓦當成、内部側面凹部	61.20
61100-14	唐里	-	12.7	4.0	6.85	0.7-2.5	14.55	16.80	無	板作りの瓦當成、内部側面凹部	61.20
63060-22	唐里	-	11.8(残)	6.7	6.2	2.9-2.8	12.4(残)	13.8(残)	無	板作りの瓦當成、内部側面凹部	61.20
63060-23	唐里	-	11.8(残)	6.7	6.2	2.9-2.8	12.4(残)	13.8(残)	無	板作りの瓦當成、内部側面凹部	61.20
64100-42	唐里	-	6.9	5.5	2.3	15.3	21.4(残)	21.4(残)	無	板作りの瓦當成、内部側面凹部	61.20

平瓦

測定値	測定上部-施設 全面積	施設場所	正規 (cm)						斜印	成形・調整・その他	実測%
			宽度	厚度	厚度	宽度	厚度	厚度			
61100-14	唐里	-	25.8(残)	25.5	2.6	20.4(残)	2.0	2.0	無	—	61.36
61100-35	唐里	上部と右斜面	26.1	27.5	2.1	24.2	2.10	2.10	無	—	61.42
61100-36	唐里	-	(16.0-17.0)	(16.0-17.0)	2.0	20.0	1.8-2.0	1.8-2.0	無	板作りの瓦當成、内部側面凹部	61.42

様瓦

測定値	測定上部-施設 全面積	施設場所	正規 (cm)						斜印	成形・調整・その他	実測%
			宽度	厚度	厚度	宽度	厚度	厚度			
64100-43	空当	上部	(16.0)	(16.0)	3.2	22.7	2.3	2.3	無	ナラ(木)を用いた斜面の内側に木(木)を用いた斜面の内側	61.70

第2節 木製品

約750点を資料化し、そのうち364点を掲載。箸が一番多く、全体の約3割を占める。桶・樽・曲物などの容器の蓋や底板が次に多く2割弱ほどあり、漆椀と下駄がそれに次いで多い。木簡などの文字資料も約30点出土している。他の器種としては、楊枝、匙、切匙、木槌、砧、楔、鋤、糸巻、籠、刷毛、簪、砥石台、栓、燭台、提灯、折敷、箱物、鴨居、上水道継手、櫛、人形、独楽、将棋の駒、舟形、鳥形、虫籠などがあるが、他に加工木とした不明なものも多い。遺物の時期は約4割が16世紀末～17世紀初頭であり、17世紀代と18世紀～19世紀がそれぞれ3割弱である。遺構の種類としては、ゴミ廐棄土坑がほとんどで、特に53032からは遺物の約4割を占める100点を超える多様な遺物が出土している。堀などからも出土している。以下出土量が多いものや特徴的なものについて若干述べる。

漆器椀（第141図～144図） 約120点が出土し、そのうち100点を掲載した。椀の分類は、主に口径と器高の割合により行った。第141図1～第142図4は、器高に対して口径が概ね1:2以上になり、高台も高く飯椀に相当するものである。この内第141図19・22は、他のものより小型である。また、第141図22と第142図2は上塗りが内外とも赤色である。第142図4は高台近くに稜線が入る一文字腰椀である。第142図5～第143図11は、器高に対して口径が概ね1:2～1:3であり、高台は低い。汁椀に相当する。第143図12～第144図6は、器高に対して口径が概ね1:2.5以下であり、一部は蓋の可能性もあるが、高台部に文様がないものは椀とした。第144図7～13は、蓋である。第144図14・15は、高台の高さに対して、体部が低い腰高である。第144図16は器形としては豆子と称されるもので、いわゆる根来塗かと考えられる。体部は中央に、一条の削り出しによる凸帯（かつら）が巡る。上塗は、内外共赤だが、高台裏と口唇部そしてかつらの部分のみ黒に塗り残している。第144図18は高台部近くの体部に稜線が巡る、一文字腰椀Bである。第144図17と19～21は、体部がほぼ垂直に立ち上がる平椀である。20と21には、かつらがある。以下、第8表の漆器上塗り一覧について触れる。上塗りは全体からすると、外面黒内面赤が7割で、内外共黒が2割、内外共赤が若干ある。時期別に見ると、16世紀末～17世紀初頭では、外黒内赤が約6割強で総黒が4割弱、17世紀代では、外黒内赤が約8割で総黒が1割弱、18世紀～19世紀では、外黒内赤が約8割で総黒が2割と変化する。漆絵は全体の9割弱にあり、約8割が外面のみである。種類は、植物が4割弱、鶴亀などと松などの植物を組み合わせる蓬莱文が3割弱である。16世紀末～17世紀初頭の廐棄土坑53032の遺物は、松・鶴を主体とする蓬莱文では占められる。漆絵の使用色は、黄色は17世紀代が9割弱で、銀は18～19世紀が8割弱である。高台裏に漆文字・記号や刻文を記すものが30点ほどあり、漆文字には「上・一」などがあり、刻文には「十・二つ鱗・隅立井筒」などがある。これらは、すべて16世紀末～17世紀初頭のものである。

箸（第145図15～28） 約220点を資料化し、14点を掲載した。一端のみ細く削られる片口箸（16・26）、両箸とも削られる両口箸（15、17～20、22・23、25～27）、中央と端が同じ太さの寸胴箸（21）があり、両口箸が7割強、片口箸が2割ほど、寸胴箸が1割弱を占める。長さは、約18cm～33cmまであり、24.5cm～28.5cmで6割弱、22cm～24.5cmで3割弱、29cm以上で2割弱を占める。1点だが、漆塗箸があり、黒漆で上部のみが赤漆となり、赤漆で同心円文を描く。同様のものが、福井城跡の地下駐車場地点と5号線地点でも出土している。

楊枝（第145図5～14） 11は、頭部を斜めに切り、先端を尖らせる板状のもので、平楊枝。5・6は、先端が一端または両端から斜めに切られるもの。7～10・12～14は、先端が全周から削られ尖るもの。

切匙 (第146図1~16) 握鉢の握目に詰まったものをとるための道具と言われるが、先端が長くナイフ様のもの(1~4・10~15)から、短く三角形に近いもの(5~9・16)まで多種のものがあり、用途も多様であったと考えられる。

鍔 (第147図2・3) 着柄角度は、2が75°であり、3が70°である。

鴨居 (第147図9・10) 鴨居を再利用したもの。溝の幅は約2cmで、深さは約1.5cmである。

容器類 (第147図11~20・第148図1~第149図3) 約130点が出土している。ここで扱う容器とは、曲物・桶・樽・杓などであり、直径は約6~53cmまである。10cm以下は約3割、15cm以下で6割弱、21cm以下で7割を占める。22~34cmは2割ほど、40cm前後と50cm前後は5分ほどを占める。柄杓と分かれるものは、6.5~11.5cmまであり、曲物と分かれるものは7.5cmと22cmにある。第148図6・7には取手が付き、落とし蓋などになる。23は底部に3足が付きお茶などに使用する水差である。

折敷 (第147図23~28) 長さにより3種類に分けられ、1尺(23・24)、約7寸(25)、約3.5寸(28)となる。26は外黒内赤に漆塗りされる蝶足膳で、最も格式の高い膳と言われる。27は、黒漆塗り。

取手・脚 (第149図4~6・10) 4は、鍋などの蓋の取手。5は、足打折敷の脚。

継手 (第149図13~16) 竹製の上水道管である竹樋の継手である。継手の役割として、単に延長する、方向を変える、太さを変えるなどがあるが、13・15・16は単なる延長のため、14には板材が付属しており、本来は太さと方向を変えるためだったが、板材により穴の大きさを調整し単に延長するためのものとしている。断面形は、16が方形で、14・15が三角形、13は方形の角を面取し六角形となる。用材としては、16が芯持材で、その他は角材もしくは分割材である。穴は13のみが方形で角を取るが、他は円形である。径は、12.5cm・7.5cm前後・4.5cm前後がある。13・14には焼印がある。

将棋駒 (第150図4・5) 4は赤漆描きである。5は墨書で「歩兵」である。

独楽 (第150図6~8) 6は、上面が平坦で、中央部が擂鉢状に窪んでおり、軸を刺したと考えられる穴があり、丸みを帯びた砲弾形をしている。7・8は鉄芯を持ち、上面中央部が盛り上がっている。

加工木 (第150図11・14) 11は、板状のものの片面に、格子目状に掘り込みを入れるものである。14は、長さ12cmほどの材の側面に、径0.2cmほどの穴を30個、0.4cmほどの間隔で開けているもので、この穴に竹ひごなどを立て刺した、虫籠の枠木ではないかと考えられる。

櫛 (第150図18~29) 歯の間隔が粗い解櫛(18~23)と毛筋立(26)、間隔が密である梳櫛(24・25・27~29)がある。時期的に見ると20・21・25の16世紀末~17世紀初頭より、18・28の18~19世紀の方が、大型化していると考えられる。27は、棟に金で鳥などの高蒔絵を施す。

下駄 (第151図~155図) 約100点が出土し、83点を掲載。時期別では、16世紀代が1点、16世紀末~17世紀初頭が31点、17世紀代が20点、18~19世紀が31点となる。器種は一本、差歎、無歎、付歎に大きく分かれ、さらに一本は連歎下駄と朝引下駄に、差歎は露卯下駄と陰卯下駄に分かれる(第11表参照)。器種毎の時期別傾向をみると、連歎下駄は、16世紀代が1点、16世紀末~17世紀が3割、17世紀代が5割、18~19世紀が3割と各時代一定量を占めている。陰卯下駄は、すべて18~19世紀。無歎下駄は、16世紀末~17世紀初頭に8割弱であるとの時期は若干。露卯下駄は、17世紀以前で8割、18世紀以降は2割を占める。朝引下駄は16世紀末~17世紀初頭に若干あるが、18世紀~19世紀で8割弱を占める。連歎下駄の第152図1・4・7では、歎の先端から台にかけての側面観が直角をなさず、曲線的となる。これらの時期はすべて、18世紀後半~19世紀である。また、第152図5では、台の裏中央部が突出し、断面三角形となっている。無歎下駄は、草履下駄や雪下駄などとも呼ばれるものであり、横縫穴と歎がない

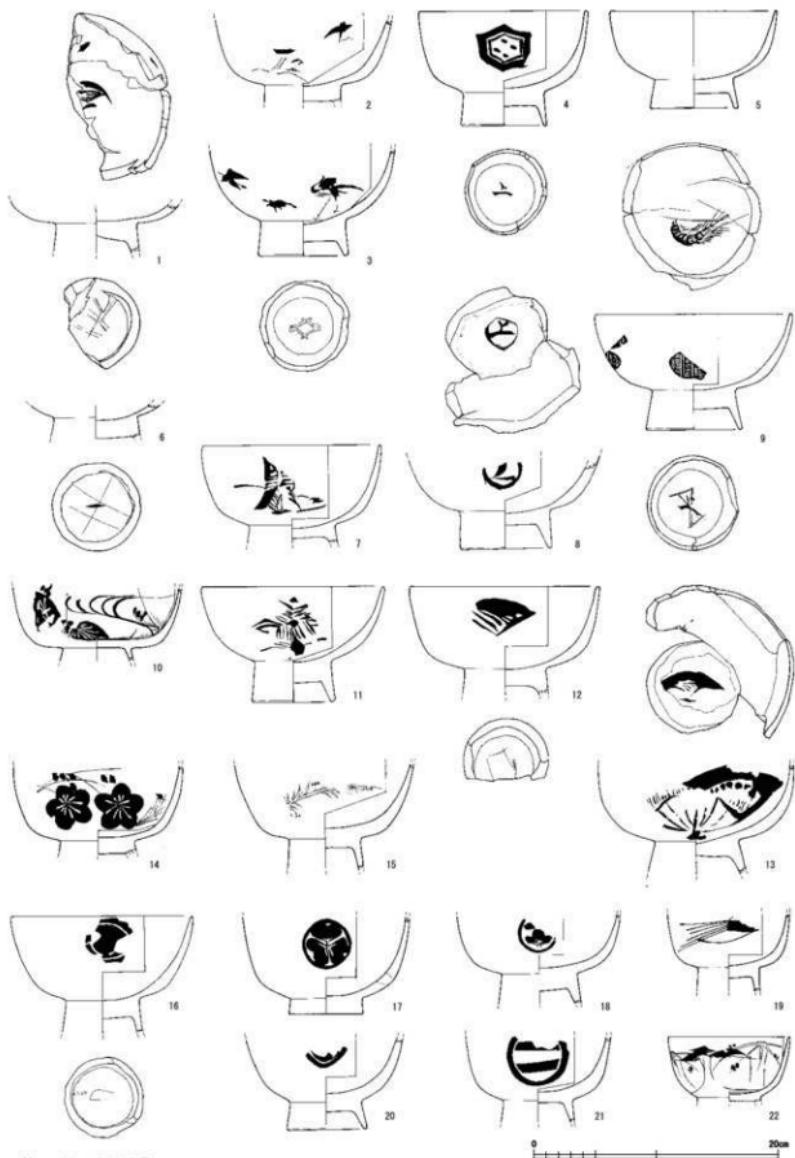
第2節 木製品

ものと横縫穴はあるが歯はないものに分かれる。草履の鼻緒を下駄の鼻緒穴に通して、草履と一緒にして使用するもの。第155図19・20は、釘が6本打たれており、すべり止めのためかと考えられる。付歎下駄としたもの（第155図21・22）は、元々前縫穴のみの無歎下駄であったものに、後に21は後歎のみを、22は両歎を付け足したものである。台の表に焼印や格子目文が記されるものがある（第152図14・15、第153図11、第154図5・10）。これらは、呪符記号であると考えられる。すべて16世紀末～17世紀初頭の廃棄土坑53032の遺物である。福井城跡の地下駐車場地点でも16世紀代の遺構から花弁と格子目文が焼印されているものが出土している。

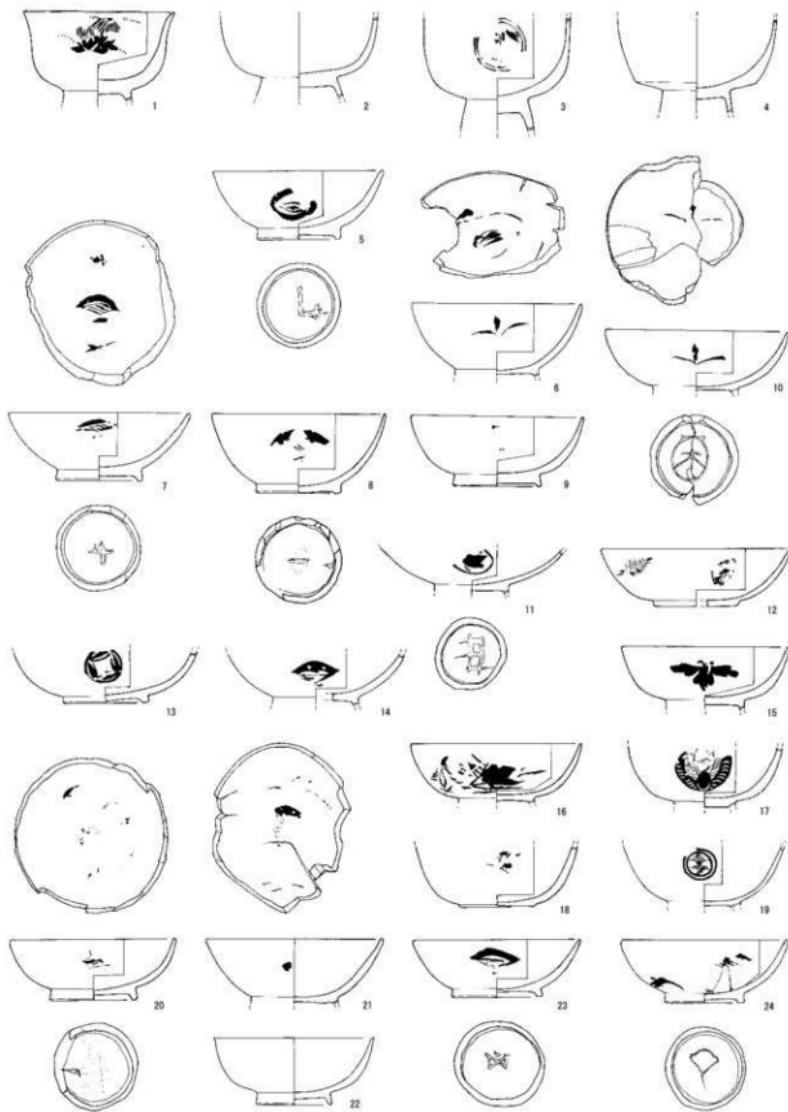
文字資料（第156図） 約30点が出土している。1～8・11～14は荷付札などの木簡と考えられるもので、9と15以降はそれ以外の文字資料である。8は、かつて出土したものの中で最大のものである。1・2はほぼ同じ形式で、品名の餅米、当級の上々白、内容量、日付、人名の藤三郎が記される。3もおそらく同様だと考えられる。4・5には、村名と日付、裏側に人名を記す。16・17には、花押を記す。20には人と動物それに鳥居のようなものが、23にも動物が描かれている。9・18・19は習書である。

第7表 出土木製品一覧表

通番番号	時期	点数	略名	種類・品数				
				木筒	木桶	漆器	その他	
62627	15c後	1		1				
62628	15c後～中	4	15c	木桶	1			
62629	15c後	1		木桶	1			
62630	15c後	1		木桶	1			
626300-3	15c後	3						
62632	15c後～16c前	104	15c	25	23	8		
62633	15c後	9		4	1	1	1	
62634	15c後	6		3	1			
626341	15c後	5		2	2	1		
626342	15c後	3		4				
626350-33501	15c後	1		2				
626351	15c後～16c前	1						
626352	15c後	2		2	1			
626353	15c後	2		2	1			
626354	15c後	3		2	2	1		
626355	15c後	2		2	1			
626356	15c後	1		1	1			
626357	15c後	2		2	1			
626358	15c後	2		2	1			
626359	15c後	2		2	1			
626360	15c後	1		1	1			
626361	15c後	1		1	1			
626362	15c後	1		1	1			
626363	15c後	1		1	1			
626364	15c後	1		1	1			
626365	15c後	1		1	1			
626366	15c後	1		1	1			
626367	15c後	1		1	1			
626368	15c後	1		1	1			
626369	15c後	1		1	1			
626370	15c後	1		1	1			
626371	15c後	1		1	1			
626372	15c後	1		1	1			
626373	15c後	1		1	1			
626374	15c後	1		1	1			
626375	15c後	1		1	1			
626376	15c後	1		1	1			
626377	15c後	1		1	1			
626378	15c後	1		1	1			
626379	15c後	1		1	1			
626380	15c後	1		1	1			
626381	15c後	1		1	1			
626382	15c後	1		1	1			
626383	15c後	1		1	1			
626384	15c後	1		1	1			
626385	15c後	1		1	1			
626386	15c後	1		1	1			
626387	15c後	1		1	1			
626388	15c後	1		1	1			
626389	15c後	1		1	1			
626390	15c後	1		1	1			
626391	15c後	1		1	1			
626392	15c後	1		1	1			
626393	15c後	1		1	1			
626394	15c後	1		1	1			
626395	15c後	1		1	1			
626396	15c後	1		1	1			
626397	15c後	1		1	1			
626398	15c後	1		1	1			
626399	15c後	1		1	1			
626400	15c後	9		4	1	1	1	
626401	15c後	1		1	1	1	1	
626402	15c後	1		1	1	1	1	
626403	15c後	1		1	1	1	1	
626404	15c後	1		1	1	1	1	
626405	15c後	1		1	1	1	1	
626406	15c後	1		1	1	1	1	
626407	15c後	1		1	1	1	1	
626408	15c後	1		1	1	1	1	
626409	15c後	1		1	1	1	1	
626410	15c後	1		1	1	1	1	
626411	15c後	1		1	1	1	1	
626412	15c後	1		1	1	1	1	
626413	15c後	1		1	1	1	1	
626414	15c後	1		1	1	1	1	
626415	15c後	1		1	1	1	1	
626416	15c後	1		1	1	1	1	
626417	15c後	1		1	1	1	1	
626418	15c後	1		1	1	1	1	
626419	15c後	1		1	1	1	1	
626420	15c後	1		1	1	1	1	
626421	15c後	1		1	1	1	1	
626422	15c後	1		1	1	1	1	
626423	15c後	1		1	1	1	1	
626424	15c後	1		1	1	1	1	
626425	15c後	1		1	1	1	1	
626426	15c後	1		1	1	1	1	
626427	15c後	1		1	1	1	1	
626428	15c後	1		1	1	1	1	
626429	15c後	1		1	1	1	1	
626430	15c後	1		1	1	1	1	
626431	15c後	1		1	1	1	1	
626432	15c後	1		1	1	1	1	
626433	15c後	1		1	1	1	1	
626434	15c後	1		1	1	1	1	
626435	15c後	1		1	1	1	1	
626436	15c後	1		1	1	1	1	
626437	15c後	1		1	1	1	1	
626438	15c後	1		1	1	1	1	
626439	15c後	1		1	1	1	1	
626440	15c後	1		1	1	1	1	
626441	15c後	1		1	1	1	1	
626442	15c後	1		1	1	1	1	
626443	15c後	1		1	1	1	1	
626444	15c後	1		1	1	1	1	
626445	15c後	1		1	1	1	1	
626446	15c後	1		1	1	1	1	
626447	15c後	1		1	1	1	1	
626448	15c後	1		1	1	1	1	
626449	15c後	1		1	1	1	1	
626450	15c後	1		1	1	1	1	
626451	15c後	1		1	1	1	1	
626452	15c後	1		1	1	1	1	
626453	15c後	1		1	1	1	1	
626454	15c後	1		1	1	1	1	
626455	15c後	1		1	1	1	1	
626456	15c後	1		1	1	1	1	
626457	15c後	1		1	1	1	1	
626458	15c後	1		1	1	1	1	
626459	15c後	1		1	1	1	1	
626460	15c後	1		1	1	1	1	
626461	15c後	1		1	1	1	1	
626462	15c後	1		1	1	1	1	
626463	15c後	1		1	1	1	1	
626464	15c後	1		1	1	1	1	
626465	15c後	1		1	1	1	1	
626466	15c後	1		1	1	1	1	
626467	15c後	1		1	1	1	1	
626468	15c後	1		1	1	1	1	
626469	15c後	1		1	1	1	1	
626470	15c後	1		1	1	1	1	
626471	15c後	1		1	1	1	1	
626472	15c後	1		1	1	1	1	
626473	15c後	1		1	1	1	1	
626474	15c後	1		1	1	1	1	
626475	15c後	1		1	1	1	1	
626476	15c後	1		1	1	1	1	
626477	15c後	1		1	1	1	1	
626478	15c後	1		1	1	1	1	
626479	15c後	1		1	1	1	1	
626480	15c後	1		1	1	1	1	
626481	15c後	1		1	1	1	1	
626482	15c後	1		1	1	1	1	
626483	15c後	1		1	1	1	1	
626484	15c後	1		1	1	1	1	
626485	15c後	1		1	1	1	1	
626486	15c後	1		1	1	1	1	
626487	15c後	1		1	1	1	1	
626488	15c後	1		1	1	1	1	
626489	15c後	1		1	1	1	1	
626490	15c後	1		1	1	1	1	
626491	15c後	1		1	1	1	1	
626492	15c後	1		1	1	1	1	
626493	15c後	1		1	1	1	1	
626494	15c後	1		1	1	1	1	
626495	15c後	1		1	1	1	1	
626496	15c後	1		1	1	1	1	
626497	15c後	1		1	1	1	1	
626498	15c後	1		1	1	1	1	
626499	15c後	1		1	1	1	1	
626500	15c後	1		1	1	1	1	
626501	15c後	1		1	1	1	1	
626502	15c後	1		1	1	1	1	
626503	15c後	1		1	1	1	1	
626504	15c後	1		1	1	1	1	
626505	15c後	1		1	1	1	1	
626506	15c後	1		1	1	1	1	
626507	15c後	1		1	1	1	1	
626508	15c後	1		1	1	1	1	
626509	15c後	1		1	1	1	1	
626510	15c後	1		1	1	1	1	
626511	15c後	1		1	1	1	1	
626512	15c後	1		1	1	1	1	
626513	15c後	1		1	1	1	1	
626514	15c後	1		1	1	1	1	
626515	15c後	1		1	1	1	1	
626516	15c後	1		1	1	1	1	
626517	15c後	1		1	1	1	1	
626518	15c後	1		1	1	1	1	
626519	15c後	1		1	1	1	1	
626520	15c後	1		1	1	1	1	
626521	15c後	1		1	1	1	1	
626522	15c後	1		1	1	1	1	
626523	15c後	1		1	1	1	1	
626524	15c後	1		1	1	1	1	
626525	15c後	1	</					

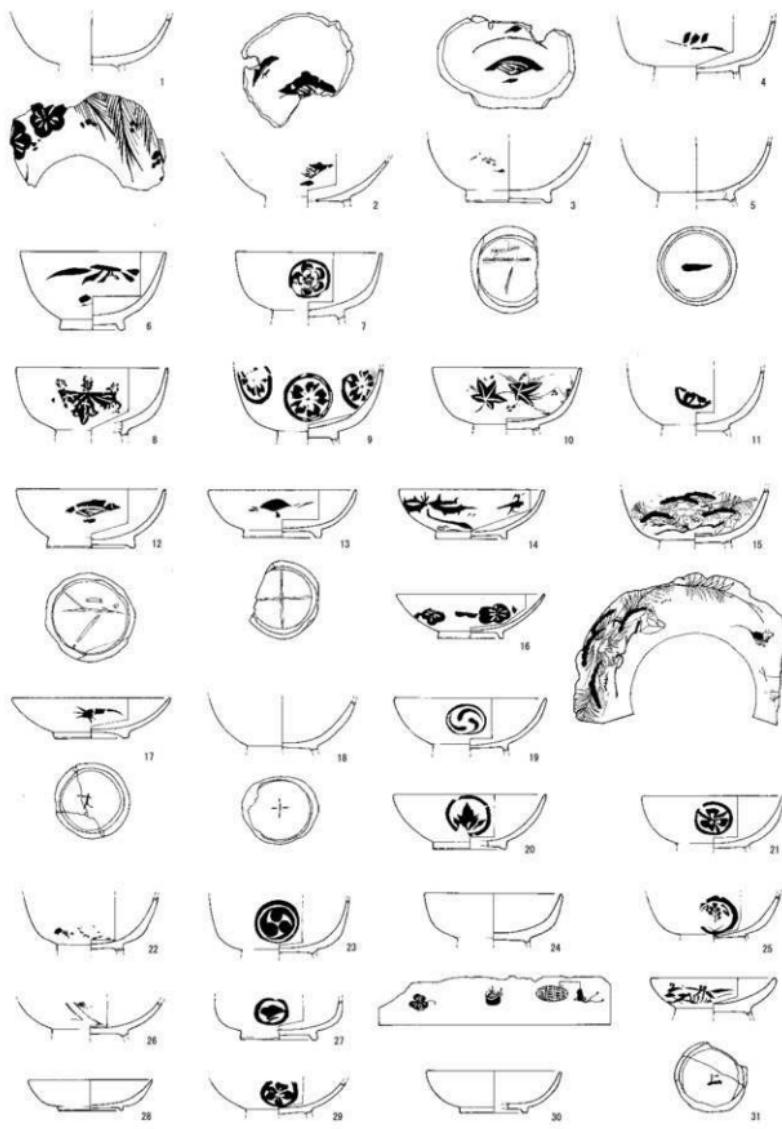


第141図 漆器類①

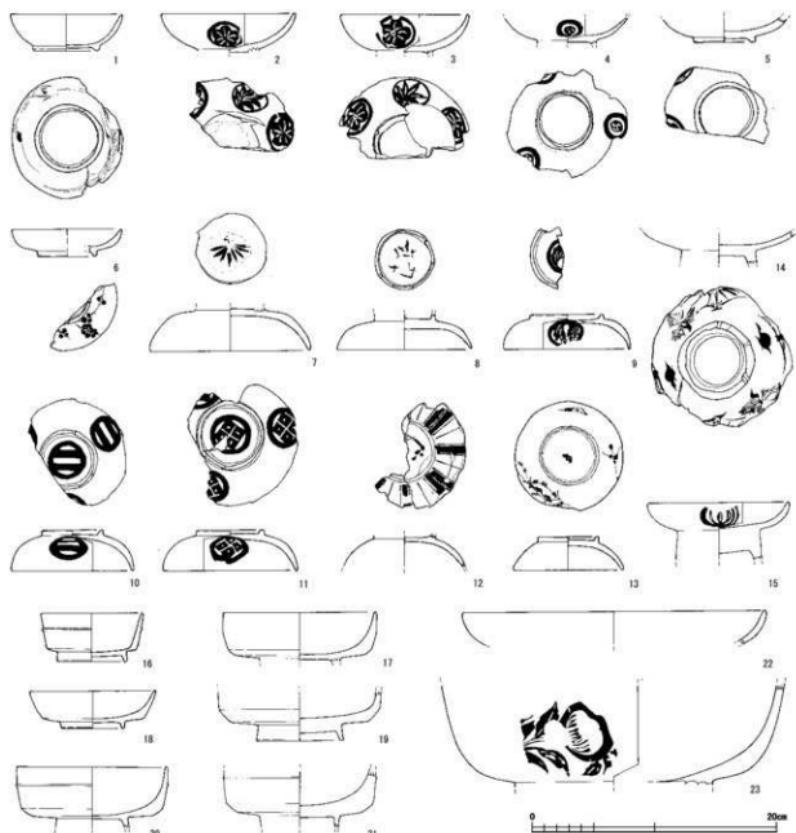


第142図 漆器掩②

0 20cm



第143図 漆器輪③



第144図 漆器碗④

第8表 漆器碗上塗り一覧表

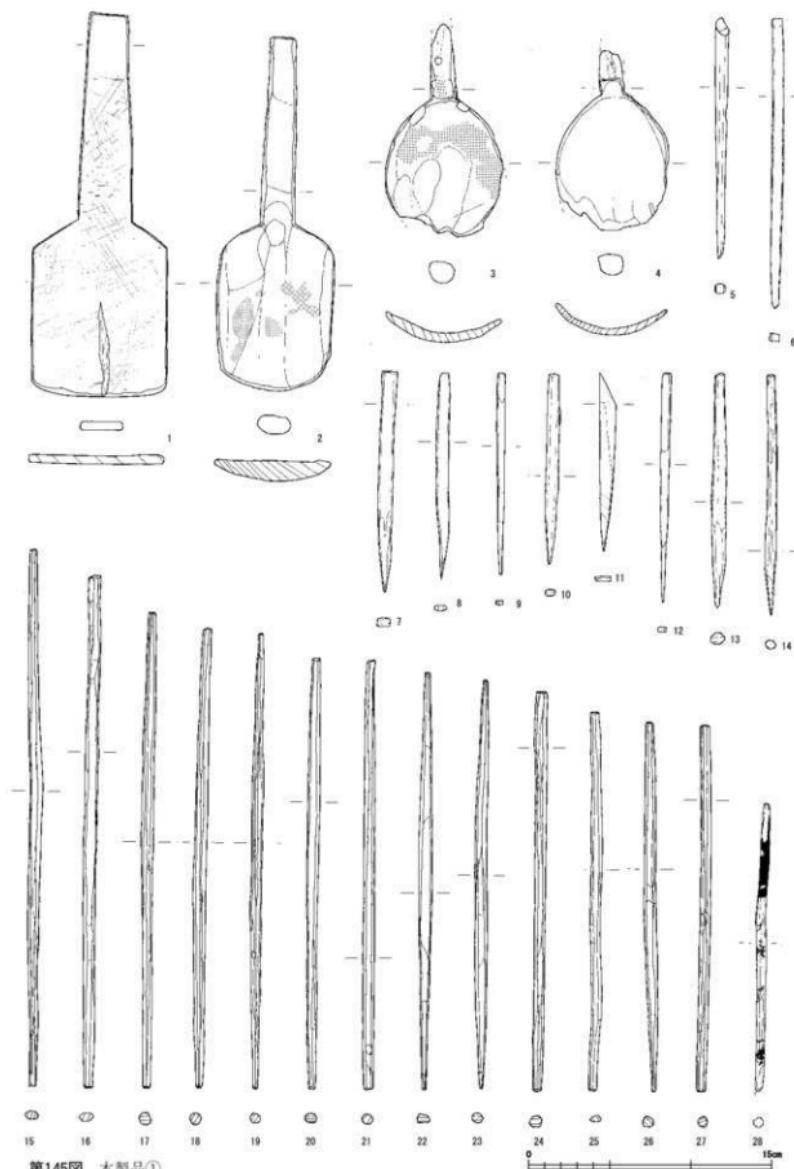
種類	上塗り						表面	内面	外側上塗り	内側のみ	朱絞(○)	朱絞(△)	分離	
	漆器	赤、黒	黒、黒	赤、赤	赤、赤	赤、赤								
点数	100	20	24	5	1	84	13	3	69	32	0	22	4	25
割合(%)	—	20	24	5	1	84	13	3	62	36	0	35	5	30
漆器使用年 時期	16世紀末~17世紀初 17世紀 18世紀~19世紀 19世紀	7 11 3 6												
点数	—	20	24	5	1	84	13	3	62	36	0	35	5	30
割合(%)	—	20	24	5	1	84	13	3	62	36	0	35	5	30
漆器種類 時期	漆器文 16世紀末~17世紀初 17世紀 18世紀~19世紀 19世紀	7 11 3 6												
点数	23 31 11 8	8 5 1 5												
割合(%)	27 37 13 10	27 37 13 10												
漆器 種類 時期	漆器文 16世紀末~17世紀初 17世紀 18世紀~19世紀 19世紀	7 11 3 6												
点数	23 31 11 8	8 5 1 5												
割合(%)	27 37 13 10	27 37 13 10												
漆器 種類 時期	漆器文 16世紀末~17世紀初 17世紀 18世紀~19世紀 19世紀	7 11 3 6												
点数	23 31 11 8	8 5 1 5												
割合(%)	27 37 13 10	27 37 13 10												
漆器 種類 時期	漆器文 16世紀末~17世紀初 17世紀 18世紀~19世紀 19世紀	7 11 3 6												
点数	23 31 11 8	8 5 1 5												
割合(%)	27 37 13 10	27 37 13 10												

高台面		122		表面	内面	外側上塗り	内側のみ	朱絞(○)	朱絞(△)	分離
漆器種類	上	一	二	引目	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引
漆器種類	上	—	—	引目	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引
点数	3	2	—	—	—	—	—	—	—	—
高台面		195		表面	内面	外側上塗り	内側のみ	朱絞(○)	朱絞(△)	分離
漆器種類	上	平	二つ締め	織立て	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引
漆器種類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
点数	3	2	—	—	—	—	—	—	—	—
漆器 文・図案		86		表面	内面	外側上塗り	内側のみ	朱絞(○)	朱絞(△)	分離
漆器種類	上	一	引目	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引
漆器種類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
点数	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
漆器 文		13		表面	内面	外側上塗り	内側のみ	朱絞(○)	朱絞(△)	分離
漆器種類	上	一	引目	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引
漆器種類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
点数	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
漆器 文		23		表面	内面	外側上塗り	内側のみ	朱絞(○)	朱絞(△)	分離
漆器種類	上	一	引目	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引	黒引
漆器種類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
点数	8	3	4	3	2	1	1	1	1	1

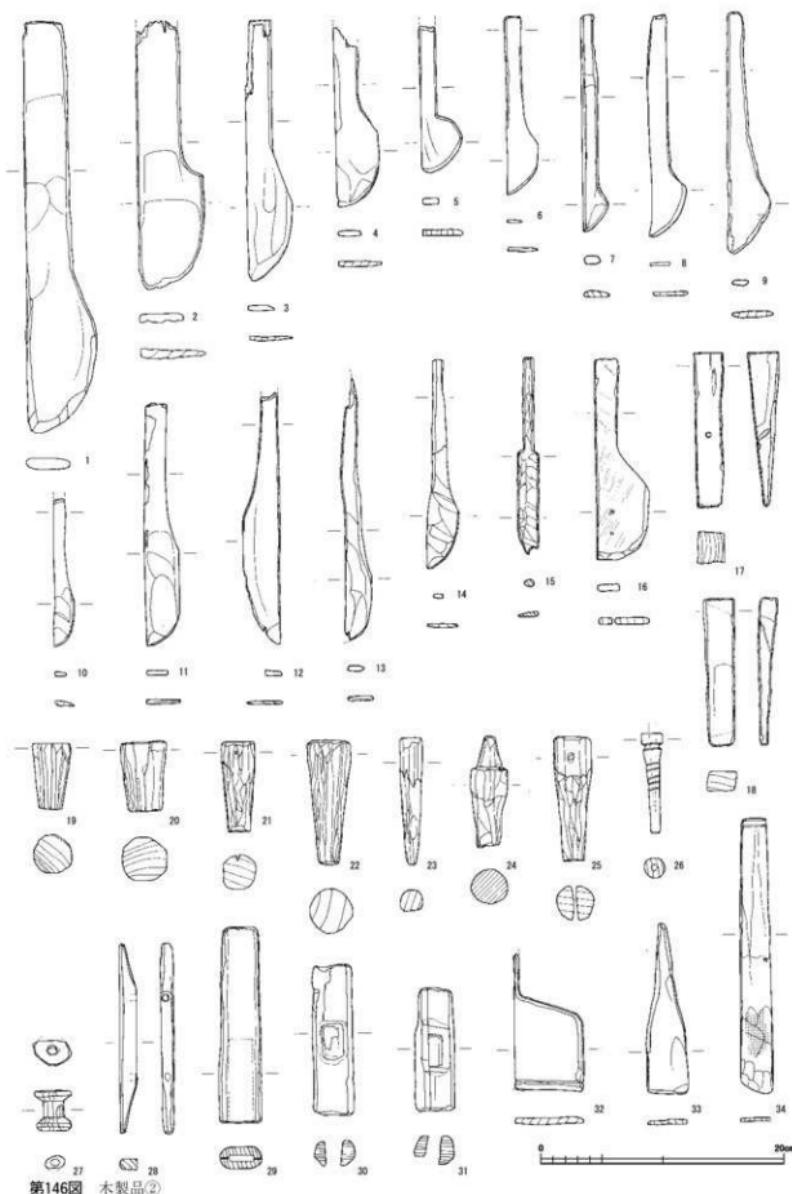
第9表 漆器挽観察表

登録番号	区分番号	件 番	器種	漆					列文	漆大元(付 合)種類	直径(cm)	高さ (cm)	備考	
				内面	外側	底	蓋	縁						
141-1	—	53001	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	赤文支(漆物)	14.6	3.0	高台脚平	
141-2	—	53002	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	赤文支(漆物)	14.4	3.9	高台脚	
141-3	—	20003	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	赤文支(漆物)	15.2	8.7	7.4	2.9
141-4	18	20308	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔上〕	13.9	9.4	7.0	2.7
141-5	18	20309	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔上〕	13.9	9.4	7.0	2.7
141-6	—	53004	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔上〕	13.8	9.4	7.0	2.7
141-7	—	53002	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔上〕	13.8	9.4	7.0	2.7
141-8	—	20302~20304	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	14.6	9.1	9.4	3.0
141-9	18	00-216	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	15.6	7.5	7.5	3.2
141-10	—	50204	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	15.6	7.5	7.5	3.2
141-11	—	50205	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	15.6	7.5	7.5	3.2
141-12	—	50400	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	15.9	9.9	8.6	3.1
141-13	—	50400	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	15.6	9.9	7.0	3.1
141-14	18	53130	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.6	9.0	9.0	2.7
141-15	18	53131	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.9	7.2	9.3	3.1
141-16	—	00-154	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.8	9.6	9.6	2.7
141-17	28	63352	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	12.6	9.0	6.6	2.1
141-18	—	63357	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.4	7.3	8.0	2.0
141-19	18	63416~63418	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.2	9.0	7.0	2.7
141-20	18	63421~63423	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.8	7.0	6.6	2.1
141-21	18	62008	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	11.8	7.0	6.6	1.8
141-22	19	63521	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	10.0	5.3	9.2	2.1
141-23	18	00-216	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.4	7.0	6.6	2.1
141-24	18	20302	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	12.6	6.0	9.2	1.8
141-25	18	20303	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	12.0	6.0	9.2	2.7
141-26	—	20304	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-27	—	20305	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-28	—	20306	16c末~17c初 漆箱	漆	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-29	18	63408	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-30	18	63409	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-31	18	63410	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-32	18	63411	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-33	18	63412	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-34	—	63522	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-35	18	63413	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-36	18	63414	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-37	18	63415	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-38	—	63523	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-39	18	63416	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-40	18	63417	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-41	18	63418	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-42	18	63419	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-43	18	63420	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-44	19	63421	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-45	19	63422	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-46	—	63423	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-47	—	63424	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-48	—	63425	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-49	—	63426	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-50	—	63427	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-51	—	63428	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-52	—	63429	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-53	—	63430	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-54	—	63431	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-55	—	63432	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-56	—	63433	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-57	—	63434	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-58	—	63435	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-59	—	63436	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-60	—	63437	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-61	—	63438	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-62	—	63439	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-63	—	63440	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-64	—	63441	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-65	—	63442	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-66	—	63443	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-67	—	63444	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-68	—	63445	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-69	—	63446	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-70	—	63447	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-71	—	63448	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-72	—	63449	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-73	—	63450	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-74	—	63451	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-75	—	63452	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-76	—	63453	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-77	—	63454	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-78	—	63455	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-79	—	63456	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-80	—	63457	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-81	—	63458	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-82	—	63459	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-83	—	63460	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-84	—	63461	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-85	—	63462	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-86	—	63463	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-87	—	63464	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-88	—	63465	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-89	—	63466	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-90	—	63467	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-91	—	63468	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-92	—	63469	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-93	—	63470	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆	漆	有	〔中〕	13.0	7.0	6.6	2.7
141-94	—	63471	17c~の 17c	漆箱	漆	漆	漆</							

第2節 木製品

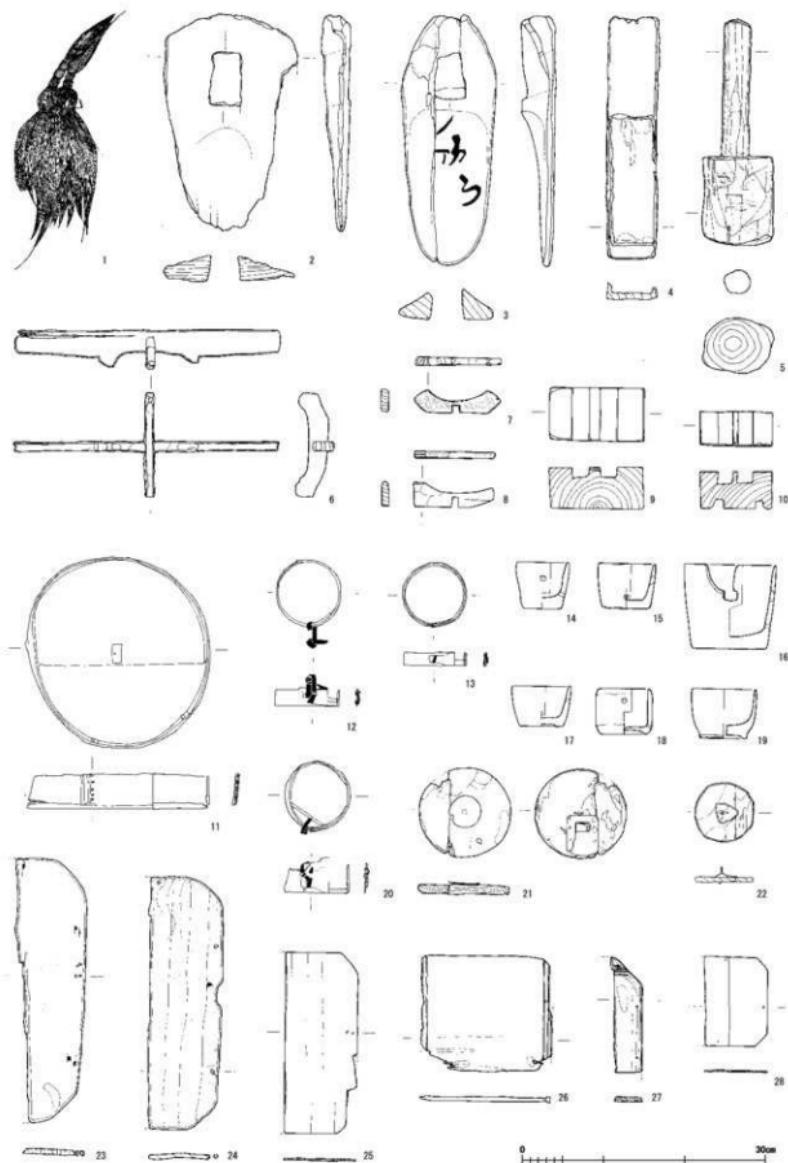


第145図 木製品①

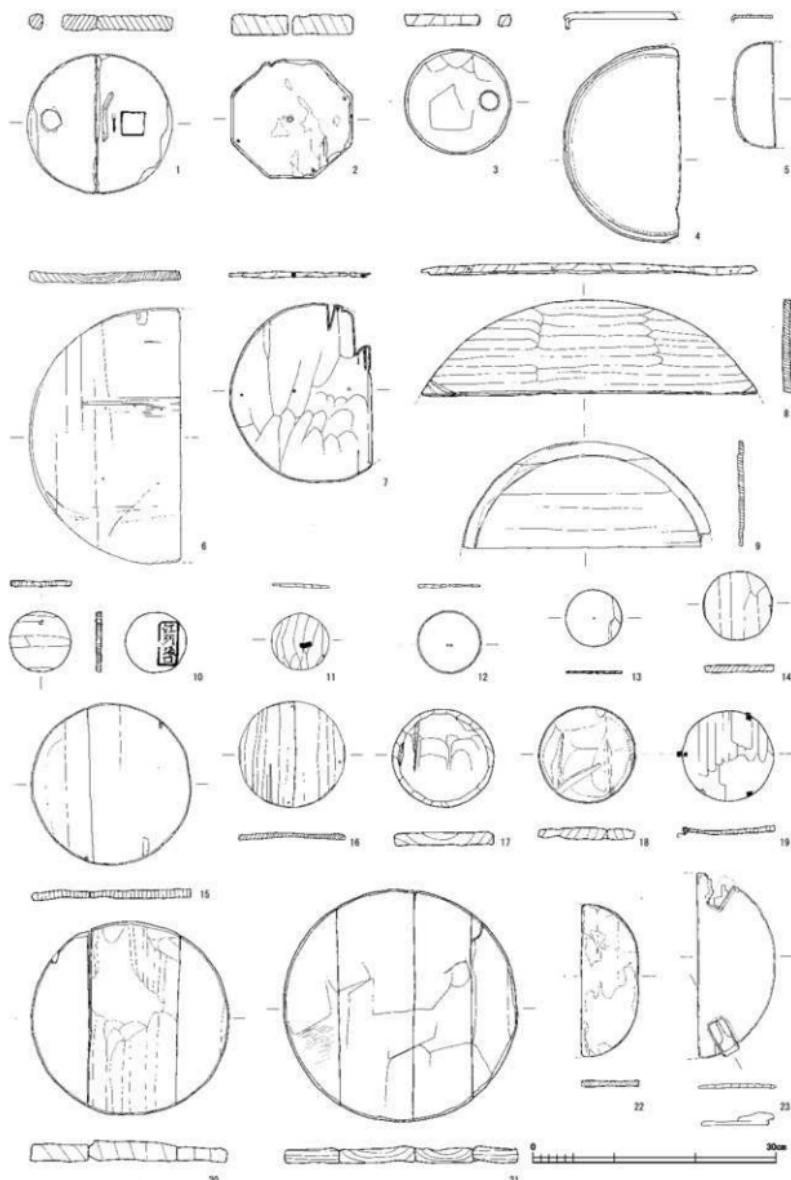


第146図 木製品②

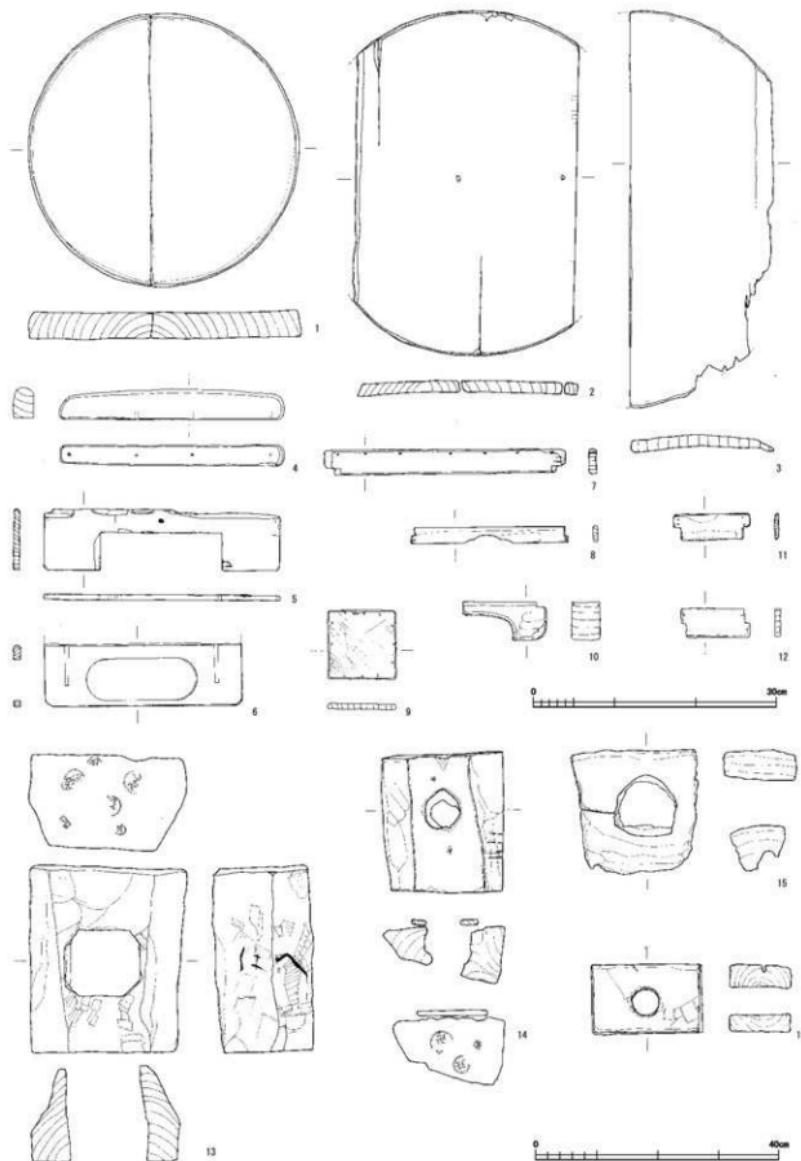
第2節 木製品



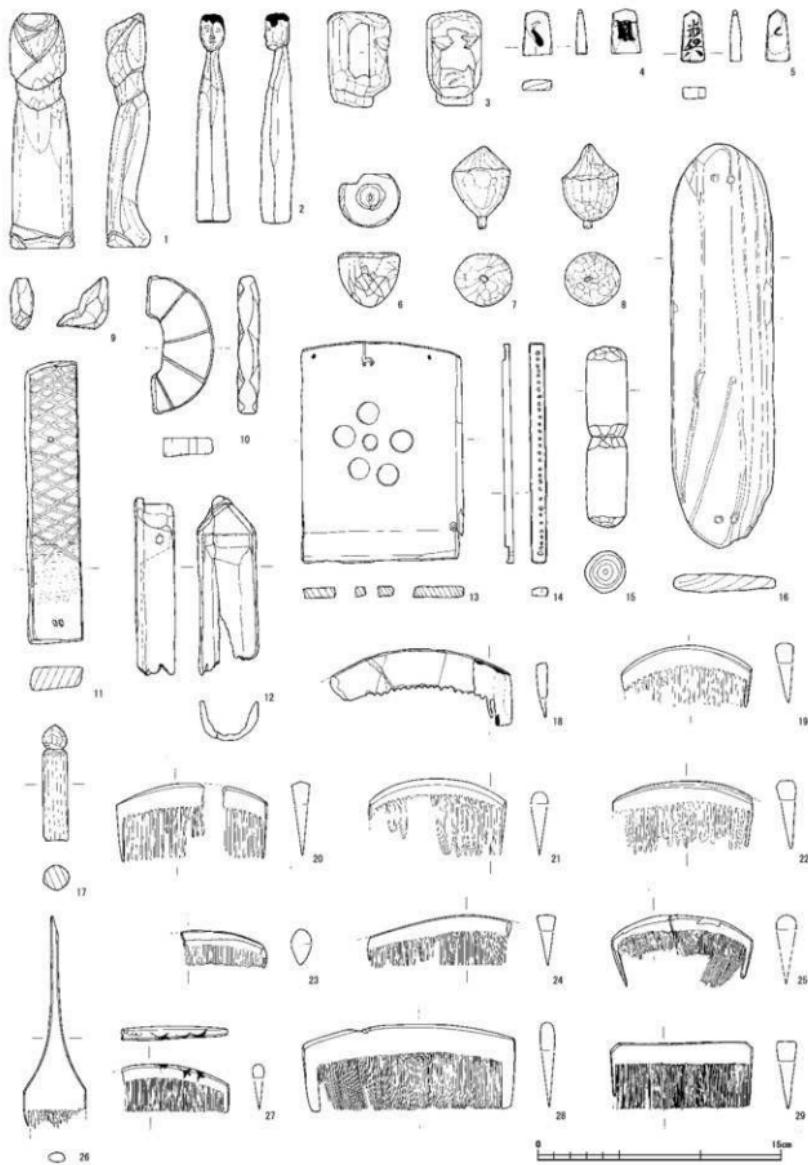
第147図 木製品③



第148図 木製品④



第149図 木製品⑤



第150図 木製品⑥

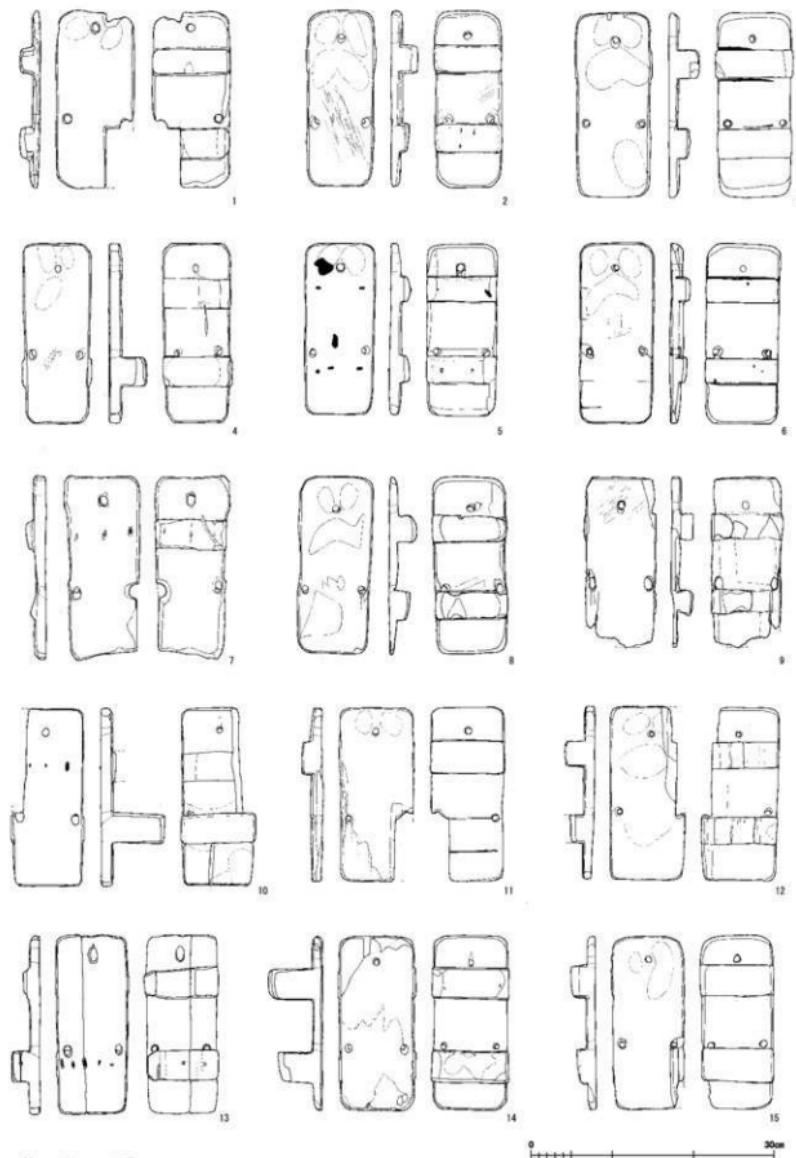
第2節 木製品

第10表 木製品觀察表

第11章 下財一敗者

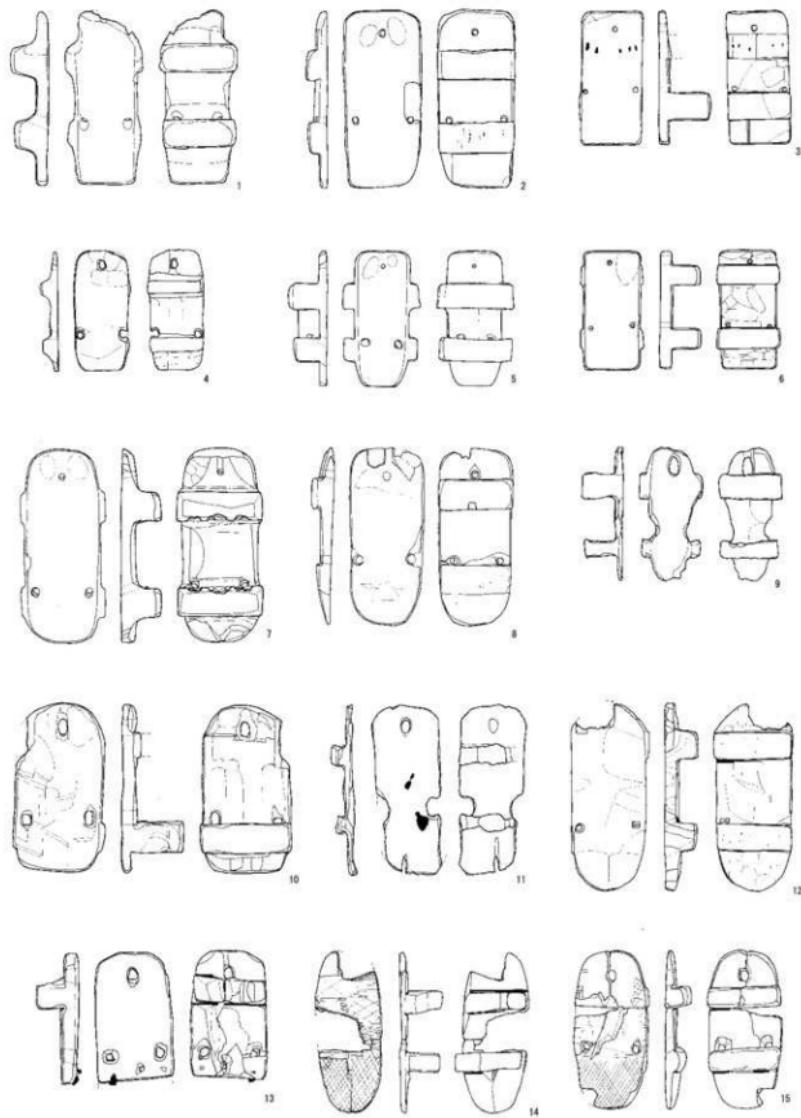
第一回 表			风氏
罪名	点数	%	分 類
逆宗	30	36	方形 小形卦 九
朝旨	9	11	画偏卦 画偏卦
盗用	15	18	方卦(火2) 九(火2)
擅用	9	11	方卦 九
無用	18	22	六一 卦3
付曲	2	2	155-21-22

回数	固有番号	前進番号	時 期	種類	計 (kg)		備 考
					前	後	
1	00008	00008	昭和 10 年 1 月	鳥類	5.6	1.0	
2	00009	00009	同上	鳥類	8.0	2.2	
3	00010	00010	同上	鳥類	8.2	4.1	
4	00011	00011	同上	鳥類	8.2	4.1	
5	00012	00012	同上	鳥類	11.3	2.6	トビ
6	00013	00013	昭和 10 年 1 月	鳥類	12.0	2.0	カツラギ
7	00014	00014	同上	鳥類	12.2	0.6	0.7
8	00015	00015	同上	鳥類	13.5	10.0	0.6
9	00016	00016	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
10	00017	00017	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
11	00018	00018	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
12	00019	00019	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
13	00020	00020	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
14	00021	00021	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
15	00022	00022	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
16	00023	00023	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
17	00024	00024	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
18	00025	00025	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
19	00026	00026	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
20	00027	00027	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
21	00028	00028	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
22	00029	00029	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
23	00030	00030	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
24	00031	00031	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
25	00032	00032	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
26	00033	00033	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
27	00034	00034	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
28	00035	00035	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
29	00036	00036	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
30	00037	00037	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
31	00038	00038	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
32	00039	00039	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
33	00040	00040	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
34	00041	00041	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
35	00042	00042	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
36	00043	00043	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
37	00044	00044	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
38	00045	00045	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
39	00046	00046	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
40	00047	00047	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
41	00048	00048	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
42	00049	00049	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
43	00050	00050	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
44	00051	00051	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
45	00052	00052	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
46	00053	00053	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
47	00054	00054	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
48	00055	00055	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
49	00056	00056	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
50	00057	00057	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
51	00058	00058	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
52	00059	00059	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
53	00060	00060	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
54	00061	00061	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
55	00062	00062	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
56	00063	00063	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
57	00064	00064	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
58	00065	00065	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
59	00066	00066	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
60	00067	00067	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
61	00068	00068	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
62	00069	00069	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
63	00070	00070	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
64	00071	00071	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
65	00072	00072	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
66	00073	00073	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
67	00074	00074	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
68	00075	00075	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
69	00076	00076	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
70	00077	00077	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
71	00078	00078	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
72	00079	00079	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
73	00080	00080	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
74	00081	00081	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
75	00082	00082	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
76	00083	00083	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
77	00084	00084	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
78	00085	00085	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
79	00086	00086	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
80	00087	00087	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
81	00088	00088	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
82	00089	00089	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
83	00090	00090	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
84	00091	00091	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
85	00092	00092	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
86	00093	00093	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
87	00094	00094	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
88	00095	00095	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
89	00096	00096	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
90	00097	00097	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
91	00098	00098	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
92	00099	00099	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
93	00100	00100	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
94	00101	00101	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
95	00102	00102	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
96	00103	00103	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
97	00104	00104	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
98	00105	00105	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
99	00106	00106	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
100	00107	00107	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
101	00108	00108	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
102	00109	00109	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
103	00110	00110	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
104	00111	00111	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
105	00112	00112	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
106	00113	00113	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
107	00114	00114	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
108	00115	00115	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
109	00116	00116	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
110	00117	00117	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
111	00118	00118	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
112	00119	00119	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
113	00120	00120	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
114	00121	00121	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
115	00122	00122	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
116	00123	00123	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
117	00124	00124	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
118	00125	00125	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
119	00126	00126	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
120	00127	00127	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
121	00128	00128	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
122	00129	00129	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
123	00130	00130	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
124	00131	00131	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
125	00132	00132	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
126	00133	00133	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
127	00134	00134	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
128	00135	00135	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
129	00136	00136	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
130	00137	00137	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
131	00138	00138	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
132	00139	00139	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
133	00140	00140	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
134	00141	00141	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
135	00142	00142	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
136	00143	00143	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
137	00144	00144	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
138	00145	00145	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
139	00146	00146	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
140	00147	00147	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
141	00148	00148	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
142	00149	00149	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
143	00150	00150	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
144	00151	00151	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
145	00152	00152	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
146	00153	00153	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
147	00154	00154	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
148	00155	00155	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
149	00156	00156	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
150	00157	00157	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
151	00158	00158	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
152	00159	00159	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
153	00160	00160	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
154	00161	00161	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
155	00162	00162	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
156	00163	00163	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
157	00164	00164	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
158	00165	00165	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
159	00166	00166	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
160	00167	00167	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
161	00168	00168	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
162	00169	00169	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
163	00170	00170	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
164	00171	00171	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
165	00172	00172	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
166	00173	00173	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
167	00174	00174	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
168	00175	00175	同上	鳥類	12.0	0.9	0.3
169	00176	00176	同上	鳥類</td			

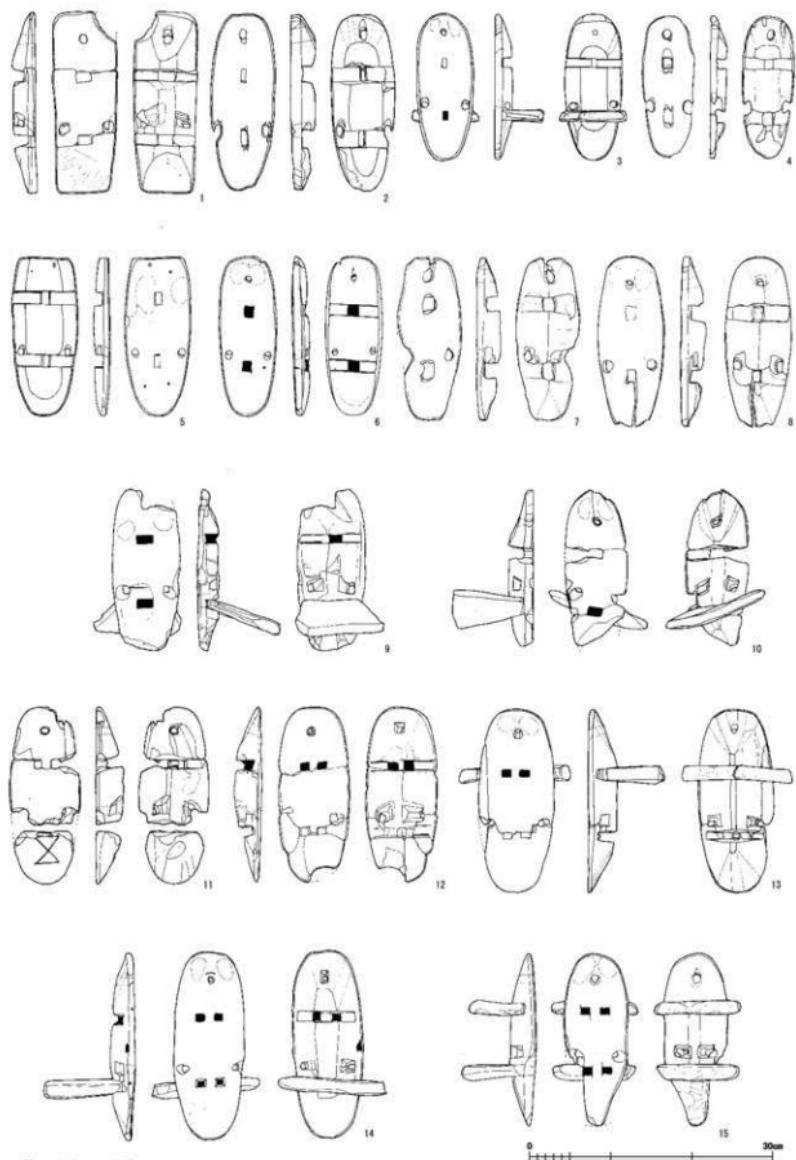


第151図 下駄①

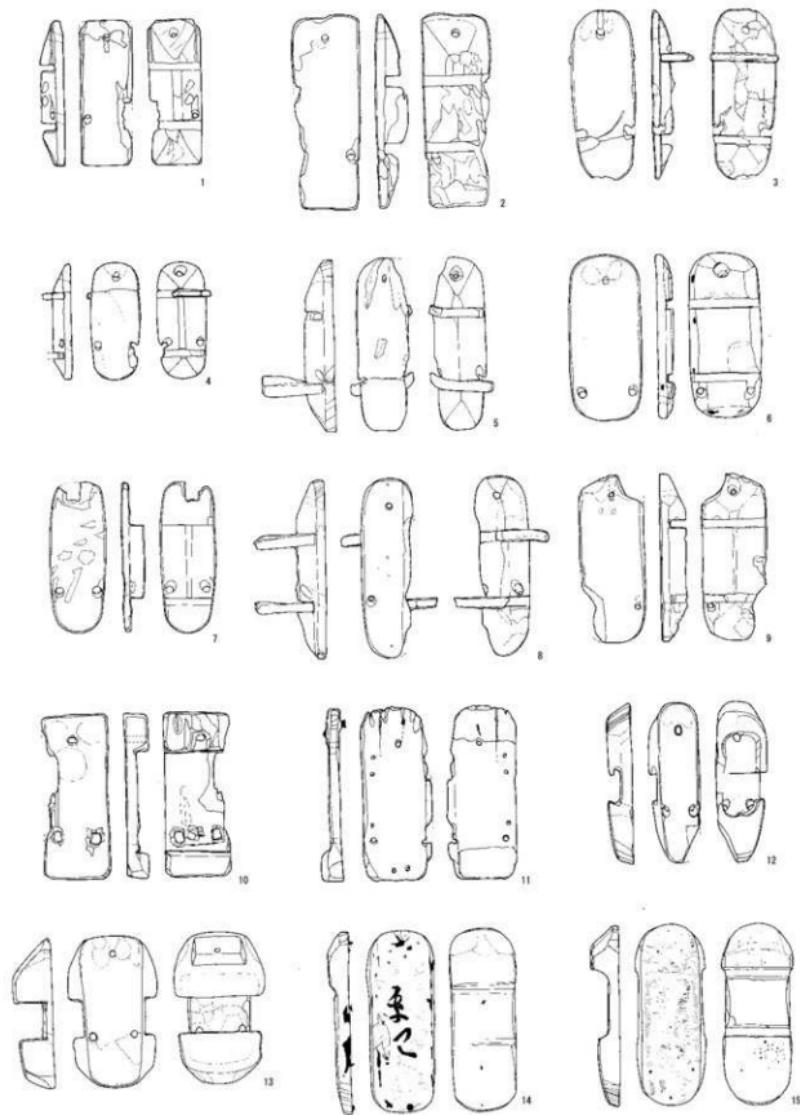
第2節 木製品



第152図 下駄②

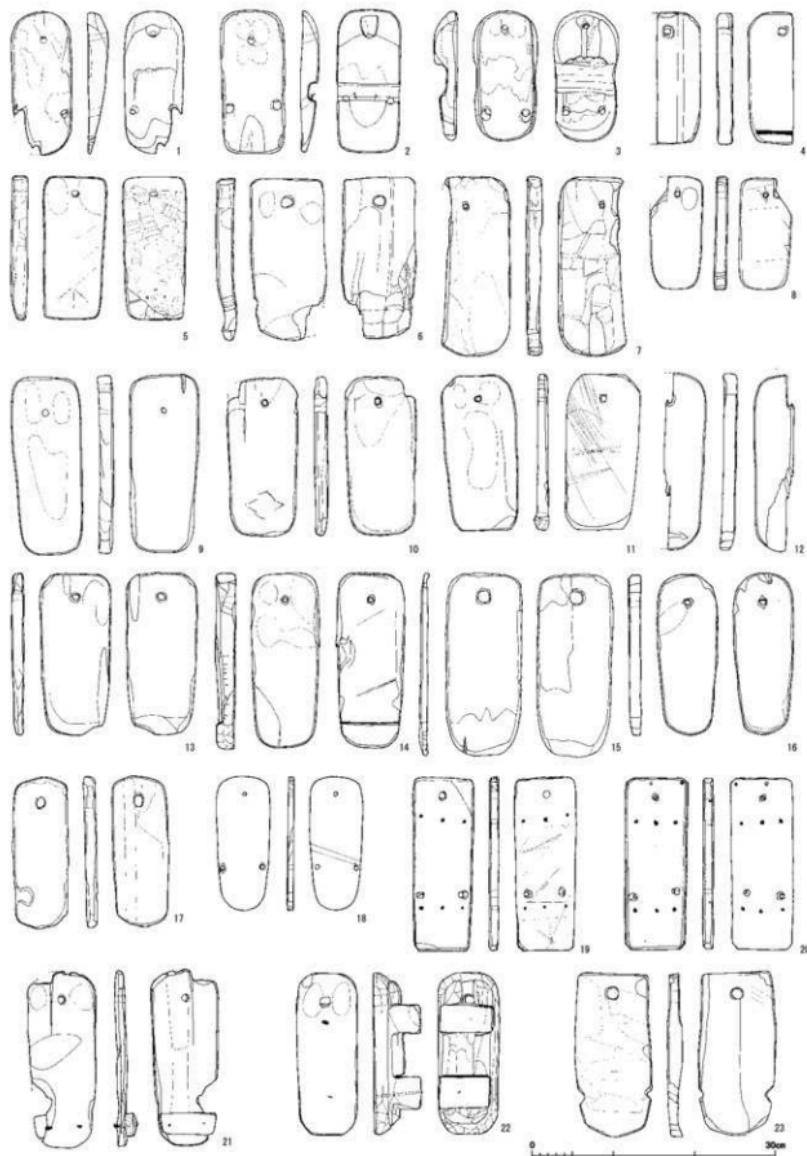


第153図 下駄③

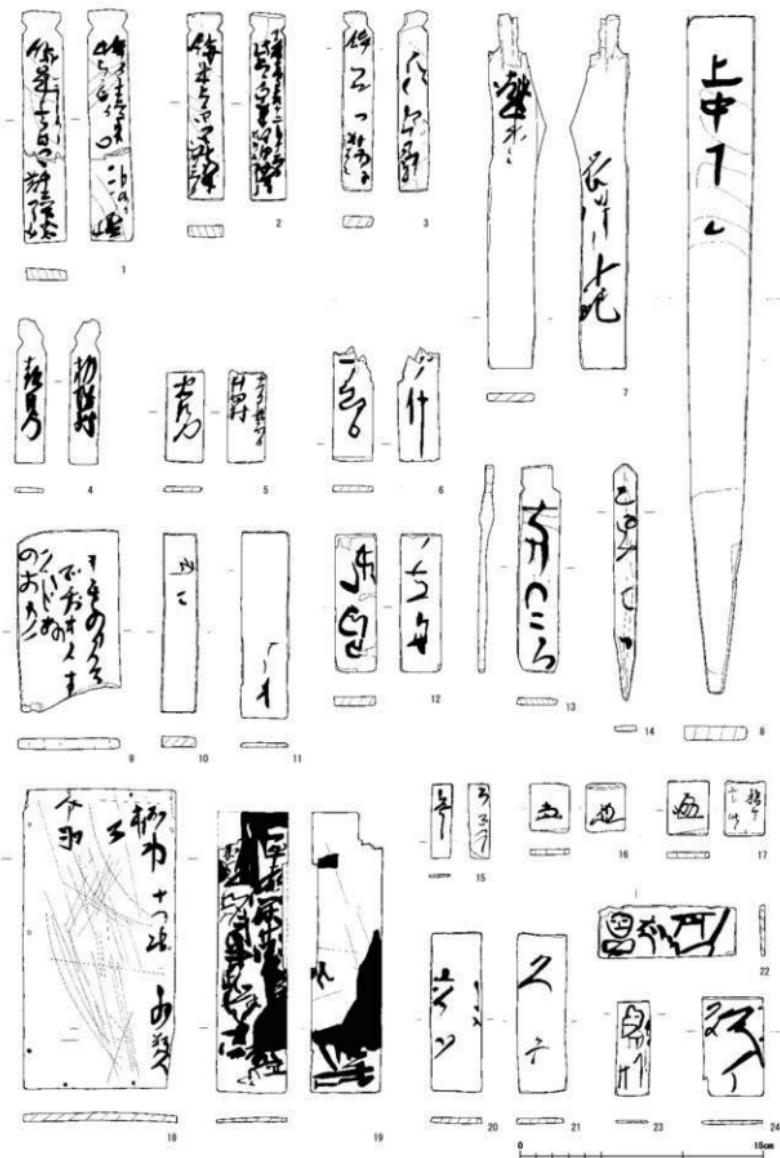


第154図 下駄④

0 10cm 20cm



第155図 下駄⑤



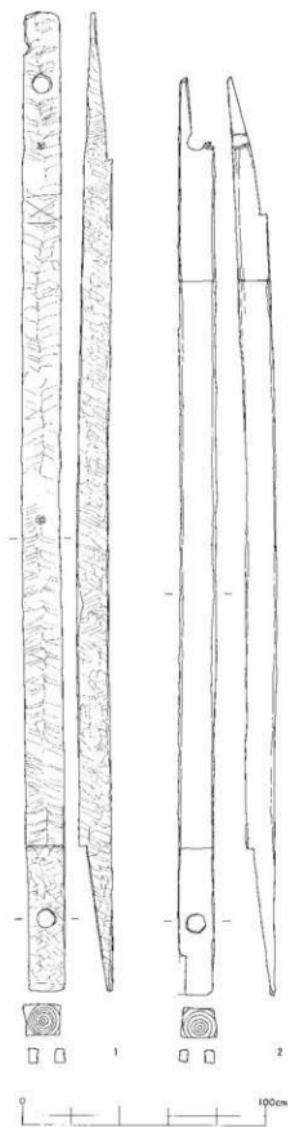
第156図 木筒、墨書

第12表 下駁觀察表

第14表 暑書一覽表

第13表 木簡一覽表

地名	面積	地圖	備註
大湖	14.2x2.7x1.5	602	水深2.7米，面積14.2x1.5米，水位比海面低1.5米。
小湖	15.5x2.2x1.5	603	水深2.2米，面積15.5x1.5米，水位比海面低1.5米。
中湖	10.5x2.2x1.5	604	水深2.2米，面積10.5x1.5米，水位比海面低1.5米。
北湖	10.5x2.2x1.5	605	水深2.2米，面積10.5x1.5米，水位比海面低1.5米。
南湖	10.5x2.2x1.5	606	水深2.2米，面積10.5x1.5米，水位比海面低1.5米。
東湖	10.5x2.2x1.5	607	水深2.2米，面積10.5x1.5米，水位比海面低1.5米。
西湖	10.5x2.2x1.5	608	水深2.2米，面積10.5x1.5米，水位比海面低1.5米。



第157図 北入分門付近石垣胴木

胴木 (第157図1・2) この2点の胴木は、第67図に示す北入分門の北西側、東三ノ丸を巡る堀の南岸の石垣のものである。近代以降に削平され、本来存在したはずの石垣は無く、並列する胴木のみが検出され、そのうちの堀からみて、奥側の胴木にあたる(写真の右側)。この2本は、両先端約60cmが断面形斜めに切断されており、その中央部に直径約7.5cmの円形の孔が穿たれる。この部分が上下に接続し1本の胴木となっていた(模式図)。

1は長さ401.5cm、幅15.4cm、高さ12.9cm。2は長さ378.0cm、幅15.0cm、高さ13.0cmである。表面には、1に見られるような明瞭な鉋痕が残る。この加工痕の幅は、全幅のほぼ半分で、長さは約5cmである。材は芯持ちの角材で若干幅の方が大きい。



枝胴木組繋手部分



第3節 金属製品

金属製品は、確認したもののうち671点を採取した。このうち図化し得たのは326点であり、293点を図示し得た。以下、武器・武具、農工具、銭貨、煙管、日用品・その他の5項目に分ける。その他、鍛冶関連の遺物（取瓶・輪羽口・鉢滓など）についても、ここで扱う。

武器・武具（第158図） 武器・武具は、刀（1）・切羽3点（2～4）・責金（5）・鞍（6）・小柄小刀13点（7～18）・小札（19）・鎌2点（20・21）を提示し得た。刀（1）は、切先側の大半と茎の先端を欠く。切羽3点のうち2・4は、周縁に「こきざみ」が施される。責金（5）は、精の割を防ぐ金具である。土圧を受けて変形している。鞍（6）は、紡錘様の形状に2孔を穿つ笠鞍である。甲冑や刀装具などに使用されたものと見られる。小柄小刀は、小柄を欠失し刀身のみのもの（7～11）・刀身を欠き小柄のみのもの（12～18）がある。9には判読不能ながら刃部に銘が見える。15～18は小柄に紋様がある。小札（19）は甲冑の部品である。鎌には、定角型の鎌（21）と盾割の鎌（20）がある。

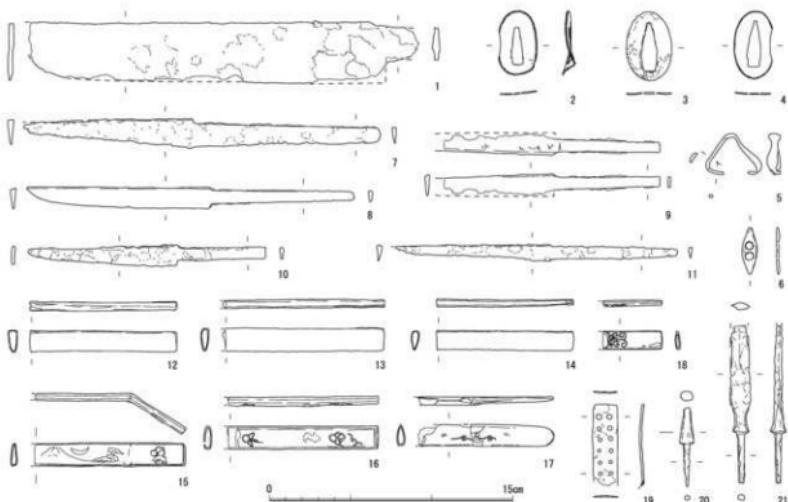
弾丸（第161図） 図示した弾丸のうち今回検出したものは11点（1～10・14）である。いずれも金属（鉛）製で、直径により4種程度の規格に分けられる（1.1～1.4cm：1～9, 1.7～2.2cm：10～13, 2.6～2.9cm：14・15, 5cm：16）。なお、笏谷石製の弾丸（11～13・15）もある⁶。

*笏谷石製弾丸（11～13・15）と大型弾丸（16）は、「福井城跡・福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査」（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008）から遺漏した遺物である。当報告書に参考として提示し報告の質を果たす。なお、笏谷石製弾丸（11～13・15）は中世の遺構から、大型弾丸（16）は近世の遺構から出土した。また、15は被熱により赤変している。

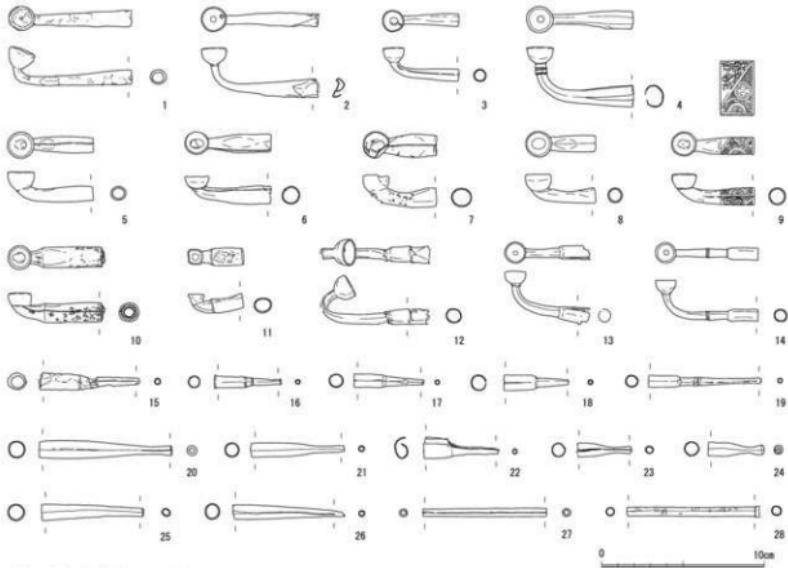
農工具（第160図） 農工具は、釘46点（1～46）・釣鈎3点（50～52）・鎌2点（53・54）・釘隠（47）・座金（48）・鎌（49）・鎌3点（66～68）・小刀3点（63～65）・鷲口2点（72・73）・楔2点（69・70）・鑿（71）・錘4点（59～62）を図示した。釘は、46が長さ9.5cmの合釘である以外は、いずれも巻頭釘（大巻）・頭巻釘（小巻）である。長さは3～15cmのものがあり、7種程度の規格に分けられる（3.2～3.5cm：40～45, 4.3～5.2cm：30～39, 6.2～6.8cm：20～23, 7.5～8.5cm：15～19・24～29, 9～10cm：8～14, 11cm前後：4～7, 15cm前後：1ほか）。釣鈎は、いずれも頭巻釘からの転用である。釘隠（47）には、表面に鶴や松などの線刻模様がある。小刀のうち63・64は木製の柄が残っており、紐などで結わえ固定した痕跡が残る。刃部の残存状況は良くない。65は、良好に残存し、顯著な研ぎ直しが窺えるが、木製は残存しない。鑿（71）は短く小形である。錘は、円盤型のもの（59～61）と、長い円錐形のもの（62）がある。59には、細い針金や別の金具が付けられており、重さを調整した痕跡と見られる。62は、上端に紐孔があり、底面には3つの削り痕がある。

煙管（第159図） 雁首は14点あり（1～14）、火皿接合のための補強体のあるもの（2・4）・羅字装着のための肩部があるもの（10・11）・両者を備えるもの（12～14）・両者を欠くもの（1・3・5～9）がある。また、脂返し部分に着目すると、大きく湾曲するもの（2・4・12～14）・火皿付近で屈曲するもの（1・3）・太く直線的に伸び火皿につながるもの（5～11）に分かれれる。なお、9には線刻や打刻による模様、10には打刻による模様がある。吸口は14点あり（15～28）、羅字装着のための胴部があるもの（15～19・22）・ないもの（20・21・23～28）がある。また、狭義の吸口部分の形状から、先端が膨らむもの（20～24・28）・膨らみのないもの（15～19・25～27）に分けられる。これらの雁首・吸口のうち一個体を成したと見られるのは14・19のみである。ともに竹節を模した意匠であり、同様な肩・胴部が付く。27と28については、ともに細身の円筒形であり、あるいは性格の異なる製品であることが考えられる。

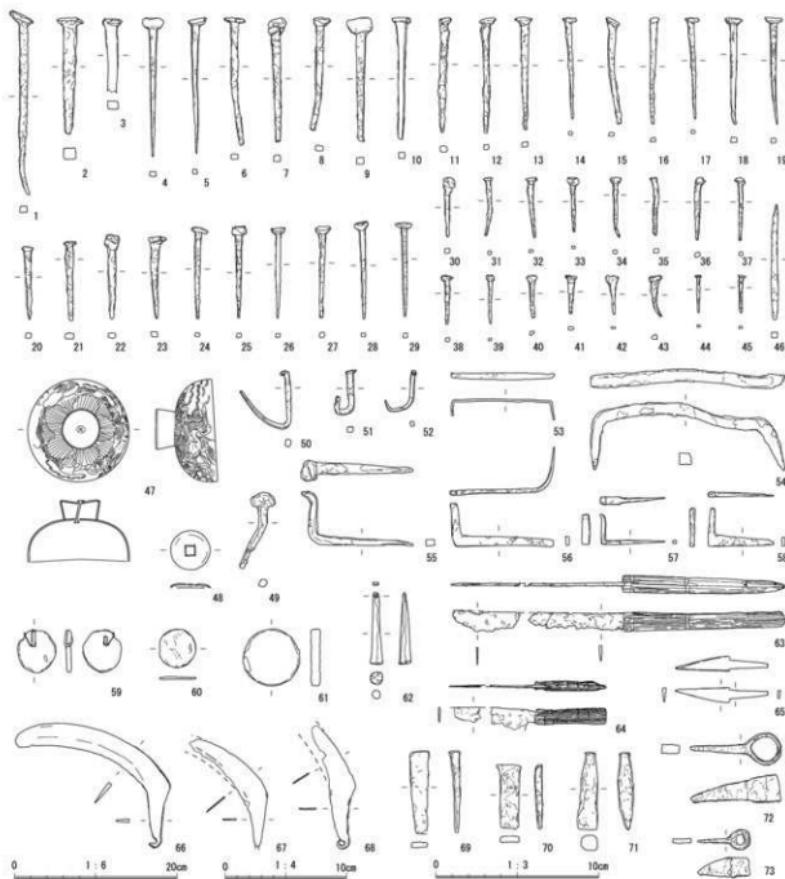
第3節 金属製品



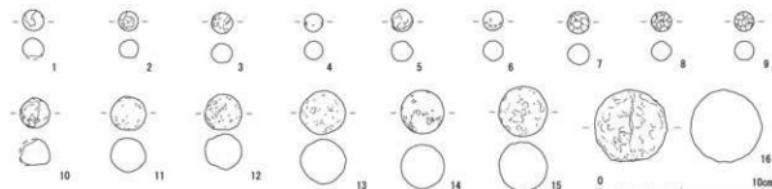
第158図 武器・武具類 (S=1/3)



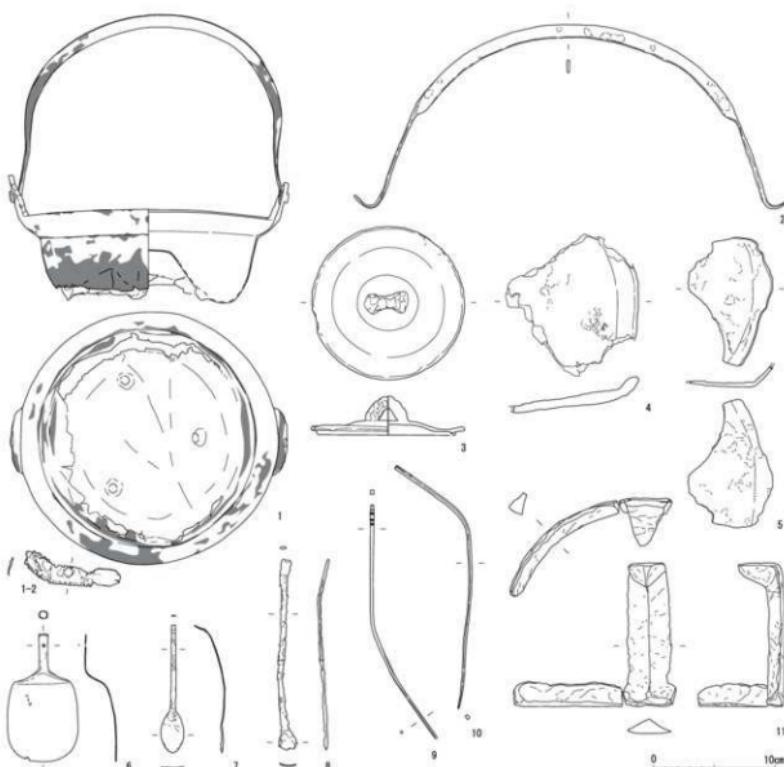
第159図 炮管 (S=1/3)



第160図 農工具類 (S=1/4: 1~46・49~62・69~71 S=1/3: 47・48 S=1/6: 63~68・72~73)

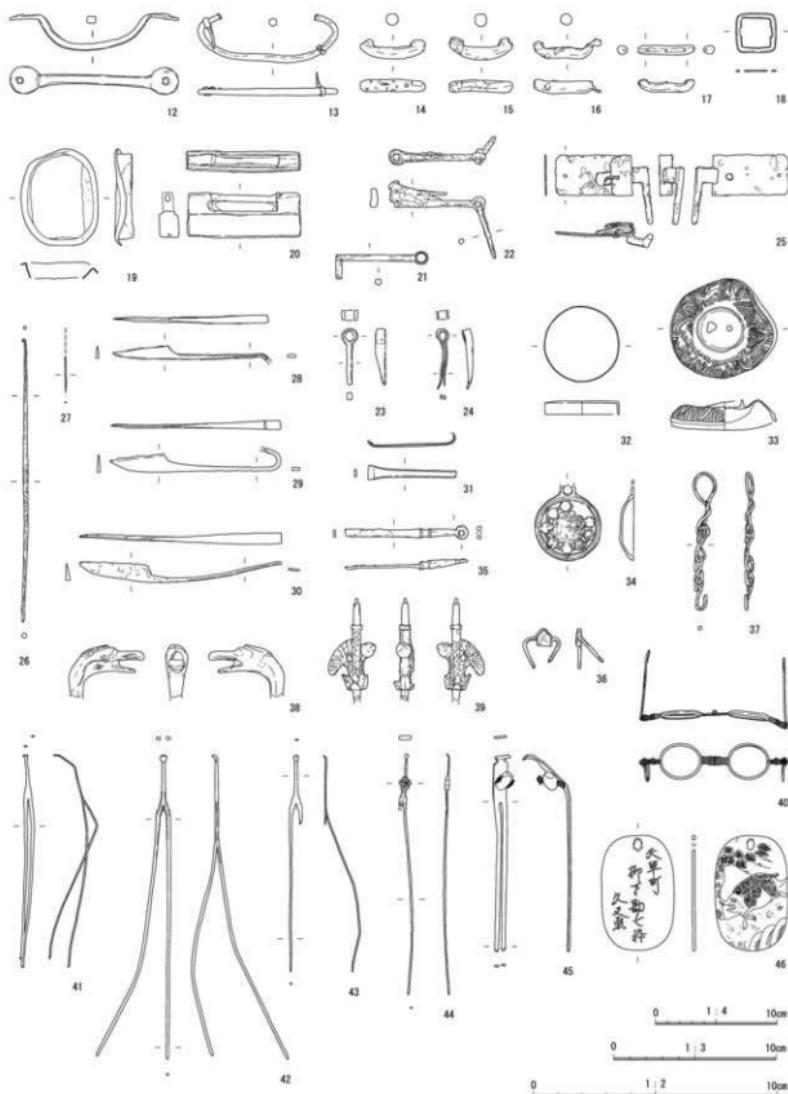


第161図 弾丸 (S=1/3)



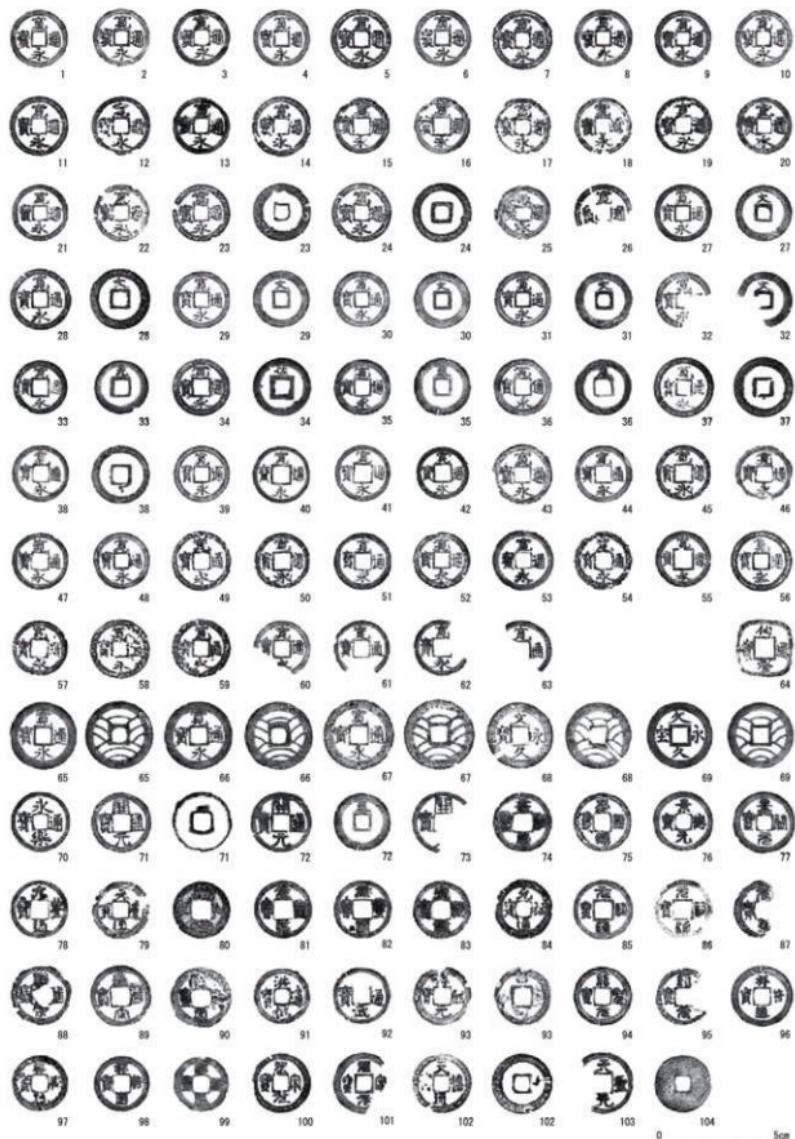
第162図 金属製品 日用品① (S=1/4)

日用品・その他（第162・163図） 鍋（1・4・5）・鍋蓋（3）・鍋吊金具（2）・火箸2点（9・10）・五徳（11）・灰匙（6）・匙2点（7・8）・引手金具6点（12～17）・襖引手金具2点（18・19）・鍵（21～23）・銚前（20）・肘壺金具（25）・割釘（24）・鉄3点（28～30）・針（27）・紡錘車（26）・毛抜（31）・容器（蓋）（32・33）・燭台（39）・人形（38）・鎖（37）・飾金具（34～36）・眼鏡（40）・簪6点（41～45）・迷子札（46）を図示した。鍋（1）は、完形であるが、底部が裂けて内側へ窪んでいる。脱落したが、裂け目を接いだ補修材（1-2）があることから、破損後も使用したようである。底面には3つの脚が付く。4は口縁、5は底部の破片である。五徳（11）は1つの脚と台部片のみ残存する。引手金具は、固定するもの（12）・本体が針金状で可倒式のもの（13）・可倒式の鋳造品（14～17）がある。襖引手金具は、楕円形のもの（19）と小形方形のもの（18）がある。25は、その形状から肘壺金具とした。鉄（28～30）は、いずれも片側の刃部を欠失する。針（27）は頭部を欠く。紡錘車（26）は糸巻棒のみである。片側の先端は小さく屈曲しており、中位付近の表面は握り状に

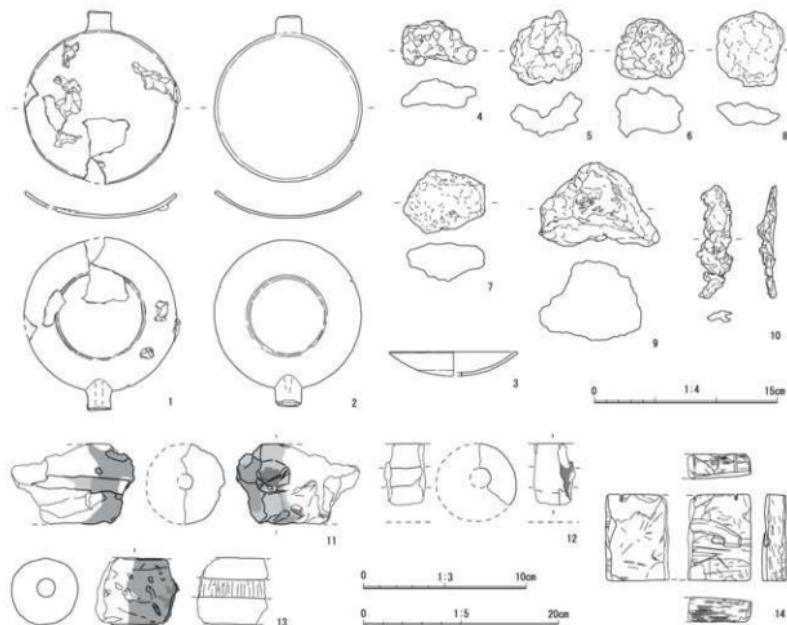


第163図 金属製品 日用品(2)・その他

(S = 1/4 : 12・20~26 S = 1/3 : 13~19・32・34~39・41~45 S = 1/2 : 27・33・46)



第164図 錢貨（拓影 S=1/2）



第165図 錫冶関連遺物 (S=1/4: 1~10 S=1/5: 11~13 S=1/3: 14)

成形される。毛抜（31）も片側を欠失する。先端が大きく開いており、用途の異なることが考えられる。32・33については、不明ながら小形容器の蓋になるものと捉えた。32が扁平で装飾のないものであるのに対し、33は端部に返しを持ち、表面に細かい打刻による模様がある。燐台（39）は、蠟燭を立てる先端部分のみの破片である。蓮の蕾と葉と見られる意匠が施される。飾金具（34～36）は、いずれも不明品であるが、34・35は仏具に関連するものか。眼鏡（40）は、折疊式の携帯品である。簪のうち44には梅の意匠が施されており、45には小槌を模した飾りが付けられている。迷子札（46）は、小判形で上部に小孔があり、片面に猪の疾走する絵が、その裏面に「天草町 柳下勘七作 久之丞」と住所・出自・名前が線刻されている。出土位置は、柳下邸北西の屋敷区画溝64002内である（第82・83図）。

銭貨（第164図） 銭貨は104点提示した。その内訳は、寛永通寶67点（1～67）・文久永寶2点（68・69）・仙台通寶（64）・永樂通寶（70）・開元通寶3点（71～73）・嘉祐通寶2点（74・75）・景德元寶（76）・景祐元寶（77）・元豐通寶6点（78～83）・元祐通寶3点（84～86）・元□（豊・祐・符）通寶（87）・皇宋通寶3点（88～90）・洪武通寶2点（91・92）・淳熙元寶（93）・紹聖元寶2点（94・95）・祥符通寶4点（96～99）・聖宋元寶2点（100・101）・天禧通寶（102）・天聖元寶（103）・無文銭（104）である。寛永通寶の内訳は、古寛永26点（1～26）・文錢6点（27～32）・新寛永31点（33～63）・四文銭3点（65～67）である。新寛永のうち32には「元」、33には「佐」、34・35には「足」の

背文がある。寛永通寶の四文銭（65～67）と文久永寶（68・69）の背面には、11波の波紋がある。仙台通寶（64）は、幕府の許可を得た仙台藩が、1784～87（天明4～7）年に鋳した大・中・小三種のうちの小形品である。

鍛冶関連遺物（図165） 鍛冶に関連する遺物は、取瓶（1～3）・輪羽口（11～13）・鑄型（14）・鉱滓（4～10）がある。1～3は同様な製品と見られ、1に鉱滓の付着が顕著であることから、これらを取瓶とした。ただし、吊灯明皿を転用したものである。3は破片で、鉱滓の付着が不明瞭であるため、取瓶として転用されなかった可能性もある。輪羽口はいずれも笏谷石製であり、先端部付近が被熱により赤変している。図示した輪羽口のうち今回検出したものは12・13である⁶。これらは061-1-2地区土橋の搅乱された部分から出土しており、破損後、石垣の裏込として詰められたことが窺える。鑄型（14）は、笏谷石製であり、引手金具を鋳造したものである。半分を欠失しており、湯口が僅かに残存する。湯口の脇に、型を合わせて固定するための直線状の刻みがある。鉱滓（4～10）は、不定形のものや椀形を呈するものがある。提示した7点のうち10のみ鉛である。

車輪羽口のうち11は、『福井城跡 福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査』（福井県教育厅埋蔵文化財調査センター2008）から漏洩した遺物である。当報告書に参考として提示し報告の責を果たす。なお、11は中世の遺構から出土した。

第15表 武器・武具類観察表

登録番号	種別	出土施設	測量値(Φ×H)							備考	出土施設の主な構造物からの時期	遺物番号	目次番号		
			φ	Φ	H	φ	Φ	H	φ						
060-17	小刀	06-3	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀 文政年造	M06002-2	E106002-55
060-18	小刀	06-3	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-3	E106002-56
060-19	小刀	06-3	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-4	E106002-57
060-20	小刀	06-3	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-5	E106002-58
060-21	小刀	06-3	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-6	E106002-59
060-22	小刀	06-4	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-7	E106002-60
060-23	小刀	06-5	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-8	E106002-61
060-24	小刀	06-6	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-9	E106002-62
060-25	小刀	06-7	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-10	E106002-63
060-26	小刀	06-8	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-11	E106002-64
060-27	小刀	06-9	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-12	E106002-65
060-28	小刀	06-10	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-13	E106002-66
060-29	小刀	06-11	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-14	E106002-67
060-30	小刀	06-12	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	小刀	M06002-15	E106002-68
060-31	刀	06-13	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-16	E106002-69
060-32	刀	06-14	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-17	E106002-70
060-33	刀	06-15	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-18	E106002-71
060-34	刀	06-16	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-19	E106002-72
060-35	刀	06-17	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-20	E106002-73
060-36	刀	06-18	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-21	E106002-74
060-37	刀	06-19	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-22	E106002-75
060-38	刀	06-20	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-23	E106002-76
060-39	刀	06-21	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-24	E106002-77
060-40	刀	06-22	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-25	E106002-78
060-41	刀	06-23	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-26	E106002-79
060-42	刀	06-24	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-27	E106002-80
060-43	刀	06-25	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-28	E106002-81
060-44	刀	06-26	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-29	E106002-82
060-45	刀	06-27	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-30	E106002-83
060-46	刀	06-28	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-31	E106002-84
060-47	刀	06-29	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-32	E106002-85
060-48	刀	06-30	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-33	E106002-86
060-49	刀	06-31	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-34	E106002-87
060-50	刀	06-32	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-35	E106002-88
060-51	刀	06-33	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-36	E106002-89
060-52	刀	06-34	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-37	E106002-90
060-53	刀	06-35	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-38	E106002-91
060-54	刀	06-36	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-39	E106002-92
060-55	刀	06-37	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-40	E106002-93
060-56	刀	06-38	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-41	E106002-94
060-57	刀	06-39	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-42	E106002-95
060-58	刀	06-40	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-43	E106002-96
060-59	刀	06-41	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-44	E106002-97
060-60	刀	06-42	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-45	E106002-98
060-61	刀	06-43	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-46	E106002-99
060-62	刀	06-44	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-47	E106002-100
060-63	刀	06-45	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-48	E106002-101
060-64	刀	06-46	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-49	E106002-102
060-65	刀	06-47	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-50	E106002-103
060-66	刀	06-48	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-51	E106002-104
060-67	刀	06-49	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-52	E106002-105
060-68	刀	06-50	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-53	E106002-106
060-69	刀	06-51	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-54	E106002-107
060-70	刀	06-52	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-55	E106002-108
060-71	刀	06-53	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-56	E106002-109
060-72	刀	06-54	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-57	E106002-110
060-73	刀	06-55	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-58	E106002-111
060-74	刀	06-56	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-59	E106002-112
060-75	刀	06-57	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-60	E106002-113
060-76	刀	06-58	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-61	E106002-114
060-77	刀	06-59	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-62	E106002-115
060-78	刀	06-60	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-63	E106002-116
060-79	刀	06-61	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-64	E106002-117
060-80	刀	06-62	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-65	E106002-118
060-81	刀	06-63	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-66	E106002-119
060-82	刀	06-64	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-67	E106002-120
060-83	刀	06-65	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-68	E106002-121
060-84	刀	06-66	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-69	E106002-122
060-85	刀	06-67	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-70	E106002-123
060-86	刀	06-68	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-71	E106002-124
060-87	刀	06-69	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-72	E106002-125
060-88	刀	06-70	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-73	E106002-126
060-89	刀	06-71	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-74	E106002-127
060-90	刀	06-72	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-75	E106002-128
060-91	刀	06-73	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-76	E106002-129
060-92	刀	06-74	5.7	5.7	10	0.932	0.43	3.3	0.5	—	—	13.0	刀	M06002-77	E106002-130
060-93	刀	06-75	5.7	5.7	10	0.932									

第17表 機工具類觀察表

第18章 日用語彙と会話の文

第19表 銀貨觀察表

第20表 湖山洞穴表

项目	指标		单位	备注	评价
	年	月			
1. 土壤理化性质					
2. 土壤微生物活性					
3. 土壤生物多样性					
4. 土壤生态健康指数					
5. 土壤环境风险评估					
6. 土壤修复与管理					
7. 土壤污染监测与预警					
8. 土壤污染防治政策与法规					
9. 土壤污染防治技术与方法					
10. 土壤污染防治效果评估					
11. 土壤污染防治经验与教训					
12. 土壤污染防治未来趋势					

元朝帝制研究

项目	指标	基期		报告期		变动额	变动率(%)	完成情况	影响因素
		数值	单位	数值	单位				
一、总量指标	1. 总量指标	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响
2. 产量指标	1000000	件	1000000	件	0	0.0%	100.0%	无影响	
3. 营业收入	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响	
4. 利润总额	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响	
5. 净利润	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响	
6. 营业收入利润率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
7. 净利润增长率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
8. 营业收入增长额	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响	
9. 利润总额增长额	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响	
10. 净利润增长额	1000000	元	1000000	元	0	0.0%	100.0%	无影响	
二、质量指标	1. 产品合格率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响
2. 成本降低率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
3. 交货及时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
4. 服务满意率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
5. 员工满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
6. 客户忠诚度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
7. 产品质量合格率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
8. 生产效率提升率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
9. 成本节约率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
10. 交货准时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
三、效率指标	1. 生产效率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响
2. 成本节约率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
3. 交货准时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
4. 客户满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
5. 员工满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
6. 产品质量合格率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
7. 生产效率提升率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
8. 成本节约率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
9. 交货准时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
10. 客户满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
四、客户关系管理	1. 客户满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响
2. 客户忠诚度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
3. 服务质量	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
4. 交货准时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
5. 客户忠诚度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
6. 服务质量	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
7. 交货准时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
8. 客户满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
9. 服务质量	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
10. 交货准时率	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
五、员工管理	1. 员工满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响
2. 员工忠诚度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
3. 员工培训效果	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
4. 员工满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
5. 员工忠诚度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
6. 员工培训效果	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
7. 员工满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
8. 员工忠诚度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
9. 员工培训效果	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
10. 员工满意度	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
六、综合评价	1. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响
2. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
3. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
4. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
5. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
6. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
7. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
8. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
9. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	
10. 综合评价	100.0%		100.0%		0	0.0%	100.0%	无影响	

第4節 石製品

石製品は、確認したもののうち750点を採取した。このうち、表を含めて提示し得たのは137点であり、101点を図示した。石製品は、おもに笏谷石製である。その種別は、石瓦・石臼・行火・井戸枠・甕・石塔類など、多岐にわたる。ここでは、種別ごとの数量から便宜的に、石瓦・石臼・バンドコ（行火）・容器状石製品・基石・その他と6項目に分ける。

石瓦（第166～168図） 石瓦は、軒丸瓦2点（166-1・2）・丸瓦11点（166-3～12）・軒平瓦5点（167-4～8）・平瓦5点（167-1～3・9・10）・棟瓦6点（168-1～6）がある。いずれも笏谷石製である。軒丸瓦（166-1）は、瓦下部と背後の基部を欠く。166-2は瓦下半のみである。どちらも瓦当は無紋である。丸瓦は、背後の基部のみ残るもの6点（166-3～10）と先端部のみ残るもの2点（166-11・12）がある。166-9は基部の接続面に「+」の刻印があり、166-10は接続突起に中心線の線刻がある。軒平瓦の瓦当はいずれも無紋である。167-7には瓦当に4条の線刻があるが、粗雑であり、紋様として彫られたものとは思えない。瓦当の形状は、基本的に通常の瓦と同様であるが、167-5については下部の両角が直角に広がる特殊な形状である。平瓦は、先端を欠き背後の面の残るもの（167-1～3）と、逆に先端の面のみ残るもの（167-9・10）がある。背後の両角付近に釘穴を持つもの（167-1・3）と無いもの（167-2）がある。167-9の先端付近上面には、「#」の刻印がある。平瓦の上面は平滑に仕上げられるが、下面是整による粗い成形のみである。しかし屋根に葺く際、下の瓦に重なる先端部分については、上面同様平滑に整形される。棟瓦は、角形（168-1～4）と丸形（168-5・6）があり、角形には頂部に棱を持つ稜型（168-1・4）と無稜型（168-2・3）がある。168-5は大型品であるが、片側の端面のみの残穴である。168-6は、先端に傾斜する面を持ち、石鬼瓦の鳥衾である可能性がある。

石臼（第169図） 粉挽臼（1～7）と茶臼（8）がある。粉挽臼は、上白3点（1～3）・下白4点（4～8）である。4は下白受皿の注口である。注口のみのため詳細を欠くが、茶臼の下白である可能性もある。8は茶臼の上白である。いずれも掘り目の磨耗・消滅が激しい。1は本体が薄く変形するが、さらに掘り目が目立てされている。5のみ笏谷石でなく、花崗岩系の石材である。

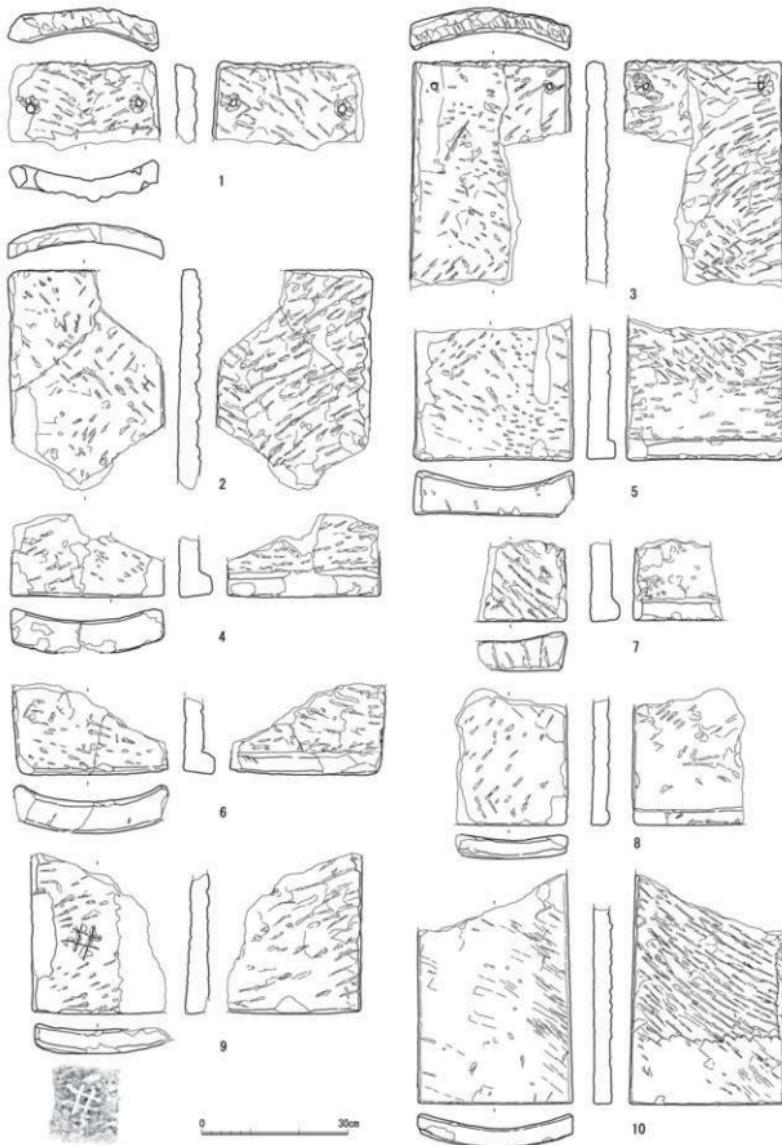
バンドコ（行火）（第170図） 9点を図示した。バンドコはその形状から、手焼り型・梢円型・D型に分けられる。手焼り型は、立方体に近い形状で、やや上向きに傾く正面部が大きく方形に開口する。梢円型は、平面形が梢円形であり、体部が直立する。D型は、平面形がD形で、正面のみが平面となるものである。梢円・D型ともに上部が開放しており、返しのある蓋が付属する。そして、正面には縦長の長方形を基本とする孔が、窓のように複数並ぶ。1～3は梢円型の蓋である。2・3は小形品で、ともに破片であるが線刻模様と煙出しの孔が確認できる。煙出し孔は、2には中央に1つの円孔があり、3については4つの菱形孔が菱形に配されるようである。4～6はD型の蓋である。7～9は梢円型の本体であるが、いずれも残存率が低い。

容器状製品（第171図） 容器状の製品は、平面形が円形で緩やかに湾曲して立ち上がる体部のものを鉢（18・19）、体部立ち上がりが直線的なもののうち、平面形が方形・円形など多様で体部長が底部短辺や（短）径の半分程度までのものを盤（1～3・6・16）、平面形が方形で体部長が底部辺の1／2程度を超えるものを槽（4・5・7・8）とした。ただし、盤と槽の区別は困難な例も少なくない。これらが表面を平滑に仕上げているのに対し、粗い成形のものや重なもの・他の製品を再加工したと見られるものなどは単に容器（9～15・17）とした。これら容器状製品の多くは、煤の付着や被熱痕が認められることから、最終的には形態差を超えて火容器として使用され、廃棄されたものと見られる。盤

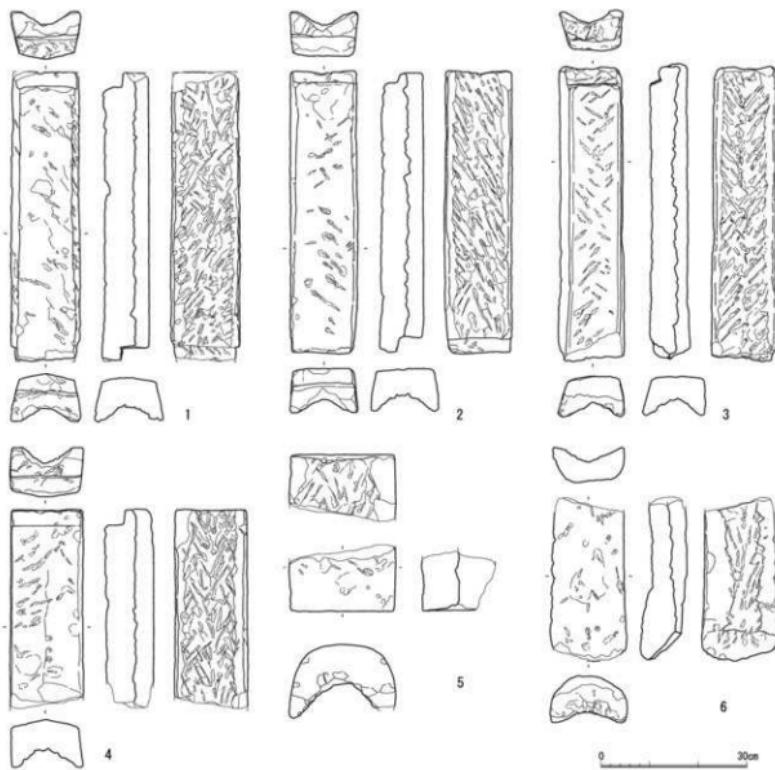
第4節 石製品



第166図 石瓦① ($S=1/10$)

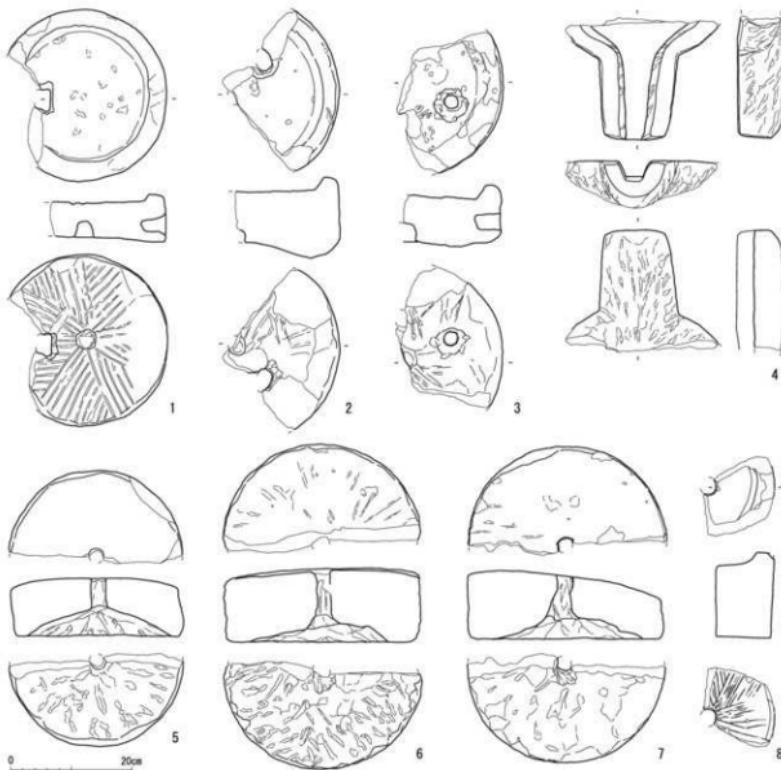


第167図 石瓦② ($S=1/10$)



第168図 石瓦③ (S=1/10)

第22表 石瓦觀察表

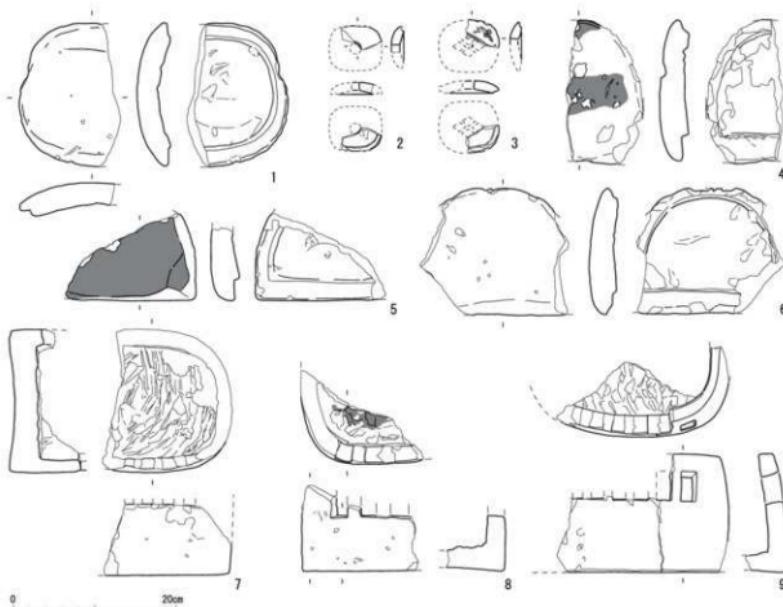


第169図 石臼 (S=1/8)

第23表 石臼観察表

図面	種別	出土地点	測定値(cm)			備考	出土遺物の主な 構成部品	遺物番号	尺度
			幅	高さ	厚さ				
169-1	石臼	96-2	17.9	11.0	2.0	上部側面	臼	61330-2	R62101-12
169-2	石臼	96-2	17.9	11.2	2.0	上部側面	臼	61330-2	R62100-8
169-3	石臼	96-2	17.9	11.2	2.0	上部側面	臼	61330-3	R62100-7
169-4	石臼	96-1	17.9	11.2	2.0	上部側面	臼	61330-4	R62100-10
169-5	石臼	96-1	17.9	11.0	2.0	上部側面	臼	61330-5	R62100-8
169-6	石臼	96-2	17.9	11.0	2.0	上部側面	臼	61330-6	R62100-6
169-7	石臼	96-2	17.9	11.0	2.0	上部側面	臼	61330-7	R62100-4
169-8	石臼	96-2	17.9	11.0	2.0	上部側面	臼	61330-8	R62100-5

は、円形（1～3）と方形（6・16）があり、いずれも脚が確認される。6は、一隅の内面が弧状に肥厚する。体部外面・端部は面を描え、内側にのみ弧を描くように膨らむ。いずれの面も平滑に仕上げられており、単なる削り残しではなく何らかの機能を持つと見られるが、用途は不明である。このように体部内面に弧状隆起を持つ例や一隅に突起などを持つ例は、これまでの福井城跡の調査でも確認されている。一辺10～20cm程度の盤あるいは槽に多く認められ、内部に仕切りを持つものもある。この規格のものの使用法の一例として、仏壇の香炉などが想定される。槽（4・5・7・8）は、いずれもよく似



第170図 バンドコ(行火)(S=1/6)

第24表 バンドコ(行火)観察表

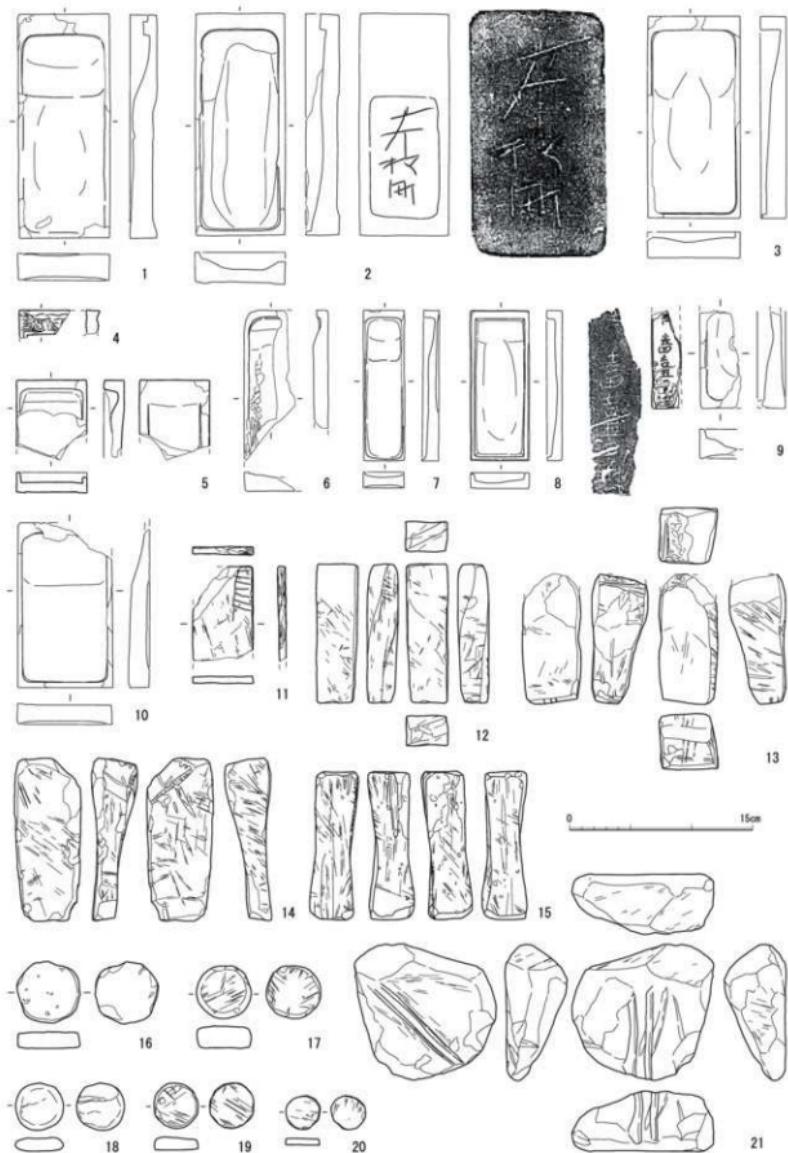
番号	種類	出土地点	測定値(cm)	備考	出土遺物のうち 該当物の割合	遺物名	文書名	
170-1	バンドコ(鉢)	95-2	A-20	30.00 18.00 17.00 17.00 17.00	直壁 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0%
170-2	バンドコ(鉢)	95-2	上-4	直壁 1.5 1.5 1.5 1.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-3	バンドコ(鉢)	95-2	上-5	直壁 1.5 1.5 1.5 1.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-4	バンドコ(鉢)	95-2	上-6	直壁 1.5 1.5 1.5 1.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-5	バンドコ(鉢)	95-2	上-7	直壁 1.5 1.5 1.5 1.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-6	バンドコ(鉢)	95-2	上-8	直壁 1.5 1.5 1.5 1.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-7	バンドコ(鉢)	96-1	A-10	直壁 10.5 11.5 11.5 11.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-8	バンドコ(鉢)	96-2	A-10	直壁 2.5 2.5 2.5 2.5	底付 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-9	バンドコ(鉢)	96-3	A-3	S212 18.00 18.00 18.00 18.00	直壁 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-10	バンドコ(鉢)	96-3	A-3	S210 2.0 17.5 18.0 18.1	直壁 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%
170-11	バンドコ(鉢)	96-4	A-4	S210 3.5 18.0 18.0 18.0	直壁 底付 底付 底付 底付	直壁 底付 底付 底付 底付	60.0% 100%	60.0% 100%

た形状であるが、大きさや脚の形状などによって、いくつかの規格に分けられるようである。粗製品や再加工品などを容器（9～15・17）として括る。11・12は粗く歪な成形で、職人による製品ではないことが考えられる。9・10は、調整が粗く器壁が厚いが、表面は比較的平滑に整形される。13はD型バンドコから、14は別製品からの再加工品と見られる。15は小形品であり、見込みが浅いことから他の用途も考えられる。17は、口縁部片のみである。内面が平滑であるのに対し、外側の調整は粗い。器壁が厚いことから大型品と見られ、置火鉢や炉壇石のような製品と捉えられる。鉢は、口縁部（18）と体部片（19）がある。18の内面は平滑に仕上げられるが、外側は整切り（簾加工）で仕上げられる。19は内外面とも平滑に仕上げられ、体部に簾状の突起が巡るもので深身である。口縁部は欠失する。

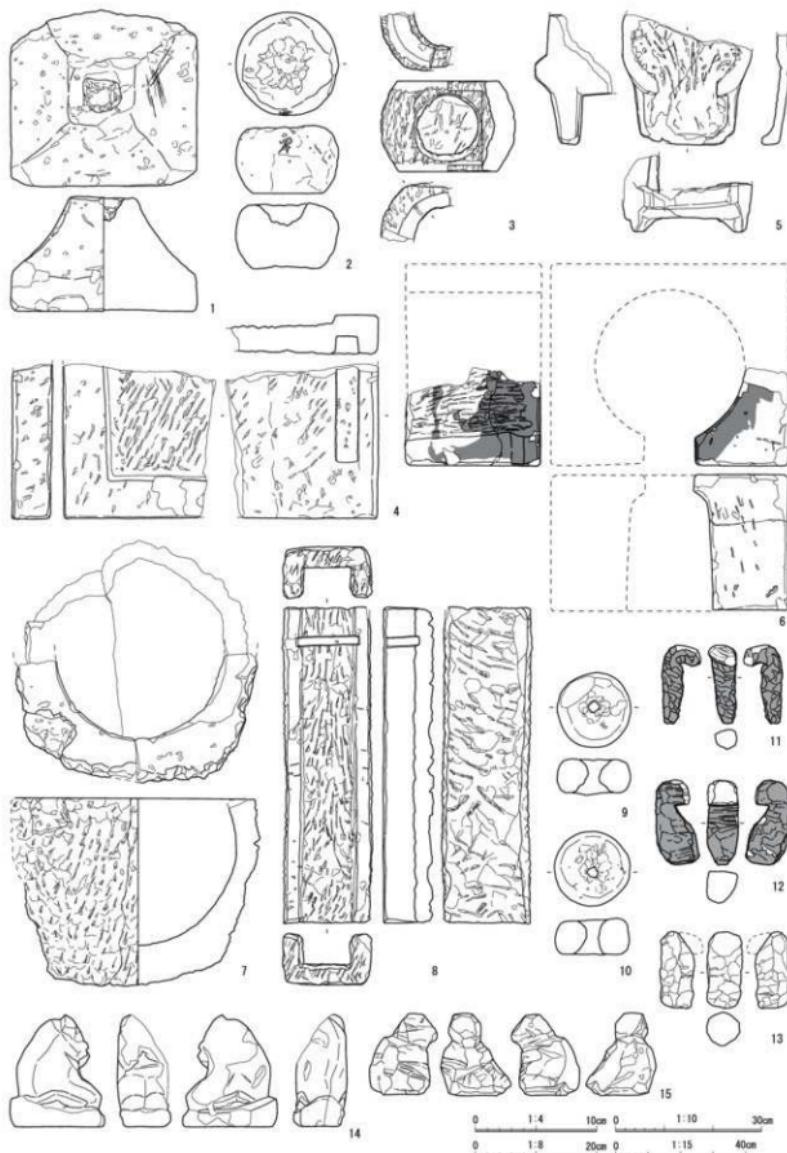
その他（第172・173図） その他として、硯（172-1～10）、砥石（172-11～21）、石塔類（173-1～3）、井戸枠（173-4）、竈（173-5・6）、石製臼（173-7）、植（173-8）、重石（173-9・10）、支脚（173-11～



第171図 容器状石製品 (S = 1/6)



第172図 観・砥石 (S=1/4 拓影 S=1/2)



第173図 その他の石製品 (S=1/10: 1~7 S=1/15: 8 S=1/8: 9~13 S=1/4: 14・15)

13)、人形（173-14・15）、碁石（写真図版27）がある。検出した硯は、使い込んで中央の窪むものが比較的多く、その多くが碎片となっていた。残存状況が良好で掲載し得たのは細身のものが多い。硯（172-1~10）は、いずれも長方形であるが、背面が平坦なもの（172-3・6・8）と、背面を抉るもの（172-1・2・5・7・9・10）がある。172-5は、硯尻に向かい削り込んで擬脚を形成するものと見られるが、陸側の大半を欠くため不明である。172-2は背面、172-9は側面に銘がある。172-2の銘は崩し字で不鮮明な文字であるが、「□下打（村カ）□（町カ）」と見える。172-9の銘は「吉田吉五□之口」と見え、人名のようである。172-4は海周縁の縁破片であり、表面に鬼の模様が線刻されている。砥石は、直方体に近い形態（172-11~15）、扁平な円形（16~20）、不定形なもの（21）がある。172-11は剥片であるが、表面に線刻が残る。12~15は全面をよく使用し、変形している。16~20は、使用痕と見られる痕跡が確認できるものもあるが、使用痕が不明瞭で砥石でない可能性のあるものも含まれる。21は筋砥石である。裏面や側面にも使用痕が残る。石塔類は、組合式五輪塔の火輪（173-1）・水輪（173-2）と、灯籠の火袋と見られるもの（173-3）がある。173-3は中空で大きな円窓を持つ。内外面とも蓋により粗く仕上げられるが、上下端付近は平滑に仕上げられている。井戸枠（173-4）は、井桁に組んだ木製の井戸枠を模したものであり、組み合わせる4枚の加工した石材のうち、長方形の枘穴のある石材の下端部片である。竈は、薄手で底・脚のあるもの（173-5）と分厚くて底の無いもの（173-6）がある。両者とも焚口部分の破片である。石製臼（173-7）は、精米などに使用する白である。作業時の米の流出を防ぐため、口縁部内面が内傾している。外面の調整が粗く、口縁部に固定するためと見られる抉りがあるため、唐臼の臼として使用されたことも推測される。樋（173-8）は、体部内面・上端面が平滑に仕上げられる以外は、粗い調整である。内側に仕切り板などを差し込む溝がある。この樋は、06-2北側地区B街区にある苑池62526の排水口部分に使用されたものであり、水量調節用の堰板をはめ込んだと見られるものである（第71図下）。重石（173-9・10）は、やや扁平な円形で中央孔がある。173-11~13は支脚と考える製品である。173-13の鈎部分が欠損し、煤の付着が認められない以外は、鈎先端・上面を除き全体に煤が付着する。複数を灰に突き立て、五徳のように使用したものと考える。人形（173-14・15）のうち173-14は、長方形の台座上に正座をした姿であり、頭部と両手を欠く。この人形の類例は、これまでの福井城跡の調査で確認されており、いずれも様相が共通する。そのうちに、臀部に短い尻尾状の隆起が認められるものや、鼓を持つもの、何かを両手で持って尖った口で銛えるような所作のものが確認される。そのためこれらは様々な楽器を演奏する猿の人形と捉えられ、広く普及した人形と見られる。今回の人形（173-14）は、曲げた右肘と右肩上に認められる隆起から、鼓を打つ姿のようである。173-5は未成品と見られるが、あるいは職人による製品ではない可能性がある。碁石と見られるものは、36点を掲示した。そのうち今回検出したのは26点ある⁶。これらの大半は黒石で、白石と捉えられるものは8点ある（写真図版27 碁石-3・10・11・14・27・29・32・34）が、明瞭な色調の白石は1点のみ（3）である。いずれも自然のままの正円には整えられていない。

⁶掲示した碁石のうち10点は、『福井城跡 福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査』（福井県教育厅埋蔵文化財調査センター2008）から遺漏した遺物である。当報告書に参考として掲載し報告の責を果たす。

第25表 容器状石製品觀察表

第26表 その他石製品観察表

第27表 基石觀察表

第5章 古代の遺構と遺物

第1節 FKJ06-2・3の様相

FKJ06-2・3の概要 調査区の断面観察によると、標高7.3m・7.2m・7.1mで遺構面が存在する。遺構の検出は標高7.3mの段階と7mの地山面で行った。上層の律令面に溝を伴う建物跡・柱穴列とそれに連関する溝・その他の柱穴・大溝・焼土坑があり、下層の古墳面に区画的な溝・大溝がある。出土遺物の大半は、標高7.3m～7.5mの黒褐色土層中から出土し、グリッド単位での包含層出土として扱った⁽¹⁾。遺物の多くは建物があるD4区から出土している。

1 上層面の遺構

1) 建物 (第174・176図) (N 6° W) (62622・62703・62707)

FKJ06-2区北部に位置する。後世の遺構の影響が強いため確実ではないが、4号線地点で検出した柱穴と溝を一連の建物遺構と解釈し、平面形を復元した。残存する柱穴の柱間寸法がおよそ6尺であることからすべての柱間寸法を6尺等間と仮定した場合には、桁行5間・梁行3間・面積約40m²の東西棟の掘立柱建物と考えられる。柱掘りかたは一辺約1mの方形を呈する。

建物を囲む溝(62706)は、柱穴からおよそ1m外側に巡る。断面方形の幅0.4±0.1mで、深さは柱穴とほぼ同じである⁽²⁾。

2) 柱穴列 (第176図) (N 11.5° W) (63541・63560・63568・63569・63582) 柱掘りかたは約0.5m±0.1mの円形である。重複する溝(63556・63557)を区画的な溝もしくは雨落ち溝と考えた場合には、建物と同様の柱穴規模であることからも、一本柱塀が存在した可能性がある。

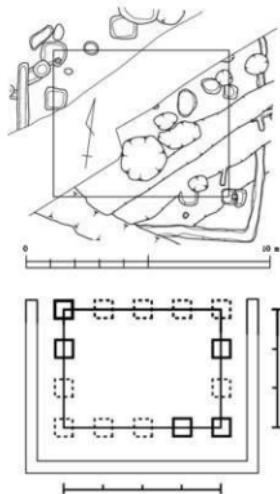
3) 柱穴 (第176図) 方形掘りかたの柱穴(63552・63554・63555・63570)がある。これらをひとつの建物として推定した場合には、約20m²の建物(N 16° W)が存在することになる。

4) 大溝 (第175図) FKJ06-2区の北東から南西に続く溝62798(N 72° E)からは、9世紀の遺物が出土している。溝62710(N 70° W)・溝63550(N 84° W)・溝63538(N 37° E)は9世紀の建物跡・柱穴群を切っている。これらの溝からは、時期の分かる遺物が出土していない。

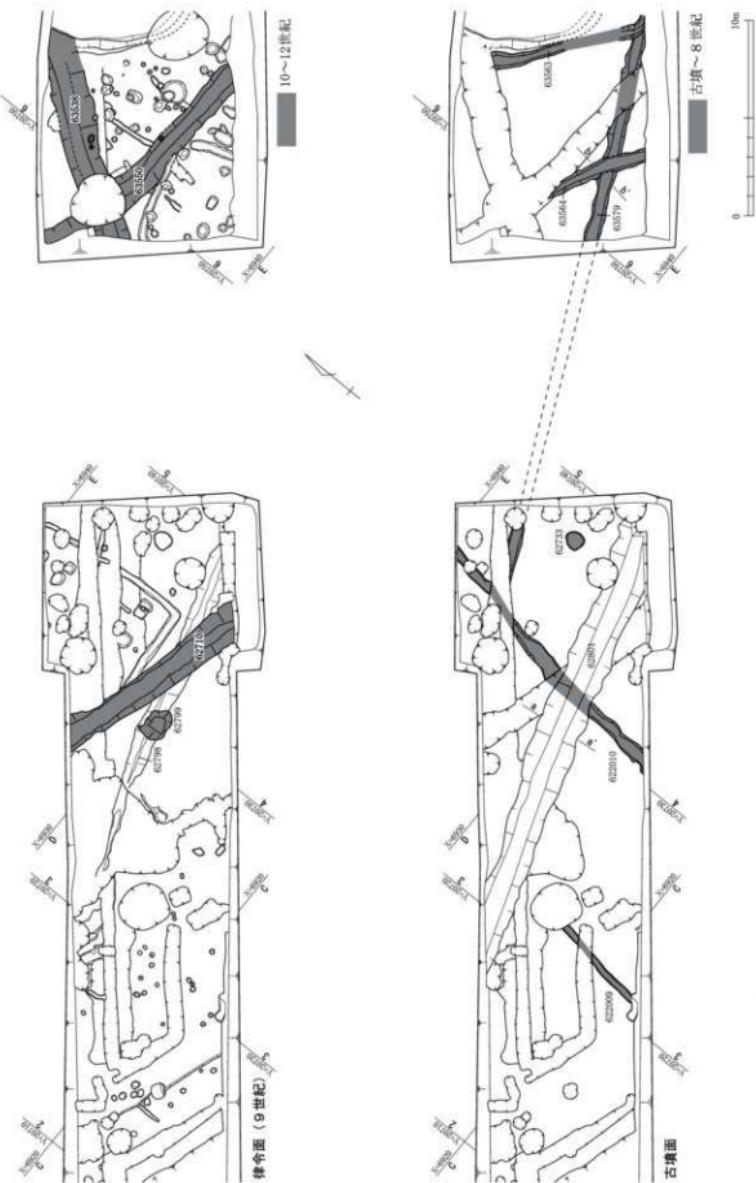
5) 焼土土坑 (第175図) この土坑(62799)からは大量の炭・焼土に伴い土錐が出土している。溝62798を切っているが、時期の分かる遺物は出土していない。

2 下層面の遺構

下層面の遺構は溝である。平行関係にある溝の間隔から、溝1類と溝2類に分けた。

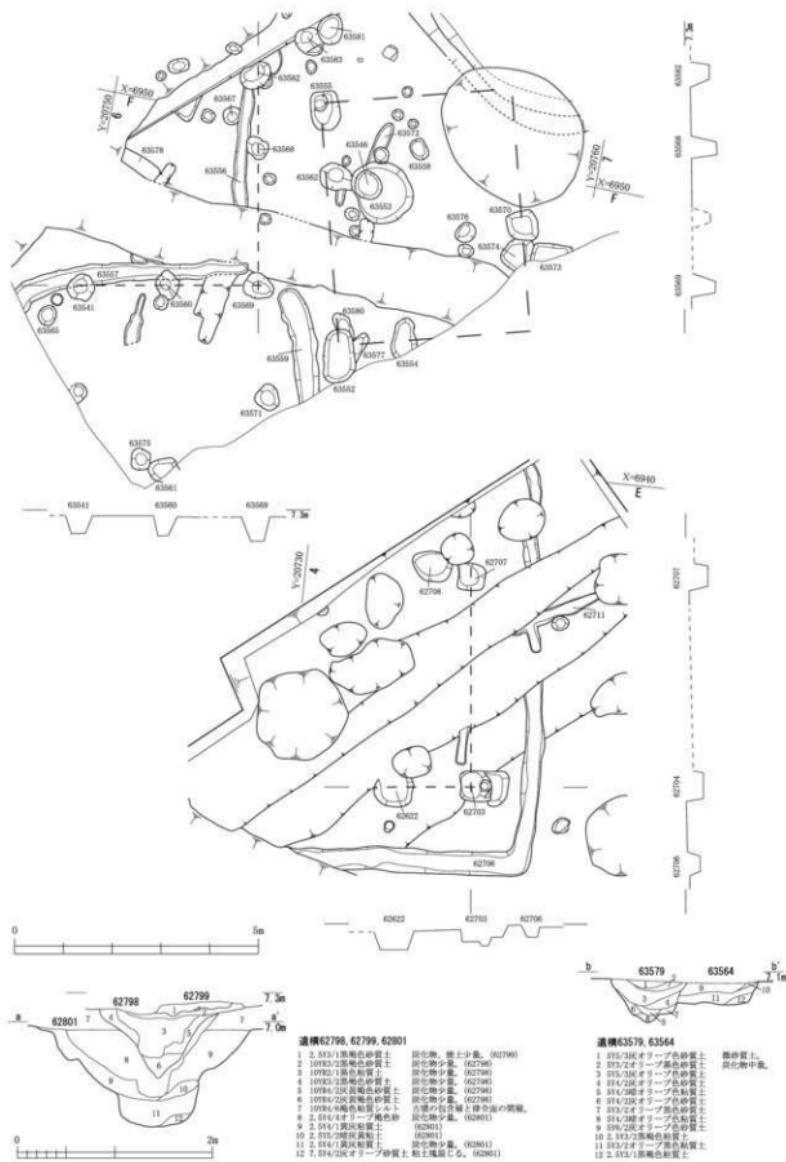


第174図 建物の合成と復元



第175図 古代の遺構 (FKJ06-2・3) ($S = 1/250$)

第1節 FJK06-2・3の様相



第176図 柱穴列・建物・溝 (FKJ06-2・3) (S=1/100・S=1/50)

1) 溝1群 (第175図) 溝の間隔は、約9m (約30尺) である。溝622010 (N 8° E) と溝622009 (N 6° E) があり、上層の遺構の方位とも同様であるため、地割り的な溝の可能性もある。

2) 溝2群 (第175図) 溝の間隔は、約6m (約20尺) である。溝63563 (N 57° W) と溝63564 (N 57° W)、溝63579 (N 64° E) と溝62801 (N 72° E) がそれぞれ平行関係にある。ただし、溝62801からは弥生後期～古墳時代前期と思われる土師器片が出土しているため、溝63579と関連するのは、溝62801の上層の溝62798なのかもしれない。溝63579が溝63564を切る。

各時期において一定の間隔で配置される溝は、断続的に区画的な開発が行われたことを示唆する。

3 遺物の器種の分類と構成

出土遺物は細片を除いた器形の判明するものが318点あり、そのなかから残存率の高い201点を報告する。ただし、希少性の高いものは特殊品として低残存であっても取り上げる。食膳具は出土土器のなかで最も多く、64.2%を占める (第28表)。本地域が畿内周辺諸国にみられるように須恵器が土器の構成主体になっていることからも、須恵器食膳具を分類の中心にする。

食膳具・貯蔵具・煮炊具・特殊品に大別する。食膳具は須恵器の蓋・壺・碗・皿・特殊品は上記以外の希少性の高い食膳具・鉄鉢・円面鏡、漁労具は土錘、貯蔵具は須恵器の甕・瓶・壺・鉢、煮炊具は土師器の甕・鍋・壺とする。

4 各器種の概要

1) 食膳具 (第177図1～52・第178図1～70) 食膳具の主体は無台の壺・碗・皿である。セット関係にある有台の壺・碗よりも蓋が2倍近く多い⁽³⁾。7世紀末から10世紀初頭まで存在し、各器種にバラつきはあるものの⁽⁴⁾、8世紀後葉以降に増加傾向が認められ、9世紀の遺物が数量的に多い。この数量的傾向は生産量と対応していると考えられ⁽⁵⁾、安定的に供給されたことを示すのであろう。文字資料関連として、蓋には転用鏡と考えられるものがあり、有台壺には墨書きされたものがある。

2) 特殊品 (第179図1～39) 脚部が広い高壺や有台盤⁽⁶⁾は、周辺遺跡においてみられない特殊な器形である。有台盤は4号線地点でも出土している。円面鏡の脚部片がある。山城産の須恵器皿は、山城産の緑釉陶器と器形・胎土・調整が同じであるため、緑釉陶器の素地と考える。

緑釉陶器は削り出しの蛇の目高台で内面にミガキを施す山城産、灰釉陶器は断面方形の高台を付す前面施釉の黒笠14号窓式であり、共に9世紀中葉頃と考える。緑釉陶器の短頭壺や灰釉陶器の鉄鉢は特に希少である。

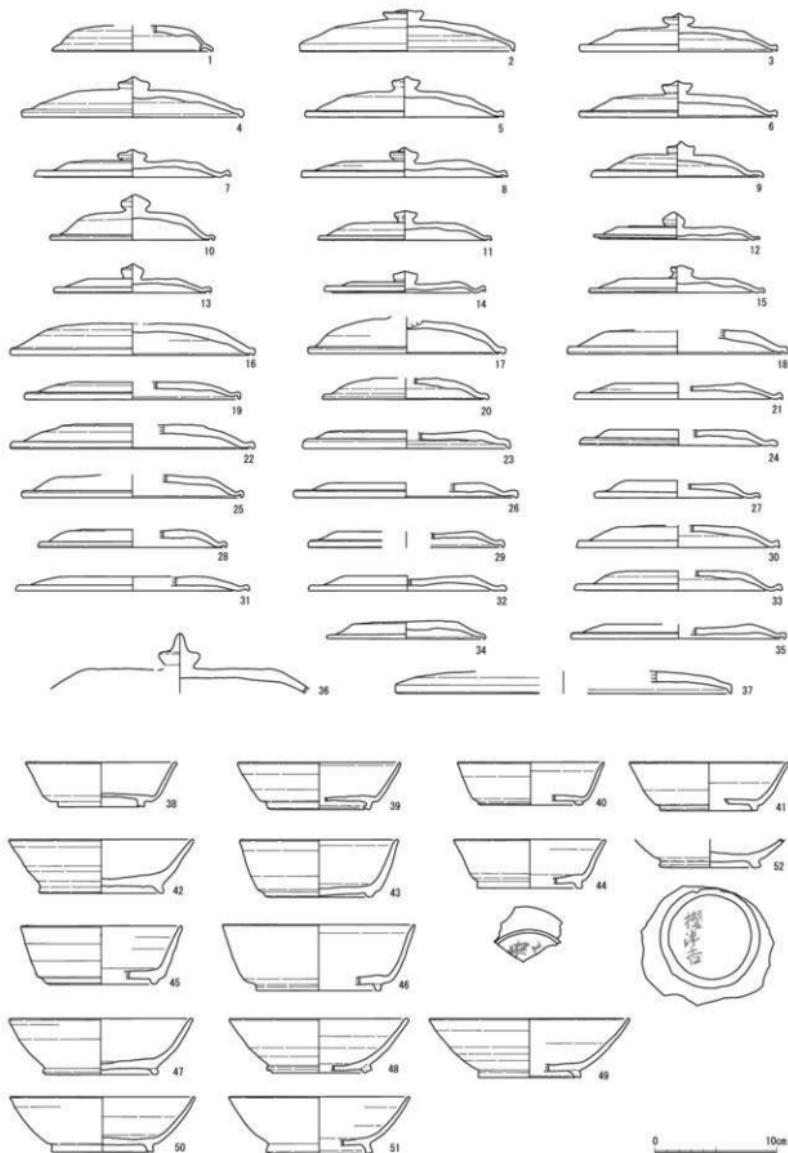
土師器食膳具は8世紀前半の鏡形器形が一定量存在し、10世紀の椀形器形や11世紀の柱状高台土器も

第28表 器種の分類と構成

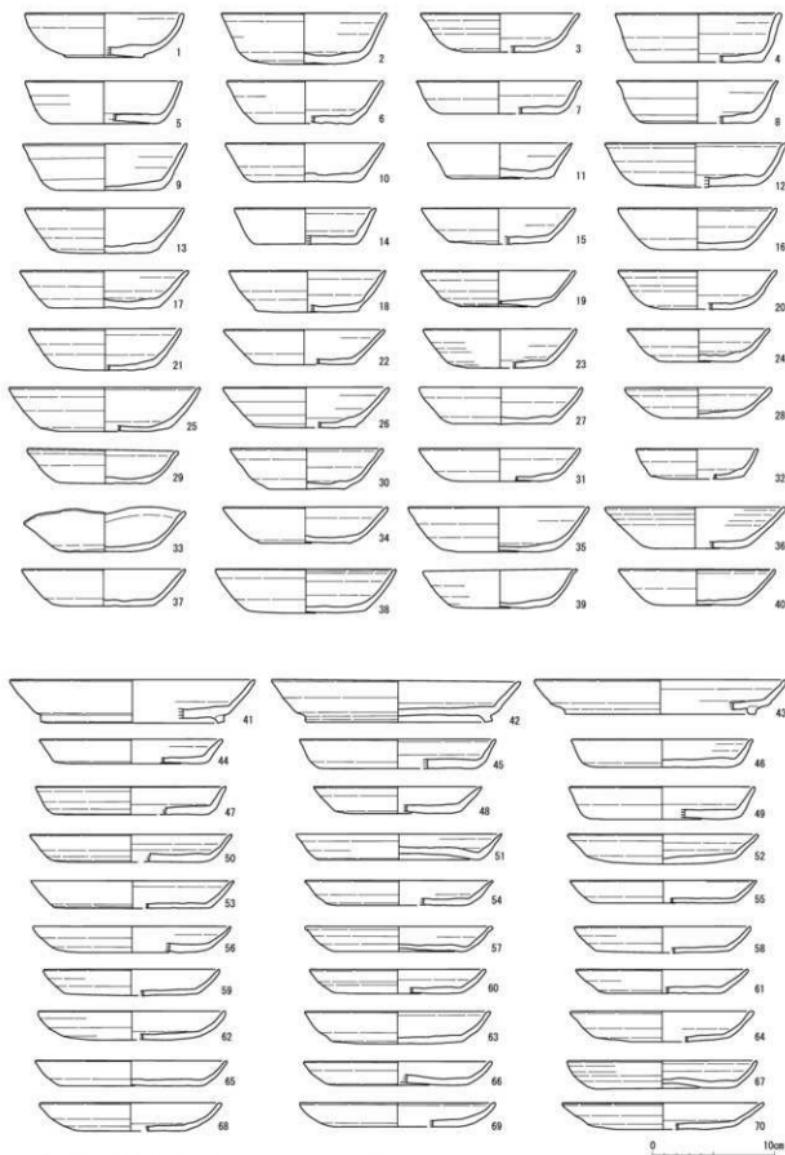
		実測/数量	比率		実測/数量	比率
食膳具	122/204	64.2		蓋	37/51	16.0
				有台壺	15/27	8.5
				無台壺	40/61	19.2
				皿	30/65	20.4
特殊品	39/44	13.8		須恵器	8/9	2.8
				緑釉陶器	8/9	2.8
				灰釉陶器	12/12	3.8
				土師器	11/14	4.4
漁労具	6/7	2.2		土錘	6/7	2.2
貯蔵具	19/27	8.5		甕	10/13	4.1
				壺	2/2	0.6
				瓶	4/4	1.3
				鉢	3/8	2.5
煮炊具	15/36	11.3		甕	12/33	10.4
				鍋	2/2	0.6
				蓋	1/1	0.3
		201/318	100.0			



第1節 Fkj06-2・3の様相

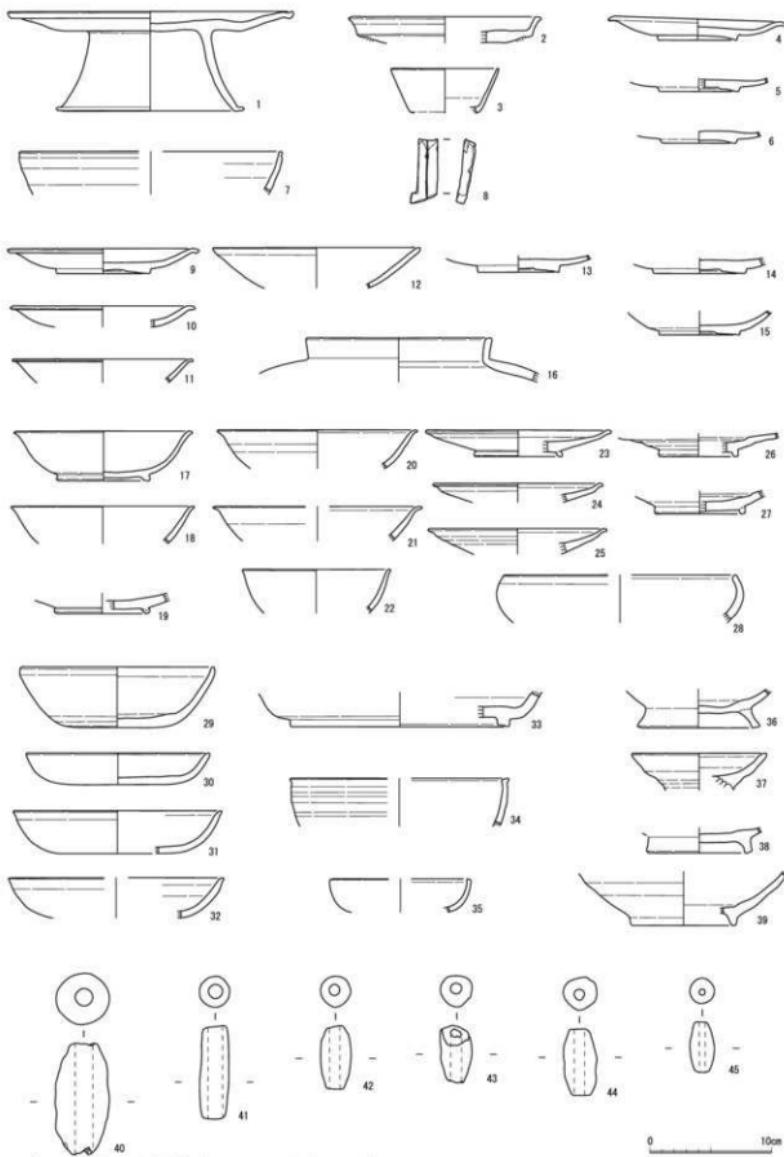


第177図 古代の遺物① (Fkj06-2・3) (S=1/4)

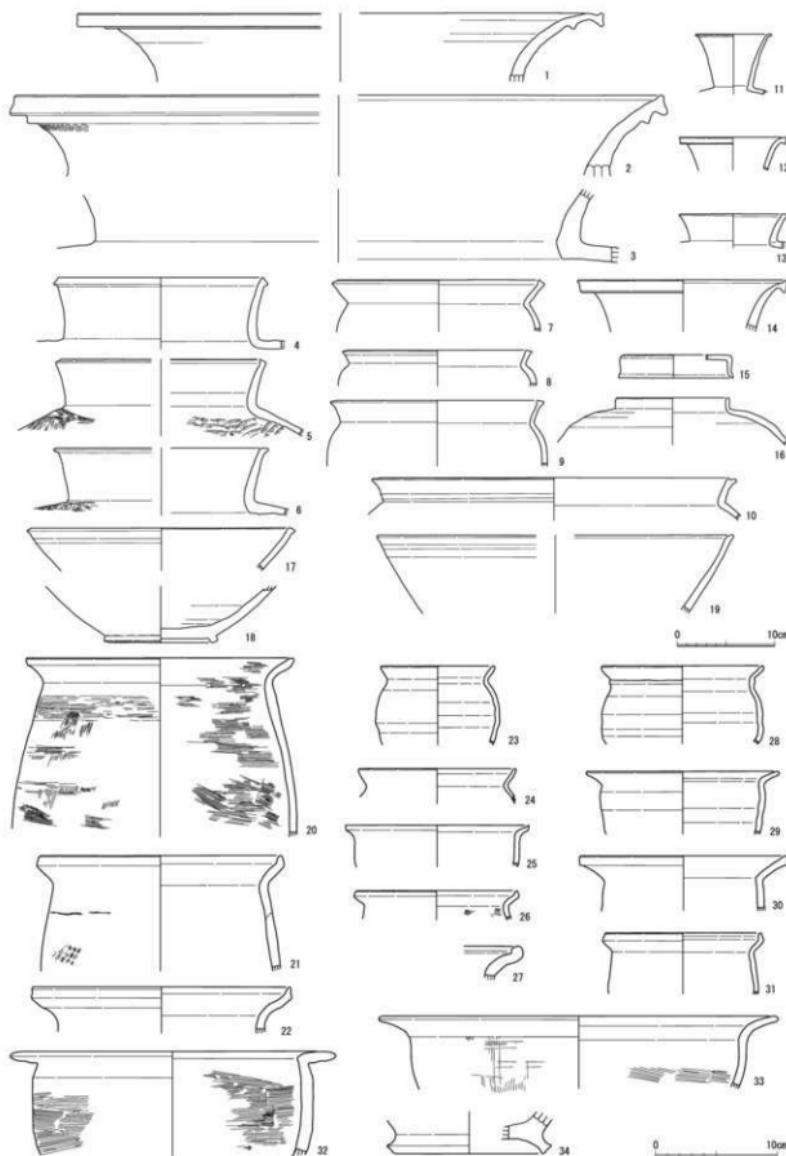


第178図 古代の遺物② (FKJ06-2・3) (S = 1/4)

第1節 FKJ06-2・3の様相



第179図 古代の遺物③ (FKJ06-2・3) (S=1/4)



第180図 古代の遺物④ (FKJ06-2・3) (S=1/5 : 1~19, S=1/4 : 20~34)

第29表 古代の遺物観察表①

凡例

- a. 出土地点はグリッド番号を記した。
 b. 器種名は、須恵器→青、土師器→土、绿釉陶器→緑、灰釉陶器→灰、黑色土器→黒と記した。

c. 調整は、以下の調整を番号で表記した。

1. 5% 回転アーチラウンド後ナット入り 内回転ナット
 2. 5% 回転アーチラウンドケツリ 内回転ナット
 3. 5% 回転アーチラウンド切削後不明 内回転ナット
 4. 5% 回転アーチラウンド切削後未調整 内回転ナット
 5. 5% 回転アーチラウンド切削後ケツリ出し 内回転ナット・ミキサ
 6. 5% 回転アーチラウンド切削後ナット入り 内回転ナット・ミキサ
 7. 5% 回転アーチラウンドナット入り 内回転ナット・ハサキ
 8. 5% 回転アーチラウンドナット入り 内回転ナット・ハサキ
 9. 5% 回転アーチラウンドナット入り 内回転ナット・ハサキ
10. 5% 回転アーチラウンドナット入り
- なお、179-1と179-2の脚部には、裏面が研磨しているなどと見られる箇所を確認できなかっただけで、ここではヨリカ成形によるものとしてあつた。
- d. 既成は、良」が焼き締まりが強く被覆のもの、「未」が焼成不良で軟質のものを示す。
- e. 手把は、「青」が手把少と手少のもの、「黄」が手把多と手多のものを示す。

番号	出土地点	器種	口径	底径	調査	底成	軸寸	色調	器名
179-1	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
179-2	D1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-1	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-2	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-3	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-4	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-5	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-6	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-7	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-8	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-9	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-10	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-11	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-12	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-13	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-14	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-15	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-16	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-17	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-18	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-19	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-20	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-21	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-22	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-23	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-24	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-25	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-26	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-27	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-28	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-29	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-30	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-31	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-32	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-33	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-34	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-35	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-36	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-37	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-38	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-39	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-40	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-41	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-42	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-43	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-44	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-45	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-46	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-47	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-48	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-49	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-50	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-51	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-52	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-53	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-54	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-55	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-56	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-57	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-58	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-59	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-60	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-61	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-62	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-63	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-64	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-65	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-66	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-67	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-68	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-69	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-70	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-71	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-72	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-73	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-74	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-75	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-76	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-77	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-78	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-79	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-80	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-81	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-82	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-83	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-84	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-85	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-86	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-87	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-88	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-89	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-90	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-91	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-92	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-93	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-94	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-95	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-96	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-97	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-98	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-99	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-100	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-101	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-102	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-103	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-104	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-105	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-106	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-107	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-108	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-109	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-110	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-111	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-112	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-113	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-114	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-115	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-116	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-117	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-118	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-119	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-120	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-121	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-122	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-123	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-124	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-125	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-126	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-127	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-128	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-129	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-130	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-131	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-132	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-133	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-134	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-135	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-136	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-137	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-138	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-139	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-140	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-141	C1	青	14.0	11.0	1	直	5.5	青	直筒
180-142	C1	青	14.0	11.0	1				

ある。黒色土器の底部片もある。

- 3) 漁労具（第179図40～45） 土錐が焼土坑62799からまとまって出土した。
- 4) 貯蔵具（第180図1～19） 壺は大中小の規格で同量ずつある。瓶類は少ない。時期的な傾向は読み取れない。瓶類と大平鉢はD4区から出土しているが、壺類はD4区に限定されない。
- 5) 煮炊具（第180図20～34） 小型の壺が比較的多い。8世紀後半から9世紀前半までが多い。壺と鍋はD4区からの出土が多い。

註

- 1 古代の遺構の深さから旧生活面を推定（山中敏史編2003『古代の官衙遺跡』を参照）すると、古代の遺構検出面（標高7.3m）から旧生活面まで0.3～0.5mの土層が存在したとも考えられ、16世紀面とされている標高とはほぼ同じになる。事実、16世紀面とした遺構検出面（標高7.5m）でも律令包含層の上部が遺存している部分も存在した。ただし、中世以降の城郭形成による土地改良は行われており、古代の建物跡のあるD4区の土層にもその影響が認められる。律令包含層が遺存している部分があることや、建物跡の部分に遺物が集中していることから、それほど土の移動を伴わない地図めのような土地改良であったと考える。
- 2 4号線の調査も考慮すると地山面は北から南へ僅かに傾斜しているにもかかわらず、北側で溝が検出されなかったため、雨落ち溝とは考えにくい。柱穴と同じ深さであることから、建物範囲の傾斜をなくすための基礎状の土盛堆とも考えられるが根拠を欠く。建物の南側に遺構が検出されていないことから、他よりは区画溝の可能性が高いといえようか。
- 3 兵部省では有台壺の7倍弱の壺蓋が出土しており、その要因のひとつとして転用窯の存在が指摘されている。
- 4 各器種をみると、壺は7世紀末の口縁部に返しが付く器形から、9世紀末の口縁部が丸みをもつ無鉢器形までが存在し、8世紀末以降の口縁部を強く折り返す器形が約8割を占める。有台壺は8世紀前葉頃の口縁が開く扁平器形から、10世紀初頭の壺器系碗形器形までが存在し、9世紀後半の碗形器形がやや多い。無台壺は7世紀末の碗形器形から、10世紀初頭の碗形器形までが存在し、9世紀代の器形が多い。皿は8世紀後葉の直立器形から10世紀初頭の碗形器形までが存在し、9世紀代の器形が多い。
- 5 8世紀後葉以降に生産量が増加すると指摘されている（久保1994）。
- 6 底部が厚く斜めに立ち上がり、口縁部が直上し端部で外反する器形。4号線地点では2点出土している。平城京や長岡京で出土しているものは口径の半分ほどの底径で深みの器形であるが、同系統ではないかと考え、ここでは皿とは区別した。

第2節 FKJ06-4の様相

FKJ06-4の概要 遺構の検出は、標高7.3m前後でほぼ水平に堆積する黄褐色シルト層で行った。検出面の上層には暗褐色粘土層が水平堆積し、遺物の散漫な出土があつたため包含層としてとらえた。遺構は調査区のはば中央部に限られ、それ以外の場所では確認できなかった。遺構は、溝3条・井戸1基である（第181図）。調査区の遺物は、包含層および井戸から出土している。

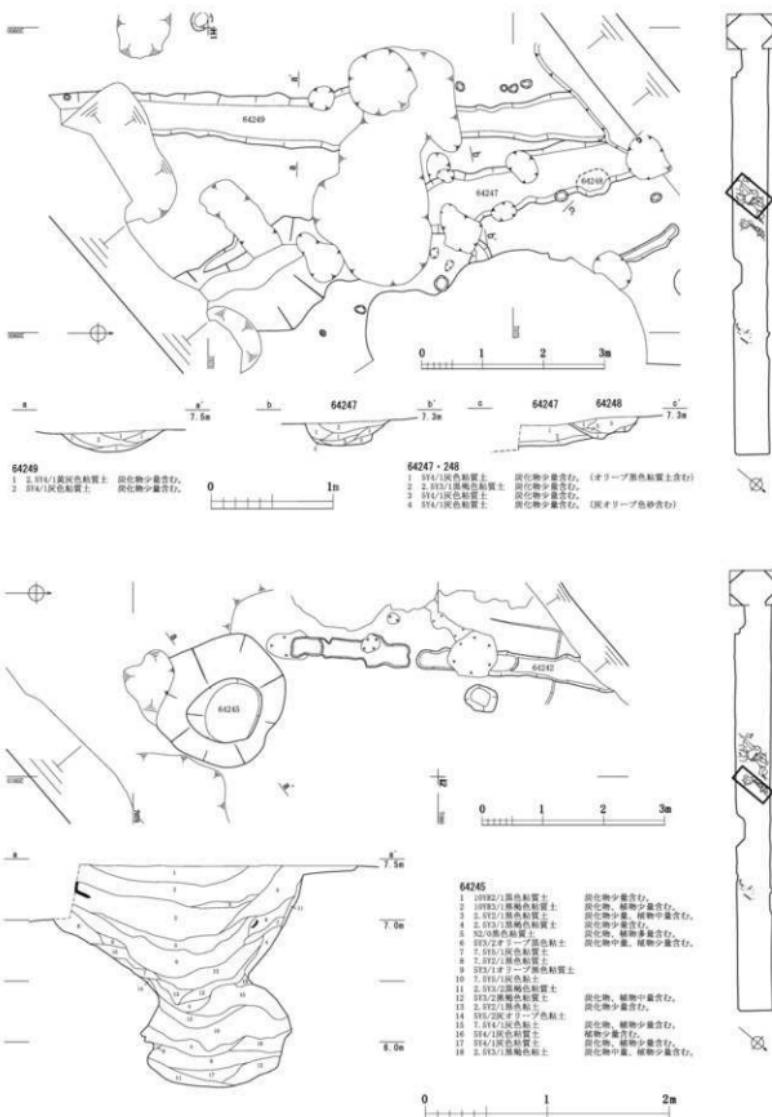
1 遺構

溝64249（N 0°）と溝64242（N 5° E）は南北へのびる方位がほぼ同じで、6m（20尺）の間隔がある。底面の標高は同じ7.16mである。これらの溝は、区画溝の可能性がある。

溝64247（N16° E）底面の標高は7.0m。溝64249に切られている。

井戸64245は、素掘りである。掘りかたが中央付近でくびれており、その上部からのみ須恵器の破片が出土する。井戸を埋める際に廃棄用の土坑として使用されたのであろう。

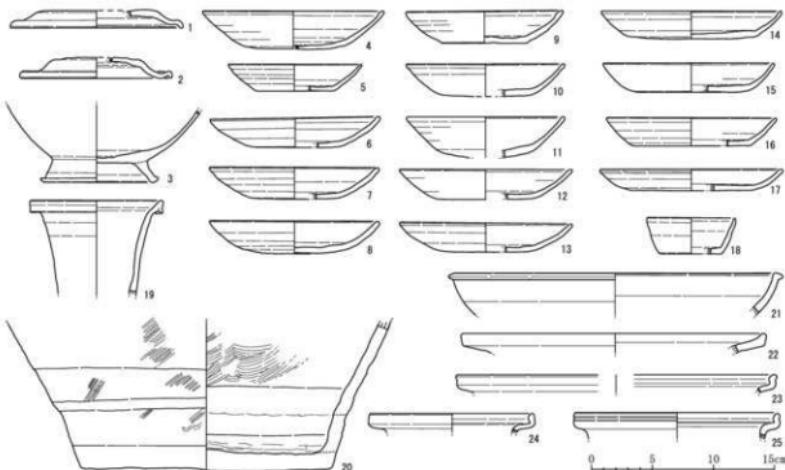
第2節 FKGJ06-4の様相



第181図 溝・井戸 (FKGJ06-4) (S=1/80, 1/40)

2 遺物

出土遺物は細片を除いた器形の判明するもの25点を報告する。食膳具が最も多く18点、貯蔵具が3点、煮炊具が4点である。食膳具は無鉢蓋・有台碗・無台碗・無台皿・小型無台杯、貯蔵具は双耳瓶・大平鉢、煮炊具は甕である。これらの土器は、9世紀の前半に属する3点（5・16・22）を除いて、9世紀後葉～末頃にまとまる⁽¹⁾。



第182図 古代の遺物⑤ (FKJ06-4) (S=1/4)

第30表 古代の遺物観察表②

番号	所生	器種	口径	基部	調査	地底	割寸	色調	備考
1882-1	H43	直腹	16.1	—	直	直	直	黒	直
1882-2	H11	直腹	12.4	—	直	直	直	黒	直
1882-3	G10	直腹	—	—	直	直	直	黒	直
1882-4	H11	直腹内凹	14.8	3.1	直	直	直	黒	直
1882-5	G10	直腹内凹	16.6	2.5	直	直	直	黒	直
1882-6	H11	直腹内凹	14.0	2.5	直	直	直	黒	直
1882-7	G10	直腹内凹	14.0	2.5	直	直	直	黒	直
1882-8	H11	直腹内凹	14.0	2.7	直	直	直	黒	直
1882-9	G40	直腹内凹	13.0	2.7	直	直	直	黒	直
1882-10	H11	直腹内凹	13.0	2.6	直	直	直	黒	直
1882-11	G20	直腹内凹	14.0	2.0	直	直	直	黒	直
1882-12	229	直腹内凹	14.0	2.0	直	直	直	黒	直
1882-13	625	直腹内凹	14.0	2.3	直	直	直	黒	直

番号	所生	器種	口径	基部	調査	地底	割寸	色調	備考
1882-14	200-231	直腹内凹	14.1	—	直	直	直	黒	直
1882-15	246	直腹内凹	16.0	2.4	直	直	直	黒	直
1882-16	G11	直腹内凹	13.9	2.3	直	直	直	黒	直
1882-17	G11	直腹内凹	(13)	1.8	直	直	直	黒	直
1882-18	G10	直腹内凹	2.1	2.9	直	直	直	黒	直
1882-19	229	直腹内凹	10.0	—	直	直	直	黒	直
1882-20	245	直腹内凹	—	—	直	直	直	黒	直
1882-21	600	直腹内凹	27.4	—	直	直	直	黒	直
1882-22	1110	直腹内凹	25.0	—	直	直	直	黒	直
1882-23	1111	直腹内凹	(26)	—	直	直	直	黒	直
1882-24	311	直腹内凹	14.4	—	直	直	直	黒	直
1882-25	1110	直腹内凹	16.8	—	直	直	直	黒	直

註

- 1 9世紀前半の土器を除くと、口縁部が丸みをもつ無鉢蓋・高台端部を外側に折り返す有台碗・口縁端部が丸く膨らむ無台碗と黒・小型無台杯・双耳瓶・口縁部を折り返す土部器窓という特徴の土器群になる。これらは鉢伏窓併行段階と考える。

第3節 FKKJ06-2・3地点と4号線地点に展開する遺跡の性格

今回の調査区（FKKJ06-2・3）と4号線地点の調査区は同じ遺跡であり、合成したものが第183図である。この遺跡の性格を検討する。

1 遺構の様相

古代の遺構の変遷を出土遺物と層序から考えると、以下のように分けられる。

1) 古墳時代前期前葉頃 東西軸の大溝1が掘削される。西端の溝底の直上から一括的に古墳時代前期前葉の遺物が出土している。古墳時代前期前葉以降に時期の分かる遺物は無い。この大溝の規模からは短期的なものとも思えないが、いつまで存続していたものであるかは分からぬ。その他の遺構の存在についても同様に分からぬ。

2) 7世紀中葉～8世紀中葉頃 包含層中からは7世紀中葉～後葉頃の須恵器が出土しており、8世紀中葉頃までの量は少ない。この7世紀中葉～8世紀中葉の時期が、律令期の遺跡の開発初期段階と考えたい。溝3・溝4からは、律令期の土器片が出土している。古墳面で検出された南北軸の溝1と溝2は、古墳面ではほとんど遺構の深さが無い状態で検出されており、遺物も出土しなかつたため、本来は上面で検出されるべき溝であった可能性が高い。方位は異なるが溝3と幅・底面の標高が同様であるため、この溝と同時期に掘削された可能性を考えたい。溝3は遺物量や覆土の状況から水路として機能していたとは考えにくく、一定の間隔を空けていることからも開発段階の地割り的な役割を果たした溝と考えたい。この時期には、古墳時代の大溝1と同一地点に、大溝2が再掘削される。古墳時代前期前葉の溝は大型の水路と考えられるため、少なからず遺存していた水路を再利用したのではないかと考える。この溝は9世紀頃まで存続したと考えられる。

3) 8世紀後葉～9世紀中葉頃 前段階の溝と若干方位は異なるが、南北を軸とした建物群が形成される。建物は同一地点に重複して建てられており、空白地を利用していない。建物の配置や場所から、建物の建設場所は区画的に規定されていたと考える。また、建物が重複する場所において建物の方位が統一されていることは、建て替えに際しても前段階の建物と同一の方位にする必要性があったためと考える。建物の建設場所と方位の同一性は、建物に関する計画が一定期間存続していたことを示す。この状況により建物を1棟ずつ抽出することは困難であるが、柱穴の規模（一辺約1mの方形）や間隔から建物規模を推定すると、50m²を超える大型のものと考えられる。

建物1は周辺から9世紀中葉の遺物が出土しているため、この時期の建物と考える。井戸は8世紀後葉頃に掘削され、10世紀初頭まで存在したと考えられる⁽¹⁾。井戸と方位が同じ北側の建物群も、8世紀後葉頃に建てられ始めたと考える。

4) 10世紀中葉以降 この時期の遺構である大溝3は井戸を切っているため、10世紀中葉以降～12世紀頃までに掘削されたと考える。溝6と溝7と共に時期を特定できる遺物が出土しているわけではないため、同時期の溝群である確証はないが、これらは区画的に配置されたようにみえる。

2 遺物の様相

各器種のおおよその比率は、須恵器食膳具が7割、その他の貯蔵具・煮炊具・特殊品（特殊器形須恵器・灰釉陶器・綠釉陶器・土師器食具）が1割ずつとなる。須恵器食膳具のなかでは、無台の壺・皿が6割強を占め、次いで壺蓋・有台の壺・皿は1割ほどである。貯蔵具と煮炊具は、壺類が極めて多い。

土器の時期的な傾向は、7世紀のものが僅かに存在し、8世紀中葉頃から増加し始め、9世紀代から10世紀初頭の須恵器消滅までが器種・数量とも最も多く、それ以降も僅かに存在する。

土師器食膳具は8世紀前半のものが数点存在するが、8世紀前半の須恵器も少ないため食膳具の数量を相互補完する状況であったと考える。8世紀中葉頃以降は須恵器生産の増加に伴って、須恵器のみで賄えるようになっていった状況が分かる。

9世紀の土器をみると、須恵器の個体数が多いことと共に、綠釉陶器と灰釉陶器が存在する。綠釉陶器（素地を含む）は9世紀中葉頃の山城産、灰釉陶器は9世紀中葉頃の猿投産（黒 笹14-2号窯式-黒 笹90-1号窯式）である。器種・個体数ともに豊富な9世紀中葉頃が本遺跡の全盛期と推定する。それ以降の須恵器の消滅する10世紀初頭まで、須恵器は豊富な数量を維持する。

綠釉陶器の素地は、都周辺限定で流通するものであるため⁽²⁾、当該地域での出土は特殊といえる。有台盤・脚部径が大きい高杯は、胎土から周辺の在地窯生産とは思うが、周辺遺跡では確認できなかった。文字関連遺物として、円面鏡と転用鏡がある。

3 遺跡の性格

本遺跡は、7世紀中葉～後葉頃の蓋が最も古く、7世紀中葉頃に開発されたと考えられる。これ以前の古墳時代の遺構との連続性は認めにくく、この空白期間に、集落が存在していたとも思えない。蓋・有台杯・無台杯といった食膳具が揃うのは、8世紀初頭～前葉にかけての頃である。8世紀中葉まではそれ以降と比べて緩やかな発展といえる。本格的に開発が進むのは、井戸や建物が造られた8世紀後葉頃である。建物は10世紀初頭まで存在する。出土土器をみると、8世紀中葉以降は増加し、9世紀中葉をピークに9世紀代は一定量を確保している。ただし、土器の生産量は8世紀の後半から増加し、9世紀の後半にもさらに増加する傾向がある。ここでは9世紀中葉の建物1やそれに関連する綠釉陶器・灰釉陶器などの複数の建物と高級品が存在した状況を、遺跡の最盛期と考えたい。その盛行は10世紀初頭までで、それ以後は須恵器の消滅と連動するように衰退する。10世紀前葉～11世紀代の土器は極めて少ない。おそらく当該期に大溝が掘削されるが、生活の痕跡は認めにくい。

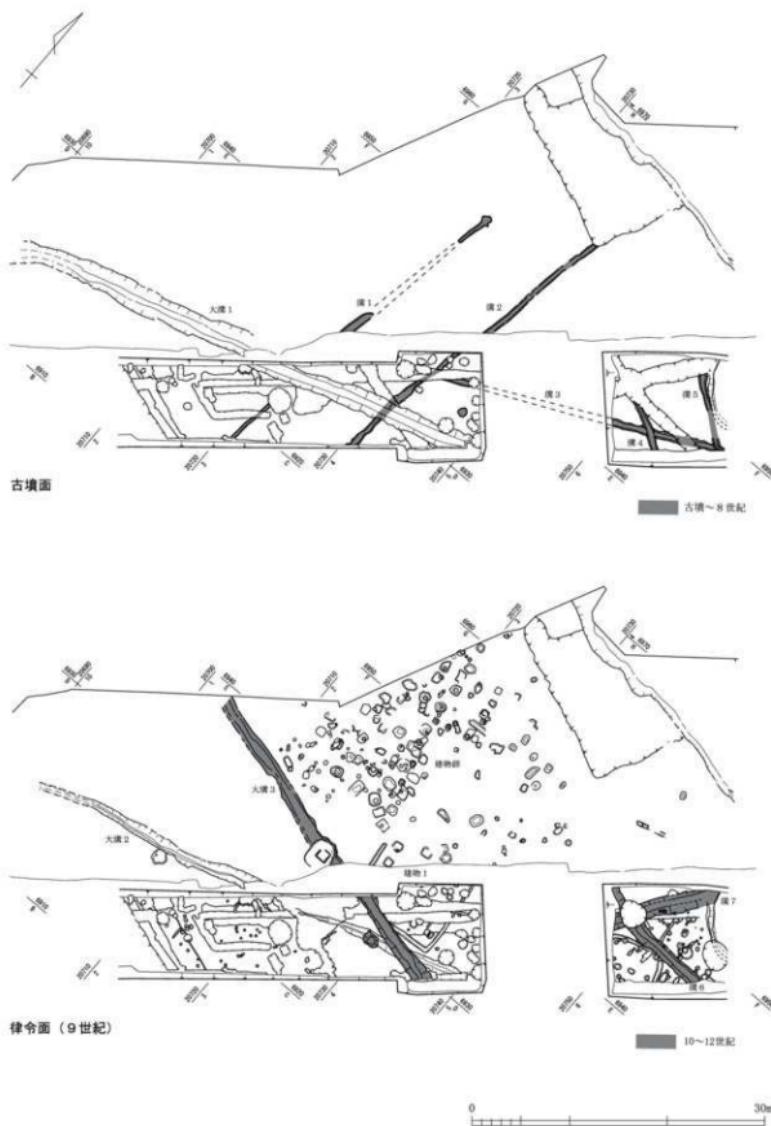
律令期における本遺跡の開発は、区画を重視している。それが少なくとも10世紀初頭まで継続され、その後も区画的な大溝が掘削されている。そのため、この区域は律令期において区画的な開発が行われたといえる。このような開発に有力者が関わっていると想定できるが、継続的な区画規定から私的な開発というよりは公的な性格を有する開発と考えたい。

9世紀中葉の綠釉陶器と灰釉陶器は、綠釉陶器の素地があることからも都との往来により入手したものであろう。8世紀前半の赤彩土師器の生産場所は分からぬが、畿内産のものなら綠釉陶器の入手法と同様であろう。在地産なら都と同様に土器の必要量を満たすためか、都の土器様式を模倣する必要があったためと考えられる。

円面鏡や転用鏡の存在や墨書き土器の丁寧な文字からは、識字層が存在したことが分かる。鏡の量からそれが常駐的であったかは分からぬが、本遺跡の様相を考えると、識字層が常駐する施設は存在したはずである。

本遺跡は、交通の要衝と考えられる福井市街地域に位置する⁽³⁾。この立地環境を踏まえて、区画的な配置・建物の規格、豊富な器種・都周辺にのみ流通する土器といった特徴は、現状における足羽郡内で調査された遺跡のなかでも最も官衙的様相を備えていると評価できるのである。

第3節 Fkj06-2・3地点と4号線地点に展開する遺跡の性格



第183図 古代の遺構（4号線地点との合成）（S=1/500）

註

- 1 井戸の内部からは8世紀初頭～10世紀初頭までの土器が出土している。井戸の掘りかたは8世紀中葉～後葉の土器が中心である。井戸内部は9世紀後半が中心である。9世紀中葉と10世紀初頭の土器片が1点ずつ掘りかたから出土し、9世紀中葉のものは井戸内のものと接合する。この井戸の井戸枠は、井戸枠は横板の井形組の内外に立板を組み、さらに内側の四隅に柱を立てて横桟で固定している。この内側の柱等は井戸枠の補強とも考えられ、およそ1世紀半の存続の間にたびたび修復していた可能性がある。その場合には、掘りかたに存在する9世紀中葉以降の土器は、わずか2点ということからも修復の際に掘りかたに混入した可能性がある。
- 2 菅原一郎 2004「II-2 古代後期の土器」「古代の官衙遺跡」Ⅱ 遺物・遺跡編 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 3 斎谷紀 2008「古代足羽郡における本遺跡の位置づけ」第Ⅳ章総括「福井城跡」福井県教育厅埋蔵文化財調査センター参照

引用・参考文献

- 河村健史編 2004「福井城跡」福井県教育厅埋蔵文化財調査センター
- 久保智康 1994「金津窯跡群および武生南部窯跡群における8世紀中葉の画期」
『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定」
『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）』北陸古代土器研究会
- 奈良文化財研究所編 2005「兵部省地区の調査」平城宮発掘調査報告XVI 奈良文化財研究所学報第70冊
独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 堀大介 2004「古代須恵器編年と曆年代—越前・加賀を中心に—」
『あさひシンポジウム2003記録集 山の信仰を考える—越知山と泰澄を深めるために—』朝日町教育委員会
- 水村伸行 1989「鉢伏1号窯址とその年代」『福井県考古学会会報』第28号 福井県考古学会
- 水村伸行 1990「編年の位置づけ」第Ⅳ章総括3
『鉢伏2・3号窯址灰原発掘調査概法』福井県教育厅埋蔵文化財調査センター
- 水村伸行 2003「越前国丹生窯跡群出土の新資料」『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
- 望月精司 1994「南加賀古窯跡群における8世紀中葉の画期について」
『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 望月精司 1995「加賀地域における7世紀後半の須恵器・土師器生産」
『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 中山敏史編 2003「古代の官衙遺跡」I 遺構編 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
- 中山敏史編 2004「古代の官衙遺跡」II 遺物・遺跡編 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所

第6章 自然科学分析

この章は、自然科学分析の成果報告である「福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査」、「福井城跡出土木製品の樹種調査結果」、「福井城跡（F K J 05・06次調査）から出土した動物遺存体」を掲載する。

木製品の樹種同定・漆器の塗膜分析は、保存処理と共に、平成20年度に（株）吉田生物研究所に委託し、その成果について報告文を得た。漆器は、塗膜構造および使用顔料の分析と、樹種同定を行った。特に漆器の研究において、塗膜分析は、形態からだけでは分からぬ製作技法などを明らかにする上で、欠かすことの出来ないものであり、蛍光X線分析装置および光学顕微鏡を使用し実施している。

今回塗膜分析を行った漆器は、椀類が12点、箸と櫛が1点ずつである。17世紀初頭から19世紀中葉にかけての時期のもので、17世紀初頭が5点、19世紀代が4点、17～19世紀が5点である。

漆器の上塗色は、椀類では、外黒色内赤色が7点、内外黒色が4点、内外赤色が1点である。漆絵は、赤・黄・銀などを使用し扇などを描く。器種は、椀類では椀が8点、蓋が1点、豆子1点、腰高1点、平椀1点である。

使用顔料の分析は、漆絵の使用色を目視で赤、黒、黄、金、銀とした資料の実態を明かにする目的で実施した。

漆器以外の木製品は、樹種同定のみを実施した。特に木簡などの文字資料と、将棋の駒などの特殊品を中心に実施した。これらはすべて江戸時代のもので、17世紀代を中心とする。ゴミ廃棄土坑からの出土である。

動物遺存体の分析は、木村茉莉（当センター嘱託職員）の伝により、丸山真史氏（京都大学大学院人間・環境学研究科）にお願いした。分析・執筆は氏の御好意による。

資料は、今回の北陸新幹線福井駅建設事業に伴う福井城跡の調査により検出したものである。主に福井城期の廃棄土坑（ゴミ穴）から出土した獸骨・魚骨などであり、被熱痕や切断された痕跡の認められるものがあることから、加工後や食後の生活ゴミとして廃棄されたことが考えられる。これらの内容を確認することは、当時の食生活の一端を窺うための一助となる。

また、6点の焼けた人骨が確認されており、そのうちの2点は17世紀前葉～中葉の遺物を含む整地土層中から検出されたものである。寛文九（1669）年、福井城下は本丸天守をはじめとする城下3,579戸を焼失する未曾有の大火灾（寛文の大火灾）の被害を受けている。2点の焼骨は、大火の際の犠牲者の遺骨である可能性が考えられる。

第1節 福井城跡出土漆製品の塗膜構造調査

株吉田生物研究所

1はじめに

福井城跡から出土した漆製品14点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行つたので、以下にその結果を報告する。

2 調査資料

調査した資料は、表1に示す近世の漆製品14点である。

表1 調査資料

No.	揮団番号	因版番号	種類	時期	樹種*	概要
1	145-28	20	箸	17c 後～18c 後	ヒノキ属	全体の約1/3が赤で、残りの2/3が黒地に黄で文様。
2	144-16	19	豆子	17c 前	ケヤキ	内外両面とも赤で、高台内のみ黒。体部外側には一条の突帯(かつら)がめぐる。
3	144-13	-	蓋	19c 中	トチノキ	内面赤、外表面は黒地に銀?の漆絵で植物文。
4	144-15	19	腰高	17c～19c	ブナ属	内面赤、外表面黒地に黄の漆絵で二重丸に植物文。
5	144-21	-	平椀	19c 中	トチノキ	内面赤、外表面黒。
6	143-24	19	椀	19c 中～近代	トチノキ	内面赤、外表面黒地に銀?の漆絵で宝珠や伝などの吉祥文。
7	142-22	18	椀	16c 末～17c 初	ケヤキ	内外両面とも黒。
8	141-4	18	椀	16c 末～17c 初	トチノキ	内面赤、外表面黒地に赤の漆絵で三箇所に亀甲文。
9	141-9	18	椀	19c 前	トチノキ	内面は赤地に黒の漆絵で海老を、外表面は黒地に赤などの漆絵で伝。
10	143-13	19	椀	16c 末～17c 初	ブナ属	内面赤、外表面は黒地に赤の漆絵で扇。
11	142-23	18	椀	16c 末～17c 初	ブナ属	内面黒、外表面は黒地に赤の漆絵で扇。
12	142-7	-	椀	16c 末～17c 初	ブナ属	内外両面とも黒地に赤の漆絵で扇。
13	144-18	19	椀	18c 後～19c	トチノキ	内外面とも黒。
24	150-27	21	拂	18c 中～19c 中	イヌノキ	黒地に金の壽絵で文様。

*:樹種については別稿の樹種同定報告書を参照のこと

3 調査方法

漆器表面の加飾部に使用された顔料や箔の材質を蛍光X線分析により調査した。

分析装置は、セイコーインスツルメンツ 萤光X線膜厚計 SFT8000を用いた。調査に際しては、数mm四方の小破片を使用した。その結果はスペクトル表で表現されている。

次に表1の資料本体の内外面から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片を作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

4 調査結果

4-1) 機器分析結果 以下に蛍光X線分析結果を付し、検出した元素を表2に示す。

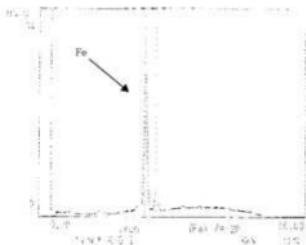


図1 No.1赤色部

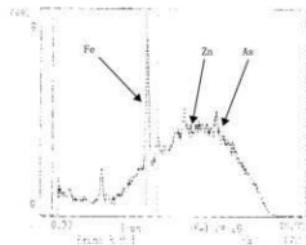


図2 No.1黄色部

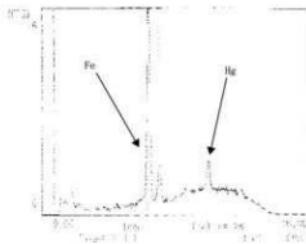


図3 No.2 内面赤色部

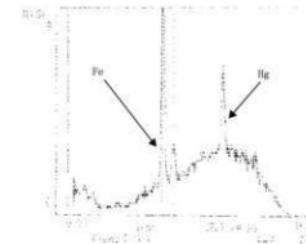


図4 No.2 外面赤色部

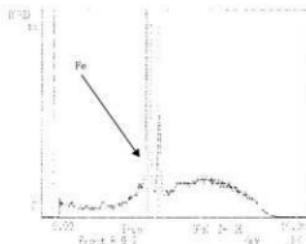


図5 No.3 内面赤色部

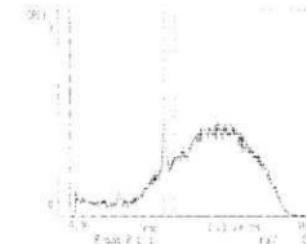


図6 No.3 外面銀色？部

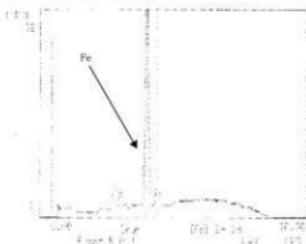


図7 No.4 内面赤色部

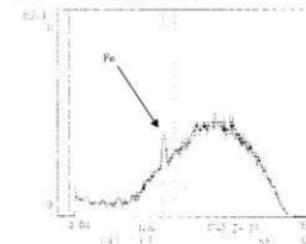


図8 No.4 外面黄色部

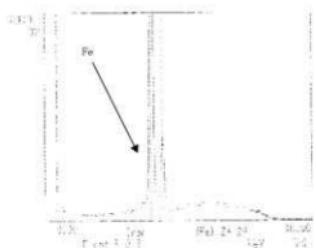


图9 No.5 内面赤色部

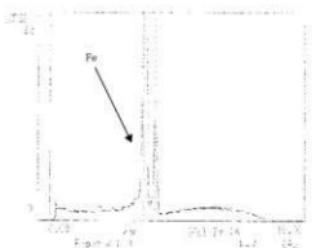


图10 No.6 内面赤色部

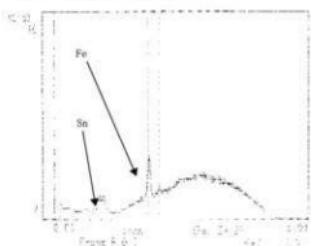


图11 No.6 外面黄色部

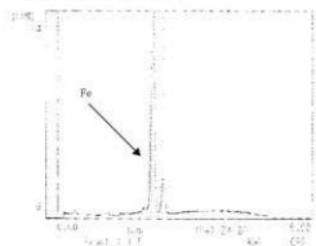


图12 No.8 内面赤色部

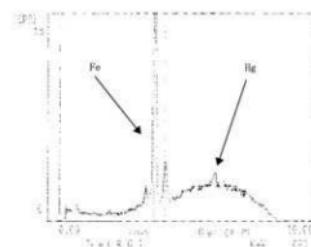


图13 No.8 外面赤色部

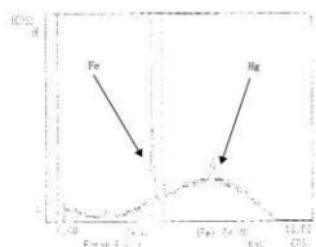


图14 No.9 内面赤色部

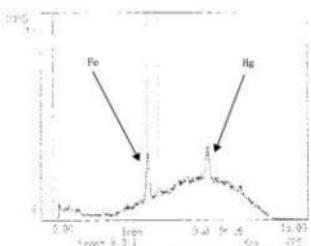


图15 No.9 外面赤色部

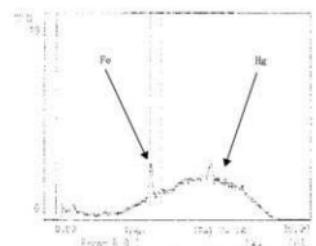


图16 No.9 外面銀色部

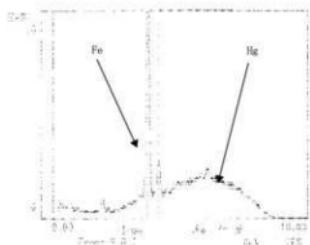


図17 No.10内面赤色部

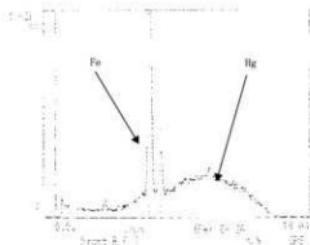


図18 No.10外面赤色部

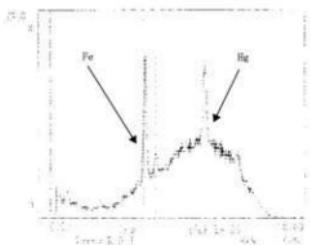


図19 No.11外面赤色部

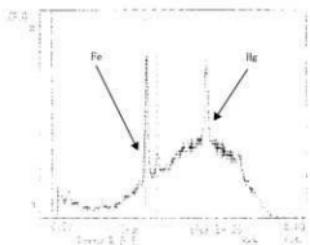


図20 No.12内面赤色部

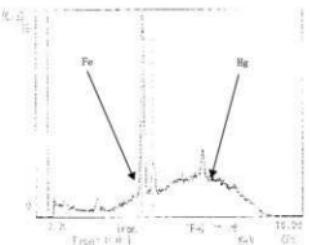


図21 No.12外面赤色部

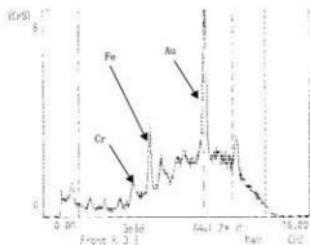


図22 No.24金色部

表2 蛍光X線分析の結果一覧表

資料No.	種類	部位	検出元素
1	箸	赤色部	Fe
		黄色部	Fe, Zn, As
2	豆子	内面	赤色部
		外面	赤色部
3	蓋	内面	赤色部
		外面(文様部)	銀色?部
4	腰高	内面	赤色部
		外面(文様部)	黄色部
5	平挽	内面	赤色部
6	椀	内面	赤色部
		外面(文様部)	黄色部
8	椀	内面	赤色部
		外面(文様部)	赤色部
9	椀	内面	赤色部
		外面(文様部)	銀色?部
		外面(文様部)	赤色部
10	椀	内面	赤色部
		外面(文様部)	赤色部
11	椀	外面(文様部)	赤色部
12	椀	内面(文様部)	赤色部
		外面(文様部)	赤色部
24	搾	外面(文様部)	金色部
			Fe, Au

赤色部からは (Hg) あるいは (Fe) が、黄色部からは (As) あるいは (Sn) が、金色部からは (Au) が検出された。Hg からは硫化水銀 (朱)、Fe からは酸化第2鉄 (ベンガラ)、As (砒素) からは石黄が Sn からは錫が、Au からは金が、それぞれ含まれていたと判断できる。

No.3 外面、No.4 外面、No.9 外面の銀色?部や黄色部からは特記する金属元素は検出されなかった。